

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	がっこうホジツン ジッセンジョシガクエン 学校法人 実践女子学園							
フリガナ大学の名称	ジッセンジョシガク 実践女子大学							
大学本部の位置	東京都日野市大坂上4丁目1番地の1							
大学の目的	<p>本学は、教育基本法、学校教育法及び実践女子学園の建学の精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、かつ人格の完成を目標として幅広く深い教養を培い、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを實踐し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>実践女子大学ではグローバル化が進展していく社会において求められる人材育成に積極的に取り組み、教育研究の充実に努めるとともに、大学運営の安定を図っている。グローバル社会の中で生きていくためには、国際感覚を有し、英語によるコミュニケーション力があり、また、複雑な現代社会において、社会を理解し新しい取り組みに欠かせない共創デザイン、ソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーションなどの社会科学の幅広い学問を学んだ人材が求められている。本学では、これらの社会が求める人材を育成するために、新たに国際学部国際学科を設置するとともに、人間社会学部に社会デザイン学科を設置する。この設置に伴い、大学の収容定員を増加する学則変更を行う。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	文学部	年	人	年次人	人		年月第年次	
	国文学科	4	110	3年次9	458	学士（文学）	昭和40年4月第1年次	東京都渋谷区東1丁目1番49号
	英文学科	4	110	3年次9	458	学士（文学）	昭和40年4月第1年次	同上
	美学美術史学科	4	90	3年次2	364	学士（文学）	昭和60年4月第1年次	同上
	生活科学部							
	食生活科学科							
	管理栄養士専攻	4	70	—	280	学士（生活科学）	昭和41年4月第1年次	東京都日野市大坂上4丁目1番地の1
	食物科学専攻	4	75	—	300	学士（生活科学）	昭和41年4月第1年次	同上
	健康栄養専攻	4	40	—	160	学士（生活科学）	平成25年4月第1年次	同上
	生活環境学科	4	80	3年次2	324	学士（生活科学）	昭和40年4月第1年次	同上
生活文化学科								
生活心理専攻	4	40	3年次2	164	学士（生活科学）	平成19年4月第1年次	同上	
幼児保育専攻	4	45	—	180	学士（生活科学）	平成19年4月第1年次	同上	

現代生活学科	4	60	—	240	学士（生活科学）	平成26年4月第1年次	同 上	
人間社会学部 人間社会学科	4	100	—	400	学士（人間社会学）	平成16年4月第1年次	東京都渋谷区東1丁目1番49号	
ビジネス社会学科	4	80 (100)	—	320 (400)	学士（人間社会学）	令和6年4月第1年次	同 上	※令和6年4月現代社会学科から名称変更予定
社会デザイン学科	4	80 (0)	—	320 (0)	学士（人間社会学）	令和6年4月第1年次	同 上	※令和5年4月設置届出予定
国際学部 国際学科	4	120 (0)	—	480 (0)	学士（国際学）	令和6年4月第1年次	同 上	※令和5年4月設置届出予定
計		1100 (920)	3年次 24	4448 (3728)				

同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	令和6年4月名称変更予定 人間社会学部 現代社会学科→ビジネス社会学科
	人間社会学部 ビジネス社会学科〔定員減〕 (△20) (令和6年4月) 社会デザイン学科 (80) (令和5年4月届出予定) 国際学部国際学科 (120) (令和5年4月届出予定)
	<u>実践女子大学短期大学部（廃止）</u> 日本語コミュニケーション学科 (△80) 英語コミュニケーション学科 (△100) ※令和6年4月学生募集停止

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	—	講義	演習	実験・実習	計	
		—科目	—科目	—科目	—科目	

教員	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
組	新	文学部 国文学科	9 (9)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	2 (2)	228 (228)
				英文学科	8 (8)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	13 (13)
		美学美術史学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	3 (3)	229 (229)
		生活科学部 食生活科学科	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	19 (19)	201 (201)
		生活環境学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	8 (8)	218 (218)
		生活文化学科	5 (5)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	4 (4)	233 (233)
		現代生活学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	7 (7)	2 (2)	206 (206)
		人間社会学部 人間社会学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	2 (2)	222 (222)
		ビジネス社会学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	2 (2)	217 (217)
		社会デザイン学科	5 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (7)	0 (0)	203 (190)
		国際学部 国際学科	6 (4)	3 (3)	2 (0)	0 (0)	11 (7)	0 (0)	188 (186)
		計	76 (72)	33 (33)	17 (15)	6 (6)	132 (126)	44 (44)	— —
		既	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	2 (2)	29 (29)
		図書館学課程	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	16 (16)
		博物館学課程	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	23 (23)

令和6年4月名称変更（予定）

概要	設	言語文化教育研究センター	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		大学教育研究センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		文芸資料研究所	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		下田歌子記念女性総合研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計	12 (12)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	3 (3)	- (-)	
要	合 計	88 (84)	34 (34)	20 (18)	7 (7)	149 (143)	47 (47)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		51 (48)	人	59 (59)	人	110 (107)	人	
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		8 (7)		2 (2)		10 (9)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		7 (7)		7 (7)		
	計		59 (55)		68 (68)		127 (123)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	37,685 m ²	0 m ²	0 m ²		37,685 m ²			
	運 動 場 用 地	32,716 m ²	0 m ²	0 m ²		32,716 m ²			
	小 計	70,401 m ²	0 m ²	0 m ²		70,401 m ²			
	そ の 他	2,546 m ²	0 m ²	0 m ²		2,546 m ²			
	合 計	72,947 m ²	0 m ²	0 m ²		72,947 m ²			
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計				
	56,251 m ² (56,251 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		56,251 m ² (56,251 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	88 室	41 室	59 室	7 室 (補助職員 5人)	0 室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	大学全体			159 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	759,600 [111,500] (735,600 [110,000])	70,810 [61,186] (70,810 [61,186])	60,000 [60,000] (60,000 [60,000])	10,250 (9,950)	1,700 (1,565)	12 (12)		
	計	759,600 [111,500] (735,600 [110,000])	70,810 [61,186] (70,810 [61,186])	60,000 [60,000] (60,000 [60,000])	10,250 (9,950)	1,700 (1,565)	12 (12)		
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	6,523 m ²	626		558,388					
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	2,245 m ²	テニスコート 4面							
経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費(運用コスト)を含む。
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	-千円	-千円	
	共同研究費等		24,000千円	25,000千円	25,000千円	25,000千円	-千円	-千円	
	図書購入費	78,837千円	78,000千円	78,000千円	78,000千円	78,000千円	-千円	-千円	
	設備購入費	63,000千円	63,000千円	64,000千円	64,000千円	65,000千円	-千円	-千円	
		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	文学部 国文学科、英文学科、 美学美術史学科	1,330千円	1,090千円	1,090千円	1,090千円	-千円	-千円		
	生活科学部 食生活科学科 管理栄養士専攻	1,450千円	1,210千円	1,210千円	1,210千円	-千円	-千円		
	生活科学部 食生活科学科 食物学専攻	1,410千円	1,170千円	1,170千円	1,170千円	-千円	-千円		
	経 費 の								

見及び持のり 積り 維持方法 概要	生活科学部 食生活科学科 健康 栄養専攻	1,420千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	-千円	-千円
	生活科学部 生活環境学科	1,390千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	-千円	-千円
	生活科学部 生活文化学科 生活 心理専攻	1,350千円	1,110千円	1,110千円	1,110千円	-千円	-千円
	生活科学部 生活文化学科 幼児 保育専攻	1,410千円	1,170千円	1,170千円	1,170千円	-千円	-千円
	生活科学部 現代生活学科	1,350千円	1,110千円	1,110千円	1,110千円	-千円	-千円
	人間社会学部 人間社会学科、ビ ジネス社会学科、社 会デザイン学科	1,330千円	1,090千円	1,090千円	1,090千円	-千円	-千円
	国際学部 国際学科	1,390千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	-千円	-千円
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入 等				

大 学 の 名 称	実践女子大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定員	編入学 定員	収 容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
文学部		年	人	年次 人	人		倍		
国文学科	4		310	3年次 9	1280	学士（文学）	1.12 1.15	昭和40年度	東京都渋谷区東 1丁目1番49号
英文学科	4		110	3年次 9	458	学士（文学）	1.11	昭和40年度	同 上
美学美術史学科	4		90	3年次 2	364	学士（文学）	1.10	昭和60年度	同 上
生活科学部			410		1648		1.09		東京都日野市大坂上 4丁目1番地の1
食生活科学科			185		740		1.04		
管理栄養士専攻	4		70	—	280	学士（生活科学）	1.05	昭和41年度	同 上
食物科学専攻	4		75	—	300	学士（生活科学）	1.05	昭和41年度	同 上
健康栄養専攻	4		40	—	160	学士（生活科学）	1.00	平成25年度	同 上
生活環境学科	4		80	3年次 2	324	学士（生活科学）	1.17	昭和40年度	同 上
生活文化学科			85		344		1.11		
生活心理専攻	4		40	3年次 2	164	学士（生活科学）	1.20	平成26年度	同 上
幼児保育専攻	4		45	—	180	学士（生活科学）	1.03	平成19年度	同 上
現代生活学科	4		60	—	240	学士（生活科学）	1.09	平成26年度	同 上
人間社会学部			200		800		1.14		東京都渋谷区東 1丁目1番49号
人間社会学科	4		100	—	400	学士（人間社会学）	1.18	平成16年度	同 上
現代社会学科	4		100	—	400	学士（人間社会学）	1.09	平成23年度	同 上
文学研究科									東京都渋谷区東 1丁目1番49号
博士後期課程									
国文学専攻	3		3	—	9	博士（文学）	0.22	昭和44年度	同 上
美術史学専攻	3		2	—	6	博士（文学）	0.50	平成23年度	同 上
博士前期課程									
国文学専攻	2		10	—	20	修士（文学）	0.15	昭和41年度	同 上
美術史学専攻	2		6	—	12	修士（文学）	0.91	平成4年度	同 上
修士課程									
英文学専攻	2		6	—	12	修士（文学）	0.08	昭和41年度	同 上
生活科学研究科									東京都日野市大坂上 4丁目1番地の1
博士後期課程									
食物栄養学専攻	3		2	—	6	博士（食物栄養学）	0.16	平成17年度	同 上
博士前期課程									
食物栄養学専攻	2		6	—	12	修士（食物栄養学）	0.16	昭和41年度	同 上
修士課程									
生活環境学専攻	2		6	—	12	修士（生活科学）	0.25	平成元年度	同 上
人間社会研究科									東京都渋谷区東 1丁目1番49号
修士課程									
人間社会専攻	2		7	—	14	修士（人間社会）	0.00	平成22年度	同 上

大 学 の 名 称	実践女子大学短期大学部								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
日本語コミュニケーション学科	2	80	—	160	短期大学士 (日本語コミュニケーション学)	0.95	平成12年度	東京都渋谷区東 1丁目1番49号	
英語コミュニケーション学科	2	100	—	200	短期大学士 (英語コミュニケーション学)	0.91	平成12年度	東京都渋谷区東 1丁目1番49号	
附属施設の概要	該当なし								※令和6年4月より 学生募集停止 ※令和6年4月より 学生募集停止

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

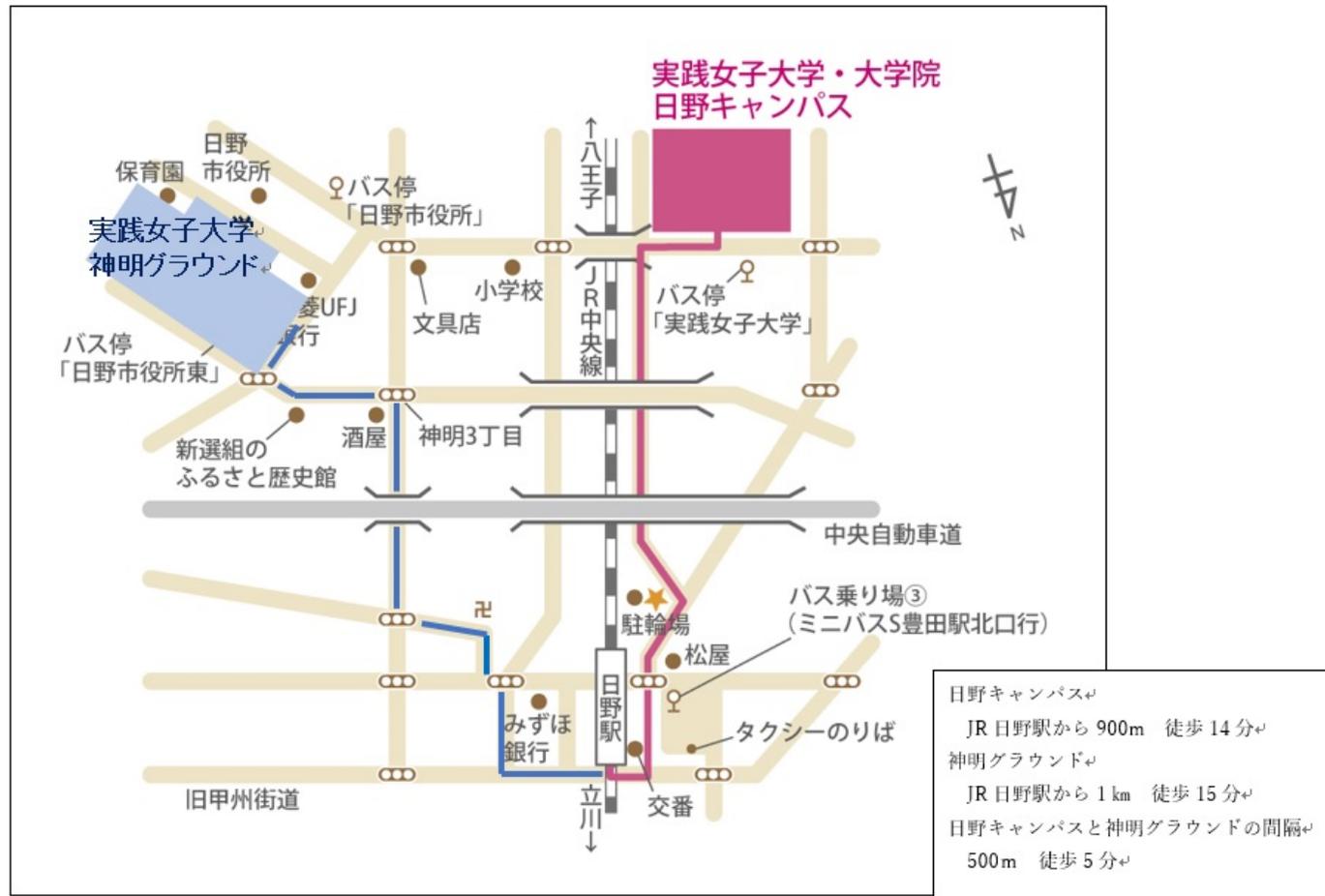
学校法人実践女子学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
実践女子大学				実践女子大学					
文学部				文学部					
国文学科	110	3年次	9	458	国文学科	110	3年次	9	458
英文学科	110	3年次	9	458	英文学科	110	3年次	9	458
美学美術史学科	90	3年次	2	364	美学美術史学科	90	3年次	2	364
生活科学部				生活科学部					
食生活科学科				食生活科学科					
管理栄養士専攻	70	-	280	管理栄養士専攻	70	-	280		
食物科学専攻	75	-	300	食物科学専攻	75	-	300		
健康栄養専攻	40	-	160	健康栄養専攻	40	-	160		
生活環境学科	80	3年次	2	324	生活環境学科	80	3年次	2	324
生活文化学科				生活文化学科					
生活心理専攻	40	3年次	2	164	生活心理専攻	40	3年次	2	164
幼児保育専攻	45	-	180	幼児保育専攻	45	-	180		
現代生活学科	60	-	240	現代生活学科	60	-	240		
人間社会学部				人間社会学部					
人間社会学科	100	-	400	人間社会学科	100	-	400		
現代社会学科	100	-	400	<u>ビジネス社会学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	名称変更、定員変更(△20)	
				<u>社会デザイン学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)	
				<u>国際学部</u>				学部の設置(届出)	
				<u>国際学科</u>	<u>120</u>	-	<u>480</u>		
計	920	3年次	24	3,728	計	1,100	3年次	24	4,448
実践女子大学大学院				実践女子大学大学院					
文学研究科				文学研究科					
国文学専攻(M)	10	-	20	国文学専攻(M)	10	-	20		
国文学専攻(D)	3	-	9	国文学専攻(D)	3	-	9		
英文学専攻(M)	6	-	12	英文学専攻(M)	6	-	12		
美術史専攻(M)	6	-	12	美術史専攻(M)	6	-	12		
美術史専攻(D)	2	-	6	美術史専攻(D)	2	-	6		
生活科学研究科				生活科学研究科					
食物栄養学専攻(M)	6	-	12	食物栄養学専攻(M)	6	-	12		
食物栄養学専攻(D)	2	-	6	食物栄養学専攻(D)	2	-	6		
生活環境学専攻(M)	6	-	12	生活環境学専攻(M)	6	-	12		
人間社会研究科				人間社会研究科					
人間社会専攻(M)	7	-	14	人間社会専攻(M)	7	-	14		
計	48	-	103	計	48	-	103		
実践女子大学短期大学部				実践女子大学短期大学部					
日本語コミュニケーション学科	80	-	160		0	-	0	令和6年4月学生募集停止	
英語コミュニケーション学科	100	-	200		0	-	0	令和6年4月学生募集停止	
計	180	-	360	計	0	-	0		

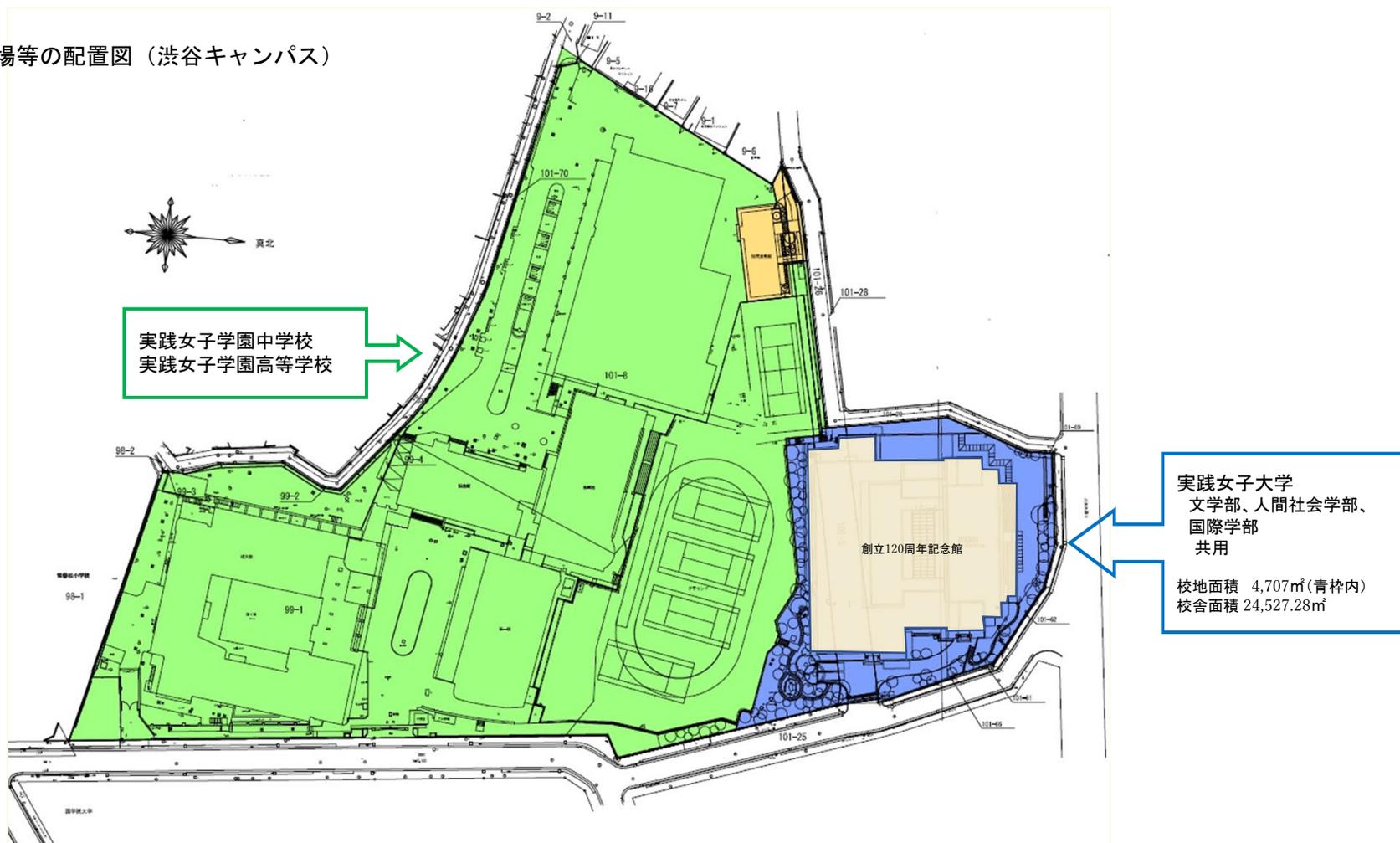
都道府県内における位置関係の図面



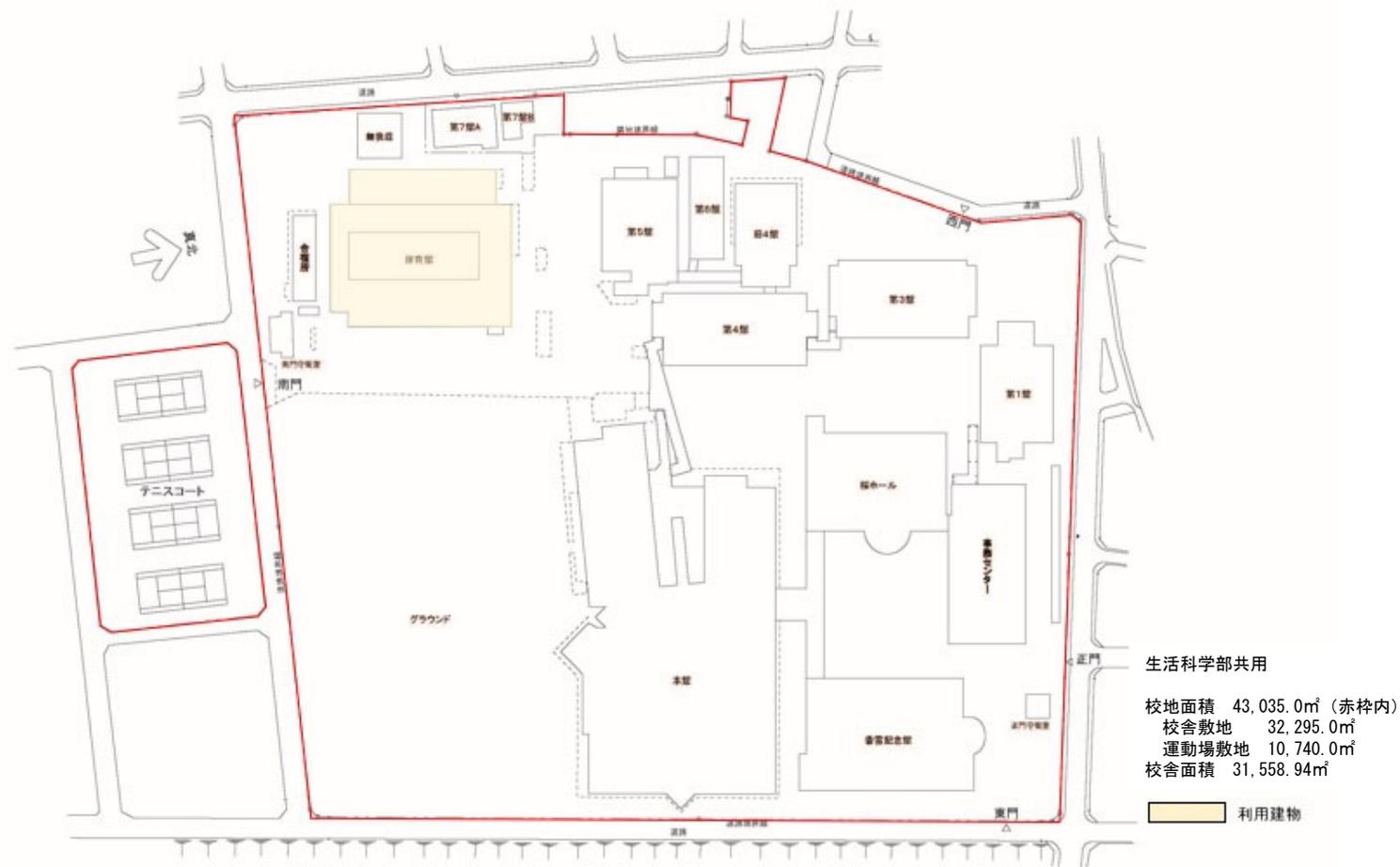
最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面（日野キャンパス、神明グラウンド）



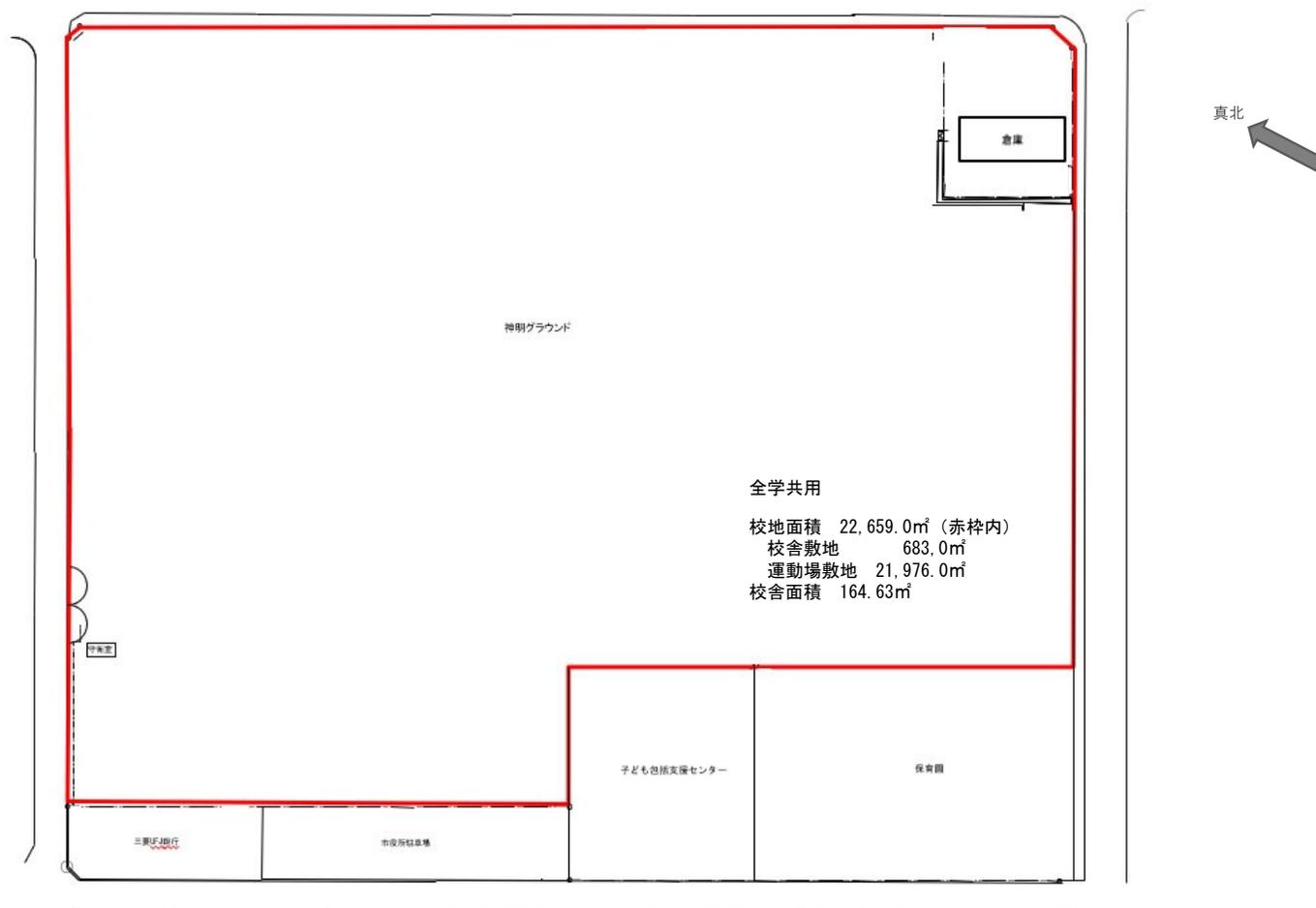
校舎, 運動場等の配置図 (渋谷キャンパス)



校舎, 運動場等の配置図 (日野キャンパス)



校舎、運動場等の配置図（神明グラウンド）



実践女子大学学則(案)

2024（令和6）年4月

実践女子大学

○実践女子大学学則

(昭和 24 年 4 月制定)

改正	昭和 56 年 4 月 1 日	昭和 57 年 4 月 1 日	昭和 58 年 4 月 1 日
	昭和 59 年 4 月 1 日	昭和 60 年 4 月 1 日	昭和 61 年 4 月 1 日
	昭和 62 年 4 月 1 日	昭和 63 年 4 月 1 日	平成元年 4 月 1 日
	平成 2 年 4 月 1 日	平成 3 年 4 月 1 日	平成 4 年 4 月 1 日
	平成 5 年 4 月 1 日	平成 6 年 4 月 1 日	平成 7 年 4 月 1 日
	平成 8 年 4 月 1 日	平成 9 年 4 月 1 日	平成 10 年 4 月 1 日
	平成 11 年 4 月 1 日	平成 12 年 4 月 1 日	平成 13 年 4 月 1 日
	平成 14 年 4 月 1 日	平成 15 年 4 月 1 日	平成 16 年 4 月 1 日
	平成 17 年 4 月 1 日	平成 18 年 4 月 1 日	平成 18 年 12 月 15 日
	平成 19 年 3 月 23 日	平成 19 年 4 月 11 日	平成 19 年 12 月 19 日
	平成 20 年 3 月 28 日	平成 21 年 3 月 27 日	平成 21 年 7 月 22 日
	平成 22 年 3 月 26 日	平成 22 年 7 月 28 日	平成 22 年 12 月 17 日
	平成 23 年 4 月 1 日	平成 24 年 3 月 23 日	平成 24 年 7 月 20 日
	平成 24 年 10 月 19 日	平成 25 年 3 月 22 日	平成 25 年 3 月 22 日
	平成 26 年 3 月 22 日改正	平成 27 年 3 月 28 日改正	平成 28 年 3 月 26 日改正
	平成 29 年 3 月 25 日改正	平成 30 年 3 月 24 日改正	2019 年 3 月 23 日改正
	2020 年 3 月 21 日改正	2021 年 3 月 27 日改正	2022 年 3 月 26 日改正
	2023 年 2 月 18 日改正		

※昭和 24 年 4 月から昭和 56 年 4 月 1 日の間の沿革は省略

第 1 章 総則

第 1 条 本学は、教育基本法、学校教育法及び実践女子学園の建学精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、かつ人格の完成を目標として幅広く深い教養を培い、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを實踐し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする。

第 2 条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検、評価を行うこととする。

2 前項の点検、評価の方法等については、別に定める。

第 2 章 大学院、学部、学科等の組織、目的

第 3 条 本学に文学部、生活科学部、人間社会学部、国際学部をおき、修業年限は各 4 年とする。

2 文学部に国文学科、英文学科、美学美術史学科をおく。

3 生活科学部に食生活科学科、生活環境学科、生活文化学科、現代生活学科をおき、食生活科学科には管理栄養士専攻、食物科学専攻、健康栄養専攻を、生活文化学科には生活心理専攻と幼児保育専攻をおく。

- 4 人間社会学部に人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科をおく。
- 5 国際学部国際学科をおく。
- 6 学生は、8年を超えて在学することはできない。

第4条 本学に大学院をおく。

- 2 大学院に関する事項は、別に定める。

第5条 文学部及び文学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

- 2 文学部では、日本、東洋、西洋の文学、言語、美術の各分野における幅広い学識を授け、現代社会に寄与しうる人材の育成に努めることを目的とする。
- 3 国文学科では、日本文学を体系的、理論的、総合的に研究し、日本語の本質と変遷を解明することにより、日本文化の進展に寄与しうる人材を育成することを目的とする。そのため、研究の対象を広げることにも努め、古典を重視するとともに近代現代の文学、さらにはそれらに大きな影響を与えた中国の思想と文学に深く配慮し、現代の我々の言語生活に直結する歴史的課題にも留意した教育を実践する。
- 4 英文学科では、大学生としてのしっかりとした基礎の上に英語の運用能力を養成し、英語圏文化に関する幅広い知識と教養を身につけることにより、知的好奇心を備え、主体的に国際化社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
- 5 美学美術史学科では、日本、東洋、西洋各地域の美術史と美学及び日本芸能史について、幅広い知識と教養を身につけ、美術の実技を学ぶことも含めて、芸術についての総合的な理解力と自己表現力を養い、芸術、文化とそれを生み出した社会に対する理解と洞察力を備えた人材の育成を目的とする。

第6条 生活科学部及び生活科学部各学科・専攻の教育研究上の目的は次のとおりとする。

- 2 生活科学部では、食物、栄養、健康、衣服、もの、住まい、ライフスタイル、幼児・保育に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的とする。
- 3 食生活科学科では、社会で必要とされる健康と栄養、食と暮らしのスペシャリストを育成する。さらに、食関連の職業に就いたときに活躍できる能力と、取得した資格に相応しい実力の養成を目的とする。
 - (1) 管理栄養士専攻
食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、管理栄養士として、また、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
 - (2) 食物科学専攻
食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、フードスペシャリスト、家庭科教員、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
 - (3) 健康栄養専攻

食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。

4 生活環境学科では、衣服、もの、住まいに関する広い学識を授け、専門性を要する職業に就いたときに活躍できる能力の養成を目的とする。

5 生活文化学科では、人の生涯発達、家族・家庭、保育・教育に関する広い学識を授け、生活を探究し、専門性を要する職業に就いた時に活躍できる人材の育成を目的とする。

(1) 生活心理専攻

生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえ、社会の変化に伴う家庭経済や家族関係、ならびに心身の健康に関する生活課題について、心理学的方法を基礎として理解、考察し、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

(2) 幼児保育専攻

家族とともにある子どもの発達を理解し、子どもと家族を総合的に支援する観点から、必要な基本的知識・技能・態度を身につけた保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の育成を目的とする。

6 現代生活学科では、現代生活の問題を構造的に捉えクリエイティブに解決できる人材の育成を目的とする。

第7条 人間社会学部及び人間社会学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

2 人間社会学部では、国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指す。学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指す。

3 人間社会学部では、社会に対する学びとしての社会学、人間行動・人間関係・心理に対する学びとしての心理学を基礎にしつつ、教育学やジェンダー論、メディア論などを学ぶことを通して、現代社会に生きる人と人、人と社会の関係について理解を深めるとともに、社会調査の技法や課題解決能力、コミュニケーション能力を身につけ、ビジネス社会や地域社会、教育・福祉などの分野で力を発揮しうる人材を育成することを目的とする。

4 ビジネス社会学科では、多様化・複雑化するビジネス社会に求められる経営学、マーケティング論、経済学、法律学、コミュニケーション学を中心とする専門的な知識・理論を活用し、現代社会における企業や地域・国際社会で発生する諸問題に取り組み、それらを解決できる能力を修得し、企業組織や地域・国際社会で活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

5 社会デザイン学科では、高度情報化する知識基盤社会に求められるソーシャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、デザイン思考などを中心とする専門的な知

識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を修得し、社会で主体的に活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

第7条の2 国際学部及び国際学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

- 2 国際学部では、国際語である英語の運用能力とコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語以外の外国語に慣れ親しみ、異なる民族、宗教、言語、価値観が交差する国際社会に対応した専門知識を修得し、国際交流を推進できる人材の育成を目的とする。
- 3 国際学科では、国際語である英語の高い運用能力と様々な人々に対応したコミュニケーション能力を背景に、学問としての言語・コミュニケーション研究、国際文化研究、日本文化研究、地域・観光研究という4つの研究領域に関する幅広い知識を活用し、国際社会で他者と協働しながら目標に向かうことのできる人材の育成を目的とする。

第8条 文学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
国文学科	110名	9名	458名
英文学科	110名	9名	458名
美学美術史学科	90名	2名	364名

第9条 生活科学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	専攻	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
食生活科学科	管理栄養士専攻	70名	-	280名
	食物科学専攻	75名	-	300名
	健康栄養専攻	40名	-	160名
生活環境学科		80名	2名	324名
生活文化学科	生活心理専攻	40名	2名	164名
	幼児保育専攻	45名	-	180名
現代生活学科		60名	-	240名

第10条 人間社会学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
人間社会学科	100名	-	400名
ビジネス社会学科	80名	-	320名
社会デザイン学科	80名	-	320名

第10条の2 国際学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
国際学科	120名	-	480名

第11条 本学に大学教育研究センター、大学言語文化教育研究センター、大学教職センターをおく。

- 2 大学教育研究センターに関する規程は、別に定める。
- 3 大学言語文化教育研究センターに関する規程は、別に定める。
- 4 大学教職センターに関する規程は、別に定める。

第12条 本学に文芸資料研究所、香雪記念資料館及び下田歌子記念女性総合研究所を附置するとともに、これらを統括し、本学の学術研究を推進するために実践女子大学研究推進機構を置く。

- 2 実践女子大学研究推進機構、文芸資料研究所、香雪記念資料館及び下田歌子記念女性総合研究所に関する規程は、別に定める。

第3章 授業科目

第13条 授業科目は、各学科共これを必修科目と選択科目とに分け、学年の始めに定める。

第14条 文学部、生活科学部、人間社会学部、国際学部の共通教育科目は、別表第1のとおりとする。

第15条 文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科の専門科目は、別表第3のとおりとする。

- 2 生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻、同食物科学専攻、同健康栄養専攻、生活環境学科、生活文化学科生活心理専攻、同幼児保育専攻、現代生活学科の専門科目は、別表第4のとおりとする。

- 3 人間社会学部人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科の専門科目は、別表第5のとおりとする。

- 4 国際学部国際学科の専門科目は、別表第6のとおりとする。

第16条 教育職員免許状取得希望者、図書館司書、学校図書館司書教諭資格取得希望者及び博物館学芸員資格取得希望者は、学部学科で定めた授業科目以外に、教職は別表第7、司書及び司書教諭は別表第8、学芸員は別表第9の授業科目を履修しなければならない。

- 2 本学の各学科において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部	学科	取得できる教育職員免許状の種類	
文学部	国文学科	中学校教諭1種免許状	国語
		高等学校教諭1種免許状	国語・書道
	英文学科	中学校教諭1種免許状	外国語(英語)
		高等学校教諭1種免許状	外国語(英語)
	美学美術史学科	中学校教諭1種免許状	美術
		高等学校教諭1種免許状	美術
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	栄養教諭1種免許状
		食物科学専攻	中学校教諭1種免許状
			高等学校教諭1種免許状

		健康栄養専攻	栄養教諭2種免許状	
	生活環境学科		中学校教諭1種免許状	家庭
			高等学校教諭1種免許状	家庭
			高等学校教諭1種免許状	情報
	生活文化学科	生活心理専攻	中学校教諭1種免許状	家庭
				高等学校教諭1種免許状
		幼児保育専攻	幼稚園教諭1種免許状	
			小学校教諭1種免許状	
	現代生活学科		中学校教諭1種免許状	家庭
			高等学校教諭1種免許状	家庭
人間社会学部	人間社会学科		中学校教諭1種免許状	社会
			高等学校教諭1種免許状	公民
	現代社会学科		中学校教諭1種免許状	社会
			高等学校教諭1種免許状	公民

- 3 管理栄養士の資格を取得しようとする者は、食生活科学科管理栄養士専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第15条別表第4に定める所定の授業科目を履修し、国家試験を受験しなければならない。
- 4 栄養士の資格を取得しようとする者は、食生活科学科管理栄養士専攻又は同健康栄養専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第15条別表第4に定める「栄養士資格取得に必要な単位」を修得しなければならない。
- 5 一級建築士試験又は二級建築士試験の受験資格を取得しようとする者は、生活環境学科に在籍し、建築士法に定める必要な単位を修得しなければならない。
- 6 保育士の資格を取得しようとする者は、生活文化学科幼児保育専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第14条別表第1及び第15条別表第4に定める「保育士資格取得に必要な単位」を修得しなければならない。なお、履修方法の詳細は別に定める。
- 7 その他の資格について、取得に必要な要件は別に定める。

第4章 履修方法、単位算定

第17条 学生は、履修しようとする授業科目を毎学年又は毎学期の始めに登録しなければならない。登録していない授業科目には単位を与えない。

第18条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この限りでない。

第19条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義・演習については、15時間をもって1単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30時間をもって1単位とすることができる。
- (2) 実験、実習及び実技については、45時間をもって1単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30時間をもって1単位とすることができる。
- 3 卒業論文又はこれに代る授業科目は、国文学科では6単位、英文学科では6単位、美学美術史学科では6単位、食生活科学科では6単位、生活環境学科では6単位、生活文化学科では6単位、現代生活学科では4単位、人間社会学科では4単位、ビジネス社会学科では4単位、社会デザイン学科では4単位、国際学科では6単位とする。
- 4 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第2項に規定する講義・演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第20条 本学が教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学又は短期大学と協議したところにより、学生が当該の他大学等において履修した授業科目を本学において修得したものとして認めることができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学において修得したものとして認めることができる。
- 3 本学が教育上有益と認めるときは、本学が留学先として適当と認めた外国の大学あるいはこれに相当する高等教育機関において履修した授業科目を本学において修得したものとして認めることができる。
- 4 留学に関する規程は、別に定める。
- 5 1項、2項及び3項において認めることのできる単位数の合計は次条で認めた修得単位と合わせて60単位を超えないものとし、単位の取り扱いに関しては別に定める。

第21条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する以前に大学又は短期大学において修得した単位(第58条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を本学において修得した単位として前条で認めた修得単位と合わせて60単位を超えない範囲で認めることがある。なお、単位認定と関連して修業年限の短縮は行わない。なお、単位認定と関連して修業年限の短縮は行わない。

- 2 編入学・転入学の場合は、前項の単位認定とは別に認めることができる。
- 3 単位の取り扱いに関しては、別に定める。

第5章 学習評価、卒業の認定

第22条 定期試験は、毎年2回各学期の終わりに行う。ただし、休学中の者は試験を受けることはできない。

第23条 病気又は事故により試験に欠席したときは、願い出により追試験を許可することがある。

2 追試験に関する規程は別に定める。

第24条 試験等の評価は、+A・A・B・C・Dの五段階とし、C以上を合格とする。卒業論文についても同様である。

第25条 卒業論文又はこれに代る授業科目の制作物は、専門科目の範囲内で題目を定め、所定の期日までに提出しなければならない。

第26条 本学を卒業するためには、4年以上在学し、次表に定める単位を修得しなければならない。

学部・学科		授業科目の区分	共通教育 科目	専門 科目	選択自由 単位	合計
文学部	国文学科		28	68	28	124 単位以上
	英文学科		28	76	20	124 単位以上
	美学美術史学科		28	76	20	124 単位以上
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	20	100	4	124 単位以上
		食物科学専攻	28	76	20	124 単位以上
		健康栄養専攻	24	90	10	124 単位以上
	生活環境学科		28	76	20	124 単位以上
	生活文化学科	生活心理専攻	24	90	10	124 単位以上
		幼児保育専攻	20	86	18	124 単位以上
	現代生活学科		36	76	12	124 単位以上
人間社会学部	人間社会学科		28	76	20	124 単位以上
	ビジネス社会学科		28	76	20	124 単位以上
	社会デザイン学科		28	76	20	124 単位以上
国際学部	国際学科		28	76	20	124 単位以上

2 前項の単位修得に関しては、別に定める。

第27条 大学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に次の学位を授与する。

文学部卒業者 学士(文学)
 生活科学部卒業者 学士(生活科学)
 人間社会学部卒業者 学士(人間社会学)
 国際学部卒業者 学士(国際学)

第28条 在学8年(休学期間は除く。)を超えてなお所定の単位を修得できない者は、これを除籍する。

第6章 入学・転部・転科・退学・休学・転学

第29条 入学の時期は、学年の始めとする。

第30条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した、在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定合格者を含む。)
- (8) その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

第31条 次の各号の一に該当する者で、本学への編入学・転入学を志願する者があるときは、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 大学に2年以上在学した者
- (3) 短期大学を卒業した者
- (4) その他前各号と同等以上の学力があると本学で認めた者

2 本学学生で転部・転科を志願する者があるときは、選考のうえ相当年次に転部・転科を許可することがある。

第32条 入学志願者に対しては、選考試験を行う。その方法は、その都度定める。

第33条 入学志願者は、所定の入学願書に入学検定料を添えて願出しなければならない。

第34条 選考試験に合格した者は、指定の期日までに入学金その他の納付金を納入しなければならない。また、別に定める期日までに、保証人による保証書を提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第35条 保証人は、父又は母(父母のない場合は、独立の生計を営む身元確実の成年に達した者。外国人で父母が日本に居住していない場合は、我が国に在住する独立の生計を営む身元確実の成年に達した者。)とし、その学生の在学中における経済的負担を含む一切の責任を負うものとする。

第36条 保証人の身分に異動があったとき、又は死亡したときには、その旨直ちに届け出なければならない。

第37条 学生が病気又は事故によって欠席するときには、その旨届け出なければならない。ただし、欠席が1週間以上にわたるときには、保証人の連署を要し、病気のときには、医師の診断書を添えなければならない。

第38条 退学しようとする者又は転学しようとする者は、その理由を具し、保証人の連署で願い出なければならない。

第39条 病気又は事故によって、引き続き3か月以上学習することができない者は、その理由を具し、保証人の連署で休学を願い出ることができる。

2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

第40条 休学期間は、第3条第5項の在学年数に算入しない。

第41条 休学している者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ願い出て許可を得なければならない。

第42条 いったん退学した者が再入学しようとするときは、退学後2年以内に限り選考のうえ許可することがある。

2 再入学については、「実践女子大学再入学に関する規程」による。

第43条 授業料その他の学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納付しない者は、除籍する。

第7章 学費

第44条 本学の学費は、次のとおりである。ただし、場合によりこれを変更することがある。

		入学金	授業料 (年額)	施設設備費 (年額)	実験実習費 (年額)
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
生活科学部	食生活科学科	240,000円	810,000円	320,000円	80,000円
	管理栄養士専攻	240,000円	790,000円	320,000円	60,000円
	食物科学専攻	240,000円	790,000円	320,000円	70,000円
	健康栄養専攻	240,000円	790,000円	320,000円	70,000円
	生活環境学科	240,000円	790,000円	320,000円	40,000円
	生活文化学科	240,000円	790,000円	320,000円	—
人間社会学部	生活心理専攻	240,000円	790,000円	320,000円	—
	幼児保育専攻	240,000円	810,000円	320,000円	40,000円
	現代生活学科	240,000円	790,000円	320,000円	—
人間社会学部	人間社会学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
	ビジネス社会学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
	社会デザイン学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
国際学部	国際学科	240,000円	830,000円	320,000円	—

第45条 授業料の納入期限は、前期分4月末日、後期分10月末日までとする。

第46条 授業料その他の学費は、出席の有無にかかわらず、学籍のある間は納めなければならない。ただし、休学期間中の授業料、実験実習費は免除することができる。この場合、次条本文の規定はこれを適用しない。

第47条 既納の学費は、いかなる理由でも返還しない。ただし、入学時の納入金に限り所定期間内に本人及び保証人の連署による「入学辞退及び納入金返還申出」のあるものについては、入学金を差し引いた納入金を返還する。

第8章 教職員組織

第48条 本学に学長をおく。

2 学長は大学を統括し、これを代表する。

3 学長は、別に定める規程により選任する。

第49条 本学に副学長をおく。

2 副学長は、学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

3 副学長は、別に定める規程により選任する。

4 副学長は、学長に事故あるとき、又は学長が欠けたときは、学長の職務を行う。

第50条 本学に教授、准教授、講師、助教及び助手をおく。

2 講師を分けて専任と兼任とする。

3 教授、准教授、講師及び助教の任免は、教授会の議を経て、学長が決定し、理事会がこれを行う。

第50条の2 本学に特別任用教員をおく。

2 特別任用教員に関する規程は、別に定める。

第51条 各学部に学部長をおく。

2 学部長は学長を補佐し、学部に関する校務をつかさどる。

3 学部長は、別に定める規程により選任する。

第52条 各学科、課程に主任を置き、教授の中から任命する。

2 主任に関する規程は、別に定める。

第53条 本学に教授会を設ける。

2 教授会に関する規程は、別に定める。

第54条 教授会は、必要に応じ委員会を設けることができる。

2 委員会に関する規程は、別に定める。

第55条 本学に事務職員その他必要な職員をおく。

第9章 賞罰

第56条 在学中、人格、学術共に優秀な者を教授会の議を経て特待生とし、授業料その他を免除することがある。

第57条 学長は、学生が学則又は学内規定に違反し、学生の本分に反する行為があると認めるときは、教授会の議を経て懲戒を行うことができる。

2 前項の懲戒は訓告、停学及び退学とし、退学は学生が次の各号の一に該当するときに限る。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められるとき
- (2) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められるとき
- (3) 正当な理由なく出席常でないとき
- (4) 学園の秩序を乱し、その他学生の本分に反したとき

第10章 科目等履修生・特別聴講学生・委託生・外国人留学生

第58条 本学の授業科目の修得を目的として願い出のあった者(以下、科目等履修生という。)については、授業に支障のない範囲において選考のうえ科目の履修を許可し、試験に合格した者に、第19条に定めるところにより単位を与えることがある。

2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

第59条 本学の授業科目の聴講を希望する他大学又は短期大学等の学生があるときは、当該の大学又は短期大学等との協議に基づき所定の手続きを経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

第60条 委託生として入学又は聴講を希望する者があるときは、その研修しようとする授業科目の教授者、学部長、学長協議のうえ許可するものとする。

2 委託生に関する規程は、別に定める。

第61条 外国籍を持ち、教育を受ける目的をもって入国し、第30条第4号又は第8号に規定する要件を満たして入学を願い出た者は、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生の入学及び履修に関する規程は、別に定める。

3 外国人留学生のために、外国人留学生特設科目として、別表第10を設ける。

4 前項の科目を履修し、単位を修得した場合には、共通教育科目の単位に代えることができる。

第11章 公開講座

第62条 本学は、必要に応じ公開講座を開設する。

第12章 学期及び休業日

第63条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第64条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたるものとする。

第65条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月20日まで

後期 9月21日から翌年3月31日まで

第66条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

本学創立記念日(5月7日)

春期休業日 3月21日から4月4日まで

夏期休業日 7月30日から9月20日まで

冬期休業日 12月21日から翌年1月7日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

第13章 図書館

第67条 本学に図書館を設ける。

- 2 図書館に関する事項は、別に定める。

第14章 生涯学習センター

第68条 本学に生涯学習センターを附置する。

- 2 生涯学習センターに関する規程は、別に定める。

第15章 雑則

第69条 学則の改廃については、全学教授会の議を経て、学長が決定し、理事会に付議する。

附 則

この学則は、昭和24年4月から適用する。

(中略)

附 則(昭和61年4月1日)

- 1 この改正学則は、昭和61年4月1日から施行する。
- 2 第2章第3条及び第4条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

文学部			家政学部			計
国文学科	英文学科	美学美術史学科	食物学科		被服学科	
150名	150名	100名	60名	120名	120名	700名

- 3 第3章第6条別表(2)家政学部授業科目(被服学科)及び第7章第29条の規定は、昭和61年度入学生から適用し、昭和60年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(昭和62年4月1日)

- 1 この改正学則は、昭和62年4月1日から施行する。

- 2 第3章第6条別表(2)家政学部授業科目の食物学科基礎教育科目並びに専門教育科目は昭和62年度入学生から適用し、昭和61年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第5章第16条及び第7章第29条の規定は昭和62年度入学生から適用し、昭和61年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(昭和63年4月1日)

- 1 この改正学則は、昭和63年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目の外国語科目並びに英文学科専門教育科目は昭和63年度入学生から適用し、昭和62年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第7章第29条の規定は、昭和63年度入学生から適用し、昭和62年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成元年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目の美学美術史学科専門教育科目は平成元年度入学生から適用し、昭和63年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第7章第29条の規定は平成元年度入学生から適用し、昭和63年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成2年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成2年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目中、国文学科「中世近世文学史」、「漢字書法ⅠⅡ」及び英文学科「比較文化」については、平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第3章第5条別表(2)家政学部授業科目並びに第3章第8条別表(3)教職課程授業科目は、平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第7章第29条の規定は平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成3年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目の英文学科基礎教育科目及び専門教育科目、美学美術史学科専門教育科目、第3章第8条別表(7)博物館学芸員関係授業科目は、平成3年度入学生から適用し、平成2年度以前の入学生については従前の規定による。

- 3 第7章第29条の規定は、平成3年度入学生から適用し、平成2年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成4年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成4年4月1日から施行する。ただし、第5章第19条第2項の規定は、平成3年9月24日から適用する。
- 2 第7章第36条の規定は、平成4年度入学生から適用し、平成3年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成5年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 第21条及び第7条別表第1、第8条別表第2、第9条別表第3、第11条別表第7並びに第39条の規定については平成5年度入学生から適用し、平成4年度以前の入学生は従前の規定による。

附 則(平成6年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 第7条別表第1、第8条別表第2、第9条別表第3並びに第39条の規定については平成6年度入学生から適用し、平成5年度以前の入学生は従前の規定による。

附 則(平成7年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 第3条、第6条、第7条、第9条、第11条2項、第14条3項、第20条、第21条、第22条2項、第39条及び第7条別表1、第8条別表2、第9条別表3、第11条別表4、別表5、別表6、別表7の規定については平成7年度入学生から適用し、平成6年度以前の入学生については従前の規定による。ただし、生活科学部、食生活科学科管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻および生活環境学科の名称については平成7年度入学生から適用し、平成6年度以前の入学生については平成9年度までの間は従前どおりとする。
- 3 第6条に規定する入学定員は、平成11年度までの間は次のとおりとする。

生活科学部			
食生活科学科		生活環境学科	生活文化学科
管理栄養士専攻	食物科学専攻		
40名	90名	90名	80名

附 則(平成8年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成8年4月1日から施行する。

- 2 第3章第7条別表第1文学部・生活科学部総合教育科目、第8条別表第2文学部専門科目国文学科、英文学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻・食物科学専攻については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第5章第21条の規定のうち文学部及び生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学生以前の入学生については、従前の規定による。
- 4 第7章第39条の規定については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学以前の入学生については、従前の規定による。ただし、冷暖房費については、平成7年度入学以前の入学生にも適用する。

附 則(平成9年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 第4章第15条2項3項の規定については、平成8年度入学以前の入学生についても適用する。
- 3 第5章第21条の規定のうち生活科学部食生活科学科食物科学専攻、生活環境学科については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度入学以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第7章第39条の規定については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第3章第8条別表第2文学部専門科目国文学科、美学美術史学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻・食物科学専攻、生活環境学科については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成10年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 第7章第39条の規定については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第3章第8条別表第2文学部専門科目美学美術史学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目生活環境学科については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成11年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成11年4月1日から施行する。

- 2 第7章第39条の規定については、平成11年度入学生から適用し、平成10年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第3章第9条別表第3生活科学部専門科目生活環境学科については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。生活文化学科については、平成11年度入学生から適用し、平成10年度以前の入学生については従前の規定による。別表第6学校図書館司書教諭科目及び単位数については平成11年度から適用する。

附 則(平成12年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 第5条及び第6条に規定する入学定員は、平成16年度までの間は次のとおりとする。

	学部・学科	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
文学部	国文学科	145名	137名	130名	125名	120名
	英文学科	145名	137名	130名	125名	120名
	美学美術史学科	100名	100名	100名	100名	100名
生活科学部	食生活科学管理栄養士専攻	70名	70名	70名	70名	70名
		食物科学専攻	57名	57名	54名	51名
	生活環境学科	85名	83名	82名	77名	75名
	生活文化学科	80名	80名	80名	80名	80名

- 3 第7章第39条の規定については、平成12年度入学生から適用し平成11年度以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第3章第7条別表第1全学共通科目、別表第2文学部・生活科学部共通科目、第8条別表第3文学部専門科目国文学科、英文学科、美学美術史学科、第9条別表第4生活科学部専門科目食生活科学管理栄養士専攻、食生活科学食物科学専攻、生活環境学科及び生活文化学科については平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については従前の規定による。第11条別表第5教職課程科目、別表第8博物館学芸員科目及び単位数については、平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成13年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 第3章第8条別表第3文学部専門科目美学美術史学科については平成13年度入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 14 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 6 条に規定する入学定員は、平成 16 年度までの間は次のとおりとする。

学部・学科		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70 名	70 名	70 名
		食物科学専攻	84 名	81 名	75 名
	生活環境学科		87 名	82 名	80 名
	生活文化学科		85 名	85 名	85 名

- 3 第 21 条の規定については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第 39 条の規定については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第 9 条別表第 4 生活科学部専門科目食生活科学管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 15 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 章第 8 条別表第 3 文学部専門科目美学美術史学科については平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 3 章第 11 条別表第 8 博物館学芸員関係授業科目については平成 13 年度入学生から適用し、平成 12 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 16 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 10 条別表第 4 生活環境学科の授業科目のうち「消費生活学」については平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 17 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 10 条別表第 4 食生活科学科管理栄養士専攻及び食物科学専攻の授業科目のうち「毒性学」については平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 10 条別表第 5 人間社会学科の授業科目については、平成 16 年度入学生から適用する

附 則(平成 18 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 11 条第 2 項の規定のうち美学美術史学科については、平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 10 条別表第 3 美学美術史学科の授業科目のうち次の科目については、平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。

アジアの美術 c	2	アジアの美術 d	2	デザイン史 a	2	デザイン史 b	2
身体文化論 a	2	身体文化論 b	2	絵画入門 a	1	絵画入門 b	1
絵画実習 a	2	絵画実習 b	2	絵画実習 c	2	絵画実習 d	2
デザイン入門 a	1	デザイン入門 b	1	デザイン実習 a	2	デザイン実習 b	2
デザイン実習 c	2	デザイン実習 d	1	デザイン実習 e	1	工芸実習 a	2
工芸実習 b	2	彫刻実習 a	2	彫刻実習 b	2		

- 4 第 10 条別表第 4 食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち「生理学」については平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第 11 条別表第 6 教職課程授業科目及び単位数のうち美学美術史学科教育職員免許状に関わる科目については、美学美術史学科平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 6 第 11 条別表第 6 教職課程授業科目及び単位数のうち「教育原理」については、平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 7 第 11 条別表第 9 博物館学芸員関係授業科目については、平成 16 年度入学生から適用し、平成 15 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 8 第 10 条別表第 1-1 文学部・生活科学部共通科目のうち「コリア語 a」「コリア語 b」については、平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 9 第 10 条別表第 1-2 人間社会学部総合教養科目のうち次の科目については、平成 16 年度入学生から適用する。

コリア語 A	1	コリア語 B	1	フランス語 A	1	フランス語 B	1
フランス語 C	1	フランス語 D	1	ドイツ語 A	1	ドイツ語 B	1
ドイツ語 C	1	ドイツ語 D	1				

附 則(平成 18 年 12 月 15 日)

この改正学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 3 月 23 日)

- 1 この改正学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 10 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目のうち幼稚園教諭免許状に関わる科目については、生活文化学科保育士コース平成 17 年度入学生から適用する。

- 3 第11条第2項の規定のうち生活文化学科幼児保育専攻については、生活文化学科保育士コース平成17年度入学生から適用する。
- 4 第10条別表第1-1文学部・生活科学部共通科目のうち「コア語会話a」「コア語会話b」については平成16年度入学生から適用し、平成15年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成19年4月11日)

この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年12月19日)

この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月28日)

- 1 この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1-2人間社会学部総合教養科目のうち次の科目については、平成18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生については従前の規定による。

健康運動実習 2	1健康体力科学演習	1ヘルスプロモーション実践実習 2	1レクリエーションナルスポーツ	1
----------	-----------	-------------------	-----------------	---

- 3 平成18年度入学生及び平成19年度入学生については、第15条別表第3英文学科の授業科目から次の科目を削除する。

セミナーc	1	セミナーd	1	セミナーe	1	セミナーf	1
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

- 4 第15条別表第4食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち「健康運動論演習」については、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第15条別表第5人間社会学科の授業科目のうち次の科目については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については従前の規定による。

心理学研究法	2	社会調査方法論	2	社会調査実習 I	2	社会調査実習 II	2
認知心理学	2	社会科学データ分析	2	特別講義 B	2		

附 則(平成21年3月27日)

- 1 この改正学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第3美学美術史学科の授業科目のうち次の科目については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については従前の規定による。

西洋古代・中世美術 a	2	西洋古代・中世美術 b	2	西洋古代・中世美術 c	2	西洋古代・中世美術 d	2
西洋現代美術 a	2	西洋現代美術 b	2	絵画実習 e	2		

- 3 平成 20 年度入学生については、第 15 条別表第 3 美学美術史学科の授業科目から次の科目を削除する。

西洋古代美術 a	2	西洋古代美術 b	2	西洋中世美術 a	2	西洋中世美術 b	2
デザイン実習 e	1						

- 4 第 16 条別表第 9 博物館学芸員関係の授業科目のうち「文化財保存学 a」「文化財保存学 b」の単位数については、平成 19 年度入学生から適用し、平成 18 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 21 年 7 月 22 日)

- 1 この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 15 条別表第 4 生活文化学科生活文化専攻の授業科目については、平成 22 年度入学生から適用する。
- 3 第 15 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目については、平成 22 年度入学生から適用する。

附 則(平成 22 年 3 月 26 日)

- 1 この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 3、別表第 4、別表第 6、第 16 条第 2 項の規定は、平成 22 年度入学生から適用し、平成 21 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成 22 年 7 月 28 日)

- 1 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 15 条別表第 4 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則(平成 22 年 12 月 17 日)

- 1 この改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 15 条別表第 4 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則(平成 23 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 26 条、第 44 条の規定については、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生について従前の規定による。
- 3 第 15 条別表第 4、及び第 15 条別表第 5 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規定による。

- 4 第16条別表第6教職課程授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第16条別表第7図書館司書関係授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については従前の規定による。
- 6 第16条別表第9博物館学芸員関係授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成24年3月23日)

- 1 この改正学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第4生活文化学科幼児保育専攻の授業科目のうち、次の科目については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については従前の規程による。

道徳の指導法	講義	2	特別活動の指導法	講義	2
介護支援基礎論	講義	2	介護等体験	実習	1
教育実習指導(幼稚園)	演習	1	教育実習指導(小学校)	演習	1
教育実習 a(幼稚園)	実習	4	教育実習 b(幼稚園)	実習	2
教育実習 a(小学校)	実習	4	教育実習 b(小学校)	実習	2

- 3 平成23年度入学生については、第15条別表第4生活文化学科幼児保育専攻の科目から次の科目を削除する。

道徳・特別活動の指導法	講義	2	教育実習指導	演習	1
教育実習	実習	4			

- 4 第16条別表第6教職課程授業科目については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については従前の規程による。
- 5 第49条第1項、第2項及び第4項については、平成25年4月1日から適用する。
- 6 学長の職務の代理及び代行に関しては、平成24年度は従前の規程による。
- 7 平成19年4月11日制定の「学長の職務の代理及び代行に関する規程」は、平成25年3月31日をもって廃止とする。

附 則(平成24年7月20日)

- 1 この改正学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 第8条、第9条、第10条に規定する編入学定員(第3年次)は、平成25年度及び平成26年度については次のとおりとする。

文学部

	平成25年度	平成26年度
国文学科	13名	13名
英文学科	13名	13名

美学美術史学科	8名	8名
---------	----	----

生活科学部

学科	専攻	平成 25 年度	平成 26 年度
食生活科学科	管理栄養士専攻	2名	2名
	食物科学専攻	2名	2名
	健康栄養専攻	-	-
生活環境学科		2名	2名
生活文化学科	生活文化専攻	2名	2名
	幼児保育専攻	2名	2名

人間社会学部

	平成 25 年度	平成 26 年度
人間社会学科	10名	10名
現代社会学科	10名	10名

附 則(平成 24 年 10 月 19 日)

- 1 この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 14 条別表第 1 共通教育科目及び第 15 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目は、平成 25 年度入学生から適用し、平成 24 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成 25 年 3 月 22 日)

- 1 この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 3、第 15 条別表第 4、第 15 条別表第 5、第 16 条別表第 6、第 16 条別表第 9、第 19 条、第 26 条、第 44 条の規定については、平成 25 年度入学生より適用し、平成 24 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成 25 年 3 月 22 日)

この改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 3 月 22 日改正)

- 1 この改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 条、第 6 条、第 9 条、第 15 条、第 16 条、第 26 条の規定については、平成 26 年度入学生から適用し、平成 25 年度以前の入学生については、従前の規程による。
- 3 第 15 条別表第 4 は、平成 26 年度入学生から適用し、平成 25 年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち、次の科目は平成 24 年度入学生に適用する。

スポーツと健康科学 a	講義	2	スポーツと健康科学 b	講義	2
-------------	----	---	-------------	----	---

- 4 第16条別表第6教職課程授業科目については、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前の入学生については従前の規程による。

附 則(平成27年3月28日改正)

- 1 この改正学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 第26条の規定については、平成27年度入学生から適用し、平成26年度以前の入学生については、従前の規定による。
- 3 第15条別表第3、第4及び第5の授業科目については、平成27年度入学生から適用し、平成26年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、別表第4現代生活学科授業科目については、平成26年度入学生から適用する。

附 則(平成28年3月26日改正)

- 1 この改正学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第4食生活科学科授業科目については、平成28年度入学生から適用し、平成27年度以前の入学生については、従前の規定による。
- 3 第19条第3項の卒業論文又はこれに代る授業科目のうち、人間社会学科及び現代社会学科については、平成27年度入学生から適用し、平成26年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成29年3月25日改正)

- 1 この改正学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1、第15条別表第4、第44条の規定については、平成29年度入学生から適用し、平成28年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成30年3月24日改正)

- 1 この改正学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 第7条、第15条別表第3、第15条別表第4、第16条、第16条別表第7、第26条及び第61条の規定については、平成30年度入学生から適用し、平成29年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(2019年3月23日改正)

- 1 この改正学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1、第15条別表第4及び第15条別表第5の規定については、2019年度入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、従前の規定による。

- 3 第16条別表第6の規定については、2019年度入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、教職課程授業科目のうち、次の科目は2017年度入学生から適用する。

特別支援教育論	講義	1
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2

附 則(2020年3月21日改正)

- 1 この改正学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第3及び第15条別表第4の規定については、2020年度入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(2021年3月27日改正)

- 1 この改正学則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1及び第15条別表第4の規定については、2021年度入学生から適用し、2020年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、共通教育科目のうち、次の科目については2018年度入学生から適用する。

附則別表

海外語学研修 e	実習	1
海外語学研修 f	実習	1
海外語学研修 g	実習	1
海外語学研修 h	実習	1

附 則(2022年3月26日改正)

- 1 この改正学則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第4及び第16条別表第6の規定については、2022年度入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則 (2023年2月18日改正)

- 1 この改正学則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 第44条の規定については、2023年度入学生から適用し、2022年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則 (2023年2月18日改正)

- 1 この改正学則は、2024年4月1日から施行する。

- 2 第3条、第7条、第7条の2、第10条、第10条の2、第14条、第15条、第16条、第19条、第26条、第27条、第44条及び第61条の規定については、2024年度入学生から適用し、2023年度以前入学生については、従前の規定による。

別表第1

第14条別表第1 共通教育科目

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
実践入門セミナー	演習	2	
実践キャリアプランニング	講義	2	
Integrated English a	演習	1	
Integrated English b	演習	1	
データサイエンス入門	講義	1	
情報リテラシー基礎	演習	1	
選択科目			
キャリアデザイン	講義	2	
グローバル・キャリアデザイン	演習	2	
短期インターンシップ	実習	1	
長期インターンシップ	実習	2	
キャリア開発実践論	演習	2	
ビジネスのスキルとマナー	講義	2	
国際理解とキャリア形成	講義	2	
女性とキャリア形成	講義	2	
キャリア・ショーケース	講義	2	
ライフデザイン	講義	2	
実践企業分析論	講義	2	
実践企業分析論演習	演習	2	
Effective Writing	演習	1	
Effective Speaking	演習	1	
Active Reading	演習	1	
Active Listening	演習	1	
C E F R B 1	演習	1	
Global Studies a	講義	2	
Global Studies b	講義	2	
Global Studies c	講義	2	
Global Studies d	講義	2	
Global Studies e	講義	2	
Global Studies f	講義	2	
Global Studies g	講義	2	
Global Studies h	講義	2	
Global Studies i	講義	2	
Global Studies j	講義	2	
フランス語 1 a	演習	1	
フランス語 1 b	演習	1	

ド	イ	ツ	語	1	a	演習	1								
ド	イ	ツ	語	1	b	演習	1								
中	国	語		1	a	演習	1								
中	国	語		1	b	演習	1								
コ	リ	ア	語	1	a	演習	1								
コ	リ	ア	語	1	b	演習	1								
ス	ペ	イ	ン	語	1	a	演習	1							
ス	ペ	イ	ン	語	1	b	演習	1							
フ	ラ	ン	ス	語	2	a	演習	1							
フ	ラ	ン	ス	語	2	b	演習	1							
ド	イ	ツ	語	2	a	演習	1								
ド	イ	ツ	語	2	b	演習	1								
中	国	語		2	a	演習	1								
中	国	語		2	b	演習	1								
コ	リ	ア	語	2	a	演習	1								
コ	リ	ア	語	2	b	演習	1								
ス	ペ	イ	ン	語	2	a	演習	1							
ス	ペ	イ	ン	語	2	b	演習	1							
海	外	語	学	研	修	a	実習	2							
海	外	語	学	研	修	b	実習	2							
海	外	語	学	研	修	c	実習	2							
海	外	語	学	研	修	d	実習	2							
海	外	語	学	研	修	e	実習	1							
海	外	語	学	研	修	f	実習	1							
海	外	語	学	研	修	g	実習	1							
海	外	語	学	研	修	h	実習	1							
海	外	短	期	イ	ン	タ	ー	ン	シ	ッ	プ	実習	1		
海	外	長	期	イ	ン	タ	ー	ン	シ	ッ	プ	実習	2		
情	報	ス	キ	ル	基	礎	演習	1							
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	a	演習	2				
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	b	演習	2				
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	c	演習	2				
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	d	演習	2				
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	e	演習	2				
実	践	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	a	演習	2					
実	践	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	b	演習	2					
実	践	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	c	演習	2					
ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	a	演習	1	
ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	b	演習	1	
ジ	ェ	ン	ダ	ー	論	入	門	講義	2						
女	性	の	歴	史	講義	2									

女 性 の 健 康	講義	2	
文 学 と ジ ェ ン ダ ー	講義	2	
国 際 社 会 と ジ ェ ン ダ ー	講義	2	
女 性 教 育 と ジ ェ ン ダ ー	講義	2	
ジ ェ ン ダ ー と 心 理	講義	2	
哲 学 入 門	講義	2	
現 代 の 思 想	講義	2	
言 語 学 入 門	講義	2	
倫 理 学 入 門	講義	2	
生 命 と 環 境 の 倫 理	講義	2	
社 会 思 想 入 門	講義	2	
東 洋 思 想 入 門	講義	2	
世 界 の 宗 教	講義	2	
日 本 の 古 典 文 学	講義	2	
日 本 の 近 現 代 文 学	講義	2	
西 洋 の 文 学	講義	2	
児 童 文 学 入 門	講義	2	
世 界 の フ ァ ン タ ジ ー	講義	2	
文 化 人 類 学 入 門	講義	2	
美 術 の 世 界	講義	2	
音 楽 の 世 界	講義	2	
フ ァ ッ シ ョ ン の 世 界	講義	2	
映 像 文 化 論	講義	2	
日 本 の 伝 統 文 化	講義	2	
日 本 の ポ ッ プ カ ル チ ャ ー	講義	2	
心 理 学 入 門	講義	2	
人 間 関 係 の 心 理 学	講義	2	
心 の 健 康	講義	2	
地 域 研 究 a	講義	2	
地 域 研 究 b	講義	2	
食 文 化 論	講義	2	
衣 文 化 論	講義	2	
生 活 と デ ザ イ ン	講義	2	
社 会 と デ ザ イ ン	講義	2	
メ デ イ ア 論	講義	2	
サ ブ カ ル チ ャ ー 論	講義	2	
教 育 学	講義	2	
日 本 国 憲 法	講義	2	
法 学 入 門	講義	2	
日 本 の 政 治	講義	2	
国 際 政 治 の 基 礎	講義	2	

日 本 の 経 済	講義	2	
国 際 経 済 の 基 礎	講義	2	
日 本 史	講義	2	
西 洋 史	講義	2	
東 洋 史	講義	2	
地 理 学	講義	2	
社 会 学 入 門	講義	2	
社 会 保 障 論	講義	2	
日 常 生 活 と 法	講義	2	
金 融 リ テ ラ シ ー 入 門	講義	2	
数 学 的 思 考	講義	2	
統 計 的 思 考	講義	2	
く ら し の 化 学	講義	2	
く ら し の 人 間 工 学	講義	2	
生 活 環 境 の 科 学	講義	2	
生 命 の 科 学	講義	2	
身 体 の 科 学	講義	2	
宇 宙 の 科 学	講義	2	
地 球 と 環 境 の 科 学	講義	2	
科 学 技 術 と 人 間	講義	2	
農 業 と 食 料	講義	2	
バ イ オ の 世 界	講義	2	
防 災 の 科 学	講義	2	
身 体 運 動 の 科 学 a	講義	2	
身 体 運 動 の 科 学 b	講義	2	
ス ポ ー ツ 文 化 論	講義	2	
健 康 運 動 実 習 a	実技	1	
健 康 運 動 実 習 b	実技	1	
基 礎 ス ポ ー ツ 実 習 a	実技	1	
基 礎 ス ポ ー ツ 実 習 b	実技	1	
基 礎 ス ポ ー ツ 実 習 c	実技	1	
基 礎 ス ポ ー ツ 実 習 d	実技	1	
健 康 体 力 科 学 演 習	演習	1	
ヘルスプロモーション実践実習 a	実技	1	
ヘルスプロモーション実践実習 b	実技	1	
ア ダ プ テ ッ ド ス ポ ー ツ	実技	1	
ス ポ ー ツ 応 用 科 学 実 習	実技	1	
実 践 教 養 講 座 a	演習	2	
実 践 教 養 講 座 b	演習	2	
実 践 教 養 講 座 c	演習	2	
実 践 教 養 講 座 d	演習	2	

実 践 教 養 講 座 e	演習	2	
実 践 教 養 講 座 f	演習	2	
実 践 教 養 講 座 g	演習	2	
実 践 教 養 講 座 h	演習	2	
実 践 教 養 講 座 i	演習	2	
オ ー プ ン 講 座 a	講義	2	
オ ー プ ン 講 座 b	講義	2	
オ ー プ ン 講 座 c	講義	2	
ク ォ ー タ ー オ ー プ ン 講 座 a	講義	1	
ク ォ ー タ ー オ ー プ ン 講 座 b	講義	1	
ク ォ ー タ ー オ ー プ ン 講 座 c	講義	1	

別表第3

第15条別表第3 文学部専門科目 国文学科

必修科目							
授業科目	授業形態	単位数	備考				
国語学概論 a	講義	2		中世文学基礎演習 1	演習	2	
国語学概論 b	講義	2		中世文学基礎演習 2	演習	2	
国文学概論 a	講義	2		近世文学基礎演習 1	演習	2	
国文学概論 b	講義	2		近世文学基礎演習 2	演習	2	
古典文学基礎講読 a	講義	2		近現代文学基礎演習 1	演習	2	
古典文学基礎講読 b	講義	2		近現代文学基礎演習 2	演習	2	
近代文学基礎講読 a	講義	2		漢文学基礎演習 1	演習	2	
近代文学基礎講読 b	講義	2		漢文学基礎演習 2	演習	2	
漢文学基礎講読 a	講義	2		国語学研究 a	講義	2	
漢文学基礎講読 b	講義	2		国語学研究 b	講義	2	
特殊演習 1	演習	1		上代文学研究 a	講義	2	
特殊演習 2	演習	1		上代文学研究 b	講義	2	
卒業論文		6		中古文学研究 a	講義	2	
選択科目				中古文学研究 b	講義	2	
国語史 a	講義	2		中世文学研究 a	講義	2	
国語史 b	講義	2		中世文学研究 b	講義	2	
上代文学史 a	講義	2		近世文学研究 a	講義	2	
上代文学史 b	講義	2		近世文学研究 b	講義	2	
中古文学史 a	講義	2		近現代文学研究 a	講義	2	
中古文学史 b	講義	2		近現代文学研究 b	講義	2	
中世文学史 a	講義	2		中国文学研究 a	講義	2	
中世文学史 b	講義	2		中国文学研究 b	講義	2	
近世文学史 a	講義	2		国語学演習 1	演習	2	
近世文学史 b	講義	2		国語学演習 2	演習	2	
近現代文学史 a	講義	2		上代文学演習 1	演習	2	
近現代文学史 b	講義	2		上代文学演習 2	演習	2	
中国文学史 a	講義	2		中古文学演習 1	演習	2	
中国文学史 b	講義	2		中古文学演習 2	演習	2	
国語学基礎演習 1	演習	2		中世文学演習 1	演習	2	
国語学基礎演習 2	演習	2		中世文学演習 2	演習	2	
上代文学基礎演習 1	演習	2		近世文学演習 1	演習	2	
上代文学基礎演習 2	演習	2		近世文学演習 2	演習	2	
中古文学基礎演習 1	演習	2		近現代文学演習 1	演習	2	
中古文学基礎演習 2	演習	2		近現代文学演習 2	演習	2	
				中国文学演習 1	演習	2	
				中国文学演習 2	演習	2	
				日本語教育学演習 1	演習	2	
				日本語教育学演習 2	演習	2	
				正しい文章を書く a	演習	2	

正しい文章を書く b	演習	2	
美しい文字を書く a	演習	1	
美しい文字を書く b	演習	1	
日本語表現を極める a	演習	2	
日本語表現を極める b	演習	2	
書芸を極める a	演習	1	
書芸を極める b	演習	1	
礼法 a	講義	2	
礼法 b	講義	2	
伝統芸能 a	講義	2	
伝統芸能 b	講義	2	
茶道 a	講義	2	
茶道 b	講義	2	
有職 a	講義	2	
有職 b	講義	2	
香道 a	講義	2	
香道 b	講義	2	
文学散歩プロジェクト	演習	2	
名所旧跡プロジェクト	演習	2	
国文学マーケティングプロジェクト	演習	2	
国際発信実習	実習	1	
Japanese Literature	講義	2	
Japanese Linguistics	講義	2	

Japanese Culture	講義	2	
Seminar on Global Studies	講義	2	
日本語教授法—初級—	講義	2	
日本語教授法—中級—	講義	2	
日本語教育文法—初級—	講義	2	
日本語教育文法—中級—	講義	2	
日本事情	講義	2	
日本語のバリエーション	講義	2	
第二言語習得研究	講義	2	
日本語の音声	講義	2	
日本語教授法演習 a	演習	2	
日本語教授法演習 b	演習	2	
日本語文法論 a	講義	2	
日本語文法論 b	講義	2	
日本文学史 a	講義	2	
日本文学史 b	講義	2	
漢文学 a	講義	2	
漢文学 b	講義	2	
書道史	講義	2	
書学概論	講義	2	
漢字書法 1	演習	1	
漢字書法 2	演習	1	
仮名書法 1	演習	1	
仮名書法 2	演習	1	

アメリカ文学・文化演習 g	演習	2	
アメリカ文学・文化演習 h	演習	2	
英語学演習 a	演習	2	
英語学演習 b	演習	2	
英語学演習 c	演習	2	
英語学演習 d	演習	2	
特殊演習 a	演習	2	
特殊演習 b	演習	2	
特殊演習 c	演習	2	

特殊演習 d	演習	2	
イギリス文学・文化講読演習 a	演習	2	
イギリス文学・文化講読演習 b	演習	2	
イギリス文学・文化講読演習 c	演習	2	
アメリカ文学・文化講読演習 a	演習	2	
アメリカ文学・文化講読演習 b	演習	2	
アメリカ文学・文化講読演習 c	演習	2	
英語学講読演習 a	演習	2	
英語学講読演習 b	演習	2	

別表第3

第15条別表第3 文学部専門科目 美学美術史学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
日本美術史入門 a	講義	2	
日本近代美術史入門 a	講義	2	
中国美術史入門 a	講義	2	
仏教美術史入門 a	講義	2	
西洋美術史入門 a	講義	2	
西洋近代美術史入門 a	講義	2	
美学入門 a	講義	2	
民俗芸能入門 a	講義	2	
卒論ゼミ a	演習	1	
卒論ゼミ b	演習	1	
卒業論文		6	
選択科目			
日本美術史入門 b	講義	2	
日本近代美術史入門 b	講義	2	
中国美術史入門 b	講義	2	
仏教美術史入門 b	講義	2	
西洋美術史入門 b	講義	2	
西洋近代美術史入門 b	講義	2	
美学入門 b	講義	2	
民俗芸能入門 b	講義	2	
入門演習	演習	2	
基礎演習	演習	2	
日本美術史特講 a	講義	2	
日本美術史特講 b	講義	2	
日本美術史特講 c	講義	2	
日本美術史特講 d	講義	2	
日本近代美術史特講 a	講義	2	
日本近代美術史特講 b	講義	2	
日本近代美術史特講 c	講義	2	
日本近代美術史特講 d	講義	2	
中国美術史特講 a	講義	2	
中国美術史特講 b	講義	2	
中国美術史特講 c	講義	2	
中国美術史特講 d	講義	2	
仏教美術史特講 a	講義	2	
仏教美術史特講 b	講義	2	
仏教美術史特講 c	講義	2	
仏教美術史特講 d	講義	2	
西洋美術史特講 a	講義	2	
西洋美術史特講 b	講義	2	
西洋美術史特講 c	講義	2	
西洋美術史特講 d	講義	2	
西洋近代美術史特講 a	講義	2	
西洋近代美術史特講 b	講義	2	
西洋近代美術史特講 c	講義	2	
西洋近代美術史特講 d	講義	2	
美学特講 a	講義	2	
美学特講 b	講義	2	
美学特講 c	講義	2	
美学特講 d	講義	2	
民俗芸能特講 a	講義	2	
民俗芸能特講 b	講義	2	
民俗芸能特講 c	講義	2	
民俗芸能特講 d	講義	2	
日本の美術 a	講義	2	
日本の美術 b	講義	2	
日本の美術 c	講義	2	
日本の美術 d	講義	2	
東洋の美術 a	講義	2	
東洋の美術 b	講義	2	
東洋の美術 c	講義	2	
東洋の美術 d	講義	2	
西洋の美術 a	講義	2	
西洋の美術 b	講義	2	
西洋の美術 c	講義	2	
西洋の美術 d	講義	2	
美術と社会 a	講義	2	
美術と社会 b	講義	2	
美術と社会 c	講義	2	
美術と社会 d	講義	2	
民俗学	講義	2	
デザイン史	講義	2	
デザイン論	講義	2	
メディア芸術論	講義	2	

現代美術論	講義	2	
世界の美術 a	講義	2	
世界の美術 b	講義	2	
アートマネジメント論	講義	2	
アートコミュニケーション論	講義	2	
グローバル・アートスタディズ a	演習	2	
グローバル・アートスタディズ b	演習	2	
グローバル・アートスタディズ c	演習	2	
グローバル・アートスタディズ d	演習	2	
グローバル・アートスタディズ e	演習	2	
グローバル・アートスタディズ f	演習	2	
美術史実地研究 a	実習	1	
美術史実地研究 b	実習	1	
美術史実地研究 c	実習	1	
日本美術史演習 a	演習	2	
日本美術史演習 b	演習	2	
日本近代美術史演習 a	演習	2	
日本近代美術史演習 b	演習	2	
中国美術史演習 a	演習	2	
中国美術史演習 b	演習	2	
仏教美術史演習 a	演習	2	
仏教美術史演習 b	演習	2	
西洋美術史演習 a	演習	2	
西洋美術史演習 b	演習	2	

西洋近代美術史演習 a	演習	2	
西洋近代美術史演習 b	演習	2	
美学演習 a	演習	2	
美学演習 b	演習	2	
民俗芸能演習 a	演習	2	
民族芸能演習 b	演習	2	
絵画入門 a	実習	1	
絵画入門 b	実習	1	
絵画実習 a	実習	2	
絵画実習 b	実習	2	
絵画実習 c	実習	2	
絵画実習 d	実習	2	
絵画実習 e	実習	2	
デザイン入門 a	実習	1	
デザイン入門 b	実習	1	
デザイン実習 a	実習	2	
デザイン実習 b	実習	2	
デザイン実習 c	実習	2	
デザイン実習 d	実習	2	
工芸実習 a	実習	2	
工芸実習 b	実習	2	
彫刻実習 a	実習	2	
彫刻実習 b	実習	2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科管理栄養士専攻

規則等規定科目	授業科目	授業形態	単位数		備考	
			必修	選択		
専門基礎分野	社会・環境と健康	公衆衛生学 a	講義	2		** a
		公衆衛生学 b	講義	2		** a
		健康管理論	講義	2		** a
		栄養疫学実習	実習	1		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学 a	講義	2		** b
		解剖生理学 b	講義	2		** b
		栄養生理学 (運動生理学を含む)	講義	2		
		生化学 a	講義	2		** b
		生化学 b	講義	2		** b
		臨床医学概論	講義	2		
		感染と防御	講義	2		
		解剖生理学実験	実験	1		** b
	生化学実験	実験	1		** b	
	食べ物と健康	食品学 a	講義	2		** c
		食品学 b	講義	2		** c
		調理学	講義	2		** f
		食品機能論	講義	2		** c
		食品加工学 a	講義	2		** c
		食品衛生学 a	講義	2		** c
		食品学実験 a	実験	1		
食品衛生学実験		実験	1		** c	
食品加工学実習		実習	1		** c	
調理学実験		実験	1		** f	
基礎調理 1		実習	1		** f	
基礎調理 2		実習	1			
専門分野	基礎栄養学	基礎栄養学	講義	2		** d
		基礎栄養学実習	実習	1		
	応用栄養学	栄養マネジメント論	講義	2		
		ライフステージ栄養学 a	講義	2		** d
		ライフステージ栄養学 b	講義	2		** d
		栄養マネジメント実習	実習	1		** e
		ライフステージ栄養学実習	実習	1		** e
	栄養教育論	栄養教育総論	講義	2		
		栄養教育各論 a	講義	2		** e
		栄養教育各論 b	講義	2		** e
		栄養教育論実習 a	実習	1		** e
栄養教育論実習 b		実習	1		** e	
臨床栄養学	臨床栄養学 a	講義	2		** d	

		臨床栄養学 b	講義	2		** d	
		臨床栄養管理学総論	講義	2			
		臨床栄養管理学各論	講義	2			
		臨床栄養学実習 a	実習	1		** d	
		臨床栄養管理実習	実習	1		** d	
	公衆栄養学	公衆栄養学 a	講義	2		** e	
		公衆栄養学 b	講義	2		** e	
		公衆栄養学実習 a	実習	1		** e	
	給食経営管理論	給食経営管理 a	講義	2		** f	
		給食経営管理 b	講義	2		** f	
		給食マネジメント実習	実習	2		** f	
	総合演習 (管理栄養士国家 試験受験資格 4単位必修)	総合演習 a	演習	1			
		総合演習 b	演習	1			
		総合演習 c	演習		1		
		総合演習 d	演習		1		
	臨地実習	校外給食実習	臨地実習	1		** f	
		臨床栄養学実習 b	臨地実習	2		** d	
	(選択必修1単位) 専門分野	臨地実習 (1単位必修)	臨床栄養学実習 c	臨地実習		1	* d
			公衆栄養学実習 b	臨地実習		1	* e
		食べ物と健康 (1単位必修)	調理学実習 a	実習		1	
調理学実習 b	実習			1			
その他の科目 (選択科目)	微生物学	講義		2			
	バイオテクノロジー概論	講義		2			
	基礎化学	講義		2			
	食品学実験 b	実験		1			
	食品分析学	講義		2			
	食品加工学 b	講義		2			
	毒性学	講義		2			
	食品衛生学 b	講義		2			
	調理学特別講義	講義		2			
	食事摂取基準論	講義		2			
	食事計画演習	演習		1			
	社会福祉概論	講義		2			
	スポーツ栄養学 a	講義		2			
	スポーツ栄養学 b	講義		2			
	特別講義 a	演習		1			
	特別講義 b	演習		1			
	特別講義 c	演習		1			
	特別講義 d	演習		1			
	特別講義 e	演習		1			
	卒業論文				6		

※1 管理栄養士専攻の学級数（1学級50人以下）は2学級とする。

※2 栄養士資格取得に必要な単位

※印：「栄養士養成課程」必修科目66単位

※印：「栄養士養成課程」選択必修科目1単位以上

a～fは栄養士法施行規則に定める教育内容

a：社会生活と健康

b：人体の構造と機能

c：食品と衛生

d：栄養と健康

e：栄養の指導

f：給食の運営

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科食物科学専攻

必修科目							
授業科目	授業形態	単位数	備考				
食生活論	講義	2		西洋料理実習	実習	1	
フードスペシャリスト論	講義	2		社会・環境と健康	講義	2	
フードコーディネーター論	講義	2		微生物学	講義	2	
フードシステム総論	講義	2		食品衛生学実験	実験	1	
基礎栄養学	講義	2		食品安全学	講義	2	
食品学 a	講義	2		食商学	講義	2	
食品学 b	講義	2		プレゼンテーション演習	演習	1	
食品加工学 a	講義	2		フードシステム各論	講義	2	
食品加工学 b	講義	2		品質管理統計演習	演習	1	
調理科学	講義	2		食品開発論	講義	2	
調理学実験 a	実験	1		フードマーケティング論	講義	2	
食品衛生学 a	講義	2		マーケティング演習	演習	1	
食品衛生学 b	講義	2		フードビジネス研究	講義	2	
卒業論文		6		食産業演習	演習	2	
選択科目				栄養生理解論	講義	2	
基礎化学	講義	2		栄養と健康	講義	2	
生化学	講義	2		疾患・老化と栄養・食品	講義	2	
理化学実験	実験	1		スポーツと健康科学 a	講義	2	
バイオサイエンス入門	講義	2		スポーツと健康科学 b	講義	2	
食品機能論	講義	2		スポーツ医科学実習	実習	1	
食品分析学	講義	2		健康づくり運動実習 a	実習	1	
食品学実験	実験	1		健康づくり運動実習 b	実習	1	
食品分析学実験	実験	1		健康づくり運動実習 c	実習	1	
機器分析実験	実験	1		健康づくり運動実習 d	実習	1	
食品加工学実習	実習	1		学校健康教育論	講義	2	
日本の食文化	講義	2		家庭経営学	講義	2	
テーブルマネジメント演習	演習	1		家族関係論	講義	2	
食品鑑別論	講義	2		生活学原論	講義	2	
調理学実験 b	実験	1		衣料学	講義	2	
食品物性論	講義	2		衣料学演習	演習	2	
基礎調理 1	実習	1		被服製作実習 a	実習	2	
基礎調理 2	実習	1		被服製作実習 b	実習	2	
中国料理実習	実習	1		被服製作実習 c	実習	2	
日本料理実習	実習	1		調理学及び実習	実習	2	
				家庭工学	講義	2	
				住居学	講義	2	
				商業空間デザイン	講義	2	
				保育学	講義	2	
				育児学	講義	2	

看	護	学	講義	2	
---	---	---	----	---	--

社	会	福	祉	概	論	講義	2	
---	---	---	---	---	---	----	---	--

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科健康栄養専攻

規則等規定科目	授業科目	授業形態	単位数		備考	
			必修	選択		
専門科目	社会生活と健康	公衆衛生学 a	講義	2		**
		社会と福祉	講義	2		**
	人体の構造と機能	解剖生理学 a	講義	2		**
		人体の構造と疾病	講義	2		**
		生化学 a	講義	2		**
		生化学 b	講義	2		**
		解剖生理学実験	実験	1		**
		栄養生化学実験	実験	1		**
	食品と衛生	食品学 a	講義	2		**
		食品学 b	講義	2		**
		食品学実験 a	実験	1		**
		食品衛生学 a	講義	2		**
		食品衛生学実験	実験	1		**
	栄養と健康	基礎栄養学	講義	2		**
		食事摂取基準論	講義	2		**
		ライフステージ栄養学 a	講義	2		**
		ライフステージ栄養学 b	講義	2		**
		ライフステージ栄養学実習	実習	1		**
		臨床栄養学 a	講義	2		**
		臨床栄養学 b	講義	2		**
		臨床栄養学実習 a	実習	1		**
	臨床栄養学実習 b	実習	1		**	
	栄養の指導	栄養指導論 a	講義	2		**
		栄養指導論 b	講義	2		**
		公衆栄養学 a	講義	2		**
		栄養指導実習 a	実習	1		**
		栄養指導実習 b	実習	1		**
	給食の運営	調理学	講義	2		**
		給食計画論	講義	2		**
		給食実務論	講義	2		**
		基礎調理	実習	2		**
		給食実務学内実習	実習	2		**
		給食実務校外実習 a	実習		2	*
給食実務校外実習 b		実習		3	*	
健康栄養科目	食計画群	献立学	講義	2		
		給食計画演習	演習	1		
		応用調理	実習	2		
	食育群	食文化と食育	講義		2	
		ライフステージと食育	講義		2	
		食育と調理	実習		1	
		食のリスク管理	講義		2	

健康支援群	スポーツと健康科学 a	講義		2		
	スポーツと健康科学 b	講義		2		
	スポーツ栄養学 a	講義		2		
	スポーツ栄養学 b	講義		2		
	スポーツ医科学実習	実習		1		
	健康づくり運動実習 a	実習		1		
	健康づくり運動実習 b	実習		1		
	健康づくり運動実習 c	実習		1		
	健康づくり運動実習 d	実習		1		
	レベルアップ群	解剖生理学 b	講義		2	
		食品機能論	講義		2	
		臨床栄養管理学	講義		2	
		公衆栄養学 b	講義		2	
		総合演習	演習		2	
関連科目	微生物学	講義		2		
	バイオテクノロジー概論	講義		2		
	基礎化学	講義		2		
	分子生物学	講義		2		
	理化学実験	実験		1		
	食品加工学 a	講義		2		
	食品加工学 b	講義		2		
	食品加工学実習	実習		1		
	食品衛生学 b	講義		2		
	毒性学	講義		2		
	栄養生理学	講義		2		
	卒業論文			6		

※1 栄養士資格取得に必要な単位

※※印：「栄養士養成課程」必修科目 55 単位

*印：「栄養士養成課程」選択必修科目 2 単位もしくは 3 単位

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活環境学科

必 修 科 目			
授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	備 考
生 活 環 境 学 演 習	演 習	2	
生 活 環 境 学 セ ミ ナ ー	演 習	2	
卒 業 研 究		6	
選 択 科 目			
生 活 環 境 基 礎 a	演 習	2	
生 活 環 境 基 礎 b	演 習	2	
生 活 環 境 基 礎 c	演 習	2	
デ ザ イン 基 礎 演 習 a	演 習	2	
デ ザ イン 基 礎 演 習 b	演 習	2	
デ ザ イン 基 礎 演 習 c	演 習	2	
デ ザ イン 基 礎 演 習 d	演 習	2	
色 彩 学	講 義	2	
色 彩 設 計 演 習 a	演 習	2	
色 彩 設 計 演 習 b	演 習	2	
生 理 学	講 義	2	
統 計 の 基 礎	講 義	2	
統 計 の 応 用	講 義	2	
生 活 環 境 科 学	講 義	2	
デ ザ イン 史	講 義	2	
消 費 生 活 学	講 義	2	
マ ー ケ テ ィ ン グ 論	講 義	2	
消 費 科 学	講 義	2	
情 報 環 境 論	講 義	2	
情 報 通 信 ネットワーク概論	講 義	2	
情 報 と 職 業	講 義	2	
コンピュータとプログラミング演習	演 習	2	
I C T 基 礎 演 習	演 習	2	
織 維 高 分 子 材 料 学	講 義	2	
織 維 高 分 子 材 料 実 験	実 験	2	
テ キ ス タ イ ル 材 料 学	講 義	2	
テ キ ス タ イ ル 材 料 実 験	実 験	2	
機 能 材 料 学	講 義	2	
テ キ ス タ イ ル 管 理 学	講 義	2	
テ キ ス タ イ ル 管 理 実 験	実 験	2	
染 色 加 工 学	講 義	2	

被 服 衛 生 学	講義	2	
アパレルデザイン基礎実験	実験	2	
アパレルデザイン基礎	講義	2	
アパレル生産	講義	2	
パターン設計論	講義	2	
アパレルデザイン実習 a	実習	2	
アパレルデザイン実習 b	実習	2	
アパレル CAD	演習	1	
アパレルデザイン総合実習	実習	2	
伝統衣服実習	実習	2	
ファッションデザイン論	講義	2	
ファッショングラフィック演習	演習	1	
ファッションビジネスの世界	講義	2	
ファッション文化論	講義	2	
ファッション企画論	講義	2	
ファッションビジネス論	講義	2	
ファッションビジネス演習	演習	2	
衣料管理実習	実習	1	
プロダクトデザイン論	講義	2	
プロダクトデザイン演習	演習	2	
基礎造形論	講義	2	
基礎造形演習	演習	2	
プロダクトアメニティ演習	演習	2	
情報アメニティ論	講義	2	
ユニバーサルデザイン論	講義	2	
工業デザイン概論	講義	2	
生活機器設計演習	演習	2	
マルチメディアデザイン演習	演習	2	
感性と生活情報システム	講義	2	
人間工学	講義	2	
人間工学実験	実験	2	
生活気候学	講義	2	
生理人類学	講義	2	
生理人類学実験	実験	2	
生活材料学	講義	2	
インテリアデザイン論	講義	2	
インテリアデザイン演習	演習	2	
インテリアグラフィック演習	演習	1	
インテリアコーディネート論	講義	2	
インテリアコーディネート演習	演習	2	
建築概論	講義	2	

住居学	講義	2	
住居デザイン論	講義	2	
住環境デザイン論	講義	2	
建築デザイン論	講義	2	
生活空間計画	講義	2	
設計製図基礎	演習	2	
建築・インテリアCAD	演習	1	
生活空間設計製図1	演習	2	
生活空間設計製図2	演習	2	
生活空間設計製図3	演習	2	
建築構造	講義	2	
建築施工	講義	2	
建築・インテリア構法	講義	2	
材料力学	講義	2	
住環境・設備学	講義	2	
福祉住環境論	講義	2	
環境心理学	講義	2	
建築法規	講義	2	
デザインワークショップ	演習	2	
調理学及び実習	実習	2	
栄養学	講義	2	
食物学	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
被服製作実習a	実習	2	
被服製作実習b	実習	2	
被服製作実習c	実習	2	
生活学原論	講義	2	
生活経営論	講義	2	
家族関係論	講義	2	
保育学	講義	2	
育児学	講義	2	
看護学	講義	2	
家庭工学	講義	2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活文化学科生活心理専攻

区分	授 業 科 目	授業形態	単位数		備考		
			必修	選択			
基本 目 科 群	学 科 基 本 科 目	生 活 文 化 概 論	講義	2			
		生 活 文 化 史 1	講義	2			
		生 活 文 化 史 2	講義	2			
		基 礎 演 習 1 (言語表現とコミュニケーション)	演習	1			
		基 礎 演 習 2 (科学的思考法とコミュニケーション)	演習	1			
		ゼ ミ ナ ー ル (論理的判断とコミュニケーション)	演習	2			
		卒 業 論 文	演習	6			
		生 活 の 科 学	講義	2			
		生 涯 発 達 心 理 学 a	講義	2			
		生 涯 発 達 心 理 学 b	講義	2			
		家 庭 教 育 論	講義	2			
	専 攻 基 本 科 目	生活心理フィールドワーク1	演習	1			
		生活心理フィールドワーク2	演習	2			
		生 活 心 理 概 論	講義	2			
		生活心理演習(大学から社会へ)	演習		1		
		心 理 実 習	演習 実習		2		
		生 活 心 理 研 究 計 画 法	演習		1		
		心 理 演 習	演習		2		
	基 盤 領 域 群	生 活 と 社 会	生 活 経 済 論	講義	2		
			生 活 経 済 論 演 習	演習		1	
			関 係 行 政 論	講義		2	
家 庭 生 活 と 政 治 経 済			講義		2		
消 費 者 安 全 論			講義		2		
消 費 者 安 全 論 演 習			演習		1		
少 子 高 齢 化 社 会 と 生 活			講義		2		
男 女 共 同 参 画 社 会 と 生 活			講義		2		
社会心理学1(社会・集団・家族心理学a)			講義	2			
社 会 心 理 学 2			講義		2		
社 会 心 理 学 調 査 実 習			実習		2		
キャリア心理学(産業・組織心理学)			講義		2		
コ ミ ュ ニ テ イ 心 理 学			講義		2		
福 祉 心 理 学		講義		2			
司 法 ・ 犯 罪 心 理 学		講義		2			
家 族 と	家 族 関 係 論	講義	2				
	生 涯 発 達 心 理 学 演 習 a	演習		1			
	生 涯 発 達 心 理 学 演 習 b	演習		1			

社会	家族と生涯発達総論	講義	2			
	家族と生涯発達各論 a (乳幼児・児童期)	講義		2		
	家族と生涯発達各論 b (青年・成人・高齢期)	講義		2		
	家族社会学	講義		2		
	家族心理学 (社会・集団・家族心理学 b)	講義		2		
	家族心理学演習	演習		1		
	家族臨床心理学 1	講義		2		
	家族臨床心理学 2	講義		2		
	心身の健康	人体の構造と機能及び疾病	講義	2		
		脳と心 (神経・生理心理学)	講義		2	
		健康科学概論	講義	2		
		健康科学論 a (女性の体と心)	講義		2	
		健康科学論 b (健康と現代医療)	講義		2	
		医学概論	講義		2	
		健康・医療心理学	講義		2	
		臨床心理学 1 (臨床心理学概論)	講義	2		
		臨床心理学 2 (心理学的支援法)	講義		2	
		臨床発達心理学 1	講義		2	
臨床発達心理学 2		講義		2		
精神疾患とその治療		講義		2		
生活心理特論 (障害者・障害児心理学)		講義		2		
探求領域群		人と生活	生活デザイン入門	演習		2
	家庭経営論 1		講義	2		
	家庭経営論 2		講義	2		
	衣料学		講義		2	
	衣料学演習		演習		2	
	被服製作実習 a		実習		2	
	被服製作実習 b		実習		2	
	被服製作実習 c		実習		2	
	栄養学		講義		2	
	食物学		講義		2	
	調理学及び実習		実習		2	
	住居学		講義		2	
	保育学		講義		2	
	育児学		講義		2	
	看護学	講義		2		
	家庭工学	講義		2		
	保育・教育	教育学概論	講義		2	
		社会福祉	講義		2	
子ども理解とカウンセリング		講義		2		
方法基	心理	心理学概論 1	講義	2		
		心理学概論 2	講義	2		
		心理学演習 1	演習	1		

基礎領域	心理学演習 2	演習		1	
	心理学研究法入門 1 (心理学研究法)	演習	2		
	心理学研究法入門 2 (心理学統計法)	演習		2	
	心理調査法 1	演習		1	
	心理調査法 2	演習		1	
	心理検査法 1 (心理的アセスメント a)	演習		1	
	心理検査法 2 (心理的アセスメント b)	演習		1	
	心理学実験 1	演習		2	
	心理学実験 2	演習		2	
	知覚・認知心理学 a	講義	2		
	知覚・認知心理学 b	講義		2	
	学習・言語心理学	講義		2	
	感情・人格心理学	講義		2	
	教育・学校心理学	講義		2	
	発達心理学	講義		2	
	公認心理師の職責	講義		2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活文化学科幼児保育専攻

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		備考	
			必修	選択		
基本 科目 群	学 科 基 本 科 目	生 活 文 化 概 論	講義	2		
		生 活 文 化 史 1	講義	2		
		生 活 文 化 史 2	講義	2		
		基 礎 演 習 1 (言語表現とコミュニケーション)	演習	1		
		基 礎 演 習 2 (科学的思考法とコミュニケーション)	演習	1		
		ゼ ミ ナ ー ル (論理的判断とコミュニケーション)	演習	2		
		卒 業 論 文	演習	6		
		生 活 の 科 学	講義	2		
		生 涯 発 達 心 理 学 a	講義	2	**	
		生 涯 発 達 心 理 学 b	講義	2	**	
		家 庭 教 育 論	講義	2	*	
		専 攻 基 本 科 目	保 育 原 理 1	講義	2	**
	保 育 原 理 2		講義		2	*
	教 育 学 概 論		講義	2	**	
	子 ども の 保 健		講義	2	**	
	子 ども の 健 康 と 安 全		演習		1	**
	子 ども 家 庭 福 祉		講義	2	**	
	保 育 ・ 教 育 指 導 の 基 礎		演習	2		
	保 育 ・ 教 育 指 導 の 実 際		演習	2		
	保 育 領 域	保 育 学 演 習	演習		1	*
保 育 者 論		講義		2	**	
社 会 福 祉		講義		2	**	
子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学		講義		2	**	
社 会 的 養 護 1		講義		2	**	
生 涯 発 達 心 理 学 演 習 a		演習		1	*	
生 涯 発 達 心 理 学 演 習 b		演習		1		
子 ども 理 解 と カ ウ ン セ リ ン グ		講義		2	*	
子 ども の 食 と 栄 養		演習		2	**	
子 ども 家 庭 支 援 論		講義		2	**	
保 育 内 容 総 論		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (健 康)		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (人 間 関 係)		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (環 境)		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (言 葉)		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (表 現)		演習		1	**	
乳 児 保 育 1		講義		2	**	
乳 児 保 育 2		演習		1	**	

	特別な配慮を要する子どもの理解と支援 a	演習		1	**
	特別な配慮を要する子どもの理解と支援 b	演習		1	**
	社会的養護 2	演習		1	**
	子育て支援	演習		1	**
	子どもの理解と援助	演習		1	**
	保育活動の実際 a	演習		1	**
	保育活動の実際 b	演習		1	**
	保育活動の実際 c	演習		1	**
	保育活動の実際 d	演習		1	**
教育領域	教育学演習	演習		1	
	教職論	講義		2	
	教育思想史	講義		2	*
	教育・学校心理学	講義		2	*
	教育制度論	講義		2	*
	国語	講義		2	
	社会	講義		2	
	算数	講義		2	
	理科	講義		2	
	生活	講義		2	
	音楽	講義		2	
	図画工作	講義		2	
	家庭	講義		2	
	体育	講義		2	
	カリキュラム論	講義		2	
	保育カリキュラム論	講義		2	**
	幼児教育法	演習		1	
	児童教育法	演習		2	
	初等教科教育法（国語）	講義		2	
	初等教科教育法（社会）	講義		2	
	初等教科教育法（算数）	講義		2	
	初等教科教育法（理科）	講義		2	
	初等教科教育法（生活）	講義		2	
	初等教科教育法（音楽）	講義		2	
	初等教科教育法（図画工作）	講義		2	
	初等教科教育法（家庭）	講義		2	
	初等教科教育法（体育）	講義		2	
	初等教科教育法（英語）	講義		2	
	道徳の指導法	講義		2	
	特別活動の指導法	講義		2	
	総合的な学習の時間の指導法	講義		2	
	教育方法・技術（ICT活用含む）	講義		2	
生徒・進路指導論	講義		2		
子どもと英語	講義		2	*	

	子どもと健康	講義		2	
	子どもと人間関係	講義		2	
	子どもと環境	講義		2	
	子どもと言葉	講義		2	
	子どもと表現	講義		2	
実習・実践演習領域	保育実習指導 1	演習		2	**
	保育実習 1 a (保育所)	実習		2	**
	保育実習 1 b (児童福祉施設)	実習		2	**
	保育実習指導 2	演習		1	**
	保育実習 2 a (保育所)	実習		2	*
	保育実習 2 b (児童福祉施設)	実習		2	*
	教育実習指導 (幼稚園)	演習		1	
	教育実習 a (幼稚園)	実習		4	
	教育実習 b (幼稚園)	実習		2	
	教育実習指導 (小学校)	演習		2	
	教育実習 (小学校)	実習		4	
	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習		2	**
教職実践演習 (幼・小)	演習		2		
生活心理領域	健康科学論 a (女性の体と心)	講義		2	
	臨床心理学 1 (臨床心理学概論)	講義		2	
	家庭経営論 1	講義		2	

**印:「保育士養成課程」必修科目 54 単位

*印:「保育士養成課程」選択必修科目 9 単位以上

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 現代生活学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
ビジネスプランニング	演習	2	
現代生活学	講義	2	
ゼミナール	演習	4	
ファイナルプロジェクト	演習	4	
コミュニティ概論	講義	2	
環境科学概論	講義	2	
メディア社会概論	講義	2	
グレートブックスセミナー1	演習	2	
ライフ・プランニング	講義	2	
ビジネス・スキル a	演習	2	
ビジネス・スキル b	演習	2	
企業研究 a	演習	2	
企業研究 b	演習	2	
選択科目			
プロジェクト基礎演習 a	演習	2	
プロジェクト基礎演習 b	演習	2	
プロジェクト基礎演習 c	演習	2	
プロジェクト基礎演習 d	演習	2	
プロジェクト実践演習 a	演習	2	
プロジェクト実践演習 b	演習	2	
家庭経営 a (食生活)	講義	2	
家庭経営 b (衣環境)	講義	2	
家庭経営 c (育児・介護)	講義	2	
基礎メディア技術	講義	2	
フィールドリサーチ a	演習	2	
フィールドリサーチ b	演習	2	
フィールドリサーチ c	演習	2	
統計とモデリング	講義	2	
現代社会を読み解く a (政治と経済)	講義	2	
現代社会を読み解く b (生活と産業)	講義	2	
現代社会を読み解く c (文化と市場)	講義	2	
現代社会を読み解く d (科学技術と社会)	講義	2	
グレートブックスセミナー2 a	演習	2	
グレートブックスセミナー2 b	演習	2	
地域文化形成論	講義	2	

コミュニティ経済演習	演習	2	
自立生活論 a (健康)	講義	2	
自立生活論 b (消費者)	講義	2	
自立生活論 c (安全と保障)	講義	2	
少子高齢化社会	講義	2	
グローバル社会	講義	2	
地域エネルギー論	講義	2	
地域エネルギー論演習	演習	2	
地域食料論	講義	2	
地域食料論演習	演習	2	
生活産業創出論	講義	2	
環境マーケティング論 a	講義	2	
環境マーケティング論 b	講義	2	
環境マーケティング論演習 a	演習	2	
環境マーケティング論演習 b	演習	2	
エコビジネス演習	演習	2	
環境の化学と工学	講義	2	
環境化学演習	演習	2	
環境マネジメント論	講義	2	
環境経済学	講義	2	
環境思想 a	講義	2	
環境思想 b	講義	2	
環境思想演習	演習	2	
ビジネス特論 a (環境ビジネス)	講義	2	
ビジネス特論 b (地域ビジネス)	講義	2	
ビジネス特論 c (起業論)	講義	2	
生活産業史	講義	2	
社会責任論	講義	2	
女性社会論 a	講義	2	
女性社会論 b	講義	2	
メディアコミュニケーション a	講義	2	
メディアコミュニケーション b	講義	2	
メディアアート論 a	講義	2	
メディアアート論 b	講義	2	
応用メディア技術	演習	2	
映像制作演習 a	演習	2	
映像制作演習 b	演習	2	
Webテクノロジー演習	演習	2	
プログラミング演習 1	演習	2	
プログラミング演習 2	演習	2	
メディア経営論	講義	2	

メディア経営論演習	演習	2	
メディアプロデュース論	講義	2	
メディアプロデュース論演習	演習	2	
情報セキュリティ社会	講義	2	
広告とメディア	講義	2	
ビジネス・マナー	演習	2	
家庭経営論	講義	2	
家族関係論	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
被服製作実習 a	実習	2	
被服製作実習 b	実習	2	
被服製作実習 c	実習	2	
栄養学	講義	2	
食物学	講義	2	
調理学及び実習	実習	2	
住居学	講義	2	
看護学	講義	2	
育児学	講義	2	
保育学	講義	2	
家庭工学	講義	2	

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 人間社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演 習 I	演習	2		
	演 習 II A	演習	2		
	演 習 II B	演習	2		
	演 習 III A	演習	2		
	演 習 III B	演習	2		
	演 習 IV A	演習	2		
	演 習 IV B	演習	2		
	卒 業 研 究			4	
基礎科目	人 間 社 会 学 総 論	講義	2		
	心 理 学 概 論	講義	2		
	社 会 学 概 論	講義	2		
	経 済 学 概 論	講義	2		
	経 営 学 概 論	講義	2		
	法 律 学	講義	2		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 概 論	講義	2		
	社 会 と 統 計	講義	2		
	ソ ー シ ャ ル ・ デ ザ イン ・ プ ロ ジ ェ ク ト A	演習		2	
	リ ー ダ ー シ ッ プ 開 発 A	演習		2	
	社 会 調 査 概 論	講義		2	
	社 会 調 査 方 法 論	講義		2	
	社 会 の 基 礎 数 学	講義		2	
	人 間 教 育 学 概 論	講義		2	
	ジ ェ ン ダ ー 論	講義		2	
	キ ャ リ ア ・ マ ネ ジ メ ン ト 論	講義		2	
	簿 記 論 I	講義		2	
	簿 記 論 II	講義		2	
地 理 学 概 論	講義		2		
基幹科目	女 性 と 労 働	講義		2	
	ダ イ バ ー シ テ ィ 論	講義		2	
	調 査 ・ 実 験 デ ー タ 処 理 法	講義		2	
	デ ー タ ベ ー ス 基 礎	講義		2	
	異 文 化 理 解	講義		2	
	文 化 人 類 学	講義		2	
	社 会 言 語 学	講義		2	
	メ デ ィ ア 社 会 論	講義		2	
	現 代 教 育 論	講義		2	
	応 用 経 済 学	講義		2	
	会 計 学 総 論 I	講義		2	

展開・応用科目	キャリア・デザイン論	演習	2	
	民法概論	講義	2	
	商法概論	講義	2	
	労働法	講義	2	
	国際関係概論	講義	2	
	行動科学	講義	2	
	発達心理学	講義	2	
	臨床心理学概論	講義	2	
	社会・集団・家族心理学	講義	2	
	人体の構造と機能及び疾病	講義	2	
	ソーシャル・デザイン・プロジェクトB	演習	2	
	リーダーシップ開発B	演習	2	
	特別講義A	講義	2	
	特別講義B	講義	2	
	家族社会学	講義	2	
	地域社会学	講義	2	
	福祉社会学	講義	2	
	ワーク・ライフ・バランス論	演習	2	
	社会政策論	講義	2	
	ジェンダーの人類学	講義	2	
	フィールドワーク論	演習	2	
	社会科学データ分析	講義	2	
	社会調査実習Ⅰ	演習	2	
	社会調査実習Ⅱ	演習	2	
企業戦略論	講義	2		
現代企業論	演習	2		
経営組織論	講義	2		
会社法	講義	2		
現代日本経済論	講義	2		
金融論	講義	2		
保険論	講義	2		
国際経済論	講義	2		
国際政治論	講義	2		
家族法	演習	2		
マーケティング論	講義	2		
心理学実験Ⅰ	演習	2		
心理学実験Ⅱ	演習	2		
心理学的支援法	講義	2		
教育・学校心理学	講義	2		
知覚・認知心理学	講義	2		
司法・犯罪心理学	講義	2		

	応用心理学	講義		2	
	心理学統計法	講義		2	
	人間形成論	講義		2	
	心理学研究法	演習		2	
	学習・言語心理学	講義		2	
	健康・医療心理学	講義		2	
	感情・人格心理学	講義		2	
	心理演習	演習		2	
	神経・生理心理学	講義		2	
	産業・組織心理学	講義		2	
	教育社会学	講義		2	
	福祉心理学	講義		2	
	障害者・障害児心理学	講義		2	
	心理的アセスメント	講義		2	
	メディア・ワークショップ	演習		2	
	メディア・コミュニケーション論	講義		2	
	メディア文化論	演習		2	
	メディア心理学	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援論	講義		2	
	情報セキュリティ	演習		2	
	アジア文化論	講義		2	
	多文化社会論	講義		2	
	広告・PR論	演習		2	
	社会ネットワーク論	講義		2	
	マスメディア論	講義		2	
	メディア表現	講義		2	
	リーダーシップ論	講義		2	
	コーチング論	演習		2	
	メディア情報リテラシー	講義		2	
	ホスピタリティ論	講義		2	
	社会文化事業論	演習		2	
コミュニケーション系科目	英語コミュニケーションⅠ	演習	2		
	英語コミュニケーションⅡA	演習	2		
	英語コミュニケーションⅡB	演習	2		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
専門資格科目	公認心理師の職責	講義		2	
	関係行政論	講義		2	
	心理実習	演習		4	
	精神疾患とその治療	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援実習	演習		1	

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 ビジネス社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演 習 I	演習	2		
	演 習 II a	演習	2		
	演 習 II b	演習	2		
	演 習 III a	演習	2		
	演 習 III b	演習	2		
	演 習 IV a	演習	2		
	演 習 IV b	演習	2		
	卒 業 研 究	演習	4		
基礎科目	人 間 社 会 学 入 門	講義	2		
	心 理 学 概 論	講義	2		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 概 論	講義	2		
	教 育 学 概 論	講義		2	
	発 達 心 理 学	講義		2	
	異 文 化 理 解	講義		2	
	文 化 人 類 学	講義		2	
	社 会 学 概 論	講義	2		
	法 律 学 概 論	講義	2		
	ジ ェ ン ダ ー 論	講義		2	
	地 理 学 概 論	講義		2	
	女 性 と 労 働	講義		2	
	メ デ ィ ア 社 会 論	講義		2	
	国 際 関 係 概 論	講義		2	
	経 済 学 概 論	講義	2		
	経 営 学 概 論	講義	2		
	簿 記 論 I	講義		2	
	簿 記 論 II	講義		2	
	民 法 概 論	講義		2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	講義		2	
	商 法 概 論	講義		2	
	キ ャ リ ア ・ マ ネ ジ メ ン ト 論	講義		2	
	キ ャ リ ア ・ デ ザ イン 論	演習		2	
	実 践 デ ザ イン ラ ボ I	演習		2	
	ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 論	講義		2	
	ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 演 習	演習		2	
	リ ー ダ ー シ ッ プ 開 発 a	演習		2	
	リ ー ダ ー シ ッ プ 開 発 b	演習		2	
社 会 と 統 計	講義	2			
社 会 調 査 概 論	講義		2		
社 会 調 査 方 法 論	講義		2		

	社会の基礎数学	講義		2	
	調査・実験データ処理法	講義		2	
	プログラミング基礎	講義		2	
	データベース基礎	講義		2	
	英語コミュニケーションⅠa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅠb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢb	演習	1		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
基幹科目	社会言語学	講義		2	
	ワーク・ライフ・バランス論	演習		2	
	経営組織論	講義		2	
	社会システム論	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援論	講義		2	
	応用経済学	講義		2	
	企業戦略論	講義		2	
	会計学総論Ⅰ	講義		2	
	会計学総論Ⅱ	講義		2	
	労働法	講義		2	
	行動科学	講義		2	
	社会・集団・家族心理学	講義		2	
	教育・学校心理学	講義		2	
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習		2	
	債権法	講義		2	
	行動経済学	講義		2	
	特別講義 a	講義		2	
	特別講義 b	講義		2	
展開・応用科目	現代日本経済論	講義		2	
	会社法	講義		2	
	消費者保護論	講義		2	
	経済法	演習		2	
	家族社会学	講義		2	
	金融論	講義		2	
	財政論	講義		2	
	証券論	講義		2	
	国際経済論	講義		2	
	観光事業論	演習		2	
	地域経済論	講義		2	
	家族法	演習		2	

	知的財産法	講義		2	
	行政法	講義		2	
	原価計算論	講義		2	
	現代企業論	演習		2	
	広告・PR論	演習		2	
	人的資源管理	講義		2	
	応用心理学	講義		2	
	経営分析論	演習		2	
	経営管理論	演習		2	
	イノベーション論	講義		2	
	流通論	講義		2	
	消費者心理学	講義		2	
	ソーシャルマーケティング論	講義		2	
	リーダーシップ論	講義		2	
	コーチング論	演習		2	
	人材開発論	講義		2	
	ホスピタリティ論	講義		2	
	産業・組織心理学	講義		2	
	社会調査実習Ⅰ	演習		2	
	社会調査実習Ⅱ	演習		2	
	社会科学データ分析	講義		2	
	国際政治論	講義		2	
	地域社会学	講義		2	
	アジア文化論	講義		2	
	多文化社会論	講義		2	
	メディア文化論	演習		2	
	共生支援論	講義		2	
	国際企業論	講義		2	
	経済発展論	講義		2	
	社会文化事業論	演習		2	
	国際協力論	講義		2	
	国際ビジネスと法	講義		2	
	アジア経済・経営論	講義		2	
	メディア情報リテラシー	講義		2	
専門資格科目	公認心理師の職責	講義		2	
	関係行政論	講義		2	
	心理実習	演習		4	
	精神疾患とその治療	講義		2	
	言語コミュニケーション開発支援実習	演習		1	

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 社会デザイン学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演 習 I	演習	2		
	演 習 II a	演習	2		
	演 習 II b	演習	2		
	演 習 III a	演習	2		
	演 習 III b	演習	2		
	演 習 IV a	演習	2		
	演 習 IV b	演習	2		
	卒 業 研 究	演習	4		
基礎科目	人 間 社 会 学 入 門	講義	2		
	心 理 学 概 論	講義	2		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 概 論	講義	2		
	教 育 学 概 論	講義		2	
	発 達 心 理 学	講義		2	
	異 文 化 理 解	講義		2	
	文 化 人 類 学	講義		2	
	社 会 学 概 論	講義	2		
	法 律 学 概 論	講義	2		
	ジ ェ ン ダ ー 論	講義		2	
	地 理 学 概 論	講義		2	
	女 性 と 労 働	講義		2	
	メ デ ィ ア 社 会 論	講義		2	
	国 際 関 係 概 論	講義		2	
	経 済 学 概 論	講義	2		
	経 営 学 概 論	講義	2		
	簿 記 論 I	講義		2	
	簿 記 論 II	講義		2	
	民 法 概 論	講義		2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	講義		2	
	商 法 概 論	講義		2	
	キ ャ リ ア ・ マ ネ ジ メ ン ト 論	講義		2	
	キ ャ リ ア ・ デ ザ イン 論	演習		2	
	実 践 デ ザ イン ラ ボ I	演習		2	
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 論	講義		2		
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 演 習	演習		2		
リ ー ダ ー シ ッ プ 開 発 a	演習		2		
リ ー ダ ー シ ッ プ 開 発 b	演習		2		
社 会 と 統 計	講義	2			
社 会 調 査 概 論	講義		2		

	社会調査方法論	講義		2	
	社会の基礎数学	講義		2	
	調査・実験データ処理法	講義		2	
	プログラミング基礎	講義		2	
	データベース基礎	講義		2	
	英語コミュニケーションⅠa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅠb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢb	演習	1		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
基幹科目	社会情報学概論	講義		2	
	情報と職業	講義		2	
	サステナビリティ論	講義		2	
	社会システム論	講義		2	
	社会・集団・家族心理学	講義		2	
	社会言語学	講義		2	
	都市フィールドワーク論	講義		2	
	課題解決プロセス基礎	講義		2	
	社会科学におけるAI・機械学習	講義		2	
	マルチメディア処理	講義		2	
	実践デザインラボⅠⅠ	演習		2	
	デザイン思考とデータ活用	講義		2	
	地域社会学	講義		2	
	応用経済学	講義		2	
	行動経済学	講義		2	
	特別講義 a	講義		2	
特別講義 b	講義		2		
展開・応用科目	表象メディア論	講義		2	
	メディア・コミュニケーション論	講義		2	
	メディア情報学	講義		2	
	情報セキュリティ	講義		2	
	応用倫理学	講義		2	
	国際政治論	講義		2	
	身体論	講義		2	
	テクノロジーと性	講義		2	
	共創デザイン論	講義		2	
	社会ネットワーク論	講義		2	
	広告・PR論	演習		2	
	福祉社会学	講義		2	

	メディア心理学	講義	2	
	マスメディア論	講義	2	
	メディア・ワークショップ	演習	2	
	社会科学におけるデータと数理	講義	2	
	データに基づく地域創生	講義	2	
	データ時代の女性キャリア開発	講義	2	
	シリアスゲーム・デザイン演習	演習	2	
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習	2	
	社会科学におけるWebデータ収集技術論	演習	2	
	社会科学データ分析	演習	2	
	共創デザイン・プロジェクト	演習	2	
	メディア情報リテラシー	講義	2	
	イノベーション論	講義	2	
	メディアとインターセクショナリティ	講義	2	
	社会科学におけるプログラミング	演習	2	
	社会科学におけるソフトウェア設計	演習	2	
	課題解決プロセス応用	演習	2	
	ソーシャル・マーケティング論	演習	2	
	ジェンダード・イノベーション	演習	2	
	リスク・コミュニケーション	演習	2	
	社会調査実習Ⅰ	演習	2	
	社会調査実習Ⅱ	演習	2	
	デジタルメディア論	講義	2	
	メディア表現	講義	2	
	メディアデータ分析	演習	2	
	社会科学におけるAI・機械学習応用	演習	2	
	社会科学における質的データ分析	演習	2	
	社会的価値創造論	講義	2	
	心理学統計法	講義	2	
	人工知能と人間・社会	講義	2	
	科学技術社会論	講義	2	
	リスク社会論	講義	2	
専門資格科目	関係行政論	講義	2	
	言語コミュニケーター開発支援実習	演習	1	
	公認心理師の職責	講義	2	
	心理実習	演習	4	
	精神疾患とその治療	講義	2	

別表第6

第15条別表第6 国際学部専門科目 国際学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
アカデミック演習	基礎演習	演習	2		
	専門演習 a	演習	1		
	専門演習 b	演習	1		
	卒業研究	演習	6		
外国語科目	Effective Communication a	演習	2		
	Effective Communication b	演習	2		
	Effective Communication c	演習	1		
	English Workshop a	演習		1	
	English Workshop b	演習		1	
	English Workshop c	演習		1	
	English Workshop d	演習		1	
	English Grammar	演習	1		
	Basic Listening	演習		1	
	Advanced Listening	演習		1	
	Basic Reading	演習		1	
	Advanced Reading	演習		1	
	Basic Writing	演習		1	
	Advanced Writing	演習		1	
	Speaking & Presentation a	演習		1	
	Speaking & Presentation b	演習		1	
	English Education for Children	演習		1	
	Practical English a	演習		1	
	Practical English b	演習		1	
	イタリア語 1	演習		1	
イタリア語 2 a	演習		1		
イタリア語 2 b	演習		1		
専門基礎科目	異文化コミュニケーション論 a	講義	2		
	情報コミュニケーション論	講義		2	
	国際メディア論	講義		2	
	英語学入門 a	講義		2	
	英語学入門 b	講義		2	
	英語発音論	講義		2	
	認知文法論	講義		2	
	国際文化論 a	講義	2		

	国 際 文 化 論 b	講義		2	
	国 際 社 会 学 a	講義		2	
	国 際 社 会 学 b	講義		2	
	国 際 関 係 論	講義		2	
	比 較 文 化 論	講義		2	
	日 本 文 化 論 a	講義	2		
	日 本 文 化 論 b	講義		2	
	現 代 日 本 社 会 論	講義	2		
	日 本 語 学 入 門 a	講義		2	
	日 本 語 学 入 門 b	講義		2	
	海 外 の 日 本 文 学	講義		2	
	日 本 語 教 育 入 門 a	講義		2	
	地 域 経 営 学 入 門 a	講義	2		
	地 域 経 営 学 入 門 b	講義		2	
	観 光 学 入 門 a	講義	2		
	観 光 学 入 門 b	講義		2	
	観 光 地 理 学	講義		2	
専 門 応 用 展 開 科 目	異文化コミュニケーション論 b	講義	2		
	ポ ラ イ ト ネ ス 論	講義		2	
	対人コミュニケーション論	講義		2	
	集団・組織コミュニケーション論	講義		2	
	国際コミュニケーション特別講義 a	講義		2	
	国際コミュニケーション特別講義 b	講義		2	
	国際コミュニケーション演習 a	演習		2	
	国際コミュニケーション演習 b	演習		2	
	マ ス メ デ ィ ア 演 習	演習		2	
	ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア 演 習	演習		2	
	多 文 化 共 生 論	講義	2		
	国 際 経 営 学	講義		2	
	世 界 の 民 族 と 宗 教	講義		2	
	海 外 文 化 事 情 a	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 b	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 c	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 d	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 e	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 f	演習		2	
	国 際 政 治 学	講義		2	
国 際 キ ャ リ ア 論	講義		2		

グローバルゼーション論	講義		2	
国際文化資源論	講義		2	
国際文化特別講義 a	講義		2	
国際文化特別講義 b	講義		2	
Global Seminar a	演習		2	
Global Seminar b	演習		2	
国際文化演習 a	演習		2	
国際文化演習 b	演習		2	
日本文化資源論	講義	2		
民俗伝統芸能論	講義		2	
日本語教育入門 b	講義		2	
日本文化事情 a	演習		2	
日本文化事情 b	演習		2	
日本文化事情 c	演習		2	
日本のメディア文化	講義		2	
コンテンツ産業論	講義		2	
東京文化論	講義		2	
日本文化特別講義 a	講義		2	
日本文化特別講義 b	講義		2	
日本文化演習 a	演習		2	
日本文化演習 b	演習		2	
地域社会論	講義	2		
社会統計学入門	講義		2	
マーケティング概論	講義		2	
地域政策論	講義		2	
ホスピタリティ論	講義		2	
地域観光事業 a	演習		2	
地域観光事業 b	演習		2	
観光英語	演習		2	
地域ブランディング	講義		2	
地域活動企画	講義		2	
地域文化特別講義 a	講義		2	
地域文化特別講義 b	講義		2	
地域観光演習 a	演習		2	
地域観光演習 b	演習		2	

オブキャンパス・プログラム	国際文化事前研修	演習	2		
	海外留学 a	実習		9	
	海外留学 b	実習		12	
	海外留学 c	実習		15	
	海外留学 d	実習		18	
	国内インターンシップ a	実習		1	
	国内インターンシップ b	実習		1	
	国内インターンシップ c	実習		1	
	国内インターンシップ d	実習		1	

別表第7

第16条別表第7 教職課程授業科目及び単位数

全学部共通

授 業 科 目		授業 形態	単位数	備 考
教 職 入 門		講義	2	
教 育 原 理		講義	2	
教 育 原 理 (栄 養)		講義	1	
発 達 ・ 学 習 理 論		講義	2	
教 育 制 度		講義	2	
教 育 制 度 (栄 養)		講義	1	
教 育 課 程 論		講義	1	
特 別 支 援 教 育 論		講義	1	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		講義	2	
教 科 教 育 法	国 語 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	国 語 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	国 語 科 教 育 法 (3)	講義	2	
	国 語 科 教 育 法 (4)	講義	2	
	書 道 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	書 道 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	英 語 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	英 語 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	英 語 科 教 育 法 (3)	講義	2	
	英 語 科 教 育 法 (4)	講義	2	
	美 術 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	美 術 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	美 術 科 教 育 法 (3)	講義	2	
	美 術 科 教 育 法 (4)	講義	2	
	家 庭 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	家 庭 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	家 庭 科 教 育 法 (3)	講義	2	
	家 庭 科 教 育 法 (4)	講義	2	
	情 報 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	情 報 科 教 育 法 (2)	講義	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 (1)	講義	2		
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 (2)	講義	2		
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 (3)	講義	2		
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 (4)	講義	2		
道 徳 教 育 指 導 論	講義	2		
道 徳 教 育 指 導 論 (栄 養)	講義	2		
教育方法・技術論 (ICT活用含む)	講義	2		

教育方法・技術論（栄養）	講義	1	
生徒・進路指導論	講義	2	
生徒指導論（栄養）	講義	2	
教育相談	講義	2	
教育実習 A	講義 実習	5	
教育実習 B	講義 実習	3	
栄養教育実習	講義 実習	2	
教職実践演習（中・高）	演習	2	
教職実践演習（栄養）	演習	2	
介護支援基礎論	講義	1	
介護等体験	実習	1	
教職研究 a	講義 演習	2	
教職研究 b	講義 演習	2	
教職研究 c	講義 演習	2	
教職研究 d	講義 演習	2	
教職研究 e	講義 演習	2	
児童・生徒栄養教育論（1）	講義	2	
児童・生徒栄養教育論（2）	講義	2	

別表第8

第16条別表第8 図書館学課程授業科目

全学部共通

		必修科目				
		授業科目	授業形態	単位数	備考	
図書館司書		生涯学習概論	講義	2		
		図書館概論	講義	2		
		図書館情報技術論	講義	2		
		図書館制度・経営論	講義	2		
		図書館サービス概論	講義	2		
		情報サービス論	講義	2		
		児童図書館サービス論 a	講義・演習	2		
		児童図書館サービス論 b	講義・演習	2		
		情報サービス演習 a	演習	1		
		情報サービス演習 b	演習	1		
		図書館情報資源概論 a	講義・演習	2		
		図書館情報資源概論 b	講義・演習	2		
		情報資源組織論 a	講義	2		
		情報資源組織論 b	講義	2		
		情報資源組織演習 a	演習	1		
		情報資源組織演習 b	演習	1		
			選択科目			
			図書館基礎特論	講義	2	
		図書・図書館史	講義	2		
		図書館施設論	講義	2		
		図書館総合演習	講義・演習	2		
		図書館実習	講義・実習	2		
学校図書館司書教諭	必修科目					
		学校経営と学校図書館	講義	2		
		学校図書館メディアの構成	講義	2		
		学習指導と学校図書館	講義	2		
		読書と豊かな人間性	講義	2		
		情報メディアの活用	講義・演習	2		
		学校図書館サービス論	講義	2		
		学校図書館情報サービス論	講義	2		
	学校教育概論	講義	2			

別表第9

第16条別表第9 博物館学芸員関係授業科目

文学部・人間社会学部共通

必修科目			
授業科目	授業形態	単位	備考
博物館学入門	講義	2	
博物館経営論	講義	2	
博物館資料論	講義	2	
博物館教育論	講義	2	
生涯学習概論	講義	2	
博物館情報・メディア論	講義	2	
博物館展示論	講義	2	
博物館資料保存論	講義	2	
博物館実習1 a	実習	1	
博物館実習1 b	実習	1	
博物館実習2	実習	1	
選択科目			
美術史概論 a	講義	2	
美術史概論 b	講義	2	
工芸史概論 a	講義	2	
工芸史概論 b	講義	2	
文化史概論 a	講義	2	
文化史概論 b	講義	2	
知的財産研究	講義	2	
アート&パブリッシング	講義	2	
パブリック・プログラム研究	講義	2	
保存修復 a	講義	2	
保存修復 b	講義	2	

別表第10

第61条別表第10

外国人留学生特設科目

選 択 科 目			
授 業 科 目	授業形態	単位数	備 考
日 本 文 化 事 情 a	講義	2	
日 本 文 化 事 情 b	講義	2	
日 本 語 a	講義	2	
日 本 語 b	講義	2	
日 本 語 c	講義	2	
日 本 語 d	講義	2	

(2) 変更事項を記載した書類

実践女子大学学則の変更事由及び変更点

1 変更事由

2024年4月に、国際学部国際学科及び人間社会学部社会デザイン学科の設置するため、合わせて収容定員を変更するため、学則を変更する。

2 変更点

1) 次の条項において、国際学部及び人間社会学部社会デザイン学科に関する条文を追加・変更すると共に、収容定員、学則別表に関する条文を変更する。

第3条(設置学部・学科)

第7条(人間社会学部の教育研究上の目的)

第7条の2(国際学部の教育研究上の目的)

第10条(人間社会学部の学生定員)

第10条の2(国際学部の学生定員)

第14条(共通教育科目)

第15条(専門科目)

第19条(卒業論文等の単位)

第26条(卒業要件単位)

第27条(学位授与)

第44条(学費)

第61条(外国人留学生特設科目)

2) 学則別表に、国際学部国際学科及び人間社会学部社会デザイン学科のカリキュラムを追加する。また、共通教育科目を変更する。合わせて、資格科目等の別表の番号を変更する。

①第14条別表第1 共通教育科目(変更)

②第15条別表第5 人間社会学部専門科目 社会デザイン学科(追加)

③第15条別表第6 国際学部専門科目 国際学科(追加)

④別表第6～第9を第7～第10に変更

(3) 変更部分の新旧対照表

「実践女子大学学則」改正案 新旧対照表

新 (2024 年度)	旧
<p>実践女子大学学則</p> <p>(略)</p> <p>第 3 条 本学に文学部、生活科学部、人間社会学部、<u>国際学部</u>をおき、修業年限は各 4 年とする。</p> <p>2 文学部に国文学科、英文学科、美学美術史学科をおく。</p> <p>3 生活科学部に食生活科学科、生活環境学科、生活文化学科、現代生活学科をおき、食生活科学科には管理栄養士専攻、食物科学専攻、健康栄養専攻を、生活文化学科には生活心理専攻と幼児保育専攻をおく。</p> <p>4 人間社会学部に人間社会学科、<u>ビジネス社会学科</u>、<u>社会デザイン学科</u>をおく。</p> <p>5 <u>国際学部</u>に<u>国際学科</u>をおく。</p> <p>6 学生は、8 年を超えて在学することはできない。</p> <p>(略)</p> <p>第 7 条 人間社会学部及び人間社会学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。</p> <p>2 人間社会学部では、国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指す。学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指す。</p> <p>3 人間社会学科では、社会に対する学びとしての社会学、人間行動・人間関係・心理に対する学びとしての心理学を基礎にしつつ、教育学やジェンダー論、メディア論などを学ぶことを通して、現代社会に生きる人と人、人と社会の関係について理解を深めるとともに、社会調査の技法や課題解決能力、コミュニケーション能力</p>	<p>実践女子大学学則</p> <p>(略)</p> <p>第 3 条 本学に文学部、生活科学部、人間社会学部をおき、修業年限は各 4 年とする。</p> <p>2 文学部に国文学科、英文学科、美学美術史学科をおく。</p> <p>3 生活科学部に食生活科学科、生活環境学科、生活文化学科、現代生活学科をおき、食生活科学科には管理栄養士専攻、食物科学専攻、健康栄養専攻を、生活文化学科には生活心理専攻と幼児保育専攻をおく。</p> <p>4 人間社会学部に人間社会学科、<u>現代社会学科</u>をおく。</p> <p>5 学生は、8 年を超えて在学することはできない。</p> <p>(略)</p> <p>第 7 条 人間社会学部及び人間社会学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。</p> <p>2 人間社会学部では、国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指す。学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指す。</p> <p>3 人間社会学科は、社会に対する学びとしての社会学、人間行動・人間関係・心理に対する学びとしての心理学を基礎にしつつ、教育学やジェンダー論、メディア論などを学ぶことを通して、現代社会に生きる人と人、人と社会の関係について理解を深めるとともに、社会調査の技法や課題解決能力、コミュニケーション能力を</p>

を身につけ、ビジネス社会や地域社会、教育・福祉などの分野で力を発揮しうる人材を育成することを目的とする。

4 ビジネス社会学科では、多様化・複雑化するビジネス社会に求められる経営学、マーケティング論、経済学、法律学、コミュニケーション学を中心とする専門的な知識・理論を活用し、現代社会における企業や地域・国際社会で発生する諸問題に取り組み、それらを解決できる能力を修得し、企業組織や地域・国際社会で活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

5 社会デザイン学科では、高度情報化する知識基盤社会に求められるソーシャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、デザイン思考などを中心とする専門的な知識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を修得し、社会で主体的に活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

第7条の2 国際学部及び国際学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

2 国際学部では、国際語である英語の運用能力とコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語以外の外国語に慣れ親しみ、異なる民族、宗教、言語、価値観が交差する国際社会に対応した専門知識を修得し、国際交流を推進できる人材の育成を目的とする。

3 国際学科では、国際語である英語の高い運用能力と様々な人々に対応したコミュニケーション能力を背景に、学問としての言語・コミュニケーション研究、国際文化研究、日本文化研究、地域・観光研究という4つの研究領域に関する幅広い知識を活用し、国際社会で他者と協働しながら目標に向かうことのできる人材の育成を目的とする。

(略)

身につけ、ビジネス社会や地域社会、教育・福祉などの分野で力を発揮しうる人材を育成することを目的とする。

4 現代社会学科は、多様化・複雑化するビジネス社会に求められる経済・法律、経営学、コミュニケーションを中心とする専門的な知識・理論を活用し、現代社会における企業や地域・国際社会で発生する諸問題に取り組み、それらを解決できる能力を修得し、企業組織や地域・国際社会で活躍し貢献できる人材の養成を目的とする。

(新規)

(新規)

(略)

第 10 条 人間社会学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員 (第 3 年次)	収容定員
人間社会学科	100 名	-	400 名
ビジネス社会学科	80 名	⋮	320 名
社会デザイン学科	80 名	⋮	320 名

第 10 条の 2 国際学部(新規)の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員 (第 3 年次)	収容定員
国際学科	120 名	⋮	480 名

(略)

第 14 条 文学部、生活科学部、人間社会学部、国際学部の共通教育科目は、別表第 1 のとおりとする。

第 15 条 文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科の専門科目は、別表第 3 のとおりとする。

2 生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻、同食物科学専攻、同健康栄養専攻、生活環境学科、生活文化学科生活心理専攻、同幼児保育専攻、現代生活学科の専門科目は、別表第 4 のとおりとする。

3 人間社会学部人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科の専門科目は、別表第 5 のとおりとする。

4 国際学部国際学科の専門科目は、別表第 6 のとおりとする。

第 16 条 教育職員免許状取得希望者、図書館司書、学校図書館司書教諭資格取得希望者及び博物館学芸員資格取得希望者は、学部学科で定めた授業科目以外に、教職は別表第 7、司書及び司書教諭は別表第 8、学芸員は別表第 9 の授業科目を履修しなければならない。

(略)

第 10 条 人間社会学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員 (第 3 年次)	収容定員
人間社会学科	100 名	-	400 名
現代社会学科	100 名	⋮	400 名

(新規)

(略)

第 14 条 文学部、生活科学部、人間社会学部の共通教育科目は、別表第 1 のとおりとする。

第 15 条 文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科の専門科目は、別表第 3 のとおりとする。

2 生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻、同食物科学専攻、同健康栄養専攻、生活環境学科、生活文化学科生活心理専攻、同幼児保育専攻、現代生活学科の専門科目は、別表第 4 のとおりとする。

3 人間社会学部人間社会学科、現代社会学科の専門科目は、別表第 5 のとおりとする。

(新規)

第 16 条 教育職員免許状取得希望者、図書館司書、学校図書館司書教諭資格取得希望者及び博物館学芸員資格取得希望者は、学部学科で定めた授業科目以外に、教職は別表第 6、司書及び司書教諭は別表第 7、学芸員は別表第 8 の授業科目を履修しなければならない。

(略)

第 19 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

2 1 単位の授業科目は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義・演習については、15 時間をもって 1 単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

(2) 実験、実習及び実技については、45 時間をもって 1 単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

3 卒業論文又はこれに代る授業科目は、国文学科では 6 単位、英文学科では 6 単位、美学美術史学科では 6 単位、食生活科学科では 6 単位、生活環境学科では 6 単位、生活文化学科では 6 単位、現代生活学科では 4 単位、人間社会学科では 4 単位、ビジネス社会学科では 4 単位、社会デザイン学科では 4 単位、国際学科では 6 単位とする。

4 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第 2 項に規定する講義・演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(略)

第 26 条 本学を卒業するためには、4 年以上在学し、次表に定める単位を修得しなければならない。

\ 授業科目の区分		共通教育科目	専門科目	選択自由単位	合計
学部・学科					
文	国文学科	28	68	28	124 単位以上

第 19 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

2 1 単位の授業科目は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義・演習については、15 時間をもって 1 単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

(2) 実験、実習及び実技については、45 時間をもって 1 単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

3 卒業論文又はこれに代る授業科目は、国文学科では 6 単位、英文学科では 6 単位、美学美術史学科では 6 単位、食生活科学科では 6 単位、生活環境学科では 6 単位、生活文化学科では 6 単位、現代生活学科では 4 単位、人間社会学科では 4 単位、現代社会学科では 4 単位とする。

4 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第 2 項に規定する講義・演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(略)

第 26 条 本学を卒業するためには、4 年以上在学し、次表に定める単位を修得しなければならない。

\ 授業科目の区分		共通教育科目	専門科目	選択自由単位	合計
学部・学科					
文	国文学科	28	68	28	124 単位以上

	英文学科	28	76	20	124 単位以上	
	美学美術史学科	28	76	20	124 単位以上	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	20	100	4	124 単位以上
		食物科学専攻	28	76	20	124 単位以上
		健康栄養専攻	24	90	10	124 単位以上
	生活環境学科	28	76	20	124 単位以上	
	生活文化	生活心理専攻	24	90	10	124 単位以上
		幼児保育専攻	20	86	18	124 単位以上
	現代生活学科	36	76	12	124 単位以上	
人間社会学部	人間社会学科	28	76	20	124 単位以上	
	ビジネス社会学科	28	76	20	124 単位以上	
	社会デザイン学科	28	76	20	124 単位以上	
国際学部	国際学科	28	76	20	124 単位以上	

	英文学科	28	76	20	124 単位以上	
	美学美術史学科	28	76	20	124 単位以上	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	20	100	4	124 単位以上
		食物科学専攻	28	76	20	124 単位以上
		健康栄養専攻	24	90	10	124 単位以上
	生活環境学科	28	76	20	124 単位以上	
	生活文化	生活心理専攻	24	90	10	124 単位以上
		幼児保育専攻	20	86	18	124 単位以上
	現代生活学科	36	76	12	124 単位以上	
人間社会学部	人間社会学科	28	76	20	124 単位以上	
	現代社会学科	28	76	20	124 単位以上	

2 前項の単位修得に関しては、別に定める。

第 27 条 大学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に次の学位を授与する。

文学部卒業者 学士(文学)
生活科学部卒業者 学士(生活科学)
人間社会学部卒業者 学士(人間社会学)
国際学部卒業者 学士(国際学)

(略)

第 44 条 本学の学費は、次のとおりである。ただし、場合によりこれを変更することがある。

		入学金	授業料 (年額)	施設設備費 (年額)	実験実習費 (年額)
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	240,000 円	770,000 円	320,000 円	-

2 前項の単位修得に関しては、別に定める。

第 27 条 大学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に次の学位を授与する。

文学部卒業者 学士(文学)
生活科学部卒業者 学士(生活科学)
人間社会学部卒業者 学士(人間社会学)

(略)

第 44 条 本学の学費は、次のとおりである。ただし、場合によりこれを変更することがある。

		入学金	授業料 (年額)	施設設備費 (年額)	実験実習費 (年額)
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	240,000 円	770,000 円	320,000 円	-

生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	240,000円	810,000円	320,000円	80,000円
	食物科学専攻	240,000円	790,000円	320,000円	60,000円
	健康栄養専攻	240,000円	790,000円	320,000円	70,000円
	生活環境学科	240,000円	790,000円	320,000円	40,000円
	生活文化学科 生活心理専攻	240,000円	790,000円	320,000円	—
	幼児保育専攻	240,000円	810,000円	320,000円	40,000円
	現代生活学科	240,000円	790,000円	320,000円	—
人間社会学部	人間社会学科 ビジネス社会学科 社会デザイン学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
	国際学部 国際学科	240,000円	830,000円	320,000円	—

(略)

第 61 条 外国籍を持ち、教育を受ける目的をもって入国し、第 30 条第 4 号又は第 8 号に規定する要件を満たして入学を願い出た者は、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

- 外国人留学生の入学及び履修に関する規程は、別に定める。
- 外国人留学生のために、外国人留学生特設科目として、別表第 10 を設ける。
- 前項の科目を履修し、単位を修得した場合には、共通教育科目の単位に代えることができる。

(略)

第 69 条 (同右)

(略)

附 則 (2023 年 2 月 18 日改正)

- この改正学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	240,000円	810,000円	320,000円	80,000円
	食物科学専攻	240,000円	790,000円	320,000円	60,000円
	健康栄養専攻	240,000円	790,000円	320,000円	70,000円
	生活環境学科	240,000円	790,000円	320,000円	40,000円
	生活文化学科 生活心理専攻	240,000円	790,000円	320,000円	—
	幼児保育専攻	240,000円	810,000円	320,000円	40,000円
	現代生活学科	240,000円	790,000円	320,000円	—
人間社会学部	人間社会学科 現代社会学科	240,000円	770,000円	320,000円	—

(略)

第 61 条 外国籍を持ち、教育を受ける目的をもって入国し、第 30 条第 4 号又は第 8 号に規定する要件を満たして入学を願い出た者は、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

- 外国人留学生の入学及び履修に関する規程は、別に定める。
- 外国人留学生のために、外国人留学生特設科目として、別表第 9 を設ける。
- 前項の科目を履修し、単位を修得した場合には、共通教育科目の単位に代えることができる。

(略)

第 69 条 学則の改廃については、全学教授会の議を経て、学長が決定し、理事会に付議する。

(略)

(新規)

2 第3条、第7条、第7条の2、第10条、第10条の2、第14条、第15条、第16条、第19条、第26条、第27条、第44条及び第61条の規定については、2024年度入学生から適用し、2023年度以前入学生については、従前の規定による。

(略)

別表第1

第14条別表第1 共通教育科目

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
実践入門セミナー	演習	2	
実践キャリアプランニング	講義	2	
Integrated English a	演習	1	
Integrated English b	演習	1	
データサイエンス入門	講義	1	
情報リテラシー基礎	演習	1	
選択科目			
キャリアデザイン	講義	2	
グローバル・キャリアデザイン	演習	2	
短期インターンシップ	実習	1	
長期インターンシップ	実習	2	
キャリア開発実践論	演習	2	
ビジネスのスキルとマナー	講義	2	
国際理解とキャリア形成	講義	2	
女性とキャリア形成	講義	2	
キャリア・ショーケース	講義	2	
ライフデザイン	講義	2	
実践企業分析論	講義	2	
実践企業分析論演習	演習	2	
Effective Writing	演習	1	
Effective Speaking	演習	1	
Active Reading	演習	1	
Active Listening	演習	1	
CEFR B1	演習	1	
Global Studies a	講義	2	

(略)

別表第1

第14条別表第1 共通教育科目

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
実践入門セミナー	演習	2	
実践キャリアプランニング	講義	2	
Integrated English a	演習	1	
Integrated English b	演習	1	
情報リテラシー基礎1	演習	1	
選択科目			
キャリアデザイン	講義	2	
グローバル・キャリアデザイン	演習	2	
インターンシップ演習	演習	1	
インターンシップ	実習	1	
キャリア開発実践論	演習	2	
ビジネスのスキルとマナー	講義	2	
国際理解とキャリア形成	講義	2	
女性とキャリア形成	講義	2	
ライフデザイン	講義	2	
Academic Writing	演習	1	
Effective Speaking	演習	1	
Extensive Reading	演習	1	
Essential Listening	演習	1	
TOEIC 550	演習	1	
Business English	演習	1	
Global Studies a	講義	2	
Global Studies b	講義	2	
Global Studies c	講義	2	
Global Studies d	講義	2	

Global Studies b	講義	2	
Global Studies c	講義	2	
Global Studies d	講義	2	
Global Studies e	講義	2	
Global Studies f	講義	2	
Global Studies g	講義	2	
Global Studies h	講義	2	
Global Studies i	講義	2	
Global Studies j	講義	2	
フランス語 1 a	演習	1	
フランス語 1 b	演習	1	
ドイツ語 1 a	演習	1	
ドイツ語 1 b	演習	1	
中国語 1 a	演習	1	
中国語 1 b	演習	1	
コリア語 1 a	演習	1	
コリア語 1 b	演習	1	
スペイン語 1 a	演習	1	
スペイン語 1 b	演習	1	
フランス語 2 a	演習	1	
フランス語 2 b	演習	1	
ドイツ語 2 a	演習	1	
ドイツ語 2 b	演習	1	
中国語 2 a	演習	1	
中国語 2 b	演習	1	
コリア語 2 a	演習	1	
コリア語 2 b	演習	1	
スペイン語 2 a	演習	1	
スペイン語 2 b	演習	1	
海外語学研修 a	実習	2	
海外語学研修 b	実習	2	
海外語学研修 c	実習	2	
海外語学研修 d	実習	2	
海外語学研修 e	実習	1	
海外語学研修 f	実習	1	
海外語学研修 g	実習	1	
海外語学研修 h	実習	1	
海外短期インターンシップ	実習	1	
海外長期インターンシップ	実習	2	
情報スキル基礎	演習	1	
Global Studies e	講義	2	
Global Studies f	講義	2	
フランス語 1 a	演習	1	
フランス語 1 b	演習	1	
ドイツ語 1 a	演習	1	
ドイツ語 1 b	演習	1	
中国語 1 a	演習	1	
中国語 1 b	演習	1	
コリア語 1 a	演習	1	
コリア語 1 b	演習	1	
フランス語 2 a	演習	1	
フランス語 2 b	演習	1	
ドイツ語 2 a	演習	1	
ドイツ語 2 b	演習	1	
中国語 2 a	演習	1	
中国語 2 b	演習	1	
コリア語 2 a	演習	1	
コリア語 2 b	演習	1	
フランス語で学ぶフランス語 a	演習	1	
フランス語で学ぶフランス語 b	演習	1	
ドイツ語で学ぶドイツ語 a	演習	1	
ドイツ語で学ぶドイツ語 b	演習	1	
中国語で学ぶ中国語 a	演習	1	
中国語で学ぶ中国語 b	演習	1	
コリア語で学ぶコリア語 a	演習	1	
コリア語で学ぶコリア語 b	演習	1	
海外語学研修 a	実習	2	
海外語学研修 b	実習	2	
海外語学研修 c	実習	2	
海外語学研修 d	実習	2	
海外語学研修 e	実習	1	
海外語学研修 f	実習	1	
海外語学研修 g	実習	1	
海外語学研修 h	実習	1	
情報リテラシー基礎 2	演習	1	
情報リテラシー応用 a	演習	2	
情報リテラシー応用 b	演習	2	
情報リテラシー応用 c	演習	2	
情報リテラシー応用 d	演習	2	
情報リテラシー応用 e	演習	2	

情報リテラシー応用 a	演習	2		情報リテラシー活用	演習	2	
情報リテラシー応用 b	演習	2		実践プロジェクト a	演習	2	
情報リテラシー応用 c	演習	2		実践プロジェクト b	演習	2	
情報リテラシー応用 d	演習	2		実践プロジェクト c	演習	2	
情報リテラシー応用 e	演習	2		ボランティアプロジェクト a	演習	1	
実践プロジェクト a	演習	2		ボランティアプロジェクト b	演習	1	
実践プロジェクト b	演習	2		ジェンダー論入門	講義	2	
実践プロジェクト c	演習	2		女性の歴史	講義	2	
ボランティアプロジェクト a	演習	1		女性の健康	講義	2	
ボランティアプロジェクト b	演習	1		文学とジェンダー	講義	2	
ジェンダー論入門	講義	2		女_____性と_____法	講義	2	
女性の歴史	講義	2		女性と国際社会	講義	2	
女性の健康	講義	2		女性と教育	講義	2	
文学とジェンダー	講義	2		哲学入門	講義	2	
国際社会とジェンダー	講義	2		現代の思想	講義	2	
女性教育とジェンダー	講義	2		言語学入門	講義	2	
ジェンダーと心理	講義	2		倫理学入門	講義	2	
哲学入門	講義	2		生命と環境の倫理	講義	2	
現代の思想	講義	2		社会思想入門	講義	2	
言語学入門	講義	2		東洋思想入門	講義	2	
倫理学入門	講義	2		世界の宗教	講義	2	
生命と環境の倫理	講義	2		日本の古典文学	講義	2	
社会思想入門	講義	2		日本の近現代文学	講義	2	
東洋思想入門	講義	2		西洋の文学	講義	2	
世界の宗教	講義	2		児童文学入門	講義	2	
日本の古典文学	講義	2		文化人類学入門	講義	2	
日本の近現代文学	講義	2		美術の世界	講義	2	
西洋の文学	講義	2		音楽の世界	講義	2	
児童文学入門	講義	2		映像文化論	講義	2	
世界のファンタジー	講義	2		日本の伝統文化	講義	2	
文化人類学入門	講義	2		心理学入門	講義	2	
美術の世界	講義	2		人間関係の心理学	講義	2	
音楽の世界	講義	2		心の健康	講義	2	
ファッションの世界	講義	2		地域研究 a	講義	2	
映像文化論	講義	2		地域研究 b	講義	2	
日本の伝統文化	講義	2		食文化論	講義	2	
日本のポップカルチャー	講義	2		衣文化論	講義	2	
心理学入門	講義	2		生活デザイン論	講義	2	
人間関係の心理学	講義	2		メディア論	講義	2	
心の健康	講義	2		サブカルチャー論	講義	2	

地域研究 a	講義	2		教育学	講義	2	
地域研究 b	講義	2		日本国憲法	講義	2	
食文化論	講義	2		法学入門	講義	2	
衣文化論	講義	2		日本の政治	講義	2	
生活とデザイン	講義	2		国際政治の基礎	講義	2	
社会とデザイン	講義	2		日本の経済	講義	2	
メディア論	講義	2		国際経済の基礎	講義	2	
サブカルチャー論	講義	2		日本史	講義	2	
教育学	講義	2		西洋史	講義	2	
日本国憲法	講義	2		東洋史	講義	2	
法学入門	講義	2		地理学	講義	2	
日本の政治	講義	2		社会学入門	講義	2	
国際政治の基礎	講義	2		社会保障論	講義	2	
日本の経済	講義	2		数学的思考	講義	2	
国際経済の基礎	講義	2		統計的思考	講義	2	
日本史	講義	2		くらしの化学	講義	2	
西洋史	講義	2		くらしの人間工学	講義	2	
東洋史	講義	2		生活環境の科学	講義	2	
地理学	講義	2		生命の科学	講義	2	
社会学入門	講義	2		身体科学	講義	2	
社会保障論	講義	2		宇宙科学	講義	2	
日常生活と法	講義	2		地球と環境の科学	講義	2	
金融リテラシー入門	講義	2		科学史	講義	2	
数学的思考	講義	2		科学技術と人間	講義	2	
統計的思考	講義	2		農業と食料	講義	2	
くらしの化学	講義	2		身体運動の科学 a	講義	2	
くらしの人間工学	講義	2		身体運動の科学 b	講義	2	
生活環境の科学	講義	2		スポーツ文化論	講義	2	
生命の科学	講義	2		健康運動実習 a	実技	1	
身体科学	講義	2		健康運動実習 b	実技	1	
宇宙科学	講義	2		基礎スポーツ実習 a	実技	1	
地球と環境の科学	講義	2		基礎スポーツ実習 b	実技	1	
科学技術と人間	講義	2		基礎スポーツ実習 c	実技	1	
農業と食料	講義	2		基礎スポーツ実習 d	実技	1	
バイオの世界	講義	2		健康体力科学演習	演習	1	
防災科学	講義	2		ヘルスプロモーション実践実習 a	実技	1	
身体運動の科学 a	講義	2		ヘルスプロモーション実践実習 b	実技	1	
身体運動の科学 b	講義	2		アダプテッドスポーツ	実技	1	
スポーツ文化論	講義	2		スポーツ応用科学実習	実技	1	
健康運動実習 a	実技	1		実践教養講座 a		2	

健康運動実習 b	実技	1	
基礎スポーツ実習 a	実技	1	
基礎スポーツ実習 b	実技	1	
基礎スポーツ実習 c	実技	1	
基礎スポーツ実習 d	実技	1	
健康体力科学演習	演習	1	
ヘルスプロモーション実践実習 a	実技	1	
ヘルスプロモーション実践実習 b	実技	1	
アダプテッドスポーツ	実技	<u>1</u>	
スポーツ応用科学実習	実技	1	
実践教養講座 a	演習	2	
実践教養講座 b	演習	2	
実践教養講座 c	演習	2	
実践教養講座 d	演習	2	
実践教養講座 e	演習	2	
実践教養講座 f	演習	<u>2</u>	
実践教養講座 g	演習	<u>2</u>	
実践教養講座 h	演習	<u>2</u>	
実践教養講座 i	演習	<u>2</u>	
オープン講座 a	講義	2	
オープン講座 b	講義	2	
オープン講座 c	講義	2	
クォーターオープン講座 a	講義	<u>1</u>	
クォーターオープン講座 b	講義	<u>1</u>	
クォーターオープン講座 c	講義	<u>1</u>	

(略)

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目
人間社会学科

(略)

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 ビ
ジネス社会学科

実践教養講座 b		2	
実践教養講座 c		2	
実践教養講座 d		2	
実践教養講座 e		2	
オープン講座 a		2	
オープン講座 b		2	
オープン講座 c		2	

(略)

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目
人間社会学科

(略)

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 現
代社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演習 I	演習	2		
	演習 II a	演習	2		
	演習 II b	演習	2		
	演習 III a	演習	2		
	演習 III b	演習	2		
	演習 IV a	演習	2		
	演習 IV b	演習	2		
	卒業研究	演習	4		
基礎科目	人間社会学入門	講義	2		
	心理学概論	講義	2		
	コミュニケーション概論	講義	2		
	教育学概論	講義		2	
	発達心理学	講義		2	
	異文化理解	講義		2	
	文化人類学	講義		2	
	社会学概論	講義	2		
	法学概論	講義	2		
	ジェンダー論	講義		2	
	地理学概論	講義		2	
	女性と労働	講義		2	
	メディア社会論	講義		2	
	国際関係概論	講義		2	
	経済学概論	講義	2		
	経営学概論	講義	2		
	簿記論 I	講義		2	
	簿記論 II	講義		2	
	民法概論	講義		2	
	マーケティング論	講義		2	
	商法概論	講義		2	
	キャリア・マネジメント論	講義		2	
	キャリア・デザイン論	演習		2	
	実践デザインラボ I	演習		2	
	アントレプレナーシップ論	講義		2	
	アントレプレナーシップ演習	演習		2	
	リーダーシップ開発 a	演習		2	
	リーダーシップ開発 b	演習		2	
	社会と統計	講義	2		
	社会調査概論	講義		2	
社会調査方法論	講義		2		

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考	
			必修	選択		
演習科目	演習 I	演習	2			
	演習 II A	演習	2			
	演習 II B	演習	2			
	演習 III A	演習	2			
	演習 III B	演習	2			
	演習 IV A	演習	2			
	演習 IV B	演習	2			
	卒業研究			4		
基礎科目	人間社会学総論	講義	2			
	心理学概論	講義	2			
	社会学概論	講義	2			
	経済学概論	講義	2			
	経営学概論	講義	2			
	法学	講義	2			
	コミュニケーション概論	講義	2			
	社会と統計	講義	2			
	ソーシャル・デザイン・プロジェクトA	演習		2		
	リーダーシップ開発A	演習		2		
	社会調査概論	講義		2		
	社会調査方法論	講義		2		
	社会の基礎数学	講義		2		
	人間教育学概論	講義		2		
	ジェンダー論	講義		2		
	キャリア・マネジメント論	講義		2		
	簿記論 I	講義		2		
	簿記論 II	講義		2		
	地理学概論	講義		2		
	基礎科目	異文化理解	講義		2	
		社会言語学	講義		2	
		ワーク・ライフ・バランス論	演習		2	
		経営組織論	講義		2	
		社会システム論	講義		2	
		言語コミュニケーター開発支援論	講義		2	
		応用経済学	講義		2	
		企業戦略論	講義		2	
		キャリア・デザイン論	演習		2	
		会计学総論 I	講義		2	
		会计学総論 II	講義		2	
民法概論		講義		2		

基幹科目	社会の基礎数学	講義		2				
	調査・実験データ処理法	講義		2				
	プログラミング基礎	講義		2				
	データベース基礎	講義		2				
	英語コミュニケーションⅠa	演習	1					
	英語コミュニケーションⅠb	演習	1					
	英語コミュニケーションⅡa	演習	1					
	英語コミュニケーションⅡb	演習	1					
	英語コミュニケーションⅢa	演習	1					
	英語コミュニケーションⅢb	演習	1					
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2				
	日本語コミュニケーション実践	講義		2				
	社会言語学	講義		2				
	ワーク・ライフ・バランス論	演習		2				
	経営組織論	講義		2				
	社会システム論	講義		2				
	言語コミュニケーター開発支援論	講義		2				
	応用経済学	講義		2				
	企業戦略論	講義		2				
	会計学総論Ⅰ	講義		2				
	会計学総論Ⅱ	講義		2				
	労働法	講義		2				
行動科学	講義		2					
社会・集団・家族心理学	講義		2					
教育・学校心理学	講義		2					
ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習		2					
債権法	講義		2					
行動経済学	講義		2					
特別講義 a	講義		2					
特別講義 b	講義		2					
展開・応用科目	現代日本経済論	講義		2				
	会社法	講義		2				
	消費者保護論	講義		2				
	経済法	演習		2				
	家族社会学	講義		2				
	金融論	講義		2				
	財政論	講義		2				
	証券論	講義		2				
	国際経済論	講義		2				
	観光事業論	演習		2				
	地域経済論	講義		2				
	展開・応用科目	商法概論	講義		2			
		労働法	講義		2			
国際関係概論		講義		2				
行動科学		講義		2				
発達心理学		講義		2				
社会・集団・家族心理学		講義		2				
調査・実験データ処理法		講義		2				
データベース基礎		講義		2				
教育・学校心理学		講義		2				
ソーシャル・デザイン・プロジェクトB		演習		2				
リーダーシップ開発B		演習		2				
特別講義 A		講義		2				
特別講義 B		講義		2				
金融論		講義		2				
財政論		講義		2				
保険論		講義		2				
現代日本経済論		講義		2				
国際経済論		講義		2				
観光事業論		演習		2				
地域経済論		講義		2				
産業経済論		講義		2				
家族法		演習		2				
知的財産法	講義		2					
会社法	講義		2					
行政法	講義		2					
消費者保護論	講義		2					
経済法	演習		2					
家族社会学	講義		2					
女性と労働	講義		2					
経営分析論	演習		2					
原価計算論	講義		2					
経営管理論	演習		2					
イノベーション論	講義		2					
現代企業論	演習		2					
流通サービス論	講義		2					
消費者心理学	講義		2					
マーケティング論	講義		2					
広告・PR論	演習		2					
人的資源管理	講義		2					
リーダーシップ論	講義		2					
コーチング論	演習		2					

家 族 法	演習	2	
知的財産法	講義	2	
行政法	講義	2	
原価計算論	講義	2	
現代企業論	演習	2	
広告・P R 論	演習	2	
人的資源管理	講義	2	
応用心理学	講義	2	
経営分析論	演習	2	
経営管理論	演習	2	
イノベーション論	講義	2	
流通論	講義	2	
消費者心理学	講義	2	
ソーシャルマーケティング論	講義	2	
リーダーシップ論	講義	2	
コーチング論	演習	2	
人材開発論	講義	2	
ホスピタリティ論	講義	2	
産業・組織心理学	講義	2	
社会調査実習Ⅰ	演習	2	
社会調査実習Ⅱ	演習	2	
社会科学データ分析	講義	2	
国際政治論	講義	2	
地域社会学	講義	2	
アジア文化論	講義	2	
多文化社会論	講義	2	
メディア文化論	演習	2	
共生支援論	講義	2	
国際企業論	講義	2	
経済発展論	講義	2	
社会文化事業論	演習	2	
国際協力論	講義	2	
国際ビジネスと法	講義	2	
アジア経済・経営論	講義	2	
メディア情報リテラシー	講義	2	
公認心理師の職責	講義	2	
関係行政論	講義	2	
心理実習	演習	4	
精神疾患とその治療	講義	2	
言語コミュニケーション開発支援実習	演習	1	

専門資格科目

人材開発論	講義	2	
ホスピタリティ論	講義	2	
産業・組織心理学	講義	2	
応用心理学	講義	2	
社会調査実習Ⅰ	演習	2	
社会調査実習Ⅱ	演習	2	
社会科学データ分析	講義	2	
国際政治論	講義	2	
共生支援論	講義	2	
国際N G O 論	演習	2	
国際企業論	講義	2	
経済発展論	講義	2	
社会文化事業論	演習	2	
地域社会学	講義	2	
国際協力論	講義	2	
国際ビジネスと法	講義	2	
アジア経済・経営論	講義	2	
アジア文化論	講義	2	
ダイバーシティ論	講義	2	
文化人類学	講義	2	
多文化社会論	講義	2	
メディア文化論	演習	2	
メディア情報リテラシー	講義	2	
英語コミュニケーションⅠ	演習	2	
英語コミュニケーションⅡA	演習	2	
英語コミュニケーションⅡB	演習	2	
日本語コミュニケーション基礎	講義	2	
日本語コミュニケーション実践	講義	2	
公認心理師の職責	講義	2	
関係行政論	講義	2	
心理実習	演習	4	
精神疾患とその治療	講義	2	
言語コミュニケーション開発支援実習	演習	1	

コミュニケーション系科目

専門資格科目

別表第5

(新規)

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 社会デザイン学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演 習 I	演習	2		
	演 習 II a	演習	2		
	演 習 II b	演習	2		
	演 習 III a	演習	2		
	演 習 III b	演習	2		
	演 習 IV a	演習	2		
	演 習 IV b	演習	2		
	卒 業 研 究	演習	4		
基礎科目	人 間 社 会 学 入 門	講義	2		
	心 理 学 概 論	講義	2		
	コミュニケーション概論	講義	2		
	教 育 学 概 論	講義		2	
	発 達 心 理 学	講義		2	
	異 文 化 理 解	講義		2	
	文 化 人 類 学	講義		2	
	社 会 学 概 論	講義	2		
	法 律 学 概 論	講義	2		
	ジ ェ ン ダ ー 論	講義		2	
	地 理 学 概 論	講義		2	
	女 性 と 労 働	講義		2	
	メ デ ィ ア 社 会 論	講義		2	
	国 際 関 係 概 論	講義		2	
	経 済 学 概 論	講義	2		
	経 営 学 概 論	講義	2		
	簿 記 論 I	講義		2	
	簿 記 論 II	講義		2	
	民 法 概 論	講義		2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	講義		2	
商 法 概 論	講義		2		
キャリア・マネジメント論	講義		2		
キャリア・デザイン論	演習		2		

	実践デザインラボ I	演習		2	
	アントレプレナーシップ論	講義		2	
	アントレプレナーシップ演習	演習		2	
	リーダーシップ開発 a	演習		2	
	リーダーシップ開発 b	演習		2	
	社会と統計	講義	2		
	社会調査概論	講義		2	
	社会調査方法論	講義		2	
	社会の基礎数学	講義		2	
	調査・実験データ処理法	講義		2	
	プログラミング基礎	講義		2	
	データベース基礎	講義		2	
	英語コミュニケーション I a	演習	1		
	英語コミュニケーション I b	演習	1		
	英語コミュニケーション II a	演習	1		
	英語コミュニケーション II b	演習	1		
	英語コミュニケーション III a	演習	1		
	英語コミュニケーション III b	演習	1		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
基幹科目	社会情報学概論	講義		2	
	情報と職業	講義		2	
	サステナビリティ論	講義		2	
	社会システム論	講義		2	
	社会・集団・家族心理学	講義		2	
	社会言語学	講義		2	
	都市フィールドワーク論	講義		2	
	課題解決プロセス基礎	講義		2	
	社会科学における AI・機械学習	講義		2	
	マルチメディア処理	講義		2	
	実践デザインラボ II	演習		2	
	デザイン思考とデータ活用	講義		2	
	地域社会学	講義		2	
	応用経済学	講義		2	
	行動経済学	講義		2	
	特別講義 a	講義		2	
	特別講義 b	講義		2	

展開・応用科目	表象メディア論	講義		2	
	メディア・コミュニケーション論	講義		2	
	メディア情報学	講義		2	
	情報セキュリティ	講義		2	
	応用倫理学	講義		2	
	国際政治論	講義		2	
	身体論	講義		2	
	テクノロジーと性	講義		2	
	共創デザイン論	講義		2	
	社会ネットワーク論	講義		2	
	広告・PR論	演習		2	
	福祉社会学	講義		2	
	メディア心理学	講義		2	
	マスメディア論	講義		2	
	メディア・ワークショップ	演習		2	
	社会科学におけるデータと数理	講義		2	
	データに基づく地域創生	講義		2	
	データ時代の女性キャリア開発	講義		2	
	シリアスゲーム・デザイン演習	演習		2	
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習		2	
	社会科学におけるWebデータ収集技術論	演習		2	
	社会科学データ分析	演習		2	
	共創デザイン・プロジェクト	演習		2	
	メディア情報リテラシー	講義		2	
	イノベーション論	講義		2	
	メディアとインターセクショナルティ	講義		2	
	社会科学におけるプログラミング	演習		2	
	社会科学におけるソフトウェア設計	演習		2	
	課題解決プロセス応用	演習		2	
	ソーシャル・マーケティング論	演習		2	
	ジェンダード・イノベーション	演習		2	
	リスク・コミュニケーション	演習		2	
	社会調査実習Ⅰ	演習		2	
	社会調査実習Ⅱ	演習		2	
デジタルメディア論	講義		2		
メディア表現	講義		2		
メディアデータ分析	演習		2		
社会科学におけるAI・機械学習応用	演習		2		

	社会科学における質的データ分析	演習		2	
	社会的価値創造論	講義		2	
	心理学統計法	講義		2	
	人工知能と人間・社会	講義		2	
	科学技術社会論	講義		2	
	リスク社会論	講義		2	
専門資格科目	関係行政論	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援実習	演習		1	
	公認心理師の職責	講義		2	
	心理実習	演習		4	
	精神疾患とその治療	講義		2	

別表第6

第15条別表第6

国際学部専門科目 国際学科

(新規)

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
アカデミック演習	基礎演習	演習	2		
	専門演習 a	演習	1		
	専門演習 b	演習	1		
	卒業研究	演習	6		
外国語科目	Effective Communication a	演習	2		
	Effective Communication b	演習	2		
	Effective Communication c	演習	1		
	English Workshop a	演習		1	
	English Workshop b	演習		1	
	English Workshop c	演習		1	
	English Workshop d	演習		1	
	English Grammar	演習	1		
	Basic Listening	演習		1	
	Advanced Listening	演習		1	
	Basic Reading	演習		1	
	Advanced Reading	演習		1	
	Basic Writing	演習		1	
	Advanced Writing	演習		1	
Speaking & Presentation a	演習		1		

	Speaking & Presentation b	演習		1	
	English Education for Children	演習		1	
	Practical English a	演習		1	
	Practical English b	演習		1	
	イタリア語 1	演習		1	
	イタリア語 2 a	演習		1	
	イタリア語 2 b	演習		1	
専門基礎科目	異文化コミュニケーション論 a	講義	2		
	情報コミュニケーション論	講義		2	
	国際メディア論	講義		2	
	英語学入門 a	講義		2	
	英語学入門 b	講義		2	
	英語発音論	講義		2	
	認知文法論	講義		2	
	国際文化論 a	講義	2		
	国際文化論 b	講義		2	
	国際社会学 a	講義		2	
	国際社会学 b	講義		2	
	国際関係論	講義		2	
	比較文化論	講義		2	
	日本文化論 a	講義	2		
	日本文化論 b	講義		2	
	現代日本社会論	講義	2		
	日本語学入門 a	講義		2	
	日本語学入門 b	講義		2	
	海外の日本文学	講義		2	
	日本語教育入門 a	講義		2	
	地域経営学入門 a	講義	2		
	地域経営学入門 b	講義		2	
	観光学入門 a	講義	2		
	観光学入門 b	講義		2	
観光地理学	講義		2		
専門応用展開科目	異文化コミュニケーション論 b	講義	2		
	ポライトネス論	講義		2	
	対人コミュニケーション論	講義		2	
	集団・組織コミュニケーション論	講義		2	
	国際コミュニケーション特別講義 a	講義		2	
	国際コミュニケーション特別講義 b	講義		2	

国際コミュニケーション演習 a	演習		2	
国際コミュニケーション演習 b	演習		2	
マスメディア演習	演習		2	
ソーシャルメディア演習	演習		2	
多文化共生論	講義	2		
国際経営学	講義		2	
世界の民族と宗教	講義		2	
海外文化事情 a	演習		2	
海外文化事情 b	演習		2	
海外文化事情 c	演習		2	
海外文化事情 d	演習		2	
海外文化事情 e	演習		2	
海外文化事情 f	演習		2	
国際政治学	講義		2	
国際キャリア論	講義		2	
グローバリゼーション論	講義		2	
国際文化資源論	講義		2	
国際文化特別講義 a	講義		2	
国際文化特別講義 b	講義		2	
Global Seminar a	演習		2	
Global Seminar b	演習		2	
国際文化演習 a	演習		2	
国際文化演習 b	演習		2	
日本文化資源論	講義	2		
民俗伝統芸能論	講義		2	
日本語教育入門 b	講義		2	
日本文化事情 a	演習		2	
日本文化事情 b	演習		2	
日本文化事情 c	演習		2	
日本のメディア文化	講義		2	
コンテンツ産業論	講義		2	
東京文化論	講義		2	
日本文化特別講義 a	講義		2	
日本文化特別講義 b	講義		2	
日本文化演習 a	演習		2	
日本文化演習 b	演習		2	
地域社会論	講義	2		
社会統計学入門	講義		2	

	マーケティング概論	講義		2	
	地域政策論	講義		2	
	ホスピタリティ論	講義		2	
	地域観光事業 a	演習		2	
	地域観光事業 b	演習		2	
	観光英語	演習		2	
	地域ブランディング	講義		2	
	地域活動企画	講義		2	
	地域文化特別講義 a	講義		2	
	地域文化特別講義 b	講義		2	
	地域観光演習 a	演習		2	
	地域観光演習 b	演習		2	
オフキャンパス・プログラム	国際文化事前研修	演習	2		
	海外留学 a	実習		9	
	海外留学 b	実習		12	
	海外留学 c	実習		15	
	海外留学 d	実習		18	
	国内インターンシップ a	実習		1	
	国内インターンシップ b	実習		1	
	国内インターンシップ c	実習		1	
国内インターンシップ d	実習		1		
別表第 7					
第 16 条別表第 7 教職課程授業科目及び 単位数 全学部共通 (略)					
別表第 8					
第 16 条別表第 8 図書館学課程授業科目 全学部共通 (略)					
別表第 9					
第 16 条別表第 9 博物館学芸員関係授業科目 文学部・人間社会学部共通					
別表第 6					
第 16 条別表第 6 教職課程授業科目及び 単位数 全学部共通 (略)					
別表第 7					
第 16 条別表第 7 図書館学課程授業科目 全学部共通 (略)					
別表第 8					
第 16 条別表第 8 博物館学芸員関係授業科目 文学部・人間社会学部共通					

(略)	(略)
別表第 <u>10</u>	別表第 <u>9</u>
第61条別表第 <u>10</u>	第61条別表第 <u>9</u>
外国人留学生特設科目	外国人留学生特設科目
(略)	(略)

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

1	学則変更（収容定員変更）の内容	P. 2
2	学則変更（収容定員変更）の必要性	P. 3
	（1）国際学部の必要性	P. 5
	（2）人間社会学部社会デザイン学科の必要性	P. 6
3	学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程の変更内容	P. 6
	（1）教育課程の変更内容	P. 6
	（2）教育方法及び履修指導方法の変更内容	P. 9
	（3）教員組織の変更内容	P.10
	（4）大学全体の施設・設備の変更内容	P. 11

1. 学則変更(収容定員変更)の内容

実践女子大学は令和6年(2024年)度から、新学部として国際学部国際学科(入学定員120名、収容定員480名)を設置(資料1)、また人間社会学部に新たに社会デザイン学科(入学定員80名、収容定員320名)(資料2)を設置する。

また、時期を合わせて令和6年(2024年)度から人間社会学部現代社会学科(令和6年(2024年)4月からビジネス社会学科に名称変更を予定)の入学定員を100名から80名に減じ、収容定員を400名から320名とする。

この国際学部国際学科及び社会デザイン学科の設置及び現代社会学科の入学定員減により、大学全体の入学定員を920名から1,100名に180名増、大学全体の収容定員を3,728名から720名増の4,448名とする。

なお、国際学部と人間社会学部社会デザイン学科を設置する渋谷キャンパスに、現在設置している短期大学部(日本語コミュニケーション学科(入学定員80名)、英語コミュニケーション学科(入学定員100名))は、募集停止のうえ、廃止する。

変更前

		入学定員	編入学定員	収容定員	
文学部	国文学科	110	9	458	
	英文学科	110	9	458	
	美学美術史学科	90	2	364	
	計	310	20	1,280	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	-	280	
		食物科学専攻	-	300	
		健康栄養専攻	-	160	
	生活環境学科	80	2	324	
	生活文化学科	生活心理専攻	40	2	164
		幼児保育専攻	45	-	180
	現代生活学科	60	-	240	
計	410	4	1,648		
人間社会学部	人間社会学科	100	-	400	
	現代社会学科	100	-	400	
	計	200	-	800	
合計	920	24	3,728		

変更後

		入学定員	編入学定員	収容定員	
文学部	国文学科	110	9	458	
	英文学科	110	9	458	
	美学美術史学科	90	2	364	
	計	310	20	1,280	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70	-	280
		食物科学専攻	75	-	300
		健康栄養専攻	40	-	160
	生活環境学科	80	2	324	
	生活文化学科	生活心理専攻	40	2	164
		幼児保育専攻	45	-	180
	現代生活学科	60	-	240	
	計	410	4	1,648	
人間社会学部	人間社会学科	100	-	400	
	ビジネス社会学科	80	-	320	
	社会デザイン学科	80	-	320	
	計	260	-	1,040	
国際学部	国際学科	120	-	480	
	計	120	-	480	
合計		1,100	24	4,448	

2. 学則変更(収容定員変更)の必要性

学校法人実践女子学園は、明治32年(1899年)に設立された実践女学校並びに女子工芸学校を母体とし、令和元年(2019年)5月に創立120周年を迎えた。現在は、実践女子大学(文学部、生活科学部、人間社会学部)、実践女子大学大学院(文学研究科、生活科学研究科、人間社会研究科)、実践女子大学短期大学部(日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科)及び実践女子学園中学校、実践女子学園高等学校を設置している。

実践女子大学は、明治41年(1908年)に設置された高等専門部家庭科及び技芸科を母体とし、後の実践女子専門学校を経て、昭和24年(1949年)に実践女子大学(文家政学部)として設置された。昭和40年(1965年)に文家政学部を廃止し、文学部(国文学科、英文学科)、家政学部(食物学科、被服学科)を設置、昭和41年(1966年)に大学院文学研究科、家政学研究科を設置した。その後、文学部に美学美術史学科を増設、家政学部を生活科学部に改組して食生活科学科、生活環境学科及び生活文化学科の3学科構成とした。平成16年(2004年)に新たに三つ目の学部として人間社会学部(人間社会学科)を設置し、その後平成23年(2011年)に人間社会学部に現代社会学科を設置、平成26年(2014年)に文学部、人間社会学部の教育を渋谷キャンパスで開始するとともに、生活科学部に現代生活

学科を設置するなど、各々の時代が求める人材の育成に努めてきた。

一方、本学園が設置する実践女子大学短期大学部は、昭和 25 年（1950 年）に実践女子学園短期大学として発足後、実践女子短期大学と改称、学科改編などを経て、平成 7 年（1995 年）に、日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、生活福祉学科、食物栄養学科の 4 学科体制となった。その後、生活福祉学科、食物栄養学科の学生募集停止、学科廃止を経て平成 26 年（2014 年）4 月に渋谷キャンパスへの移転と合わせて、名称を実践女子大学短期大学部に改め、日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科の 2 学科体制とした。

その後、グローバル化の進展、社会の多様性、科学技術の発展などにより、社会は新たに「グローバル人材」を求める時代になり、グローバル人材の育成が必要となった。また、社会を理解し新しい取り組みに欠かせない社会科学の幅広い学問を学び、自らの問題意識に基づき、課題を設定し、他者に正解を求めず、主体的に解を見出す能力、自らの意見を論理的に発信する力や社会や文化的背景の異なる人々と協働して事業を遂行する能力などが求められている。このような社会が求める人材像の変化に対応した人材育成を行うためには、本学の従来の学部学科構成だけでは不十分であり、社会が求める人材育成を行うための教育課程を有する学部学科の設置を検討した。さらに、大学全体で見れば、本学はこれまで入学定員を確保してきたが、短期大学部では志願者の減少により入学定員の確保が厳しくなり、本学の教育資源を活用した新たな学部学科の設置を構想することになった。本学では、英語教育はもとより、コミュニケーション力、観光を通じた地域貢献などの教育を行ってきた短期大学部の教育資源の活用が可能である。また、現代社会が有する諸問題を解決するためには、人文社会科学系であっても先端技術や理数系の基礎的知識を学ぶことが重要であり、質の高い情報を取捨選択し、情報を課題解決のために使いこなす能力（情報活用能力）を身につけることが求められており、人間社会学部の教員や教育手法の活用が可能であることから新たな学科の設置を構想した。（資料 3）

そこで、今回、令和 6 年（2024 年）4 月の実践女子大学に四つ目の学部として国際学部を設置するとともに、人間社会学部に三つめの学科として新たに社会デザイン学科を設置する。短期大学部は日本語コミュニケーション学科（入学定員 80 名）、英語コミュニケーション学科（入学定員 100 名）を有しているが、短期大学を取り巻く環境の変化により、短期大学の志願者が全国的に減少し続けており、本学短期大学部のような教養的文系学科の需要が大変低くなってきたことを受け、短期大学部の学生募集停止を決定し、入学定員 180 名を特定地域内学部等の収容定員増の特例を活用し、大学の収容定員に移行することとした。

本学の学部学科は、実社会が求める人材の育成に努めてきており、新たに設ける国際学部、人間社会学部社会デザイン学科ともに、現代社会が求める人材の育成に寄与するものであるが、大学の志願者の中心である 18 歳人口が減少している今日において、新たな学部、学科を設置し、将来的にも維持していくためには、学生の確保が今後も継続的に見込めなければならぬ。

大学全体の志願者は、平成 31 年（2019 年）度入試以降減少し、令和 3 年（2021 年）度、令和 4 年（2022 年）度入試は、コロナウイルス感染拡大の影響もあり志願者が減少した。このような中であっても、本学の令和 4 年（2022 年）度入試では、入学定員 920 名に対して、志願者 3,985 名、入学者 1,034 名（入学定員充足率 112.4%）を確保しており、国際学部、社会デザイン学科を設置した後であっても、学生は確実に確保できるものと考えている。

(1)国際学部の必要性

グローバル化が進展する現代社会において、国際感覚を有し、国際語である英語によるコミュニケーションが不可欠である時代となっている。また、インターネットを通じて全世界とつながっており、時間と空間の差がない世界となってきたが、人間が親密にコミュニケーションをとるためには、それぞれの出生や育った地域、文化、宗教観等を理解することも重要である。さらに、他の国の人々と交流を深めるためには、自国の文化や宗教観などを相手に伝えられることも必要である。

日本がグローバル社会の構築に向けて、またグローバル社会の中で生きていくためには、国際感覚を有し、英語によるコミュニケーション力があり、世界の国々の人と日常的にコミュニケーションをとることができる人が求められる。

このような人材が求められる社会において、「女性が世界を変える、社会を変える」を建学の精神にもつ本学は、国際学部を新たに設置することとした。

国際学部では、「グローバル化人材」に求められる、外国語能力の修得はもちろんのこと、異文化に対する理解、複雑化する世界情勢などに関する関心と基本的な知識の修得が重要であることから、教育課程の柱を「外国語」「言語・コミュニケーション」「国際文化」「日本文化」「地域・観光」とした。これらの教育は、「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」（総務省 2017 年）の企業が大学に期待する取り組みである、「海外留学の促進」、「異文化理解に関する授業の拡充」、「ディベート等の対話型の授業の拡充」とも一致する。また、企業が求める人材である、英語でコミュニケーションができる人材、国際的な視点、文化の学習にもこたえるものである。さらに、国際学部の目標である、国際語である英語の運用能力とコミュニケーション能力を身につけ、異なる民族、宗教、言語、価値観が交差する国際社会に対応した専門知識を修得し、国際交流を推進できる人材の育成が実現できる。さらに、学園全体で考えた場合、実践女子大学短期大学部英語コミュニケーション学科にてこれまで教育を行ってきた英語の語学教育とともに海外留学や海外インターンシップなど先進的に取り組みを活かし、さらに発展させることができる。

これらを踏まえた、国際学部の養成する人材像は次のとおりである。

ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて移動するグローバル社会、そして多様な言語、文化、民族、宗教、価値観等が共存する複雑な現代世界において、異文化の人たちとコミュニケーションができる英語運用能力を身に付け、未知の物事に対して主体的に接し、多様性の尊重と寛容な精神のもと、言語・文化・民族・宗教・価値観等が異なる人々との共存共栄を

はかる人材である。

(2)人間社会学部社会デザイン学科の必要性

現代社会においては、社会を理解し新しい取り組みに欠かせない共創デザイン、ソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーションなどの社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材が必要である。

さらに、異なる立場や職業の人・団体が協力して新たな価値を創り出す共創デザインや、行政や地域社会の多様な人たちが社会を良くしていこうとするソーシャル・デザイン、社会のビッグデータをもとにしてデータ分析など、既存の社会学の知識をもとに様々な問題解決手法を取り入れ、現代社会の課題を解決していく人材の育成が求められている。

このような人材が求められるなか、「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、よりよい未来をデザインする。」をモットーとする人間社会学部では、人間社会学科、ビジネス社会学科（現代社会学科から名称を変更予定）に加え、社会デザイン学科を新たに設け、教育研究を進めることとした。

現在、異なる立場や職業の人・団体が協力して新たな価値を創り出す共創デザインや、行政や地域社会の多様な人たちが社会を良くしていこうとするソーシャル・デザイン、社会のビッグデータをもとにしてデータ分析など、既存の社会学の知識をもとに様々な問題解決手法を取り入れ、現代社会の課題を解決していく人材が求められている。社会デザイン学科では、現代社会の複雑化する社会情勢や社会システムを理解するための社会学的知識やアクティブラーニングなどを学び、各種の課題解決手法の修得ができるとともに、社会学分野においてデータサイエンス知識を活用しながら多様化する社会を分析し、新たな仕組みを構築する土台となる情報通信技術を学ぶことは、社会が求める人材に一致すると考える。社会デザイン学科で学ぶ ICT に関する専門知識は、社会科学におけるデータ収集、データ処理と関連させ、様々な課題解決手法やアイデアの創出につなげるものであり、企業が求めるデータサイエンス思考やビッグデータ処理などの知識に対応している。

これらを踏まえた、社会デザイン学科の養成する人材像は次のとおりである。

複雑な現代社会において、社会学に関する分野はもちろん、社会を理解し新しい取り組みに欠かせない共創デザイン、ソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーションなどの社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材である。

3. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程の変更内容

(1)教育課程の変更内容

令和 6 (2024) 年 4 月に収容定員の増加にともない設置する国際学部及び社会デザイン学

科を増設する人間社会学部は、本学が教育展開を行う日野キャンパス、渋谷キャンパスのうち、いずれも渋谷キャンパスの学部であり、キャンパスごとに授業科目を展開している。

1) 共通教育科目

本学の教育課程は、共通教育科目とそれぞれの学部学科専門教育科目及び教職などの資格関連科目からなる。共通教育科目は、令和6年(2024年)から新たな教育課程を編成し、従来の共通教育科目をさらに充実することとした。共通教育科目は、全学部学科の学生が履修できるよう、学生数や履修希望者数等に応じて、クラス編成を工夫し、多くの学生が履修できるようにしているとともに、メディア授業なども取り入れ、学生の選択の幅をひろげている。

共通教育科目は、「実践スタンダード科目」「実践アドバンスト科目」「実践プロジェクト科目」及び「教養教育科目」からなる。このうち「実践スタンダード科目」は本学学生全員が履修する必修科目「実践入門セミナー」「実践キャリアプランニング」「Integrated English a」「Integrated English b」「データサイエンス入門」「情報リテラシー基礎」の6科目からなる。これらの実践スタンダード科目は、学科ごとのクラス編成を基本としており、国際学部(入学定員120名)に合わせてクラスを増やす。また、人間社会学部社会デザイン学科(入学定員80名)が設置される人間社会学部では、1年次は学科所属がないため学部全体(入学定員260名)がクラス編成の基本となり、「実践スタンダード科目」のクラス数は入学定員に合わせて増やす。

「実践アドバンスト科目」は、キャリア教育科目、外国語教育科目、情報リテラシー教育科目からなり、学生時代また社会人として必要なスキルを身につける科目を配置しており、それぞれの授業科目に応じて履修上限人数を定めている。国際学部及び人間社会学部社会デザイン学科設置に伴う学生数増に対応してクラス数を増やし、学生の選択の幅を制限することはなく、また授業の質を維持することとしている。外国語教育科目には、英語以外のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語などが開講されており、履修状況によりクラス数の増も行う。

「教養教育科目」は、「ジェンダーについて学ぶ」「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」「健康な体を創る」「知を拓く」の科目区分にそれぞれ授業科目が配置されている。特に、「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」は学生の興味関心により選択ができるよう、各区分に10~20科目以上の授業科目を配置するなど、授業科目を増やし、新学部学科の学生にとどまらず、既存の学部学科の学生にとっても教育内容を充実させている。

以上のように学生数増に対応してクラス数や授業科目を増やし変更前の内容と比較して、同等以上の内容と水準を担保する。

2) 専門教育科目

国際学部及び人間社会学部社会デザイン学科が設置される渋谷キャンパスでは、既存の文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科、人間社会学部人間社会学科、現代社会学科（令和6年4月から「ビジネス社会学科」に名称変更予定）、の教育が展開されている。

各学科の専門科目の実施は、教員組織も授業時間割も独立しており、既設学部学科に影響はなく、新たな学部等が設置された後も従来と同等の教育内容が実施できる。なお、人間社会学部の1年次については、入学定員が増えるため、クラス数増やクラス規模を見直すなどして、従来と同等の教育を行うこととする。

①国際学部

国際学部の教育課程は、全学共通教育科目と学科の専門教育科目の二本柱で構成される。

学科専門科目は、演習科目群である「アカデミック演習」、国際語としての英語を中心の「外国語科目」及び国際学科の専門分野を4つの領域に分け「言語・コミュニケーション」「国際文化」「日本文化」「地域・観光」の科目群からなり、それぞれの科目群に20科目ほどの選択科目を配置し、学生の関心に応じて履修できる。

これらの専門科目のうち、1、2年次に必修科目として配置される講義科目は、メディア授業も活用して実施とする。一方、演習科目、外国語科目の必修科目並びに各科目群の選択科目は対面による講義科目と演習科目を配置とする。

国際学部の特色の一つである「オフキャンパス・プログラム」として、2年次後期の海外研修を必須（研修期間により4科目に分かれている）とし、いずれか1科目の修得を卒業要件とする。

②人間社会学部社会デザイン学科

新たに設置する社会デザイン学科は、人間社会学部の三つ目の学科になる。人間社会学部は、入学時には学科配属を決定せずに、2年次進級時に学科を決定する方式を採用している。そのため、人間社会学部の1年次生は専門教育科目のうち専門基礎科目を履修する。専門基礎科目は、必修科目と選択科目からなり、選択科目は各自の志望する学科に関する授業科目をはじめ、興味関心に応じて履修ができる。また専門基礎科目のうち、必修科目は人間社会学部の専任教員が原則担当し、2クラス編成で行う。学部専任教員は、人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科にそれぞれ所属しているが、学部教育の基礎となる基礎科目の教育については、教育内容を相互に理解することに努めるとともに、新たな授業方法の取組みの情報交換などにより、従来と同等の内容による授業が実施でき、社会デザイン学科設置前と同等の内容が実施できる。

人間社会学部の専門教育科目のうち、社会デザイン学科独自の科目は、展開・応用科目であり、展開・応用科目の授業科目は「ソーシャル・データサイエンス」「共創デザイン」「メディア・イノベーション」の3分野を想定し構成されている。専門教育科目は、人間社会学部及びビジネス社会学科でも展開応用科目をそれぞれ3分野で構成し、授業科目を開設し

ているので、人間社会学部全体の学生数 260 名に対しても十分な科目数を開設しており、既設学科の学生にとっても専門基礎科目の選択肢が広がるなど、十分な科目数となっている。

社会デザイン学科の設置により、従来の基礎科目、基幹科目に社会デザイン学科の授業科目の基礎なる「プログラミング基礎」などを新たに追加するとともに、従来から設置されているこれらの科目は人間社会学部の他学科の学生も履修することができる。

(2)教育方法及び履修指導方法の変更内容

本学の教育方法は、共通教育科目の実践スタンダード科目により、本学での学びに必要な知識や、大学生活及び卒業後のキャリアなどについても考える場としている。

また各学科の専門科目においては、必修科目を中心に置きながら、学生の興味関心に応じた選択履修できる専門教育科目を置き、講義科目と演習科目を配置することにより、履修学生の知識の修得等に大学 4 年間の成果としての卒業論文もしくはそれに準ずる卒業研究を課すこととしている。

また、令和元年（2019 年）から学生総合支援センター学生総合サポート部に「カリキュラムアドバイザー」を置き、4 月の履修登録時期の他、前期終了前後、後期開始前、後期終了後のそれぞれの時期に学生からの相談を受け付けるなど、学生一人一人の履修モデルの構築から、単位修得に向けた学修計画の策定など、幅広く支援を行っており、この制度は新学部学科設置後も継続していくこととしている。

これらの教育方法や履修指導體制は、各学科の専任教員や大学全体の事務組織が連携して行っており、従来どおりの教育、履修指導を行っていき、既存の他学部等に影響を与えることはない。

1)国際学部

国際学部の卒業要件は、124 単位であり、共通教育科目 28 単位（必修 7 単位を含む。）、学科専門科目 76 単位（必修 38 単位、海外留学 9 単位を含む）を含め 124 単位以上を修得することとしている。

また、授業科目はsemesterによる開講を基本としており、1 semesterの履修単位の上限は 22 単位と設定している。

学科専門科目の卒業要件を詳しく見ると、アカデミック演習科目 10 単位（卒業研究 6 単位を含む）、外国語科目必修 6 単位、専門基礎科目 12 単位、専門応用展開科目 8 単位、オフキャンパス・プログラム 2 単位、合計 38 単位の必修、海外研修 9 単位以上を含め 76 単位以上の修得が必要となる。

国際学部の教育方法の特徴は、外国語（英語）と演習、海外研修であるが、外国語科目は 20 人程度の少人数クラスで実施するとともに、全学生が卒業研究を履修する。

海外留学にあたっては、事前に国際文化事前研修により、海外研修実施に向けての調整と

なる。

これらの教育方法の実施、履修指導方法は、国際学部の計画している教員体制で支障なく実施することが可能である。

2)人間社会学部社会デザイン学科

人間社会学部は、人間社会学科、現代社会学科（令和6年4月から「ビジネス社会学科」に名称変更予定）、社会デザイン学科の3学科から構成されており、学部一括入試により入学者を確定し、1年次は3学科共通の教育を受け、2年次進級時に学科を選択することとしている。

人間社会学部社会デザイン学科の卒業要件は、124単位であり、共通教育科目28単位（必修7単位を含む。）、学科専門科目76単位（必修40単位を含む）を含め124単位以上を修得することとしている。

また、授業科目はsemesterによる開講を基本としており、1semesterの履修単位の上限は22単位と設定している。

学科専門科目の卒業要件を詳しく見ると、演習科目18単位（卒業研究4単位を含む）、コミュニケーション系科目必修6単位、基礎科目16単位、合計40単位の必修を含め76単位以上の修得が必要となる。

これらの教育方法の実施、履修指導方法は、人間社会学部全体及び社会デザイン学科の計画している教員体制で支障なく実施することが可能である。

(3)教員組織の変更内容

国際学部（入学定員120名、収容定員480名）の学問分野は「文学関係」であり、1学部1学科の設置基準上の必要教員数は10名である。国際学部の教員数は11名を配置するため、基準数を満たしている。国際学部のS/T比は43.1となるが、令和4年（2022年）度の文学部国文学科（収容定員458名、専任教員11名）、英文学科（収容定員458名、専任教員11名）のS/T比41.6と大きな差はなく、既設学部において教育上の支障は生じていないことから、国際学部においても教育に支障はないと考えている。人間社会学部は、これまで人間社会学科（入学定員100名、収容定員400名）と現代社会学科（入学定員100名、収容定員400名）を設置しており、それぞれ設置基準上の必要教員数10名に対し、人間社会学科11名、現代社会学科11名の教員を配置してきた。

社会デザイン学科（入学定員80名、収容定員320名）の設置に伴い、現代社会学科をビジネス社会学科に名称を変更するとともに入学定員を20名減じて入学定員80名、収容定員320名に変更する。これにより、社会デザイン学科及びビジネス社会学科の必要教員数は8名となる。社会デザイン学科では、人間社会学科から2名の教員が移籍するとともに、新たに7名（うち1名は短期大学部からの移籍）の教員を採用し9名の教員組織とする。ビジネス社会学科においても教員は9名を配置する。社会デザイン学科に2名移籍する人

間社会学科では、新たに2名の教員を補充（採用）する計画により、学科の基準教員数を満たす。人間社会学部のS/T比は、従来の人間社会学科、現代社会学科がそれぞれ36.4であったのに対し、社会デザイン学科のそれは35.6であり大きく変わらず、同一学部内の各学科において教育上の支障は生じていないことから、社会デザイン学科においても教育に支障はないと考えている。

学部学科以外の組織では、大学教育研究センターにキャリア教育、情報サイエンス教育、教職課程教育を担う特任教員が3名、言語文化教育研究センターに専任教員が4名、教職センターに専任教員3名、図書館学課程に専任教員3名、博物館学課程に1名の教員を配置し、学生の教育研究、指導にあたる。さらに、大学附置の研究所に3名の専任教員を配置し、主として研究活動、機関運営を担っているが、共通教育科目を担当する場合もある。

大学全体の教員数をみると、設置基準上の必要教員数は各学部学科配置教員数と大学全体で配置する教員数を合計すると108名であるが、新学部新学科が完成年度を迎える令和9年（2027年）には大学全体で149名の教員が在籍し、設置基準を十分に満たす。大学全体の学生定員に対する教員数によるS/T比は、開設前が31.6、開設後が29.9であり、開設前と同等の教員組織であり、変更前の内容と比較して、同等の内容と水準を担保できる。

また、専門教育はもとより、共通教育（外国語、情報教育を含む）、教職課程、図書館学課程、博物館学課程の教育においては、必要に応じてクラス数を増やすなどの対応をとり、学部・学科及び学科以外の各機関の専任教員の他、非常勤講師を採用することにより、変更前と同等以上の内容と水準の教育を行う。

(4)大学全体の施設・設備の変更内容

本学では、平成26年（2014年）4月に渋谷キャンパスを開設し、大学の文学部、人間社会学部及び実践女子大学短期大学部の教育を展開することとした。渋谷キャンパスには、創立120周年記念館（地下1階、地上17階）があり、講義室、研究室、事務室、会議室、図書館、保健室（医務室）、食堂などを十分に備えており、新学部・新学科設置後も当該施設で教育を実施していくものであり、新たな施設の設置は計画していない。

渋谷キャンパスには、講義科目の授業を実施する40名～385名を収容できる講義室が41室あり、それぞれの広さに応じてプロジェクトや液晶ディスプレイなどの教育用機材を設置している。また、少人数のゼミや外国語科目などを実施するための演習室が17室あり、少人数教育に対応可能である。さらにPC演習室（3室）や美学美術史学科の実習用のデザイン室、絵画・彫刻・工芸室を設けている。

今回の収容定員を増加する国際学部、人間社会学部社会デザイン学科は、これまで渋谷キャンパスに設置していた文学部、人間社会学部と学問分野も同じ座学を中心とした教室利用となり、また短期大学部の学生募集を停止し、短期大学部入学定員をもって大学の入学定員を増加するものであり、講義室をはじめとする施設設備に不足はなく、変更前の内容と比較して、同等以上の内容と水準を担保できる。

学生の教育に直結する ICT 環境は、渋谷キャンパスでは平成 26 年（2014 年）の渋谷キャンパス開設時から計画的に整備を進めており、現在は BYOD(Bring Your Own Device)に対応して無線 LAN 環境の充実、携帯型ルーターの整備などを行っており、PC の設置台数は漸減しているが、教育環境の劣化とはなっていない。

図書館は、渋谷キャンパス創立 120 周年記念館内の 2 館、3 階に開架書架、閲覧席及びグループ学習室、地下 1 階に集密書架及び貴重書庫室を整備している。渋谷キャンパス図書館の総閲覧座席数は、283 席であり、渋谷キャンパスの学部学科の収容定員の 10%以上を確保している。蔵書数は大学全体で約 76 万冊の蔵書を有し、うち、渋谷キャンパスでは人文、社会科学系を中心に 30 万冊の蔵書があり、日野キャンパス図書館の資料の取寄せも可能である。電子化への対応として、電子ジャーナル、各種データベースの導入も進めており、教育、研究に活用できる環境を整備している。このように、図書館についても十分な整備状況にあることから、定員変更前の内容と比較して、同等以上の内容と水準を担保できる。

また、創立 120 周年記念館には教員用個人研究室が整備されており、現在は 87 室の運用であるが、国際学部及び社会デザイン学科の教員採用計画により、大学全体の教員数が増加するため、一部改修を行い専任教員は 1 人 1 室の個人研究室を持てるようにし、既存の学部学科の教員と同等の研究環境を構築する。

体育施設については、日野キャンパスに整備しており、運動場、テニスコート、体育館等を有しており、学生が主に課外活動に活用している。

学則の変更の趣旨等を記載した書類 資料

目次

資料 1	国際学部国際学科 教育課程等の概要	P. 2
資料 2	人間社会学部社会デザイン学科 教育課程等の概要	P. 8
資料 3	「今後の教育改革に関する 基本的考え方」(抜粋)	P.14

教育課程等の概要

(国際学部 国際学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
実践スタンダード科目	実践入門セミナー	1前	2						3	2	1				
	実践キャリアプランニング	1後・2前	2			○			1						兼2
	Integrated English a	1前・後	1				○								兼3
	Integrated English b	1前・後	1				○			1					兼2
	データサイエンス入門	1前・後	1			○									兼1
	情報リテラシー基礎	1前・後	1				○								兼2
	小計(6科目)	—	8	0	0	—	—	—	4	3	1	0	0	兼9	—
キャリア教育科目	キャリアデザイン	3前		2		○									兼2
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2			○								兼2
	短期インターンシップ	3休		1				○							兼1
	長期インターンシップ	3休		2				○							兼1
	キャリア開発実践論	3通		2				○							兼1
	ビジネスのスキルとマナー	3後		2		○									兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2		○									兼1
	女性とキャリア形成	2前・後		2		○									兼3
	キャリア・ショーケース	2前		2		○									兼1
	ライフデザイン	3前・後		2		○									兼2
	実践企業分析論	2前		2		○									兼1
	実践企業分析論演習	2前		2			○								兼1
	小計(12科目)	—	0	23	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9	—
実践アドバンスト科目 外国語教育科目	Effective Writing	1前・後		1				○							兼3
	Effective Speaking	1前・後		1				○							兼2
	Active Reading	1前・後		1				○							兼2
	Active Listening	1前・後		1				○							兼3
	CEFR B1	1前・後		1				○							兼1
	Global Studies a	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies b	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies c	1前・後		2		○				1					兼1
	Global Studies d	1前・後		2		○				1					兼2
	Global Studies e	1前・後		2		○									兼2
	Global Studies f	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies g	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies h	1前・後		2		○									兼2
	Global Studies i	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies j	1前・後		2		○									兼1
	フランス語1 a	1前		1				○							兼2
	フランス語1 b	1後		1				○							兼2
	ドイツ語1 a	1前		1				○							兼2
	ドイツ語1 b	1後		1				○							兼2
	中国語1 a	1前		1				○							兼2
	中国語1 b	1後		1				○							兼2
	コリア語1 a	1前		1				○							兼2
	コリア語1 b	1後		1				○							兼2
	スペイン語1 a	1前		1				○							兼1
スペイン語1 b	1後		1				○							兼1	
フランス語2 a	2前		1				○							兼1	
フランス語2 b	2後		1				○							兼1	
ドイツ語2 a	2前		1				○							兼2	
ドイツ語2 b	2後		1				○							兼2	

実践アドバンス科目	外国語教育科目	中国語 2 a	2前	1		○									兼2
		中国語 2 b	2後	1		○									兼2
		コリア語 2 a	2前	1		○									兼2
		コリア語 2 b	2後	1		○									兼2
		スペイン語 2 a	2前	1		○									兼1
		スペイン語 2 b	2後	1		○									兼1
		海外語学研修 a	1休	2				○							兼1
		海外語学研修 b	1休	2				○							兼1
		海外語学研修 c	1休	2				○							兼1
		海外語学研修 d	1休	2				○							兼1
		海外語学研修 e	1休	1				○							兼1
		海外語学研修 f	1休	1				○							兼1
		海外語学研修 g	1休	1				○							兼1
		海外語学研修 h	1休	1				○							兼1
		海外短期インターンシップ	1休	1				○							兼1
海外長期インターンシップ	1休	2				○							兼1		
小計 (45科目)	—	0	60	0	—			0	1	0	0	0	0	兼23	—
情報リテラシー教育科目	情報スキル基礎	1後	1			○								兼11	
	情報リテラシー応用 a	1前・後	2			○								兼2	
	情報リテラシー応用 b	1前・後	2			○								兼8	
	情報リテラシー応用 c	1前・後	2			○								兼5	
	情報リテラシー応用 d	1前・後	2			○								兼2	
	情報リテラシー応用 e	1前・後	2			○								兼1	
小計 (6科目)	—	0	11	0	—			0	0	0	0	0	0	兼24	
実践プロジェクト	実践プロジェクト a	1前	2			○								兼2	
	実践プロジェクト b	2前・後	2			○								兼2	
	実践プロジェクト c	2休	2			○								兼2	
	ボランティアプロジェクト a	1前・後	1			○								兼1	
	ボランティアプロジェクト b	1前・後	1			○								兼1	
小計 (5科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	
ジェンダーについて学ぶ	ジェンダー論入門	1前・後	2			○								兼2	
	女性の歴史	1後	2			○								兼1	
	女性の健康	1前・後	2			○								兼1	
	文学とジェンダー	1前	2			○								兼1	
	国際社会とジェンダー	1前	2			○								兼1	
	女性教育とジェンダー	1前・後	2			○								兼3	
	ジェンダーと心理	1前・後	2			○								兼1	
	小計 (7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9
共通教育科目	人間を究める	哲学入門	1前・後	2		○								兼1	
		現代の思想	1前・後	2			○								兼2
		言語学入門	1後	2			○			1					兼1
		倫理学入門	1前	2			○								兼1
		生命と環境の倫理	1後	2			○								兼1
		社会思想入門	1後	2			○								兼2
		東洋思想入門	1後	2			○								兼1
		世界の宗教	1前・後	2			○								兼1
		日本の古典文学	1前・後	2			○								兼2
		日本の近現代文学	1前・後	2			○								兼1
		西洋の文学	1前・後	2			○								兼1
		児童文学入門	1前・後	2			○								兼2
		文化人類学入門	1後	2			○								兼1
		美術の世界	1前・後	2			○								兼1
		音楽の世界	1前・後	2			○								兼1
		映像文化論	1前・後	2			○								兼2
		日本の伝統文化	1前・後	2			○								兼1
		心理学入門	1前・後	2			○								兼3
		人間関係の心理学	1前・後	2			○								兼2
		心の健康	1前・後	2			○								兼2
		日本のポップ・カルチャー	1前・後	2			○								兼1
ファッションの世界	1前・後	2			○								兼1		
世界のファンタジー	1前・後	2			○								兼1		

教養教育科目	小計 (23科目)	—	0	46	0	—	1	0	0	0	0	兼29	
	地域研究 a	1後		2		○						兼2	
	地域研究 b	1前		2		○						兼1	
	食文化論	1前・後		2		○						兼1	
	衣文化論	1前・後		2		○						兼2	
	生活とデザイン	1前・後		2		○						兼2	
	社会とデザイン	1前・後		2		○						兼1	
	メディア論	1前・後		2		○						兼3	
	サブカルチャー論	1前・後		2		○						兼2	
	教育学	1前		2		○						兼2	
	日本国憲法	1前・後		2		○						兼2	
	法学入門	1後		2		○						兼2	
	日本の政治	1前		2		○						兼1	
	国際政治の基礎	1後		2		○						兼1	
	日本の経済	1前		2		○						兼2	
	国際経済の基礎	1後		2		○						兼2	
	日本史	1前		2		○						兼1	
	西洋史	1前		2		○						兼1	
	東洋史	1前・後		2		○						兼1	
	地理学	1前・後		2		○						兼1	
	社会学入門	1前		2		○						兼1	
	社会保障論	1前		2		○						兼1	
	日常生活と法	1前・後		2		○						兼1	
金融リテラシー入門	1前・後		2		○						兼1		
小計 (23科目)	—	0	46	0	—	0	0	0	0	0	兼31		
自然と環境を 探る	数学的思考	1後		2		○						兼4	オムニバス
	統計的思考	1前・後		2		○						兼2	
	くらしの化学	1後		2		○						兼2	オムニバス
	くらしの人間工学	1前・後		2		○						兼1	
	生活環境の科学	1前・後		2		○						兼2	
	生命の科学	1前・後		2		○						兼2	
	身体の科学	1前・後		2		○						兼1	
	宇宙の科学	1前		2		○						兼2	
	地球と環境の科学	1前・後		2		○						兼2	
	科学技術と人間	1前・後		2		○						兼1	
	農業と食料	1後		2		○						兼1	
	バイオの世界	1前・後		2		○						兼1	
防災の科学	1前・後		2		○						兼1		
小計 (13科目)	—	0	26	0	—	0	0	0	0	0	兼22		
健康な体 を創る	身体運動の科学 a	1前		2		○						兼3	
	身体運動の科学 b	1後		2		○						兼3	
	スポーツ文化論	1前・後		2		○						兼1	
	健康運動実習 a	1前・後		1				○				兼4	
	健康運動実習 b	1前・後		1				○				兼2	
	基礎スポーツ実習 a	1前・後		1				○				兼5	
	基礎スポーツ実習 b	1前・後		1				○				兼2	
	基礎スポーツ実習 c	1前・後		1				○				兼1	
	基礎スポーツ実習 d	1前・後		1				○				兼1	
	健康体力科学演習	1前・後		1		○						兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 a	1前		1				○				兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 b	1後		1				○				兼1	
アダプテッドスポーツ	1前・後		1				○				兼1		
スポーツ応用科学実習	1前・後		1				○				兼1		
小計 (14科目)	—	0	17	0	—	0	0	0	0	0	兼10		
実践教養講座 a	実践教養講座 a	2前・後		2		○						兼1	集中/共同 集中/オム ニバス
	実践教養講座 b	1後		2		○						兼3	
	実践教養講座 c	1休		2		○						兼8	
	実践教養講座 d	1前・後		2		○						兼1	
	実践教養講座 e	1後		2		○						兼1	
	実践教養講座 f	1前		2		○						兼1	

知を拓く	実践教養講座 g	1前	2			○								兼1	
	実践教養講座 h	1後	2			○								兼4	オムニバス
	実践教養講座 i	1後	2			○								兼10	オムニバス
	オープン講座 a	1前	2			○								兼2	オムニバス
	オープン講座 b	1前	2			○								兼1	
	オープン講座 c	1後	2			○								兼1	
	クォーターオープン講座 a	1前・後	1			○								兼1	
	クォーターオープン講座 b	1前・後	1			○								兼1	
	クォーターオープン講座 c	1前・後	1			○								兼1	
小計 (15科目)	—	0	27	0	—			0	0	0	0	0	0	兼30	—
アカデミック演習	基礎演習	1後	2			○		3	2	1					
	専門演習 a	4前	1			○		6	3	2					
	専門演習 b	4後	1			○		6	3	2					
	卒業研究	4通	6			○		6	3	2					
	小計 (4科目)	—	10	0	0	—		6	3	2	0	0	0		
外国語科目	Effective Communication a	1後	2			○		1	1					兼5	オムニバス
	Effective Communication b	2前	2			○		1						兼6	オムニバス
	Effective Communication c	3前	1			○			1					兼2	
	English Workshop a	1前	1			○		1							
	English Workshop b	1前	1			○		1							
	English Workshop c	1後	1			○		1							
	English Workshop d	1後	1			○		1							
	English Grammar	2前	1			○		1							
	Basic Listening	1後	1			○								兼1	
	Advanced Listening	3後	1			○								兼1	
	Basic Reading	1後	1			○								兼1	
	Advanced Reading	3後	1			○			1						
	Basic Writing	1後	1			○								兼2	
	Advanced Writing	3前	1			○			1						
	Speaking & Presentation a	2前	1			○			1						
	Speaking & Presentation b	2前	1			○			1						
	English Education for Children	2前	1			○		1							
Practical English a	3前	1			○								兼1		
Practical English b	3後	1			○			1							
イタリア語1	1前	1			○								兼1		
イタリア語2 a	1後	1			○								兼1		
イタリア語2 b	2前	1			○								兼1		
小計 (22科目)	—	6	18	0	—		2	1	0	0	0	0	0	兼12	
言語・コミュニケーション	異文化コミュニケーション論 a	1後	2			○			1						
	情報コミュニケーション論	1前	2			○		1							
	国際メディア論	1後	2			○		1							
	英語学入門 a	1前	2			○		1							
	英語学入門 b	1後	2			○		1							
	英語発音論	1後	2			○		1							
	認知文法論	1後	2			○		1							
	小計 (7科目)	—	2	12	0	—		2	1	0	0	0	0	0	
国際文化	国際文化論 a	1前	2			○		1							
	国際文化論 b	1後	2			○		1							
	国際社会学 a	1前	2			○				1					
	国際社会学 b	1後	2			○				1					
	国際関係論	1前	2			○				1					
	比較文化論	1後	2			○				1					
小計 (6科目)	—	2	10	0	—		1	0	1	0	0	0	0		
日本文化	日本文化論 a	1前	2			○			1						
	日本文化論 b	1後	2			○			1						
	現代日本社会論	1後	2			○			1						
	日本語学入門 a	1前	2			○		1							
	日本語学入門 b	1後	2			○		1							
	海外の日本文学	1後	2			○		1							
	日本語教育入門 a	1後	2			○		1							
	小計 (7科目)	—	4	10	0	—		1	1	0	0	0	0	0	

	地域・観光	地域経営学入門 a	1前	2		○			1												
		地域経営学入門 b	1後		2		○		1												
	観光	観光学入門 a	1後	2		○					1										
		観光学入門 b	1後		2		○				1										
		観光地理学	1前		2		○													兼1	
		小計 (5科目)	—	4	6	0	—		1	0	1	0	0	0						兼1	
専門教育科目	言語・コミュニケーション	異文化コミュニケーション論 b	2前	2		○				1											
		ポライトネス論	2前		2		○		1												
		対人コミュニケーション論	2前		2		○				1										
		集団・組織コミュニケーション論	2前		2		○				1										
		国際コミュニケーション特別講義 a	2後		2		○				1										
		国際コミュニケーション特別講義 b	3後		2		○		1												
		国際コミュニケーション演習 a	3前		2		○		1												
		国際コミュニケーション演習 b	3後		2		○		1												
		マスメディア演習	3前		2		○		1												
		ソーシャルメディア演習	3後		2		○		1												
				小計 (10科目)	—	2	18	0	—	3	1	0	0	0	0						
専門応用展開科目	国際文化	多文化共生論	2前	2		○			1												
		国際経営学	2前		2		○		1												
		世界の民族と宗教	2前		2		○		1												
		海外文化事情 a	2前		2		○														兼1
		海外文化事情 b	2前		2		○		1												
		海外文化事情 c	2前		2		○					1									
		海外文化事情 d	2前		2		○														兼1
		海外文化事情 e	2前		2		○				1										
		海外文化事情 f	2前		2		○		1												
		国際政治学	3前		2		○						1								
		国際キャリア論	3前		2		○				1										
		グローバル化ゼーション論	3後		2		○						1								
		国際文化資源論	3後		2		○		1												
		国際文化特別講義 a	2後		2		○						1								
		国際文化特別講義 b	3後		2		○						1								
		Global Seminar a	3前		2		○				1										
		Global Seminar b	3後		2		○				1										
		国際文化演習 a	3前		2		○		1												
		国際文化演習 b	3後		2		○		1												
		小計 (19科目)	—	2	36	0	—	4	2	1	0	0	0							兼2	
日本文化	日本文化	日本文化資源論	2前	2		○				1											
		民俗伝統芸能論	2前		2		○			1											
		日本語教育入門 b	2前		2		○		1												
		日本文化事情 a	2前		2		○		1												
		日本文化事情 b	2前		2		○				1										
		日本文化事情 c	2前		2		○														兼1
		日本のメディア文化	3前		2		○		1												
		コンテンツ産業論	3後		2		○		1												
		東京文化論	3前		2		○														兼1
		日本文化特別講義 a	2後		2		○				1										
		日本文化特別講義 b	3後		2		○		1												
		日本文化演習 a	3前		2		○				1										
		日本文化演習 b	3後		2		○		1												
		小計 (13科目)	—	2	24	0	—	2	1	0	0	0	0							兼1	
地域・観光	地域・観光	地域社会論	2前	2		○					1										
		社会統計学入門	2前		2		○		1												
		マーケティング概論	2前		2		○		1												
		地域政策論	2前		2		○		1												
		ホスピタリティ論	2前		2		○						1								
		地域観光事業 a	2前		2		○						1								
		地域観光事業 b	2前		2		○						1								
		観光英語	2前		2		○		1												
		地域ブランディング	3前		2		○		1												
		地域活動企画	3後		2		○		1												

	地域文化特別講義 a	2後		2		○			1						集中/メディア
	地域文化特別講義 b	3後		2		○			1						
	地域観光演習 a	3前		2			○				1				
	地域観光演習 b	3後		2			○				1				
	小計 (14科目)	—	2	26	0	—			2	0	2	0	0	0	
オ フ キ ャ ン パ ス ・ プ ロ グ ラ ム	国際文化事前研修	1後	2				○		1	1	1				
	海外留学 a	2後		9				○	1						集中
	海外留学 b	2後		12				○	1						集中
	海外留学 c	2後		15				○	1						集中
	海外留学 d	2後		18				○	1						集中
	国内インターンシップ a	2休		1				○	1						集中
	国内インターンシップ b	2休		1				○	1						集中
	国内インターンシップ c	2休		1				○	1						集中
	国内インターンシップ d	2休		1				○	1						集中
	小計 (9科目)	—	2	58	0	—			3	1	1	0	0	0	
合計 (285科目)		—	46	496	0	—			6	3	2	0	0	0	兼188
学位又は称号		学士 (国際学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
①共通教育科目： 必修科目8単位、選択必修科目6単位以上（「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」の分野から各2単位以上、）、合計28単位 ②専門教育科目： 必修科目38単位、選択必修科目17単位（専門応用展開科目の3年次配当科目ら8単位以上、海外留学 a・b・c・d から9単位以上）、合計76単位 ③その他： ①、②の要件の他、共通教育科目、専門教育科目の選択科目から合計20単位以上 ①、②、③の要件を満たし、合計124単位以上 （履修登録単位数の制限：各学期（セメスター）22単位）								1 学年の学期区分				2学期			
								1 学期の授業期間				14週			
								1 時限の授業時間				100分			

教育課程等の概要															
(人間社会学部 社会デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
実践スタンダード科目	実践入門セミナー	1前	2					○		2	1	2			兼8
	実践キャリアプランニング	1後・2前	2				○								兼1
	Integrated English a	1前・後	1					○							兼6
	Integrated English b	1前・後	1					○							兼5
	データサイエンス入門	1前・後	1				○								兼1
	情報リテラシー基礎	1前・後	1					○							兼3
	小計(6科目)	—	8	0	0			—		2	1	2	0	0	兼23
キャリア教育科目	キャリアデザイン	3前		2			○								兼2
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2				○							兼2
	短期インターンシップ	3休		1											兼1
	長期インターンシップ	3休		2											兼1
	キャリア開発実践論	3通		2				○							兼1
	ビジネスのスキルとマナー	3後		2			○								兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2			○								兼1
	女性とキャリア形成	2前・後		2			○								兼3
	キャリア・ショーケース	2前		2			○								兼1
	ライフデザイン	3前・後		2			○								兼2
	実践企業分析論	2前		2			○								兼1
	実践企業分析論演習	2前		2				○							兼1
小計(12科目)	—	0	23	0			—		0	0	0	0	0	兼9	—
外国語教育科目 実践アドバンスト科目	Effective Writing	1前・後		1				○							兼3
	Effective Speaking	1前・後		1				○							兼2
	Active Reading	1前・後		1				○							兼2
	Active Listening	1前・後		1				○							兼3
	CEFR B1	1前・後		1				○							兼1
	Global Studies a	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies b	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies c	1前・後		2		○									兼2
	Global Studies d	1前・後		2		○									兼3
	Global Studies e	1前・後		2		○									兼2
	Global Studies f	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies g	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies h	1前・後		2		○									兼2
	Global Studies i	1前・後		2		○									兼1
	Global Studies j	1前・後		2		○									兼1
	フランス語1 a	1前		1				○							兼2
	フランス語1 b	1後		1				○							兼2
	ドイツ語1 a	1前		1				○							兼2
	ドイツ語1 b	1後		1				○							兼2
	中国語1 a	1前		1				○							兼2
中国語1 b	1後		1				○							兼2	
コリア語1 a	1前		1				○							兼2	
コリア語1 b	1後		1				○							兼2	
スペイン語1 a	1前		1				○							兼1	
スペイン語1 b	1後		1				○							兼1	
フランス語2 a	2前		1				○							兼1	
フランス語2 b	2後		1				○							兼1	
ドイツ語2 a	2前		1				○							兼2	
ドイツ語2 b	2後		1				○							兼2	

共通教育科目	外国語教育科目	中国語 2 a	2前	1		○									兼2	
		中国語 2 b	2後	1		○									兼2	
		コリア語 2 a	2前	1		○									兼2	
		コリア語 2 b	2後	1		○									兼2	
		スペイン語 2 a	2前	1		○									兼1	
		スペイン語 2 b	2後	1		○									兼1	
		海外語学研修 a	1休	2				○							兼1	
		海外語学研修 b	1休	2				○							兼1	
		海外語学研修 c	1休	2				○							兼1	
		海外語学研修 d	1休	2				○							兼1	
		海外語学研修 e	1休	1				○							兼1	
		海外語学研修 f	1休	1				○							兼1	
		海外語学研修 g	1休	1				○							兼1	
		海外語学研修 h	1休	1				○							兼1	
		海外短期インターンシップ	1休	1				○							兼1	
	海外長期インターンシップ	1休	2				○							兼1		
	小計 (45科目)	—	0	60	0	—			0	0	0	0	0	0	兼23	—
	情報リテラシー教育科目	情報スキル基礎	1後	1			○			1	1					兼9
		情報リテラシー応用 a	1前・後	2			○					1				兼2
		情報リテラシー応用 b	1前・後	2			○						1			兼7
		情報リテラシー応用 c	1前・後	2			○									兼5
		情報リテラシー応用 d	1前・後	2			○									兼2
		情報リテラシー応用 e	1前・後	2			○									兼1
	小計 (6科目)	—	0	11	0	—			0	1	2	0	0	0	兼21	
	実践プロジェクト	実践プロジェクト a	1前	2			○									兼2
		実践プロジェクト b	2前・後	2			○									兼2
		実践プロジェクト c	2休	2			○									兼2
		ボランティアプロジェクト a	1前・後	1			○									兼1
		ボランティアプロジェクト b	1前・後	1			○									兼1
	小計 (5科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	
	ジェンダーについて学ぶ	ジェンダー論入門	1前・後	2			○									兼2
		女性の歴史	1後	2			○									兼1
		女性の健康	1前・後	2			○									兼1
		文学とジェンダー	1前	2			○									兼1
		国際社会とジェンダー	1前	2			○									兼1
		女性教育とジェンダー	1前・後	2			○									兼3
		ジェンダーと心理	1前・後	2			○									兼1
		小計 (7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9
	人間を究める	哲学入門	1前・後	2			○									兼1
		現代の思想	1前・後	2			○									兼2
		言語学入門	1後	2			○									兼2
		倫理学入門	1前	2			○									兼1
		生命と環境の倫理	1後	2			○									兼1
		社会思想入門	1後	2			○									兼2
		東洋思想入門	1後	2			○									兼1
世界の宗教		1前・後	2			○									兼1	
日本の古典文学		1前・後	2			○									兼2	
日本の近現代文学		1前・後	2			○									兼1	
西洋の文学		1前・後	2			○									兼1	
児童文学入門		1前・後	2			○									兼2	
文化人類学入門		1後	2			○									兼1	
美術の世界		1前・後	2			○									兼1	
音楽の世界		1前・後	2			○									兼1	
映像文化論		1前・後	2			○									兼2	
日本の伝統文化		1前・後	2			○									兼1	
心理学入門		1前・後	2			○									兼3	
人間関係の心理学		1前・後	2			○									兼2	
心の健康		1前・後	2			○									兼2	
日本のポップ・カルチャー	1前・後	2			○									兼1		
ファッションの世界	1前・後	2			○									兼1		
世界のファンタジー	1前・後	2			○									兼1		

教養教育科目	小計 (23科目)	—	0	46	0	—	0	0	0	0	0	兼30	
	地域研究 a	1後		2		○						兼2	
	地域研究 b	1前		2		○						兼1	
	食文化論	1前・後		2		○						兼1	
	衣文化論	1前・後		2		○						兼2	
	生活とデザイン	1前・後		2		○						兼2	
	社会とデザイン	1前・後		2		○						兼1	
	メディア論	1前・後		2		○						兼3	
	サブカルチャー論	1前・後		2		○						兼2	
	教育学	1前		2		○						兼2	
	日本国憲法	1前・後		2		○						兼2	
	法学入門	1後		2		○						兼2	
	日本の政治	1前		2		○						兼1	
	国際政治の基礎	1後		2		○						兼1	
	日本の経済	1前		2		○						兼2	
	国際経済の基礎	1後		2		○						兼2	
	日本史	1前		2		○						兼1	
	西洋史	1前		2		○						兼1	
	東洋史	1前・後		2		○						兼1	
	地理学	1前・後		2		○						兼1	
	社会学入門	1前		2		○						兼1	
社会保障論	1前		2		○						兼1		
日常生活と法	1前・後		2		○						兼1		
金融リテラシー入門	1前・後		2		○						兼1		
小計 (23科目)	—	0	46	0	—	0	0	0	0	0	兼31		
自然と環境を 探る	数学的思考	1後		2		○						兼4	オムニバス
	統計的思考	1前・後		2		○		1				兼1	
	くらしの化学	1後		2		○						兼2	オムニバス
	くらしの人間工学	1前・後		2		○						兼1	
	生活環境の科学	1前・後		2		○						兼2	
	生命の科学	1前・後		2		○						兼2	
	身体の科学	1前・後		2		○						兼1	
	宇宙の科学	1前		2		○						兼2	
	地球と環境の科学	1前・後		2		○						兼2	
	科学技術と人間	1前・後		2		○						兼1	
	農業と食料	1後		2		○						兼1	
バイオの世界	1前・後		2		○						兼1		
防災の科学	1前・後		2		○						兼1		
小計 (13科目)	—	0	26	0	—	1	0	0	0	0	兼21		
健康な体 を創る	身体運動の科学 a	1前		2		○						兼3	
	身体運動の科学 b	1後		2		○						兼3	
	スポーツ文化論	1前・後		2		○						兼1	
	健康運動実習 a	1前・後		1						○		兼4	
	健康運動実習 b	1前・後		1						○		兼2	
	基礎スポーツ実習 a	1前・後		1						○		兼5	
	基礎スポーツ実習 b	1前・後		1						○		兼2	
	基礎スポーツ実習 c	1前・後		1						○		兼1	
	基礎スポーツ実習 d	1前・後		1						○		兼1	
	健康体力科学演習	1前・後		1			○					兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 a	1前		1						○		兼1	
ヘルスプロモーション実践実習 b	1後		1						○		兼1		
アダプテッドスポーツ	1前・後		1						○		兼1		
スポーツ応用科学実習	1前・後		1						○		兼1		
小計 (14科目)	—	0	17	0	—	0	0	0	0	0	兼10		

知を拓く	実践教養講座 a	2前・後	2			○								兼1	集中/共同 集中/オム ニバス
	実践教養講座 b	1後	2			○								兼3	
	実践教養講座 c	1休	2			○								兼8	
	実践教養講座 d	1前・後	2			○								兼1	
	実践教養講座 e	1後	2			○								兼1	
	実践教養講座 f	1前	2			○								兼1	
	実践教養講座 g	1前	2			○								兼1	
	実践教養講座 h	1後	2			○								兼4	
	実践教養講座 i	1後	2			○								兼10	
	オープン講座 a	1前	2		○									兼2	
	オープン講座 b	1前	2		○									兼1	
	オープン講座 c	1後	2		○									兼1	
	クォーターオープン講座 a	1前・後	1		○									兼1	
	クォーターオープン講座 b	1前・後	1		○									兼1	
	クォーターオープン講座 c	1前・後	1		○									兼1	
小計 (15科目)	—	0	27	0	—			0	0	0	0	0	0	兼30	—
演習科目	演習 I	1後	2			○		2	1	2				兼8	集中
	演習 II a	2前	2			○		3	1						
	演習 II b	2後	2			○		3	1						
	演習 III a	3前	2			○		5	2	2					
	演習 III b	3後	2			○		5	2	2					
	演習 IV a	4前	2			○		5	2	2					
	演習 IV b	4後	2			○		5	2	2					
	卒業研究	4通	4			○		5	2	2					
小計 (8科目)	—	18	0	0	—		5	2	2	0	0	0	兼8	—	
人間を学ぶ	人間社会学入門	1前	2			○		1	2	2				兼5	オムニバス/ メディア
	心理学概論	1前・後	2			○								兼2	
	コミュニケーション概論	1前・後	2			○								兼1	
	教育学概論	1後	2			○								兼1	
	発達心理学	2前	2			○								兼1	
	異文化理解	2後	2			○								兼2	
	文化人類学	2前	2			○								兼1	
小計 (7科目)	—	6	8	0	—		1	2	2	0	0	0	兼10	—	
社会を学ぶ	社会学概論	1前・後	2			○								兼1	—
	法学概論	1前・後	2			○								兼2	
	ジェンダー論	1後	2			○								兼1	
	地理学概論	1後	2			○								兼1	
	女性と労働	2前	2			○								兼1	
	メディア社会論	2前	2			○								兼1	
	国際関係概論	2前	2			○								兼1	
小計 (7科目)	—	4	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7		
ビジネスを学ぶ	経済学概論	1前・後	2			○								兼2	—
	経営学概論	1前・後	2			○								兼1	
	簿記論 I	1前	2			○								兼2	
	簿記論 II	1後	2			○								兼2	
	民法概論	2前	2			○								兼1	
	マーケティング論	2前	2			○								兼1	
	商法概論	2前	2			○								兼1	
小計 (7科目)	—	4	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼8		
未来をデザインする	キャリア・マネジメント論	1後	2			○								兼1	—
	キャリア・デザイン論	2前	2			○								兼1	
	実践デザインラボ I	1後	2			○			1						
	アントレプレナーシップ論	1前	2			○		1							
	アントレプレナーシップ演習	2後	2			○		1							
	リーダーシップ開発 a	1後	2			○		1							
	リーダーシップ開発 b	2前	2			○		1							
小計 (7科目)	—	0	14	0	—		1	1	0	0	0	0	兼2		
リサー	社会と統計	1後	2			○		1							兼1
	社会調査概論	1前	2			○		1							
	社会調査方法論	1後	2			○									

専門教育科目	基礎科目	チ・スキル	社会の基礎数学	1前	2	○									兼1		
		調査・実験データ処理法	2後	2	○			1									
		プログラミング基礎	1後	2	○					1							メディア
		データベース基礎	2前	2	○							1					メディア
		小計 (7科目)	—	2	12	0	—		1	0	1	0	0		兼2	—	
	コミュニケーション・スキル	英語コミュニケーションⅠa	1後	1		○									兼5		
	英語コミュニケーションⅠb	1後	1		○									兼5			
	英語コミュニケーションⅡa	2前	1		○									兼3			
	英語コミュニケーションⅡb	2前	1		○									兼3			
	英語コミュニケーションⅢa	2後	1		○									兼3			
	英語コミュニケーションⅢb	2後	1		○									兼3			
	日本語コミュニケーション基礎	1前	2	○										兼1			
	日本語コミュニケーション実践	1後	2	○										兼1			
	小計 (8科目)	—	6	4	0	—		0	0	0	0	0		兼12	—		
	基礎科目	社会情報学概論	2前	2	○			1									
		情報と職業	2後	2	○			1									
		サステナビリティ論	2前	2	○			1									
		社会システム論	2後	2	○										兼1		
		社会・集団・家族心理学	2前	2	○										兼1		
		社会言語学	2前	2	○										兼1		
		都市フィールドワーク論	2後	2	○										兼1		
		課題解決プロセス基礎	2前	2	○			1									
		社会科学における AI・機械学習	2前	2	○						1						
		マルチメディア処理	2後	2	○										兼1		
		実践デザインラボ II	2前	2	○		○			1							
		デザイン思考とデータ活用	2後	2	○				1								
		地域社会学	2前	2	○										兼1		
応用経済学		2後	2	○										兼1			
行動経済学		2後	2	○										兼1			
特別講義 a		2前	2	○				1									
特別講義 b		3後	2	○				1									
小計 (17科目)	—	0	34	0	—		4	1	1	0	0		兼7	—			
展開・応用科目	表象メディア論	2前	2	○					1								
	メディア・コミュニケーション論	2前	2	○					1								
	メディア情報学	2前	2	○			1										
	情報セキュリティ	2前	2	○			1										
	応用倫理学	2前	2	○					1								
	国際政治論	2前	2	○										兼1			
	身体論	2前	2	○					1								
	テクノロジーと性	2前	2	○					1								
	共創デザイン論	2後	2	○				1									
	社会ネットワーク論	2後	2	○										兼1			
	広告・PR論	2後	2	○		○								兼1			
	福祉社会学	2後	2	○										兼1			
	メディア心理学	2後	2	○										兼1			
	マスメディア論	2後	2	○										兼1			
	メディア・ワークショップ	2後	2	○		○				1							
	社会科学におけるデータと数理	2後	2	○				1									
	データに基づく地域創生	2後	2	○				1									
	データ時代の女性キャリア開発	2後	2	○										兼1			
	シリアスゲーム・デザイン演習	2後	2	○		○			1								
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	2後	2	○		○								兼1			
	社会科学における Web データ収集技術論	2後	2	○		○					1						
	社会科学データ分析	3前	2	○				1									
	共創デザイン・プロジェクト	3前	2	○				1									
メディア情報リテラシー	3前	2	○										兼1				
イノベーション論	3前	2	○								1			兼1			
メディアとインターセクショナルリティ	3前	2	○								1						
社会科学におけるプログラミング	3前	2	○							1							
社会科学におけるソフトウェア設計	3前	2	○							1							
課題解決プロセス応用	3前	2	○				1										

展 開 ・ 応 用 科 目	ソーシャル・マーケティング論	3前		2			○							兼1	
	ジェンダー・イノベーション	3前		2			○			1					
	リスク・コミュニケーション	3前		2			○			1					
	社会調査実習Ⅰ	3前		2				○		1					
	社会調査実習Ⅱ	3後		2				○		1					
	デジタルメディア論	3後		2		○				1					
	メディア表現	3後		2		○								兼1	
	メディアデータ分析	3後		2			○					1			
	社会科学における AI・機械学習応用	3後		2			○					1			
	社会科学における質的データ分析	3後		2			○			1					
	社会的価値創造論	3後		2			○			1					
	心理学統計法	3後		2			○							兼1	
	人工知能と人間・社会	3後		2			○			1					
	科学技術社会論	3後		2			○				1				
リスク社会論	3後		2			○				1					
小計 (44科目)		—	0	88	0		—		5	2	2	0	0	9	—
専 門 資 格 科 目	関係行政論	2前			2	○								兼1	
	言語コミュニケーション開発支援実習	3通			1		○							兼1	集中
	公認心理師の職責	2前			2	○								兼1	
	心理実習	3通			4		○							兼3	集中、おこほろ 一部共同
	精神疾患とその治療	3後			2	○								兼1	
小計 (5科目)		—	0	0	11		—		0	0	0	0	0	兼7	—
合計 (286科目)			—	48	458	11		—	5	2	2	0	0	兼203	—
学位又は称号		学士 (人間社会学)			学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
①共通教育科目： 必修科目8単位、選択必修科目6単位以上（「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」の分野から各2単位以上）、合計28単位 ②専門教育科目： 必修科目40単位、選択必修科目20単位以上（基幹科目と展開・応用科目から合計20単位以上）、合計76単位 ③その他： ①、②の要件の他、共通教育科目、専門教育科目の選択科目から合計20単位以上 ①、②、③の要件を満たし、合計124単位以上 （履修登録単位数の制限：各学期（セメスター）22単位）								1 学年の学期区分				2 学期			
								1 学期の授業期間				14 週			
								1 時限の授業時間				100 分			

資料 3

「今後の教育改革に関する 基本的考え方」

－第 3 期教育振興基本計画の策定に向けて－

(2016 年 4 月 19 日 一般社団法人日本経済団体連合会)

II. 次世代を担う人材に求められる素質、能力

(わが国を巡る内外の環境変化)

わが国では、少子高齢化の進展による生産年齢人口の急速な減少、新興市場国等とのグローバル競争の激化に直面するとともに、今後は、IoT (Internet of Things)、AI (人工知能)、ロボット、ビッグデータ等の技術進歩を通じて「第 4 次産業革命」や「Society 5.0」と呼ばれる急激な社会・産業構造の変化が生じると指摘されている。新たな経済社会では、現在ある多くの仕事がなくなるか変化することが指摘されている。

変化の激しい、将来が展望しにくい状況において経済成長を維持するためには、開かれた質の高い教育や、学び直しによる生涯学習を通じて国民一人ひとりの能力や生産性を高め、産業構造や社会の変化に主体的に対応し、生涯現役で活躍できる人材を育成することが急がれる。そのために、次世代の人材に求められる素質、能力を明らかにし、初等中等教育段階から高等教育まで、一貫したかたちでそれらを育成することが重要である。

(これからの時代に求められる素質、能力)

これからの時代に人材に求められるのは、自らの問題意識に基づき、課題を設定し、他者に正解を求めず、主体的に解を見出す能力、自らの意見を論理的に発信する力、外国語によるコミュニケーション能力、幅広い教養 (リベラル・アーツ)、多様性を尊重し、社会や文化的背景の異なる人々と協働して事業を遂行する能力などである。

また地球規模の課題を分野横断的な発想で解決することも求められていることから、理工系であっても人文社会科学を含む幅広い分野の科目を学ぶことや、人文社会科学系であっても先端技術や理数系の基礎的知識を学ぶことが重要である。さらに、「第 4 次産業革命」や「Society 5.0」への移行が進めば、これまで以上に、身の回りに情報があふれることとなるため、質の高い情報を取捨選択し、情報を課題解決のために使いこなす能力 (情報活用能力) を身につけることが必須となる。

※ 下線を付与 (学校法人 実践女子学園)

学生確保の見通し等を記載した書類

目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	P. 2
(1)	設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	P. 2
(2)	地域・社会的動向等の現状把握・分析	P. 4
(3)	新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	P. 5
i	新設学科等の趣旨目的、教育内容	P. 5
ii	定員設定の理由	P. 7
iii	今学科等を新設しなければならない理由	P. 10
iv	学納金額設定理由	P. 11
(4)	学生確保の見通し	P. 11
i	学生確保の見通しの調査結果	P. 11
ii	新設学部等の分野の動向	P. 15
iii	中期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等	P. 17
iv	競合校の状況	P. 18
v	既設学部の状況	P. 19
(5)	学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	P. 21
2	人材需要の動向等社会の要請	P. 22
(1)	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	P. 22
i	国際学部	P. 22
ii	人間社会学部社会デザイン学科	P. 23
(2)	社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	P. 23
i	卒業生の採用意向の調査結果	P. 23
ii	社会的な人材需要	P. 28

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

実践女子大学は、建学の精神として「女性が社会を変える、世界を変える」を掲げている。この建学の精神に基づき、昭和24年(1949年)実践女子大学文家政学部として発足した。その後昭和40年(1965年)に文学部、家政学部の2学部体制とした後、平成6年(1994年)家政学部を生活科学部に改めるなどの学部学科の改編を経て、平成16年(2004年)に3つ目の学部人間社会学部人間社会学科を設置した。その後、人間社会学部に現代社会学科を設置、生活科学部に現代生活学科を設置、平成26年(2014年)の渋谷キャンパス開設と時代が求める人材を輩出するために、学部学科の改編を進め、教育・研究を担ってきた。

本学は、平成26年(2014年)の渋谷キャンパス開設により、文学部、人間社会学部並びに併設の短期大学部において志願者増となったが、渋谷キャンパスの教育研究が落ち着くまで学部等の改編には着手してこなかった。また、日野キャンパスにおいても現代生活学科設置後の改編は行わなかった。また、この間に特定地域内の収容定員の抑制、入学定員の厳格化など、大学全体の学生数を維持するための施策の実施が求められてきた。

大学内では、令和6年(2024年)に向けて、既存学部学科の教育課程の見直しを行うとともに、共通教育科目の改編なども計画的に進められてきた。

大学全体で見れば、入学定員を確保してきたが、短期大学部では志願者の減少により入学定員の確保が厳しくなり、本学の教育資源を活用した新たな学部学科設置を構想することとなった。グローバル化が進展し、また社会情勢・環境が変化し続ける現代社会で発生する諸問題を解決できる能力を有する人材が求められている。本学では、英語教育はもとより、コミュニケーション力、観光を通じた地域貢献などの教育を行ってきた短期大学部の教育資源の活用が可能であること、また、現代社会が有する諸問題を解決するために必要な知識と情報化社会で必要とされる情報通信技術の知識などが求められており、人間社会学部の人材や教育手法の活用が可能であることから、新たな学科の設置を構想した。

このような社会情勢を踏まえ、令和6年(2024年)4月に、国際学部国際学科(入学定員120名)及び人間社会学部社会デザイン学科(入学定員80名)の設置を計画した。なお、大学の入学定員増に合わせて、人間社会学部現代社会学科(令和6年4月から「ビジネス社会学科」に名称変更予定)の入学定員を100名から80名に減じる。また実践女子大学短期大学部(日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科)の学生募集を停止する。これにより、短期大学部の入学定員180名、収容定員360名が減少する。

国際学部国際学科は入学定員120名、収容定員480名、人間社会学部社会デザイン学科は入学定員80名、収容定員320名とするとともに、人間社会学部現代社会学科の入学定員20名、収容定員80名を減じることにより、実践女子大学全体の収容定員は720名増の4,410名となる。これは、実践女子大学短期大学部の入学定員180名の4年分の増加である。本学渋谷キャンパスが所在する東京都渋谷区は「地域における大学の振興及び若者の雇用機

会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律」で定める特定地域に該当するが、同一法人が有する大学等の入学定員の範囲で大学の入学定員に振り替えることができる特例を用いて、入学定員、収容定員を増員するものである。

日本私立学校振興・共済事業団の入学志願動向調査によれば、令和3年（2021年）度は全国の短期大学が設置する人文系の学科のうち、86.0%が定員割れを起こしており、62.8%は入学定員充足率が80%未満となるなど、その入学者の状況は大変厳しいものとなっている。しかし、本学園が設置する短期大学部英語コミュニケーション学科は2021年度入試においても入学定員を確保しており、このことは、同学科の教育が社会的に評価されていることの証である。今後、外部環境の変化に伴い短期大学の置かれた状況がいつそう厳しさを増すことが想定される中、実績ある同学科の教育手法や人材を活用した発展的改組を検討した結果、今回の計画に至った。

<図表1>

変更前

実践女子大学

学部・学科等の名称	修業 年限 年	入学 定員	編入 学定 3年次 人	収容 定員
文学部				
国文学科	4	110	9	458
英文学科	4	110	9	458
美学美術史学科	4	90	2	364
生活科学部				
食生活科学科				
管理栄養士専攻	4	70	—	280
食物科学専攻	4	75	—	300
健康栄養専攻	4	40	—	160
生活環境学科	4	80	2	324
生活文化学科				
生活心理専攻	4	40	2	164
幼児保育専攻	4	45	—	180
現代生活学科	4	60	—	240
人間社会学部				
人間社会学科	4	100	—	400
現代社会学科	4	100	—	400
計		920	24	3,728

変更後

実践女子大学

学部・学科等の名称	修業 年限 年	入学 定員	編入 学定 3年次 人	収容 定員
文学部				
国文学科	4	110	9	458
英文学科	4	110	9	458
美学美術史学科	4	90	2	364
生活科学部				
食生活科学科				
管理栄養士専攻	4	70	—	280
食物科学専攻	4	75	—	300
健康栄養専攻	4	40	—	160
生活環境学科	4	80	2	324
生活文化学科				
生活心理専攻	4	40	2	164
幼児保育専攻	4	45	—	180
現代生活学科	4	60	—	240
人間社会学部				
人間社会学科	4	100	—	400
ビジネス社会学科	4	80	—	320
社会デザイン学科	4	80	—	320
国際学部				
国際学科	4	120	—	480
計		1,100	24	4,448

実践女子大学短期大学部

学部・学科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入 学定	収容 定員
日本語コミュニケーション学科	2	80	—	160
英語コミュニケーション学科	2	100	—	200
計		180		360

実践女子大学短期大学部

学部・学科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入 学定	収容 定員
日本語コミュニケーション学科	2	0	—	0
英語コミュニケーション学科	2	0	—	0
計		0		0

(2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析

20 世紀の後半から、ヒト・モノ・カネ・情報の移動がかつてないほど国際的な広がりを見せ、環境問題に代表される国境を越えた「世界的課題」が認識されるようになり、さらに情報通信技術が劇的な進化を遂げる中、いわゆるグローバル化が加速度的に進展しており、経済、文化、環境、情報通信など、あらゆる活動が国家の範囲には収まらず、地球規模で連動し変化するようになった。

また、本学が立地する東京は、日本の政治、経済、社会活動の中心であり、多くの企業が立地し活動を行っており、多くの海外出身の人が働き、生活をし、さらには、観光等でおとずれ、日本のグローバル化が最も進んだ地域の一つであり、また日本各地からも多くの人材が流入し多様な社会を構成している。

こうした社会環境において、「グローバル人材」（「日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提として、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野で活躍できる人材」（第 2 期教育振興基本計画））に対する企業等のニーズは高く、総務省が 2017 年に実施した調査「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」（総務省 2017 年）によれば、海外へ進出している企業の約 7 割が「グローバル人材」は不足していると回答している。そのうち、特に大企業の約 6 割においては「グローバル人材」の新卒採用が直近の 10 年間で「増加またはやや増加」していると回答しており、「グローバル人材」に対する社会的ニーズの高さが示されている。【資料 1】「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」（総務省 2017 年）

さらに、「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」（総務省 2017 年）において対象となった企業が大学に期待する取り組みとしては、「海外留学の促進」、「異文化理解に関する授業の拡充」、「ディベート等の対話型の授業の拡充」が挙げられており、英語等の語学力だけでなく、文化の多様性・異文化への理解、実践的なコミュニケーション能力の獲得が求められている。

こうした「グローバル人材」の育成に対する期待は、現在の新型コロナウイルス感染症がもたらす様々な影響下においても変わることが無く、むしろコロナ禍において「改めて国際交流・協力の重要性が再認識された」ものとして、ポストコロナの不確実な社会を見据えた「グローバル人材像」と、その育成のために高等教育が果たす役割に関する議論が進められている。

このような動きに対応して、国際学部では、「外国語」「言語・コミュニケーション」「国

際文化」「日本文化」「地域・観光」を教育課程の柱とし、グローバル化社会で求められる外国語能力を高め、異文化に対する理解、コミュニケーション力をつけた人材を育成し、社会に貢献するものである。

また、現代社会においては、社会を理解し新しい取り組みに欠かせない共創デザイン、ソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーションなどの社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材が求められてきている。

異なる立場や職業の人・団体が協力して新たな価値を創り出す共創デザインや、行政や地域社会の多様な人たちが社会を良くしていこうとするソーシャル・デザイン、社会のビッグデータを基にしてデータ分析など、既存の社会学の知識をもとに様々な問題解決手法を取り入れ、現代社会の課題を解決していく人材が求められている。さらに、ICT (Information and Communication Technology：情報通信技術) により、DX (デジタル・トランスフォーメーション) が進展し、また、ビッグデータによるデータ分析などが急速に高度化している。DXの推進を担う人材は、エンジニアやデータサイエンティストだけではなく、社会科学の知識を有し、デザイン思考やプロジェクト管理ができる人材であると考えられる。

このように、グローバル化が進展し国と国の境界がなくなり、またSDGsへの対応、ICT技術の進展による高度化された知識基盤社会における人材については、わが国全体において不足しているところであり、人材育成に資することは大学の責務であるとともに、女子大学として女性の人材育成に取り組むことの重要性は極めて高い。

人間社会学部は文学及び社会学・社会福祉学を基礎とする学部であり、「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、よりよい未来をデザインする。」をモットーにした人材育成を行ってきた。現代社会において活躍するためには、社会に関する知識とともに、様々な課題解決手法を身につけることが必要となる。本学人間社会学部に新たに社会デザイン学科を設置することは、社会が求める人材像に合致するものである。

(3)新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

i 新設学科等の趣旨目的、教育内容

1)国際学部

国際学部では、「グローバル化人材」に求められる、外国語能力の修得はもちろんのこと、異文化に対する理解、複雑化する世界情勢などに関する関心と基本的な知識の修得が重要であることから、教育課程の柱を「外国語」「言語・コミュニケーション」「国際文化」「日本文化」「地域・観光」とした。また、異文化理解のためには、単に外国語の運用能力を高めるだけではなく、異文化理解の観点から日本の文化、世界の文化に関する知識を身につけるものとする。さらに、海外留学を通して異文化に接し、その海外での体験により得た課題などに各自で取組、またその結果を発表するなど、課題発見、課題解決能力を修得する。これらの教育は、「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」(総務省 2017年)の企業

が大学に期待する取り組みである、「海外留学の促進」、「異文化理解に関する授業の拡充」、「ディベート等の対話型の授業の拡充」とも一致する。さらに、国際学部目標である、国際語である英語の運用能力とコミュニケーション能力を身につけ、異なる民族、宗教、言語、価値観が交差する国際社会に対応した専門知識を修得し、国際交流を推進できる人材の育成が実現できる。

後段で述べるが、国際学部に対して、企業から次の意見をいただき期待されている。

- ・異文化に興味を持ち、流ちょうな英語でコミュニケーションできる人材
- ・徹底した英語教育は必要不可欠
- ・国際的な視点を身につけ日本と海外を繋ぐ
- ・国際関係や観光学、英語コミュニケーション力をアップ
- ・現場では外国籍の方が増えていること、また海外からの送られてくる図面の解析・翻訳等の業務に対するニーズが増えている
- ・日本文化・東京文化などの学習

2)人間社会学部社会デザイン学科

人間社会学部社会デザイン学科は、人間社会学部の理念である「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、よりよい未来をデザインする。」に示されるとおり、人間社会学部共通科目として社会学、コミュニケーション学、経済学、経営学、心理学、統計学や英語を学修するとともに、学科独自の科目としてプログラミングやデータ処理などの ICT 関連科目を学ぶことができる。

人間社会学部の中に社会デザイン学科を設置することにより、現代社会の複雑化する社会情勢や社会システムを理解するための社会的知識やアクティブラーニングなどを通して学ぶ、各種の課題解決手法の修得ができるとともに、社会学分野においてデータサイエンス知識を活用しながら多様化する社会を分析し、新たな仕組みを構築する土台となる情報通信技術を学ぶことは大いに意義があると考えられる。社会デザイン学科で学ぶ ICT に関する専門知識は、社会科学におけるデータ収集、データ処理と関連させ、様々な課題解決手法やアイデアの創出につなげるものであり、企業が求めるデータサイエンス思考やビッグデータ処理などの知識に対応している。

後段で述べるが、社会デザイン学科に対して、企業から次の意見をいただき期待されている。

- ・データサイエンス、デザイン思考など今後より注目される分野だと考える
- ・現代社会に沿った「情報」のスキルを身につけている学生の育成に力を入れている
- ・人間関係、コミュニケーション、チームワークを科学する力
- ・データサイエンスは今後もニーズが高まる
- ・アクティブラーニングは、社会に出て大いに役立つ

ii 定員設定の理由

新学部である国際学部並びに新設学科である人間社会学部社会デザイン学科の設置を検討するにあたり、学生募集を停止する実践女子大学短期大学部の入学定員である日本語コミュニケーション学科 80 名、英語コミュニケーション学科 100 名の定員を維持する方針を定めた。そのうえで短期大学部の学生募集を停止することにより、この 180 名の入学定員を国際学部並びに人間社会学部社会デザイン学科に割り当てることとした。本学園の発展のためには、現在の経営基盤をさらに安定化させる必要があり、その方策の一つとして、現行の収容定員の増員が必要であるが、東京都 23 区内が特定地域であるため、単なる学部等設置による収容定員増が出来ない中、同一法人内の入学定員の移行による除外規定があり、この制度を用いて短期大学部の入学定員を大学に移行し、大学の収容定員増を行うこととした。また、短期大学部の入学定員の範囲であれば、4 年制にして収容定員の増員がされても渋谷キャンパスでの教育が可能であり、既存の学部学科の教育研究環境の維持は可能であることを確認したうえで構想した。

1) 国際学部

新学部となる国際学部並びに次にのべる人間社会学部社会デザイン学科の設置を検討する際に、まず実践女子大学及び実践女子大学短期大学部の入学定員を維持することを前提とした。大学が有する文学関係の学部学科は、文学部国文学科（入学定員 110 名）、英文学科（入学定員 110 名）、美学美術史学科（入学定員 90 名）、文学関係、社会学・社会福祉学関係の人間社会学部人間社会学科（入学定員 100 名）、同現代社会学科（入学定員 100 名）である。短期大学部からの移動する入学定員は最大 180 名であるため、国際学部への入学定員は 100 名～120 名が適切な入学定員と仮定した。この人数は、国際学部が教育を行う渋谷キャンパスの施設、教員組織の規模などに基づき、適切な教育環境を提供できる規模である。さらに入学試験における複数の試験ごとの募集人員の設置において、入学定員が小さくなることにより、入学試験ごとの募集人数が小さくなり過ぎないようにした。その結果、国際学部国際学科の入学定員を 120 名と定めた。

入学定員 120 名は、本学のこれまでの入学試験における広報活動や、高校訪問数、オープンキャンパス来場者数、実際の出願者数などを考慮しても、十分志願者を集められる人数である。また学生募集を停止し、特定地域内での入学定員を移行する実践女子大学短期大学部の英語コミュニケーション学科（入学定員 100 名）、日本語コミュニケーション学科（入学定員 80 名）も短大でありながら入学定員をほぼ確保してきた実績がある。文学部の国文学科及び英文学科の入学定員が 110 名、短期大学部の入学定員が 180 名であるのに対し、国際学部国際学科の定員は 120 名であり、適切な入学定員であると考えられる。

また、国際系学部を有する他大学においても昭和女子大学国際学部国際学科（入学定員 120 名）、共立女子大学国際学部国際学科（入学定員 250 名）、学習院女子大学国際文化交流学部（入学定員 355 名）、日本女子大学国際文化学部国際文化学科（入学定員 121 名）など、

国際系学科では比較的 120 名～300 名程度の入学定員に対し、志願者倍率も 5 倍～12 倍などであり、志願者の確保は十分見込まれることから、国際学部国際学科の入学定員 120 名は適切であると考えます。【資料 2】「国際系学部 志願者と倍率（ユニバースケープ株）」

なお、競合校としては、本学の受験者層の中心が東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）であることから、東京都及び近県にある女子大学及び同様の学問分野の学部学科を有する偏差値帯が本学と重なる上位の中堅共学校を想定している。これは、本学文学部、人間社会学部の過去の受験者が併願先大学としている大学のうち、国際系学部学科がある大学としたものである。

国際学部国際学科

- ・日本女子大学国際文化学部国際文化学科 入学定員 121 名
- ・昭和女子大学国際学部国際学科 入学定員 120 名
- ・昭和女子大学グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科 入学定員 110 名
- ・学習院女子大学国際文化交流学部 入学定員 355 名
- ・東洋大学国際学部グローバル・イノベーション学科 入学定員 100 名
- ・武蔵大学国際教養学部国際教養学科 入学定員 100 名
- ・大東文化大学国際関係学部国際文化学科 入学定員 100 名
- ・武蔵野大学グローバル学部グローバルコミュニケーション学科 入学定員 165 名

2)人間社会学部社会デザイン学科

人間社会学部は、これまで人間社会学科及び現代社会学科（令和 6 年からビジネス社会学科に名称変更予定）の 2 学科体制であったが、入学試験は学部一括で行い学科選考を 2 年次進級時（1 年次終了時）に行うこととしてきた。社会デザイン学科を設置した後も、入学試験は学部一括で行い、2 年次進級時に学科を選択する形をとることとした。これまで人間社会学部の入学試験の志願状況等は、次のとおり常に志願者数、受験者数、合格者数、入学者数が入学定員を超えている。

<図表 2 >

人間社会学部入学者状況

	平成30年度 2018年度	令和元年度 2019年度	令和2年度 2020年度	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度
入学定員	200	200	200	200	200
志願者数	2,076	1,907	1,438	1,307	901
志願倍率	10.4	9.5	7.2	6.5	4.5
受験者数	2,029	1,848	1,319	1,233	838
受験倍率	10.1	9.2	6.6	6.2	4.2
合格者数	511	351	387	385	420
入学者数	256	220	226	227	241

人間社会学部の従来の入学定員は人間社会学科 100 名、現代社会学科 100 名の合計 200 名を、上記の学部一括入試にて募集し、2 年次進級時に学科選考を行ってきた。社会デザイン学科の入学定員の設定にあたっては、学部一括入試の規模並びに学部全体の入学定員及び収容定員を考慮し、既存の現代社会学科（令和 6 年 4 月から「ビジネス社会学科」に名称変更）の入学定員を 100 名から 80 名に減じるとともに、社会デザイン学科の入学定員を 80 名として、人間社会学部全体の入学定員を 260 名とすることとした。図表でも示したとおり、過去 5 年間の志願者数、受験者数は学部の入学定員 200 名を超えており、令和 4 年（2022 年）度の受験者数は入学定員の 4.2 倍であり、260 名の入学定員であっても十分入学者を確保できる状況にある。

なお、ビジネス社会学科の入学定員を 100 名から 80 名に減じるのは、2 年次進級時の学科選択の状況から人間社会学科を志向する学生が多いことも考慮したものである。社会デザイン学科の設置にあたり、人間社会学部全体の入学定員が従来の 200 名から 60 名増の 260 名となり、2 年次から配属する各学科の入学定員も適切に見直しを行っており、定員を確保できるものと考えている。

また、社会学系学部を有する他大学においても日本女子大学人間社会学部現代社会学科（入学定員 97 名）、昭和女子大学人間社会学部現代教養学科（入学定員 100 名）、大妻女子大学社会情報学部社会情報学科（入学定員 300 名）、専修大学人間科学部社会学科（入学定員 147 名）、成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科（入学定員 60 名）など、他大学社会学系学部・学科の入学定員は、90 名～250 名であり、社会デザイン学科 80 名、人間社会学部の入学定員 260 名は適切である。【資料 3】「人間社会学部競合学部学科（ユニバーサスケープ(株)）」

人間社会学部社会デザイン学科

- ・日本女子大学人間社会学部現代社会学科 97 名
- ・津田塾大学総合政策学部総合政策学科 入学定員 110 名
- ・昭和女子大学人間社会学部現代教養学科 入学定員 100 名
- ・大妻女子大学社会情報学部社会情報学科 入学定員 300 名（3 専攻各 100 名 社会生活情報学専攻、環境情報学専攻、情報デザイン専攻）
- ・大妻女子大学人間関係学部人間関係学科 入学定員 160 名
- ・東京女子大学現代教養学部国際社会学科 入学定員 284 名
- ・法政大学キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 入学定員 300 名
- ・専修大学人間科学部社会学科 入学定員 147 名
- ・成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科 入学定員 60 名
- ・東洋大学社会学部 入学定員 600 名
- ・武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科 入学定員 90 名

iii 今学科等を新設しなければならない理由

1) 国際学部

国際学部では、「グローバル化人材」に求められる、外国語能力の修得、異文化に対する理解、複雑化する世界情勢に関する知識の修得をできる教育課程を編成し、単に外国語の運用能力を高めるだけでなく、異文化理解の観点から日本の文化、世界の文化に関する知識を身につけるものとする。これらの能力や知識は、現代社会が求めるグローバル化人材に一致するものである。本学は、建学の精神「女性が社会を変える、世界を変える」により、時代が求める女性人材の育成を教育の柱としており、グローバル化の進展、多様化する社会において社会に貢献できる女性の輩出は女子大学の使命と考える。グローバル化人材の不足、データサイエンティストの人材不足が言われている中、女性の活躍が期待され、将来的にも人材輩出が求められる分野であることから、女性の育成を使命とする本学においても当該分野の教育研究を進めていく必要がある。

さらに、学祖下田歌子は明治時代に海外に教育視察に赴き、海外での体験を踏まえて本学を設立した。国際学部の設置は、学祖の教育理念にも一致する。

また、学園全体で考えた場合、実践女子大学短期大学部には、日本語コミュニケーション学科及び英語コミュニケーションの2学科にてこれまで教育を行ってきたが、特に英語コミュニケーション学科では英語の語学教育とともに海外留学や海外インターンシップなど先進的に取り組んできた。しかしながら短期大学への進学者は大幅に減少しており、特に教育系、看護系以外の分野での短期大学進学者が非常に少ない現状を鑑み、実践女子大学短期大学部の学生募集を停止し、これまで培ってきた教育手法等を活用し、大学の教育にも資するためには、国際学部を設置するものである。【資料4】「日本私立学校振興・共済事業団 令和3年度大学・短期大学入学志願者動向」

2) 人間社会学部社会デザイン学科

人間社会学部社会デザイン学科は、複雑化する社会情勢や社会システムを理解するための社会学的知識やアクティブラーニングなどを通して、各種の課題解決手法の修得やデータサイエンス知識を活用しながら多様化する社会を分析し、新たな仕組みを構築する土台となる情報通信技術を学ぶなど、現代社会が必要としている、課題解決手法や社会デザイン思考などを修得する。これらの教育を行っていく必要性が高いと人間社会学部内、また大学全体でも認識してきた。また、人間社会学部は、平成11年(2023年)の現代社会学科設置時から10年が経過し、人間社会学部の教育内容は多くの受験生に支持されているところである。複雑化する社会のグローバル化、Society5.0、SDGsなどの変化により、求められる人材も多様化してきている時代において、既存の学科の教育内容の見直しだけでは、社会が求める人材育成を十分に果たすことが困難になってきた。特に、技術の進展により社会学、統計学、社会情報学、科学技術社会論、メディア論などの専門的知識に加え、情報やネットワーク、テクノロジーの技術を活用し、社会やコミュニティを創造する知識や能力を身につ

けた人材の育成が求められている。また、人間社会学部を志願する受験生は確保できているが、今後も敬座億して志願者並びに入学者の確保をするためには、新しい学問を取り入れ、教育をしていく改革が必要である。これらにより、人間社会学部に社会デザイン学科の設置をするものである。

iv 学納金額設定理由

人間社会学部社会デザイン学科の授業料は、人間社会学部に設置することから他の2学科と同額の770,000円とする。一方、国際学部は、830,000円とする。

本学の入学金は、240,000円、施設設備費は320,000円であり、人間社会学部社会デザイン学科の初年度納入金額は1,330,000円、国際学部の初年度納入金は1,390,000円である。

国際学部の学費は、渋谷キャンパスの他学部・学科と比較すると、授業料を60,000円/年、240,000円/4年間高く設定している。高く設定している事由として①国際学部独自の教育コンテンツの整備、②海外研修時の支援、③海外研修前後の英語力評価、④全員海外研修時の安心・安全な運営への充当などを想定しており、これらの支出に対する完成年度の収支均衡を実現するためである。

他大学との比較においては、本学国際学部の4年間の納付金4,916,010円は、首都圏の国際系58学部・学科の平均納付金：4,789,806円よりやや高いものの、留学を必須とする16国際系学部・学科の平均納付金4,863,278円とはほぼ同等である。このように、国際学部の学費は、大学によってかなりバラつきがあるが、競争力の観点から競合大学の学費に対し高額にならないよう考慮して設定した。【資料5】「国際系学部・学科の学費」

<図表3>

実践女子大学学費

(円)

		入学金	授業料	施設設備費	実験実習費	合計
国際学部	国際学科	240,000	830,000	320,000		1,390,000
人間社会学部	社会デザイン学科	240,000	770,000	320,000		1,330,000

参考：渋谷キャンパスの他学部他学科の学費

		入学金	授業料	施設設備費	実験実習費	合計
文学部	国文学科	240,000	770,000	320,000		1,330,000
	英文学科					
	美学美術史学科					
人間社会学部	人間社会学科 ビジネス社会学科	240,000	770,000	320,000		1,330,000

(4) 学生確保の見通し

i 学生確保の見通しの調査結果

本学国際学部及び人間社会学部社会デザイン学科の設置にあたり、両学科への入学意向を把握するために、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）に所在し、本学に進学実績のある高等学校を中心に、令和6年度（2024年度）の進学者である高校2年生の女子生

徒を対象に、第三者機関である「株式会社日本ドリコム」を介してアンケートを実施した。

【資料6】「実践女子大学 国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（高校生）」

調査は令和4年（2022年）11月～令和5年（2023年）1月の期間で行った。

調査方法は、高等学校218校に対してアンケートの依頼を行い、141校の協力を得て、協力校にアンケート用紙と実践女子大学国際学部国際学科及び実践女子大学人間社会学部社会デザイン学科のリーフレットを送付し、対象者が直接アンケート用紙に記入する方法並びに一部高等学校にはWebでの回答を併用して実施した。なお、アンケートの回答用紙は、高校から直接第三者機関である日本ドリコム社に郵送してもらい、その集計を日本ドリコムが行った。

アンケートの実施にあたっては、内容の異なる2学科の調査となるため、興味のある学問分野や新学部学科での教育内容等については、全員に回答を求め、その後に本学への受験意向、合格後の入学意向、入学したい学部学科を問う形にした。

アンケート用紙を送付した高校には共学校も多くあり、回答用紙の回収2万枚超に対し、高校2年生、女子に限ると有効回答数は13,259件となった。

さらに高校卒業後の希望進路として、「大学・専門職大学」選択したものは、10,446件（78.8%）であったので、10,446件を対象に集計処理を行い分析した。

○関心がある学びの分野（複数回答）

高校2年生の秋の実施だったため、ある程度の志望分野は絞っていると思われるが、次のとおりであり、社会科学・教育、文学、芸術・体育への関心が高く、国際学部及び社会デザイン学科に関する分野としては、人文科学（文学・語学）2,742件（26.2%）、社会科学・教育（法学・経済学・社会学/社会福祉・教育学/保育学）3,774（36.1%）であった。

関心がある学びの分野

【MA】	件数(N)	割合
全体	(10446)	
人文科学(文学・語学)	2742	26.2%
社会科学・教育 (法学・経済学・社会学/社会福祉・教育学/保育学)	3774	36.1%
理工学(理学・工学)	1040	10.0%
農学・獣医学	765	7.3%
医学・保健衛生(医学/歯学・薬学)	1247	11.9%
保健衛生(看護・リハビリ等)	1722	16.5%
芸術・体育(美術・音楽・体育)	2103	20.1%
家政	868	8.3%
未定/わからない	430	4.1%
無回答	15	0.1%

以下、国際学部国際学科及び人間社会学部社会デザイン学科に関する分野として、関心がある学びの分野に「人文科学」「社会科学・教育」のいずれか一つ以上を回答した5,253件

を対象として集計した。

○国際学部国際学科の特色について関心が持てるもの

国際学部国際学科では、「外国語」「言語・コミュニケーション」「国際文化」「日本文化」「地域・観光」を専門教育の柱とするとともに、オフキャンパス・プログラムにより、海外留学を通して異文化に接することなどを掲げている。アンケートでは、オフキャンパス・プログラムの海外留学、「外国語教育」における英語の授業に関心がもたれており、学科の特色としている点が、受験生の関心も高く、学生確保、さらには入学後の教育に結びついていくものとする。

アンケートの結果次のとおりである。

「6レベルの英語授業」2,074 (39.5%)、「3ヶ月以上の海外留学」2,835 (54.0%)、「渋谷での学び」1,806 (34.4%)

○人間社会学部社会デザイン学科の特色について関心が持てるもの

人間社会学部社会デザイン学科を設置する人間社会学部は、人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科の3学科を設置し、学科選択は、1年次の人間社会学に関する様々な学びを通じた後の2年次としている。さらに、1年次から少人数ゼミが必修としてあり、4年間通してゼミを履修することは学部開設時から変わらない教育の柱である。アンケートでは、幅広い視野を持てる人間社会学部の一括募集(2年次に所属学科を選ぶ)、1年次から少人数のゼミでアクティブラーニング(プレゼン能力・ディスカッション能力が身につく)への関心が高く、このことは社会デザイン学科はもとより、人間社会学部全体の志願者確保につながるものと考えられる。

アンケートの結果次のとおりである。

「人間社会学部の一括募集」2,402 (45.7%)、「PBL やビジネスコンテストへの参加」1,504 (28.6%)、「アクティブラーニング」2,102 (40.0%)

以上のとおり、両学科の学びの特色に対する関心は高く、これらのものの本学の受験意向、入学意向及び進学したい学科についての回答は次のとおりであった。

○受験意向

国際学部国際学科・人間社会学部社会デザイン学科の受験意向として、受験者層として想定される、関心がある学びの分野に「人文科学」「社会科学・教育」のいずれか一つ以上と回答した5,253名の内、受験意向を示したのは1,065名であり、そのうち「受験したい」と回答した者は291名(5.5%)、「受験を検討したい」は774件(14.7%)であった。

受験意向

	件数(N)	割合
全体	(5253)	
受験したい	291	5.5%
受験を検討したい	774	14.7%
受験しない	2608	49.6%
わからない	1520	28.9%

○入学意向

受験意向として「受験を検討したい」「わからない」と回答したものを除く、「受験したい」との明確な意思を回答した 291 名の内、国際学部国際学科・人間社会学部社会デザイン学科への入学意向を示したのは 235 名であった。なお、この 235 名は、「併願校が不合格だった場合入学したい」と回答したものは除かれており、「入学したい」との明確な入学意思を回答したもののみの数値となっている。

入学意向

	件数(N)	割合
全体	(291)	
入学したい	235	80.8%
併願校が不合格だった場合入学したい	53	18.2%
無回答	3	1.0%

○入学希望学科

1) 国際学部国際学科

国際学部国際学科・人間社会学部社会デザイン学科への入学意向を示した 235 名のうち、国際学部と関係する、関心がある学びの分野において「人文科学」「社会科学・教育」のいずれか一つ以上に回答したものを対象として集計した結果、133 名の入学希望者があった。

2) 人間社会学部社会デザイン学科

国際学部国際学科・人間社会学部社会デザイン学科への入学意向を示した 235 名のうち、人間社会学部社会デザイン学科と関係する、関心のある学びの分野において「社会科学・教育」と回答したものを対象として集計した結果、93 人の入学希望者があった。なお、人間社会学部社会デザイン学科に入学したいと回答したものは、前述 93 人のほか、関心のある学問分野が人文科学のみだったものが 9 名あり、それを加えた合計は 102 件であった。

入学希望学科

	件数(N)
全体	(235)
国際学部 国際学科	133
人間社会学部 社会デザイン学科 ※1	93
その他※2	9

※1：関心ある学びにおいて、社会科学・教育（法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学）を回答したもののみ集計

※2：人間社会学部 社会デザイン学科に入学したいと回答したもののうち、人文学（文学・語学）のみを回答したもの

以上のとおり、東京圏を中心とした、本学国際学部国際学科並びに人間社会学社会デザイン学科への入学意向調査において、両学部学科とも学生確保が十分に行える回答を得た。

さらに、今回のアンケートが東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の回答数が12,029（90.7%）、関東地方（東京圏及び茨城県、栃木県、群馬県）では12,509件（94.3%）となり、上記の関東地方以外の地域の回答は750件（5.7%）である。

本学への入学者の割合は、おおよそ関東地方出身者が80%強、関東地方以外の出身者が20%弱であるので、他地域からの志願者、入学者を想定すれば、入学定員を十分確保できる。

ii 新設学部等の分野の動向

国際学部並びに人間社会学部社会デザイン学科の設置にあたり、学問分野に対する高校生の受験志向、地域的問題などを検討した。

1) 国際学部国際学科

グローバル化が進展し、グローバル社会に貢献できる人材育成が求められて久しく、国際系学部学科（国際、国際文化、国際関係等）は多くの大学が設置している。本学がこの時期に国際系学部の設置を計画した背景には、国際系の学部学科を志望する受験生が一定以上の割合でいることともに、グローバル社会で真に貢献できる人材の育成を行うためである。

国際系学部を志望する受験生は、令和4年度学校基本調査 大学入学状況（関係学科別）からも明らかであり国際関係学部の女子の入学志願者数総数は20,000人を超え、そのうち私立大学の国際関係学系の入学志願者数は19,475人、入学者数2,548人である。この数値は、平成29年（2017年）から5年間維持している。

さらに、本学の国際学部では、学科の特色として、英語力の強化、海外留学、日本文化、国際文化などの他、地域振興や観光、異文化コミュニケーションなどを学べる点であり、前述の高校生を対象としたアンケートの結果においても人文学、社会科学に関心があることから、国際学部の志願者は、国際関係学に限らず、文学部、外国語学部などの外国語系、

また社会学などの分野からも志願者があると想定している。

<図表4>令和4年(2022年)度国際関係学部の志願者状況

国際関係学(国際関係学部)	平成30年度 2018年度	令和元年度 2019年度	令和2年度 2020年度	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度
入学志願者数	21,334	27,351	23,685	22,570	20,092
入学者数	2,589	2,902	2,866	2,983	2,735
入学志願者(私立)	20,976	27,006	23,393	22,106	19,475
入学者数(私立)	2,473	2,794	2,751	2,804	2,548

※令和4年度学校基本調査 高等教育機関大学・大学院 関係学科別大学入学状況をもとに、女子の数値を抽出し作成

また、ユニバースケープ社による調査では、東京圏にある国際系学部(教養系、コミュニケーション系学部を含む)・学部等59学部学科が50大学ほどに設置されており、その学校への志願者動向は令和4年(2022年)度で志願者数52,235名であった。59学部のうち女子大学に設置されているのは11学部(志願者6,637名)であるが、国際系学部は女子の志願者が多いため、共学大学でも女子の進学者が65%程度あることから、共学大学の志願者数のうち65%が女子と推定すれば、30,000名弱の志願者数と想定される。【資料2】再掲

2)人間社会学部社会デザイン学科

社会デザイン学科では、社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材を育成することを目的としている。これは、学部のモットーである「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、よりよい未来をデザインする。」に一致し、また、人間社会学部の既存学科である人間社会学科、現代社会学科(令和6年4月学科名称変更予定)とも共存するものである。

人間社会学部は、社会科学のうち社会学が最も近い分野といえる。社会科学の志願者数等は非常に多く、令和4年度学校基本調査大学入学状況(関係学科別)によれば、令和4年(2022年)であっても12万人を超える女子の志願者がある。また、社会デザイン学科について人間社会学部の中に設置する学科であるので、その学問分野も社会学である。

<図表5>令和4年(2022年)度社会科学(社会学部)の志願者状況

社会科学(社会学)	平成30年度 2018年度	令和元年度 2019年度	令和2年度 2020年度	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度
入学志願者数	131,386	138,287	124,773	122,808	124,215
入学者数	17,739	17,719	17,811	18,175	18,453
入学志願者(私立)	125,819	132,519	119,275	117,440	118,476
入学者数(私立)	16,276	16,256	16,412	16,615	16,820

※令和4年度学校基本調査 高等教育機関大学・大学院 関係学科別大学入学状況をもとに、女子の数値を抽出し作成

東京圏においては、社会科学系統の学部等を設置する大学の多くは女子大学ではなく共学大学である。主要大学の学部の女子比率では、50%を超える女子学生が所属する大学がかなりあるとともに、50%を以下の大学であっても、30%を超える大学が多く存在する。【資料7】「競合学部学科女子比率（ユニバースケープ(株)」

iii 中期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

本学が立地する東京都は、日本最大の人口を擁するとともに、大学進学率でも69.8%と高い。さらに、大学進学時には、他県から東京の大学に進学する人数も非常に多くなっている。また、国際学部国際学科並びに人間社会学部の教育研究を行う渋谷キャンパスは、関東の各地から通学するにも至極便利な場所であり、学生募集における優位性がある。本学は、渋谷キャンパス（文学部、人間社会学部）と日野キャンパス（生活科学部）を設置するが、令和4年（2022年）度の大学全体の入学者数1,034名の出身都道府県では、東京都364名（35.2%）、埼玉県170名（16.4%）、神奈川県134名（13.0%）、千葉県105名（10.2%）の4都県で全体の4分の3にあたっている。【資料8】「令和4年度（2022年度）実践女子大学・短期大学部出身都道府県別入学者数」

東京都は他の地域からの受験生や入学生も毎年一定程度あるが、日本全国で人口が減少しているので、ここでは、本学が所在する東京都を中心として、中期的な18歳人口の動向を、国勢調査結果を参考として検証する。

2020年度の国勢調査によると、女子の人口は15歳が全国で514,877人、東京都は47,019人、埼玉県29,449人、千葉県25,400人、神奈川県36,733人であり、4都県で全体の27%の人口を有する。また、10歳人口、5歳人口をみてもこの4都県が全国の4分の1の人口を有している。

将来的に日本の人口が減少となっていくが、中期的には本学が入学者を確保するには十分な18歳人口があると考えられる。

<図表6>

地域別女子の人口

地域名	総数	0歳		5歳		10歳		15歳	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
全国	62,465,616	397,871		478,571		508,384		514,877	
埼玉県	3,539,406	22,580	5.7	27,212	5.7	28,983	5.7	29,449	5.7
千葉県	3,042,017	19,292	4.8	23,298	4.9	24,827	4.9	25,400	4.9
東京都	6,740,800	46,831	11.8	52,123	10.9	49,864	9.8	47,019	9.1
神奈川県	4,470,478	29,082	7.3	34,792	7.3	36,941	7.3	36,733	7.1

(令和2年国勢調査人口等基本集計より作成)

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来人口推計（平成30年）」の都道府県別0-14歳人口の指数によれば、日本全国では、2015年（平成27年）に対し、2030年（令和12年）の0歳～14歳の人口は82.9に対し、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の4都県はいずれも全国の値よりも大きく減少幅が小さいところから、中期的にみても受験対象者層の人数は十分にあると考えられる。

<図表 7>

都道府県別0-14歳人口と指数(平成27(2015)年=100)

地 域	総人口(1,000人)							指数(平成27(2015)年=100)	
	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成42年 (2030)	平成57年 (2045)
全 国	15,945	15,075	14,073	13,212	12,457	11,936	11,384	82.9	71.4
埼 玉 県	914	871	819	779	744	723	698	85.2	76.5
千 葉 県	768	724	675	639	608	589	569	83.2	74.1
東 京 都	1,523	1,534	1,508	1,471	1,443	1,432	1,408	96.6	92.4
神 奈 川 県	1,145	1,092	1,028	977	937	917	891	85.3	77.8

注) 指数とは、平成27(2015)年の0-14歳人口を100としたときの0-14歳人口の値のこと。

※データは男女合計の数値である。男女比はおおよそ50対50。

※都道府県別0-14歳人口と指数から、4都県を抽出

iv 競合校の状況

1)国際学部

本学の国際学部の学問分野は文学であることから、競合する大学は、学部学科名称が同じ国際学部もしくは国際学科、また国際文化、国際教養などの学部学科名としている大学の国際系学部を想定している。国際系学部は東京圏だけでも59学部学科を数える。国際系学部として私立大学では早稲田大学国際教養学部国際教養学科以下、共学の総合大学を中心に国際教養学部、国際学部等が設置されている。また、海外留学を必須として課している大学も競合校と考える。

具体的には本学の受験者層の中心が東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）であることから、東京都及び近県にある女子大学及び偏差値帯が本学と重なる上位の中堅共学校を想定している。これは、本学文学部、人間社会学部の過去の受験者が併願先大学としている大学のうち、国際系学部学科がある大学としたものである。個別大学としては、日本女子大学国際文化学部（令和5年開設）、昭和女子大学国際学部、共立女子大学国際学部、学習院女子大学国際文化交流学部などの女子大学設置学部の他、東洋大学国際学部、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部、武蔵大学国際教養学部、武蔵野大学グローバル学部などを想定している。

これらの大学の志願状況等を見ると、2022年度入試において共学大学では10倍以上、女子大学でも5倍以上の志願倍率となっており、各大学入学定員を充足している。また、共学大学を含む国際系学部の入学定員の合計11,950人に対し、志願者数総計は52,235人であり、女子大学に限っても入学定員2,161人に対し、志願者総数は6,637人である。このことから、本学国際学部が設置後であっても、十分な志願者が確保できる。【資料2】「国際系学部 志願者と倍率」

以上のことから、本学国際学部においても十分入学者を確保できると考える。

2)人間社会学部社会デザイン学科

人間社会学部社会デザイン学科の競合校としては、本学の受験者層の中心が東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）であることから、東京都及び近県にある女子大学を想定しており、また同様の学問分野の学部学科を有する偏差値帯が本学と重なる上位の中堅共学校を想定している。これは、これまでの人間社会学部の受験者の併願先大学の社会学系学部学科である。

社会学系学部等は首都圏にも多数あるが、人間社会学部の偏差値（52.5）をもとに前後の偏差値域にある大学を競合校と想定した。国際学部同様に既存学部受験者の併願先から考えると、女子大学であれば日本女子大学人間社会学部、東京女子大学現代教養学部、昭和女子大学人間社会学部、大妻女子大学社会情報学部など、共学大学では、東洋大学社会学部、成城大学文芸学部、専修大学人間科学部などを想定している。

これらの大学を含めた社会科学系学部学科の入学定員の総数は 13,817 人に対し、2022 年度入試における一般入試の志願者数総数は 96,474 人、共通テスト志願者総数は 37,311 人であり、入学定員に対して 9.7 倍の志願者がある。このことから、本学人間社会学部社会デザイン学科が入学定員を増加しても志願者が十分確保できる。【資料 3】「人間社会学部競合学部学科」

以上のことから、本学人間社会学部社会デザイン学科においても十分入学者を確保できると考える。

v 既設学部の状況

実践女子大学渋谷キャンパスでは、文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科及び人間社会学部人間社会学科、現代社会学科が教育を展開するとともに、実践女子大学短期大学部日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科がある。なお、日野キャンパスでは生活科学部が 4 学科で教育を展開している。

本学の既存学部の過去 5 年間の志願者、合格者、入学者数は次のとおりであり、志願者数は減少の傾向を示しているが、入学定員を上回る合格者を出し、毎年入学定員を充足している。また、全国的に短期大学の志願者は減少しており、学生の確保が困難な短期大学が多い中、短期大学部においては入学定員を満たす学生を確保してきた。

国際学部においては、既存の学部としては短期大学部英語コミュニケーション学科が分野的には近く、過去 5 年間短期大学部への志願者数が減少する中、入学定員 100 名を確保してきたことを踏まえると、入学者の確保が十分にできると考える。

新たに社会デザイン学科を設置する人間社会学部は、入学試験を学部一括で行ってきており、これまで 2 学科の入学定員 200 名に対して、ここ数年志願者数は減少してきているが、1,000 名ほどの志願者があり、入学者数も定員 200 名を確保している。社会デザイン学科の設置は、人間社会学部に新たな学問領域を追加することになり、受験生の興味・関心

の領域が広がることにより、これまで以上の志願者を集めることができ、学生確保は十分にできると考える。

<図表8> 過去5年間志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

	入学定員	2018年度					2019年度				
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率
文学部	310	2,614	2,497	909	387	1.25	2,997	2,868	752	376	1.21
国文学科	110	901	853	312	143	1.30	1,125	1,075	255	147	1.34
英文学科	110	1,073	1,029	323	133	1.21	1,051	1,003	283	126	1.15
美学美術史学科	90	640	615	274	111	1.23	821	790	214	103	1.14
生活科学部	410	3,277	3,091	1,227	508	1.24	3,171	3,013	1,145	454	1.11
食生活科学科	185	1,532	1,435	608	225	1.22	1,457	1,369	590	195	1.05
管理栄養士専攻	70	712	669	212	92	1.31	676	631	218	72	1.03
食物科学専攻	75	511	482	276	88	1.17	484	464	240	82	1.09
健康栄養専攻	40	309	284	120	45	1.13	297	274	132	41	1.03
生活環境学科	80	432	407	160	99	1.24	473	454	169	87	1.09
生活文化学科	85	729	690	234	103	1.21	718	679	201	103	1.21
生活心理専攻	40	502	483	157	55	1.38	493	477	109	56	1.40
幼児保育専攻	45	227	207	77	48	1.07	225	202	92	47	1.04
現代生活学科	60	584	559	225	81	1.35	523	511	185	69	1.15
人間社会学部	200	2,076	2,029	511	256	1.28	1,907	1,848	351	220	1.10
人間社会学科	100										
現代社会学科	100										
大学合計	920	7,967	7,617	2,647	1,151	1.25	8,075	7,729	2,248	1,050	1.14

	入学定員	2020年度					2021年度				
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率
文学部	310	2,709	2,462	845	349	1.13	1,844	1,718	803	360	1.16
国文学科	110	1,018	907	253	124	1.13	598	561	192	132	1.20
英文学科	110	957	884	327	126	1.15	616	575	324	125	1.14
美学美術史学科	90	734	671	265	99	1.10	630	582	287	103	1.14
生活科学部	410	2,976	2,742	1,221	457	1.11	2,311	2,102	1,084	439	1.07
食生活科学科	185	1,235	1,126	604	189	1.02	1,163	1,036	491	192	1.04
管理栄養士専攻	70	598	549	179	75	1.07	530	471	157	76	1.09
食物科学専攻	75	375	342	247	74	0.99	355	322	191	76	1.01
健康栄養専攻	40	262	235	178	40	1.00	278	243	143	40	1.00
生活環境学科	80	499	460	176	95	1.19	379	350	163	94	1.18
生活文化学科	85	763	710	228	100	1.18	413	381	225	92	1.08
生活心理専攻	40	425	402	117	53	1.33	254	233	99	49	1.23
幼児保育専攻	45	338	308	111	47	1.04	159	148	126	43	0.96
現代生活学科	60	479	446	213	73	1.22	356	335	205	61	1.02
人間社会学部	200	1,438	1,319	387	226	1.13	1,307	1,233	385	227	1.14
人間社会学科	100										
現代社会学科	100										
大学合計	920	7,123	6,523	2,453	1,032	1.12	5,462	5,053	2,272	1,026	1.12

	入学定員	2022年度				
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率
文学部	310	1,182	1,103	792	334	1.08
国文学科	110	339	310	228	119	1.08
英文学科	110	438	415	331	117	1.06
美学美術史学科	90	405	378	233	98	1.09
生活科学部	410	1,902	1,757	997	459	1.12
食生活科学科	185	974	889	418	210	1.14
管理栄養士専攻	70	473	422	169	73	1.04
食物科学専攻	75	298	276	149	91	1.21
健康栄養専攻	40	203	191	100	46	1.15
生活環境学科	80	317	296	173	94	1.18
生活文化学科	85	350	326	168	96	1.13
生活心理専攻	40	181	169	94	45	1.13
幼児保育専攻	45	169	157	74	51	1.13
現代生活学科	60	261	246	238	59	0.98
人間社会学部	200	901	838	420	241	1.21
人間社会学科	100					
現代社会学科	100					
大学合計	920	3,985	3,698	2,209	1,034	1.12

(5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

① オープンキャンパス

本学のオープンキャンパスは、年間渋谷キャンパス、日野キャンパスそれぞれ 10 回開催し、それぞれのキャンパスの学びを、学科教員、事務職員、学生スタッフが説明するなど、来場者一人一人に対して、それぞれ興味関心にこたえる形で実施している。

コロナ禍においてもオンラインによるオープンキャンパスを実施するなど、工夫を凝らし、来場者の満足度が高く、志願者確保に高い効果がある。

2022 年度の年間オープンキャンパス（2022 年 3 月～2022 年 10 月）の参加者数は 5,021 人あった。

② 高校等訪問

本学の入学支援課では、首都圏の高校を中心に、高校訪問を日常的に繰り返し実施しており、高校の先生方とのつながりも大切にしてきている。現在、進学実績の多い高校約 250 校について訪問担当を設定し、年間を通じて訪問し高校との関係を築いている。

高校の先生方から、本学を紹介していただくことにより、高校生の志望につながるなど、志願者確保に高い効果がある。

今回の国際学部及び人間社会学部社会デザイン学科の設置届出に伴う高校生の受容性調査を行う際にも、各高校の学事日程等が厳しい中、依頼した学校のうち 141 校が協力していただけるなど、強いつながりができている。

③ キャンパス見学会

受験生を対象としたキャンパス見学会を実施し、実際に学生が受講している授業や学生が利用している施設などを見学してもらうことにより、大学の授業をより身近に感じてもらうことになり、また、在学生からの説明などにより、実際の大学での学びの特徴などを聞くことで、大学での学びへの関心が高まり、志望者増につながる。また、施設や立地などを直接体験することにより、キャンパスの利便性なども体感することとなる。

④ 進学相談会

対面形式の進学相談会の回数が減少してきてはいはいるが、首都圏を中心とするとともに、地方入試を行う都市や、本学への志願者は少ないが重要な都市などを選択し、効率的に参加することとしている。大学独自では直接訪問などが難しい地域の高校生に対しても、本学を PR する重要な機会として活用している。進学相談会を活用することにより、HP 等での検索では、すでに知っている大学や学部の情報に目が留まりやすくなるが、対面式の進学相談会では、進学したい学問分野の学部学科を有している大学などにも関心が向き、大学にとっては新たな受験生の獲得につながられる。

⑤ 新学部設置特別イベントの開催

令和5年(2023年)7月に渋谷キャンパスにおいて、新学部向け特別イベントを開催予定している。新学部・新学科の学問領域を題材とした探究学習講座を行い、進路指導における探究ニーズに役に立つ講座を用意しPRすることで、高校現場における新学部・新学科の理解促進を図り、志願者の獲得を目指す。

⑥ 新学部・学科の特設Webサイトの設置

国際学部及び人間社会学部社会デザイン学科の特設Webサイトを設置し、各種進学メディアと連動しながら情報を発信する、特設Webサイトを設置することで、受験生・ステークホルダーの新学部・新学科に対する理解の促進を図り、志願者の獲得を目指す。

⑦ 新学部・学科紹介の特別リーフレット作成

国際学部及び人間社会学部社会デザイン学科を紹介する特別リーフレットを各2種類(計4種類)作成し、常に最新の情報を更新した状態で、段階的な情報発信を行う。これにより、受験生、高校の教員等に新学部・新学科をPRするとともに、理解を深めてもらい、志願者の獲得を目指す。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1)人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

i 国際学部

国際学部は、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて移動するグローバル社会、そして多様な言語、文化、民族、宗教、価値観等が共存する複雑な現代世界において、異文化の人たちとコミュニケーションができる外国語運用能力を身に付け、未知の物事に対して主体的に接し、多様性の尊重と寛容な精神のもと、言語・文化・民族・宗教・価値観等が異なる人々との共存共栄をはかる人材を養成することを目標とする。

その実現のために、国際学部では、外国語運用能力の向上とともに、4つの柱とする言語・コミュニケーション群、国際文化群、日本文化群、地域・観光群の各授業科目を学び、日本文化、国際文化の専門的知識とともに優れたコミュニケーション力を培う。また、海外留学や国内外のインターンシップなどの課外活動を通じて、ヒト、モノ、カネの動きが迅速になる地球規模の広がりを見せている現代における様々な課題の発見と問題解決に向かう積極性と能力を修得させる。その結果、グローバル企業などにおける海外スタッフ、サービス業における旅客サービス、商社・小売、メーカーなどの企業における海外営業や貿易事務、IT企業やベンチャーキャピタル企業、政策や観光などに係る公務・公益、NGOやNPOなどでの活躍できる人材を育成する。

ii 人間社会学部社会デザイン学科

社会デザイン学科では、複雑な現代社会において、社会学に関する分野はもちろん、社会を理解し新しい取り組みに欠かせない共創デザイン、ソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーションなどの社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材を養成することを目的とする。

この目的のため、社会デザイン学科では、国内外の多様な人間と社会と文化のあり方について理解し、受容し、尊重しようとする態度、人間と社会と文化のあり方に関して、望ましい価値観を探究しようとする態度を身に付け、社会学、統計学、社会情報学、科学技術社会論、メディア論などの専門的知識に加え、情報やネットワーク、テクノロジーの技術を活用し、社会やコミュニティを創造する知識や能力を身につけ、社会の様々な分野で社会人・職業人として活躍できる能力を養う。そして、サービス、マスコミ、メディア関連等の企業における企画・事業開発、リサーチャー、アナリスト、コンサルタント、金融、商社、IT・情報、シンクタンクなどの仕事が考えられる。また、公務員・公的団体、NPO 法人など公共分野での活躍も期待できる。

(2) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

i 卒業生の採用意向の調査結果

本学国際学部国際学科及び人間社会学部社会デザイン学科を設置するにあたり、社会的ニーズを客観的かつ定量的に把握するために、国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査（企業）を行った。

○調査概要

調査の目的 国際学部国際学科、人間社会学部社会デザイン学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体を対象に、その関心度や想定する採用人数を調査。

調査期間 令和4年（2022年）11月29日～令和4年（2022年）12月24日

調査方法 卒業生の就職先として想定される企業・団体の人事採用担当者
オンライン回答フォームと質問紙による調査

有効回答数 114件

調査会社 株式会社日本ドリコム

アンケートにおける調査対象は、当該学部学科の卒業生の就職先として想定される東京都に所在する企業・団体を中心に行い、114の企業・団体より有効な回答を得た。今回の調査は、養成する人材像が異なる2学科に関するニーズ調査であることから、はじめに所在する都道府県、業種、従業員数、新卒者を採用する際の重視する能力、人材の過不足の状況、直近の新卒者の採用人数、今後の新卒採用の計画を尋ね、そのうえで国際学部国際学科及び人間社会学部社会デザイン学科の社会的ニーズ、国際学部国際学科、人間社会学部社会デザ

イン学科の卒業生の採用意向を調査した。【資料9】「実践女子大学 国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（企業）」

○業種

今回の調査に回答のあった企業・団体の業種は次のとおりである。この回答状況は、就職状況の業種分類とはことなるが、本学全体の卒業生の就職先とほぼ一致する。

業種

MA N=114

業種	回答数	割合
1. 農林漁業・鉱業・建設	6	5.3%
2. 製造業	18	15.8%
3. 情報通信業	20	17.5%
4. 運輸業・卸売業・小売業	38	33.3%
5. 金融・保険・不動産業	9	7.9%
6. 宿泊・飲食サービス業	7	6.1%
7. 医療・福祉業	1	0.9%
8. 対個人サービス業	6	5.3%
9. 他事業所サービス業	8	7.0%
10. 電気・ガス・熱供給・水道業	5	4.4%
その他	13	11.4%

○新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか（複数回答）

今回の調査に回答により、国際学部国際学科、社会デザイン学科のニーズが高いと回答した企業・団体の採用する際の重視する能力は次のとおりであり、いずれの学科であっても、「コミュニケーション能力」、「協調性」、「主体性」が上位であった。

新卒者を採用する際に重視する能力

新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。MA

単位% N=114

能力	回答数	割合
コミュニケーション能力	109	95.6%
協調性	85	74.6%
柔軟性・素直さ	76	66.7%
主体性	75	65.8%
チャレンジ精神	60	52.6%
ストレス耐性	57	50.0%
責任感	53	46.5%
協働力	51	44.7%
思考力	41	36.0%
課題解決能力	39	34.2%
実践力	37	32.5%
成長力	33	28.9%
ホスピタリティマインド	31	27.2%
リーダーシップ	24	21.1%
創造性	22	19.3%
学業成績・一般常識	16	14.0%
専門性	5	4.4%
取得資格	4	3.5%
出身学部・学科	2	1.8%
その他	1	0.9%

※回答数の多い順に並び替え

○国際学部国際学科

国際学部国際学科が養成する人材の社会的ニーズについて「ニーズは高い」(53.5%)、「どちらかといえばニーズは高い」(42.1%)と95%にあたる109の企業・団体から回答があり、この109社・団体のうち「採用したい」は60.0%65件であった。さらに、国際学部国際学科の卒業生の今後の採用想定人数を合計すると162人となり、人材の需要は十分に高い。

国際学部 国際学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

N=114

ニーズ	回答数	割合
ニーズは高い	61	53.5%
どちらかといえばニーズは高い	48	42.1%
どちらかといえばニーズが低い	5	4.4%
ニーズが低い	0	0.0%

国際学部 国際学科及び人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材の、
貴事業所での今後の採用意向

N=114

採用意向	回答数	割合
採用したい	65	57.0%
採用を検討したい	39	34.2%
どちらとも言えない	10	8.8%
採用しない	0	0.0%

学科ごとの採用意向および採用想定人数

国際学部 国際学科

N=104

採用意向	回答数	採用想定人数
採用したい	65	162
採用を検討したい	39	41

なお、受容性調査における自由記述においても次の意見等があった。これらの意見は、国際学部が教育課程の柱としている「外国語」「言語・コミュニケーション」「国際文化」「日本文化」「地域・観光」の必要性を就職の現場でも求めていることであり、また、異文化理解のために単に外国語の運用能力を高めるだけではなく、異文化理解の観点から日本の文化、世界の文化に関する知識を身につけることの必要性も述べているものである。さらに、海外留学を通して異文化に接し、その海外での体験により得た課題などに各自で取組や課題解決能力を修得することなど、国際学部が行う教育内容が人材育成にもつながり、就職先でも必要とされていると考えられる。

- ・コロナ禍もあったが、今後も異文化や国際分野は重要になってくる。このようなさまざまな視点を身に着けることができる学部は必要だと感じた
- ・ワールドワイドに活躍するからこそ、日本のことを学ぶカリキュラムは活躍するうえで必要だと思いますしとても魅力的に感じました
- ・当社の事業発展に貢献できそうに感じた
- ・日本市場がシュリンクする予測の中、日本企業の海外進出は必須となる。異文化に興味を持ち、流ちょうな英語でコミュニケーションできる人材に期待したい

- ・グローバル化が進む中、海外に触れ、多様な経験をされている学生は魅力的でございます
- ・日本にいても英語を使った業務・会社は増えていると感じます。徹底した英語教育は必要不可欠です
- ・世界との繋がりがボーダレスになっていく中で、グローバルな視点を持つ人材の育成は喫緊の課題であると思う。新学部にそういう人材の輩出を期待したい
- ・国際的な視点で国境を超えて活躍できる人材の育成はとても社会的意義があると考えます

○人間社会学部社会デザイン学科

人間社会学部社会デザイン学科が養成する人材の社会的ニーズとしては、「ニーズは高い」(48.2%)、「どちらかといえばニーズは高い」(48.2%)と96%にあたる110の企業・団体から回答があり、この110社・団体のうち「採用したい」は59.9%65件であった。さらに、人間社会学部社会デザイン学科の卒業生の今後の採用想定人数を合計すると183人となり、人材の需要は十分に高い。

人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

N=114

ニーズ	回答数	割合
ニーズは高い	55	48.2%
どちらかといえばニーズは高い	55	48.2%
どちらかといえばニーズが低い	4	3.5%
ニーズが低い	0	0.0%

国際学部 国際学科及び人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材の、
貴事業所での今後の採用意向

N=114

採用意向	回答数	割合
採用したい	65	57.0%
採用を検討したい	39	34.2%
どちらとも言えない	10	8.8%
採用しない	0	0.0%

学科ごとの採用意向および採用想定人数

人間社会学部 社会デザイン学科

N=104

採用意向	回答数	採用想定人数
採用したい	65	183
採用を検討したい	39	62

なお、受容性調査における自由記述においても次の意見等があった。これらの意見は、人間社会学部社会デザイン学科が、現代社会の複雑化する社会情勢や社会システムを理解するための社会学的知識やアクティブラーニングなどを学び、各種の課題解決手法の修得ができるとともに、社会学分野においてデータサイエンス知識を活用しながら多様化する社会を分析し、新たな仕組みを構築する土台となる情報通信技術を学ぶことの意義と一致している。また、社会デザイン学科で学ぶ ICT に関する専門知識が、社会科学におけるデータ収集、データ処理と関連させ、様々な課題解決手法やアイデアの創出につなげるものであり、企業が求める能力でもあると考えられる。

- ・データサイエンス、デザイン思考など今後より注目される分野だと考えているため、このような最先端の内容に触れることができる学科は必要である。
- ・会社に必要なスキルを身に着けることが出来、主体的に動ける学生がいるのではないかと感じました。
- ・現代社会に沿った「情報」のスキルを身に付けている学生の育成に力を入れていることを伺い今後の活躍という点で魅力を感じた
- ・企業の活動は業務もマーケティングもメディアもデジタル化、DX 化される社内で、人間関係、コミュニケーション、チームワークを科学する力がますます重要となる。
- ・データサイエンスは今後もニーズが高まると思います。実際にビッグデータ、社内データのマッチングを行える人材はまだまだ少数と思われます。
- ・PBL やビジネスコンテストの参加は魅力的に感じる。
- ・授業に取り入れられているアクティブラーニングは、社会に出て大いに役に立つ経験だと思っております。技術サービスを行う弊社では、お客様の課題解決に寄り添う仕事になります。培った知識や経験を活かし活躍して頂きたいです。
- ・DX 化が注目され、データをどう活かしていくかは今後の成長戦略には欠かせない状況です。未来を切り開く人財の育成において、御校で学ばれた方のご活躍が広がるかと存じます。
- ・自由な発想で物事を考える思考力や発信力、企画力のある人材はこれからますます必要とされると思います。

ii 社会的な人材需要

国際学部が育成する人材は、グローバル社会で活躍する人材であり、「グローバル人材」に対する企業等のニーズは高く、総務省が平成 29 年（2017 年）に実施した調査「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」（総務省 2017 年）によれば、海外へ進出している企業の約 7 割が「グローバル人材」は不足していると回答している。また、そのうち、特に大企業の約 6 割においては「グローバル人材」の新卒採用が直近の 10 年間で「増加またはやや増加」していると回答しており、国際学部が育成する「グローバル人材」に対する社会的ニーズの高さが示されており、社会的な人材需要がある。

また、人間社会学部社会デザイン学科が育成する人材は、現代社会の様々な問題を解決し、企画し、提案できる人材である。異なる立場や職業の人・団体が協力して新たな価値を創り出す共創デザインや、行政や地域社会の多様な人たちが社会を良くしていこうとするソーシャル・デザイン、社会のビッグデータをもとにしたデータ分析など、人文社会科学系であっても先端技術や理数系の基礎的知識を学ぶことが重要であり、質の高い情報を取捨選択し、情報を課題解決のために使いこなす能力（情報活用能力）を身につけることが求められている。さらに、統合イノベーション戦略推進会議（AI戦略2022）によれば、2019年に策定した「AI戦略2019」で掲げた戦略目標の一つである「教育改革」は人材育成プログラムの広範な導入につながったとしているが、一方、人材育成は十分に実感できるまでには至っていないとしている。そして、AI戦略の推進に向けては、人材の育成が必要であると示しており、社会デザイン学科では、AIを活用する人材育成にも力を入れていることから、社会的な人材需要があると見込んでいる。

学生確保の見通し等を記載した書類 資料

目次

資料 1	「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」 (総務省 平成 29 年 7 月)	P. 2
資料 2	「国際系学部 志願者と倍率 (ユニバースケープ株)」	P. 5
資料 3	「人間社会学部競合学部学科 (ユニバースケープ株)」	P. 6
資料 4	「日本私立学校振興・共済事業団 令和 3 年度大学・短期大学入学志願者動向」	P. 7
資料 5	「国際系学部・学科の学費」	P. 8
資料 6	「実践女子大学 国際学部国際学科 (仮称)、人間社会学部 社会デザイン学科 (仮称) 設置に関する受容性調査結果報告書【高校生】」 (株式会社日本ドリコム 令和 5 年 1 月)	P. 9
資料 7	「競合学部学科女子比率 (ユニバースケープ株)」	P. 29
資料 8	「令和 4 年度 (2022 年度) 実践女子大学・短期大学部出身都道府県別入学者数」	P. 30
資料 9	「実践女子大学 国際学部国際学科 (仮称)、人間社会学部 社会デザイン学科 (仮称) 設置に関する受容性調査結果報告書【企業】」 (株式会社日本ドリコム 令和 5 年 1 月)	P. 31

グローバル人材育成の推進に関する

政策評価書

平成29年7月

総務省

2 グローバル人材の確保状況等に関する企業の意識調査

(要旨)

本政策評価では、第2期計画に基づき取り組まれている、グローバル人材育成に関する施策の効果を把握するため、グローバル人材の主要な需要者である海外進出企業4,932社（「海外進出企業総覧会社別編2015年刊」（株式会社東洋経済新報社）に掲載された全ての海外進出企業）を対象に、実際のグローバル人材の確保状況等に関する意識調査を実施した。

調査の有効回答数は980社（WEBによるオンライン調査912社、実地調査68社）となっており、調査結果の主な概要については、以下のとおりである。

(グローバル人材の確保状況)

- ① 海外事業に必要な人材については、約7割の企業（690社）が不足又はどこちらかといえは不足していると回答しており、海外事業に必要な人材は依然として不足している状況となっている。
- ② 海外事業に必要な人材の採用状況（複数回答）については、「国内のノウハウのある日本人（中途採用）」が638社（65.1%）と最も多く、次いで、「国内の日本人の新卒者」が584社（59.6%）、「国内の外国人」が364社（37.1%）、「海外の外国人」が315社（32.1%）などとなっている。

(新卒採用者のグローバル人材としての評価)

- ③ 「グローバル人材」に当てはまる新卒採用者については、約5割の企業（496社）がここ10年間で増加又はやや増加していると回答しているが、企業規模別（大企業677社、中小企業303社）（注）でみると、大企業では、約6割の企業（406社）が増加又はやや増加していると回答しているのに対し、中小企業では、約3割の企業（90社）にとどまっている。
- ④ 「グローバル人材」の3要素別にみると、i）語学力・コミュニケーション能力については、約6割の企業（605社）が向上又はやや向上していると回答している一方、ii）異文化理解の精神については、約5割の企業（493社）、iii）主体性・積極性については、約3割の企業（319社）にとどまっております。相対的には、異文化理解の精神及び主体性・積極性について、より一層の向上が必要であることがうかがわれる。

なお、語学力・コミュニケーション能力については、大企業では約7割の企業（485社）が向上又はやや向上していると回答しているのに対し、中小企業では約4割の企業（120社）にとどまっている。

(大学に求める取組内容)

- ⑤ 企業が「グローバル人材」の育成のために大学に求める取組（複数回答）については、「海外留学の促進」が487社（49.7%）と最も多く、次いで、「異文化理解に関する授業の拡充」が471社（48.1%）、「ディベート等の対話型の授業の拡充」が456社（46.5%）、「英語授業の拡充」が416社（42.4%）、「外国人留学生・教員の受入れによる学内国際化」が356社（36.3%）など

となっており、海外留学や語学力に関するものに限らず、異文化理解やディベートに関するものなど多岐にわたっている。

- ⑥ 大学に各取組を求める理由として、i) 海外留学の促進については、異文化理解力や海外赴任にも耐え得る経験を積むには留学が最も適当である、ii) 異文化理解に関する授業については、現地の習慣、文化、価値観などを理解し、そこで活動できることが重要である、iii) ディベート等の対話型の授業については、企業が主体性や積極性を持つ人材を育てる上で重要であるなどの意見がみられた。

(理想的な留学期間)

- ⑦ 企業が大学に求める取組のうち最上位に挙げられている海外留学について、その理想的な留学期間に関する企業側の回答をみると、「1年以上」が462社(47.1%)と最も多く、次いで、「6か月以上1年未満」が347社(35.4%)となっており、約8割の企業(809社)が6か月以上の長期間の留学期間が理想的であると回答している。

- ⑧ 1年以上の長期間の留学を求める理由としては、i) 語学力の習得のみならず、現地の国民性や異文化の理解、国際的な視野拡大を図るためには、最低でも1年の留学期間は必要である、ii) これまでの留学経験者の採用面接では、留学期間が長い者ほど、語学力はもちろんのこと、留学経験が業務に生かされていると感じる、iii) 1年以上の長期留学経験者は数週間の留学経験者と比べ、多様な価値観を受容するといった経験の幅に違いを感じるなどの意見がみられた。

(注) 本意識調査では、中小企業基本法(昭和38年法律第154号)における中小企業者の定義等を踏まえ、大企業は連結従業員数301人以上、中小企業は同300人以下の企業とした。

資料2

国際系学部 志願者と倍率（ユニバースケープ（株））

大学・学部・学科	入学定員	一般選抜 募集定員	志願者数	倍率
早稲田大学 国際教養学部（国際教養学科）	600	175	1,521	8.7
上智大学 総合グローバル学部（総合グローバル学科）	220	135	1,640	12.1
上智大学 国際教養学部（国際教養学科）※入学定員186名帰国子女対象				
明治大学 国際日本学部（国際日本学科）	400	258	5,626	21.8
青山学院大学 国際政治経済学部（国際政治、国際経済、国際コミュニケーション）	304	202	1,732	8.6
青山学院大学 地球社会共生学部（地球社会共生学科）	190	75	763	10.2
立教大学 異文化コミュニケーション学部（異文化コミュニケーション学科）	145	75	1,618	21.6
中央大学 国際情報学部（国際情報学科）	150	75	1,687	22.5
中央大学 国際経営学部（国際経営学科）	300	130	2,385	18.3
法政大学 グローバル教養学部（グローバル教養学科）	102	27	222	8.2
法政大学 国際文化学部（国際文化学科）	254	145	3,826	26.4
学習院大学 国際社会科学部（国際社会科学科）	200	95	1,860	19.6
成蹊大学 文学部 国際文化学科	110	61	712	11.7
明治学院大学 国際学部（国際学科、国際キャリア学科）	300	139	1,416	10.2
獨協大学 国際教養学部（言語文化学科）	150	80	1,000	12.5
武蔵大学 国際教養学部（国際教養学科）	100	55	1,267	23.0
東洋大学 国際学部（グローバル・イノベーション学科、国際地域学科）	310	118	1,487	12.6
駒澤大学 グローバルメディアスタディーズ学部	300	118	1,450	12.3
専修大学 国際コミュニケーション学部（異文化コミュニケーション学科、日本語学科）	221	138	2,249	16.3
神奈川大学 国際日本学部（国際文化交流学科、日本文化学科、歴史民俗学科）	300	162	1,176	7.3
津田塾大学 学芸学部 国際関係学科	200	135	635	4.7
津田塾大学 学芸学部 多文化・国際協力学科	70	60	286	4.8
東京女子大学 現代教養学部 国際社会学科 国際関係学専攻	105	48	578	12.0
東京女子大学 現代教養学部 国際英語学科	155	62	729	11.8
昭和女子大学 国際学部（国際学科、英語コミュニケーション学科）	299	148	1,038	7.0
昭和女子大学 グローバルビジネス学部（ビジネスデザイン学科、会計ファイナンス学科）	170	94	901	9.6
共立女子大学 国際学部（国際学科）	250	133	644	4.8
学習院女子大学 国際文化交流学部（日本文化、国際コミュニケーション、英語コミュニケーション）	355	220	1,143	5.2
フェリス学院大学 国際交流学部（国際交流学科）	197	107	274	2.6
和洋女子大学 国際学部（英語コミュニケーション学科、国際学科）	120	40	249	6.2
東洋英和女学院大学 国際社会学部（国際社会学科、国際コミュニケーション学科）	240	110	160	1.5
東京経済大学 コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	90	48	313	6.5
武蔵野大学 グローバル学部（グローバルコミュニケーション、日本語コミュニケーション、グローバルビジネス）	300	102	1,296	12.7
神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部	60	20	161	8.1
大東文化大学 国際関係学部（国際関係学科、国際文化学科）	200	68	739	10.9
東海大学 国際学部（国際学科）	200	107	744	7.0
亜細亜大学 国際関係学部（国際関係学科、多文化コミュニケーション学科）	280	172	747	4.3
国土館大学 21世紀アジア学部（21世紀アジア学科）	350	55	409	7.4
文教大学 国際学部 国際理解学科	120	70	435	6.2
拓殖大学 国際学部（国際学科）	350	160	340	2.1
桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群	250	85	1,162	13.7
創価大学 国際教養学部（国際教養学科）	90	15	110	7.3
順天堂大学 国際教養学部（国際教養学科）	240	115	677	5.9
明星大学 人文学部 国際コミュニケーション学科	100	20	70	3.5
多摩大学 グローバルスタディーズ学部（グローバルスタディーズ学科）※2021年度データ	147	53	797	15.0
二松学舎大学 国際政治経済学部（国際政治経済学科、国際経営学科）	240	90	518	5.8
千葉商科大学 国際教養学部（国際教養学科）	75	40	363	9.1
関東学院大学 国際文化学部（英語文化学科、比較文化学科）	276	114	750	6.6
麗澤大学 国際学部（国際学科、グローバルビジネス学科）	160	50	987	19.7
開智国際大学 国際教養学部（国際教養学科）	78	非公開	非公開	非公開
東京成徳大学 国際学部（国際学科）	81	35	99	2.8
城西国際大学 国際人文学部（国際文化学科、国際交流学科）	200	40	144	3.6
文化学園大学 現代文化学科（国際文化・観光学科、国際ファッション文化学科）	170	42	57	1.4
東洋学園大学 グローバルコミュニケーション学部（グローバル・コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科）	240	90	388	4.3
東京国際大学 国際関係学部（国際関係学科、国際メディア学科）	370	115	378	3.3
敬愛大学 国際学部（国際学科）	98	18	38	2.1
共栄大学 国際経営学部（国際経営学科）	200	65	236	3.6
武蔵野学院大学 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	120	15	3	0.2
松蔭大学 コミュニケーション文化学部 異文化コミュニケーション学科	48	非公開	非公開	非公開
全大学合計	11,950	5,224	52,235	10.0
女子大合計	2,161	1,157	6,637	5.7
男女共学大学×65% 合計	6,363	2,644	29,639	11.2
女子 合計（予測）	8,524	3,801	36,276	9.5

※入学定員・募集定員・志願者は2022年度データ。一般選抜募集定員は、共通テスト利用含まず。

ユニバースケープ(株)作成データに、競合校の下線を追加。

大学名	学部学科名	入学定員	一般入試志願者	共通テスト利用志願者	入試単位 (●学部単位)
早稲田大学	社会科学部	630	8,773	1,485	●
早稲田大学	文化構想学部	860	11,484		●
上智大学	総合人間科学部社会学科	60	1,104	183	
上智大学	文学部新聞学科	120	626	87	
立教大学	社会学部	519	6,408	2,581	3学科1コース
明治大学	文学部心理社会学科	155	1,884	716	3専攻
明治大学	情報コミュニケーション学部	520	5,759	2,124	●
青山学院大学	社会情報学部	220	1,365	400	●
青山学院大学	地球社会共生学部	190	501	314	●
中央大学	文学部人文社会学科	990	6,456	3,971	14専攻
学習院大学	国際社会学部	200	1,219	196	●
東京都市大学	メディア情報学部	190	1,465	1,433	2学科
成城大学	社会イノベーション学部	240	2,251	1,127	2学科
明治学院大学	社会学部	490	2,621	839	2学科
法政大学	社会学部	759	6,953	2,233	3学科
東洋大学	社会学部	600	8,476	4,790	4学科
成蹊大学	文学部現代社会学科	105	781	419	
成城大学	文芸学部マスコミュニケーション学科	60	502	324	
※ 東京女子大学	現代教養学部国際社会学科	284	1,385	845	4専攻
※ 大妻女子大学	社会情報学部社会情報学科	300	658	411	3専攻
武蔵大学	社会学部	229	3,221	1,416	2学科
東海大学	文化社会学部	450	1,858	1,263	6学科
※ 日本女子大学	人間社会学部	364	1,827	1,093	4学科
日本大学	文学部社会学科	210	1,834	432	
駒澤大学	文学部社会学科	147	997	580	2専攻
専修大学	人間科学部社会学科	147	1,503	481	
専修大学	文学部ジャーナリズム学科	124	562	308	
立正大学	文学部社会学科	155	654	189	
※ 昭和女子大学	人間社会学部	380	1,833	736	4学科
※ 実践女子大学	人間社会学部	200	649	391	●
日本大学	法学部新聞学科	200	1,074	314	
明星大学	人文学部人間社会学科	80	674	245	
※ 大妻女子大学	人間関係学部人間関係学科	160	274	181	2専攻
東京経済大学	コミュニケーション学部	240	678	259	2学科
文教大学	情報学部	285	829	496	
大東文化大学	社会学部	200	1,176	631	●
目白大学	社会学部	200	466	391	2学科
大正大学	心理社会学部	230	1,611	545	2学科
帝京大学	文学部社会学科	208	574	332	
千葉商科大学	人間社会学部	200	698	253	●
※ フェリス女学院大学	文学部コミュニケーション学科	90	208	174	
江戸川大学	メディアコミュニケーション学部	240	476	178	3学科
※ 相模女子大学	人間社会学部	230	299	341	2学科
常磐大学	人間科学部	396	345	320	5学科
※ 東洋英和女学院大学	国際社会学部	240	357	169	2学科
流通経済大学	社会学部	250	449	294	2学科
浦和大学	社会学部	90	未発表	未発表	2学科
※ 恵泉女学園大学	人間社会学部	160	402	359	2学科
埼玉工業大学	人間社会学部情報社会学科	90	75	272	2専攻
※ 十文字学園女子大学	社会情報デザイン学部	130	200	190	●
		13,817	96,474	37,311	

- ※は女子大学 貴学併願大学
 ・志願者は2021年度入試結果(代々木ゼミナール 入試結果より)
 ・早稲田大学文化構想学部(学部一括入試)志願者数は、社会学部系統に当てはまらない専攻系統も含まれる
 ・中央大学文学部人文社会学科(専攻別入試)志願者数は、社会学部系統に当てはまらない専攻系統も含まれる
 ・早稲田大学文学部、慶應義塾大学文学部の中にも社会学部が存在するが、このリストには入れていません

4. 学科系統別の動向（短期大学）

全学科を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（学科系統区分については、99ページを参照）。

系統区分	年度	集計 学科数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学科	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
保健系	R2	41	3,340	5,169	5,027	3,915	3,157	1.55	77.88	80.64	94.52
	R3	40	3,220	4,696	4,499	3,717	3,032	1.46	82.62	81.57	94.16
	増減	△ 1	△ 120	△ 473	△ 528	△ 198	△ 125	△ 0.09	4.74	0.93	△ 0.36
農工系	R2	20	1,830	3,169	3,042	2,129	1,707	1.73	69.99	80.18	93.28
	R3	19	1,725	2,604	2,481	1,959	1,508	1.51	78.96	76.98	87.42
	増減	△ 1	△ 105	△ 565	△ 561	△ 170	△ 199	△ 0.22	8.97	△ 3.20	△ 5.86
人文系	R2	43	4,405	9,927	9,353	6,921	4,499	2.25	74.00	65.01	102.13
	R3	43	4,385	6,749	6,361	5,813	3,583	1.54	91.39	61.64	81.71
	増減	0	△ 20	△ 3,178	△ 2,992	△ 1,108	△ 916	△ 0.71	17.39	△ 3.37	△ 20.42
社会系	R2	70	5,550	7,809	7,617	6,201	5,094	1.41	81.41	82.15	91.78
	R3	68	5,460	6,916	6,715	5,799	4,773	1.27	86.36	82.31	87.42
	増減	△ 2	△ 90	△ 893	△ 902	△ 402	△ 321	△ 0.14	4.95	0.16	△ 4.36
家政系	R2	111	9,845	11,959	11,600	10,545	8,206	1.21	90.91	77.82	83.35
	R3	112	9,735	11,190	10,751	10,171	7,858	1.15	94.61	77.26	80.72
	増減	1	△ 110	△ 769	△ 849	△ 374	△ 348	△ 0.06	3.70	△ 0.56	△ 2.63
教育系	R2	189	21,252	21,674	21,130	19,747	17,308	1.02	93.45	87.65	81.44
	R3	189	20,662	19,966	19,482	18,674	16,318	0.97	95.85	87.38	78.98
	増減	0	△ 590	△ 1,708	△ 1,648	△ 1,073	△ 990	△ 0.05	2.40	△ 0.27	△ 2.46
芸術系	R2	26	2,420	3,139	3,079	2,714	2,316	1.30	88.15	85.34	95.70
	R3	26	2,360	2,670	2,612	2,396	2,064	1.13	91.73	86.14	87.46
	増減	0	△ 60	△ 469	△ 467	△ 318	△ 252	△ 0.17	3.58	0.80	△ 8.24
その他	R2	44	5,075	7,173	6,948	5,699	4,614	1.41	82.02	80.96	90.92
	R3	41	4,695	5,572	5,430	4,923	3,996	1.19	90.66	81.17	85.11
	増減	△ 3	△ 380	△ 1,601	△ 1,518	△ 776	△ 618	△ 0.22	8.64	0.21	△ 5.81
合計	R2	544	53,717	70,019	67,796	57,871	46,901	1.30	85.36	81.04	87.31
	R3	538	52,242	60,363	58,331	53,452	43,132	1.16	91.64	80.69	82.56
	増減	△ 6	△ 1,475	△ 9,656	△ 9,465	△ 4,419	△ 3,769	△ 0.14	6.28	△ 0.35	△ 4.75

資料5

国際系学部・学科の学費（初年度納付金額順）

大学名	学部名	学科名	入学定員	初年度納付金	4年間合計	海外研修必修	学費減免	参考他学部	初年度納付金	4年間合計	差額（国際系-他学部）	
											初年度納付金	4年間合計
1 神田外語大学	グローバル・リベラルアーツ学部	グローバル・リベラルアーツ学科	60	1,625,000	5,610,000	○	○	外国語学部	1,445,000	5,410,000	180,000	200,000
2 法政大学	国際文化学部	国際文化学科	254	1,621,000	5,076,000	○	○	文学部	1,314,000	4,529,000	307,000	547,000
3 早稲田大学	国際教養学部	国際教養学科	600	1,593,000	6,372,000	○		文学部	1,213,000	4,852,000	380,000	1,520,000
4 法政大学	グローバル教養学部	グローバル教養学科	102	1,582,000	5,594,000			文学部	1,314,000	4,529,000	268,000	1,065,000
5 中央大学	国際情報学部	国際情報学科	150	1,555,000	5,540,000			文学部	1,297,300	4,478,000	257,700	1,062,000
6 順天堂大学	国際教養学部	国際教養学科	240	1,550,000	5,300,000			-	-	-	-	-
7 武蔵大学	国際教養学部	国際教養学科	100	1,538,900	5,435,600			人文学部	1,338,900	4,635,600	200,000	800,000
8 明治大学	国際日本学部	国際日本学科	400	1,501,000	5,464,000			文学部	1,319,000	4,736,000	182,000	728,000
9 学習院大学	国際社会科学部	国際社会科学学科	200	1,486,800	5,347,200	○		文学部	1,333,800	4,735,200	153,000	612,000
10 東海大学	国際学部	国際学科	200	1,486,200	5,212,200			文学部	1,475,200	5,168,200	11,000	44,000
11 多摩大学	グローバルスタディーズ学部	グローバルスタディーズ学科	147	1,470,000	5,070,000			経営情報学部	1,390,000	4,390,000	80,000	680,000
12 中央大学	国際経営学部	国際経営学科	300	1,465,000	5,180,000	○		文学部	1,297,300	4,478,000	167,700	702,000
13 麗澤大学	国際学部	(国際学科、グローバルビジネス学科)	160	1,450,000	4,948,000	○		外国語学部	1,450,000	4,948,000	0	0
14 大妻女子大学	比較文化学部	比較文化学科	165	1,444,150	5,078,650			文学部	1,444,150	5,078,650	0	0
15 青山学院大学	国際政治経済学部	(国際政治学科、国際経済学科、国際コミュニケーション学科)	304	1,443,000	5,106,000			総合文化政策学	1,423,000	5,026,000	20,000	80,000
16 東洋学園大学	グローバルコミュニケーション学部	(グローバル・コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科)	240	1,440,000	4,860,000			現代経営学部	1,440,000	4,860,000	0	0
17 東京国際大学	国際関係学部	(国際関係学科、国際メディア学科)	370	1,440,000	4,890,000			商学部	1,440,000	4,890,000	0	0
18 昭和女子大学	グローバルビジネス学部	(ビジネスデザイン学科、会計ファイナンス学科)	170	1,438,000	5,192,000			人間文化学部	1,351,000	4,844,000	87,000	348,000
19 東洋英和女学院大学	国際社会学部	国際コミュニケーション学科	240	1,425,350	4,801,400			全学部	1,425,350	4,801,400	0	0
20 千葉商科大学	国際教養学部	国際教養学科	75	1,419,860	5,091,890			人間社会学部	1,269,860	4,491,890	150,000	600,000
21 昭和女子大学	国際学部	(国際学科、英語コミュニケーション学科)	299	1,418,000	5,112,000	○		人間文化学部	1,351,000	4,844,000	67,000	268,000
22 創価大学	国際教養学部	国際教養学科	90	1,410,000	5,040,000			文学部	1,170,000	4,080,000	240,000	960,000
23 共栄大学	国際経営学部	国際経営学科	200	1,405,000	4,555,000			-	-	-	-	-
24 明星大学	人文学部	国際コミュニケーション学科	100	1,388,600	4,952,600			経営学部	1,228,600	4,312,600	160,000	640,000
25 城西国際大学	国際人文学部	(国際文化学科、国際交流学科)	200	1,387,000	4,778,000			経営情報学部	1,387,000	4,778,000	0	0
26 学習院女子大学	国際文化交流学部	(日本文化学科、国際コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科)	355	1,373,800	4,315,200	△	○	-	-	-	-	-
27 二松学舎大学	国際政治経済学部	(国際政治経済学科、国際経営学科)	240	1,373,660	4,526,660			文学部	1,373,660	4,526,660	0	0
28 拓殖大学	国際学部	国際学科	350	1,365,900	4,849,800			外国語学部	1,365,900	4,849,800	0	0
29 桜美林大学	グローバル・コミュニケーション学部	-	250	1,364,000	5,206,000	○		リベラルアーツ学群	1,364,000	5,206,000	0	0
30 専修大学	国際コミュニケーション学部	(異文化コミュニケーション学科、日本語学科)	221	1,358,000	4,940,000	○		文学部	1,234,000	4,444,000	124,000	496,000
31 独協大学	国際教養学部	言語文化学科	150	1,352,800	4,511,200			外国語学部	1,352,800	4,511,200	0	0
32 文化学園大学	現代文化学部	(国際文化学科、観光学科、国際ファッション文化学科)	170	1,350,900	4,580,400			-	-	-	-	-
33 東京経済大学	コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	90	1,348,900	4,825,600			経営学部	1,242,900	4,401,600	106,000	424,000
34 立教大学	異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	145	1,341,500	4,547,000	○	○	文学部	1,334,500	4,788,000	7,000	-241,000
35 日本女子大学	国際文化学部	国際文化学科	121	1,340,860	4,659,640	○		文学部	1,290,860	4,459,460	50,000	200,180
36 関東学院大学	国際文化学部	(英語文化学科、比較文化学科)	276	1,331,660	4,700,840			社会学部	1,330,660	4,696,840	1,000	4,000
37 フェリス学院大学	国際交流学部	国際交流学科	197	1,331,470	4,685,980			文学部	1,331,470	4,685,980	0	0
38 国土館大学	21世紀アジア学部	21世紀アジア学科	280	1,328,940	4,595,760			文学部	1,326,940	4,587,760	2,000	8,000
39 敬愛大学	国際学部	国際学科	98	1,322,660	4,540,640			経済学部	1,322,660	4,540,640	0	0
40 文教大学	国際学部	国際理解学科	120	1,322,000	4,520,000			文学部	1,322,000	4,520,000	0	0
41 亜細亜大学	国際関係学部	(国際関係学科、多文化コミュニケーション学科)	280	1,321,000	4,586,500			経営学部	1,281,000	4,426,500	40,000	160,000
42 明治学院大学	国際学部	(国際学科、国際キャリア学科)	300	1,320,400	4,731,700			文学部	1,272,600	4,480,900	47,800	250,800
43 武蔵野大学	グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科	300	1,316,600	4,723,400	○		文学部	1,144,600	4,035,400	172,000	688,000
44 東京女子大学	現代教養学部	国際社会学科	105	1,311,500	4,646,000	○		現代教養学部 人文学科	1,231,500	4,326,000	80,000	320,000
45 松陰大学	コミュニケーション文化学部	異文化コミュニケーション学科	48	1,311,000	4,149,000			経営文化学部	1,311,000	4,149,000	0	0
46 成蹊大学	文学部	国際文化学科	110	1,300,000	4,600,000			経営学部	1,300,000	4,600,000	0	0
47 駒澤大学	グローバル・メディア・スタディーズ学部	グローバル・メディア学科	300	1,281,000	4,404,000			文学部	1,250,000	4,280,000	31,000	124,000
48 津田塾大学	学芸学部	多文化・国際協力学科	70	1,280,000	4,280,000			-	-	-	-	-
49 和洋女子大学	国際学部	(英語コミュニケーション学科、国際学科)	120	1,278,900	4,283,700			人文学部	1,278,900	4,283,700	0	0
50 神奈川大学	国際日本学部	(国際文化交流学科、日本文化学科、歴史民俗学科)	300	1,276,300	4,600,300			経営学部	1,276,300	4,600,300	0	0
51 上智大学	総合グローバル学部	総合グローバル学科	220	1,272,650	4,522,650			外国語学部	1,272,650	4,522,650	0	0
52 開智国際大学	国際教養学部	国際教養学科	78	1,260,400	4,291,600			-	-	-	-	-
53 東洋大学	国際学部	(グローバル・イノベーション学科、国際地域学科)	310	1,260,000	4,290,000	△		文学部	1,190,000	4,010,000	70,000	280,000
54 共立女子大学	国際学部	国際学科	250	1,260,000	4,590,000			文芸学部	1,220,000	4,430,000	40,000	160,000
55 武蔵野学院大学	国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	120	1,247,060	4,133,060			-	-	-	-	-
56 大東文化大学	国際関係学部	(国際関係学科、国際文化学科)	200	1,238,900	4,325,600			文学部	1,238,900	4,325,600	0	0
57 津田塾大学	学芸学部	国際関係学科	200	1,200,000	4,200,000			-	-	-	-	-
58 東京成徳大学	国際学部	国際学科	81	952,500	2,840,000	○	○	経営学部	1,410,000	4,515,000	-457,500	-1,675,000
4年間納入額平均（58大学平均）								4,789,806				
4年間納入額平均（留学必須16大学）								4,863,278				

※海外研修必修の△は、一部学科のみ必修

※費用には、学費以外の諸費用（後援会費、同窓会費など）も含む

案	実践女子大学	国際学部	国際学科	120	1,427,010	4,916,010	○		文学部	1,367,010	4,676,010	60,000	240,000
---	--------	------	------	-----	-----------	-----------	---	--	-----	-----------	-----------	--------	---------

※国際学部・国際学科の偏差値には、目標値を置いている

実践女子大学

国際学部国際学科（仮称）

人間社会学部社会デザイン学科（仮称）

設置に関する受容性調査 結果報告書

【高校生】

株式会社日本ドリコム

令和5年1月

目次

1. 調査概要	4
(1) 調査目的		
(2) 調査期間		
(3) 調査対象・方法		
(4) 有効回答数		
(5) 調査実施機関		
(6) 調査項目		
(7) 調査結果の見方		
2 調査のサマリー	5
3 集計結果	6
資料1 質問用紙		
資料2 リーフレット		

1 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、受験層である高校生を対象に進学受容性調査を行うことで入学志望者の分析を行い、実践女子大学国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）の設置構想における検討資料とすることを目的とする。

(2) 調査期間

令和4年11月23日～令和5年1月20日

(3) 調査対象・方法

- ・ 高等学校に在籍する高校2年生の女子生徒を対象とし、高等学校にアンケートの実施を依頼
- ・ 質問用紙もしくはオンライン回答フォームを利用した調査

(4) 有効回答数

141校 13,259件

(5) 調査実施機関

株式会社 日本ドリコム

(6) 調査項目

資料1 質問用紙に記載

(7) 調査結果の見方

- ・ 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 基数となる実数はNとして掲載し、各グラフの比率はNを母数とした割合を示す。
- ・ 1人の回答者が複数回答する設問では「MA」と表示。

2 調査結果のサマリー

I. 回答者の属性等

既存学部に入學実績を有する高等学校を中心に協力を依頼し、当該学部学科が対象とする受験者層（高校2年生、女子生徒）より **13,259 件の回収**を得た。南関東に在住する高校生が全体の90.7%を占め、その他の地域に在住する高校生は全体の9.3%であった。

II. 大学進学希望者と関心分野

回答者の内、78.8%（10,446件）が大学・専門職大学への進学を希望していた。その内、**当該学部学科の受験者層として想定できるもの**（人文科学、社会科学・教育分野に関心を持っている回答者は **5,253 名**であった。

III. 受験意向

当該学部学科の受験者層として想定できる5,253名の内、**受験意向を示したのは291名**であった。この291名は、「受験を検討したい」「わからない」と回答したものは除かれており、「受験したい」との明確な受験意思を回答したもののみの数値となっている。

IV. 入学希望者

(1) 「受験したい」との明確な意思を回答した291名の内、**入学意向を示したのは235名**であった。この235名は、「併願校が不合格だった場合入学したい」と回答したものは除かれており、「入学したい」との明確な入学意思を回答したもののみの数値となっている。

(2) 入学意向を示した235名について、希望する学部学科は次のとおりである。この数値は本調査に協力した高等学校のみの入学希望者数であり、既存学部に入學実績を有する高等学校が他にも多く存在することを考慮すると実際の数値はこれを上回るものと推察される。

	入学希望者数
国際学部 国際学科	133
人間社会学部 社会デザイン学科	93

※国際学部国際学科は、関心分野が人文科学、社会科学・教育を集計。

※人間社会学部社会デザイン学科は、関心分野が、社会科学・教育を集計。

3 集計結果

居住エリア

	件数(N)	割合
全体	(13259)	
東京都	5105	38.5%
神奈川県	2164	16.3%
千葉県	1436	10.8%
埼玉県	3324	25.1%
茨城県	373	2.8%
栃木県	3	0.0%
群馬県	92	0.7%
その他	750	5.7%

卒業後の希望進路

【MA】	件数(N)	割合
全体	(13259)	
大学・専門職大学	10446	78.8%
短大・専門職短期大学	1119	8.4%
専門学校	2731	20.6%
就職	448	3.4%
その他	121	0.9%

以下、「大学・専門職大学希望者」10,446件について集計を実施。

関心がある学びの分野

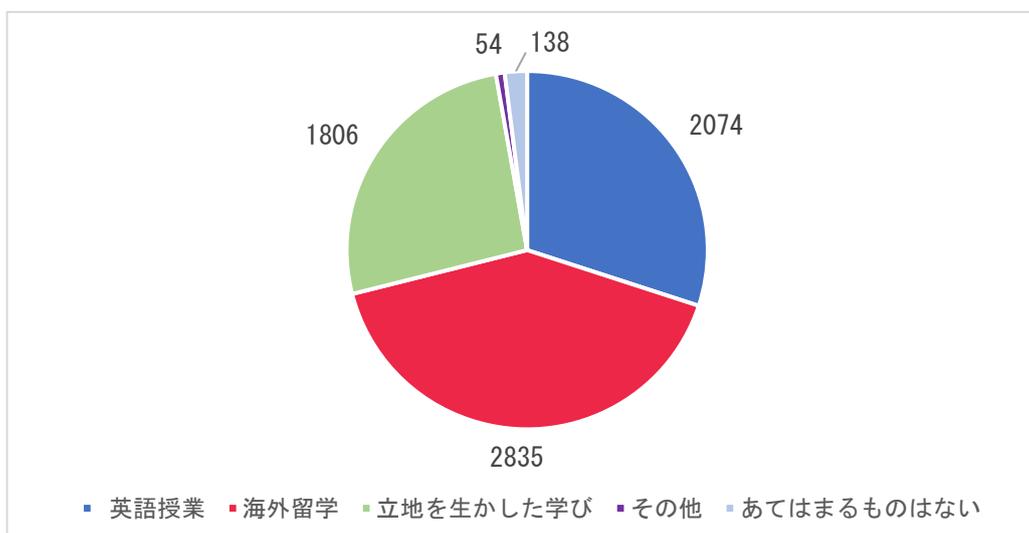
【MA】	件数(N)	割合
全体	(10446)	
人文科学(文学・語学)	2742	26.2%
社会科学・教育 (法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学)	3774	36.1%
理工学(理学・工学)	1040	10.0%
農学・獣医学	765	7.3%
医学・保健衛生(医学/ 歯学・薬学)	1247	11.9%
保健衛生(看護・リハビリ等)	1722	16.5%
芸術・体育(美術・音楽・体育)	2103	20.1%
家政	868	8.3%
未定/わからない	430	4.1%
無回答	15	0.1%

以下、人文科学(文学・語学)、社会科学・教育(法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学)のいずれか一つ以上を回答した5,253件について集計を実施。

実践女子大学 国際学部 国際学科の特色について関心が持てるもの

【MA】	件数 (N)	割合
全体	(5253)	
外国人と日本人教員が行う6レベルの英語授業（2年間半にわたる約20名クラスによるレベル別英会話中心授業）	2074	39.5%
全学生が2年次に3カ月以上の海外留学（鍛えた英語力を、海外留学を通してさらにブラッシュアップ）	2835	54.0%
渋谷という立地を生かした学び（幅広い視野と知識を手に入れ、海外と日本をつなぐ人材へと成長）	1806	34.4%
その他	54	1.0%
あてはまるものはない/無回答	138	2.6%

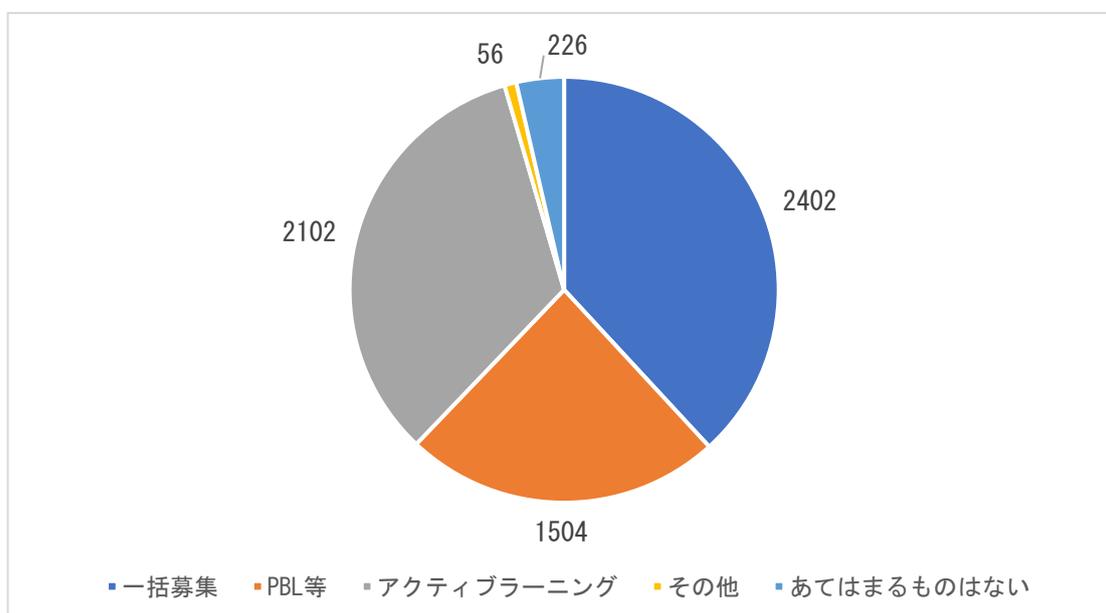
N=5253



実践女子大学 人間社会学部 社会デザイン学科の特色について関心が持てるもの

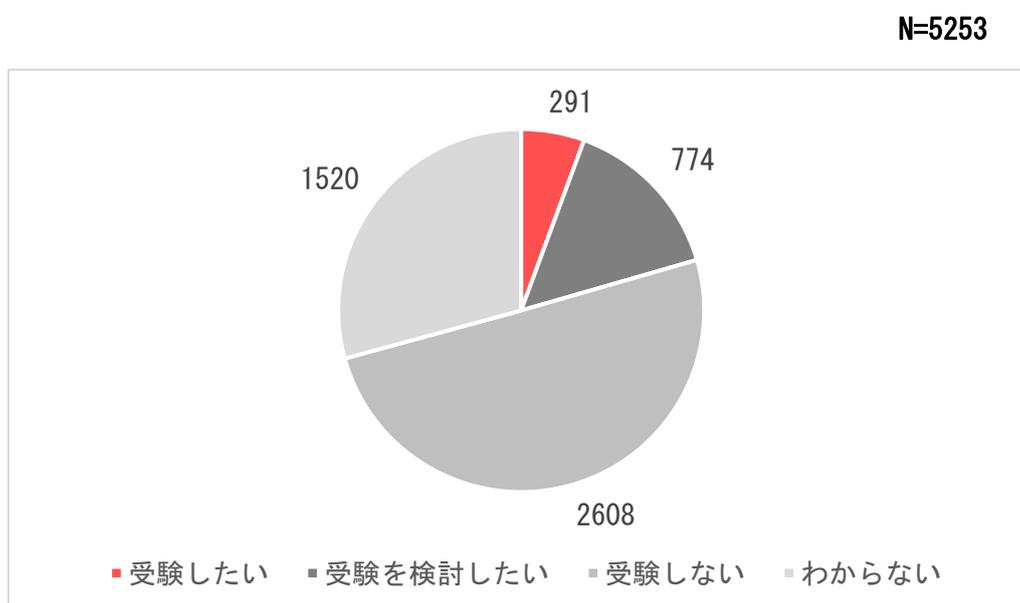
【MA】	件数 (N)	割合
全体	(5253)	
幅広い視野をもてる人間社会学部での一括募集 (2年次に所属学科を選ぶ)	2402	45.7%
PBL (課題解決型学習プログラム) やビジネスコンテストへの参加 (在学中に社会での実践経験を積むことができる)	1504	28.6%
1年次から少人数のゼミでアクティブラーニング (プレゼン能力・ディスカッション能力が身につく)	2102	40.0%
その他	56	1.1%
あてはまるものはない	226	4.3%

N=5253



受験意向

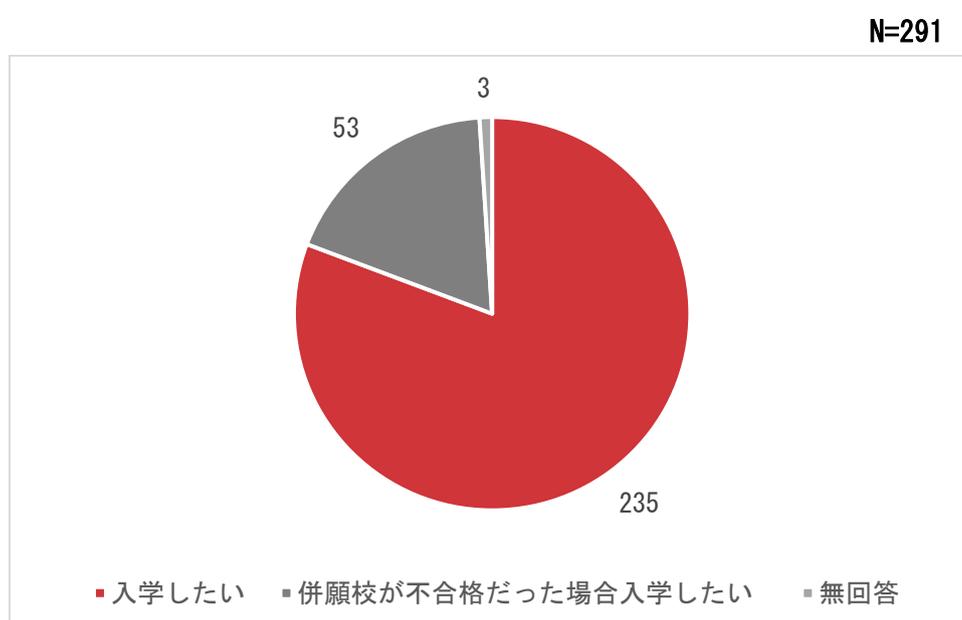
	件数(N)	割合
全体	(5253)	
受験したい	291	5.5%
受験を検討したい	774	14.7%
受験しない	2608	49.6%
わからない	1520	28.9%



以下、受験したいを回答した 291 件について集計を実施。

入学意向

	件数(N)	割合
全体	(291)	
入学したい	235	80.8%
併願校が不合格だった場合入学したい	53	18.2%
無回答	3	1.0%



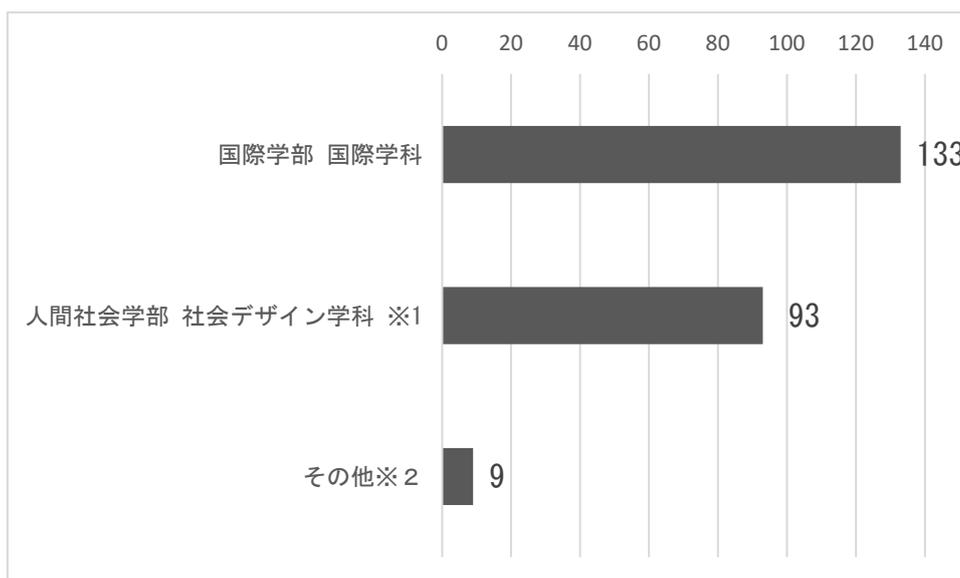
入学希望学科

	件数(N)
全体	(235)
国際学部 国際学科	133
人間社会学部 社会デザイン学科 ※1	93
その他※2	9

※1：関心ある学びにおいて、社会科学・教育（法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学）を回答したもののみ集計

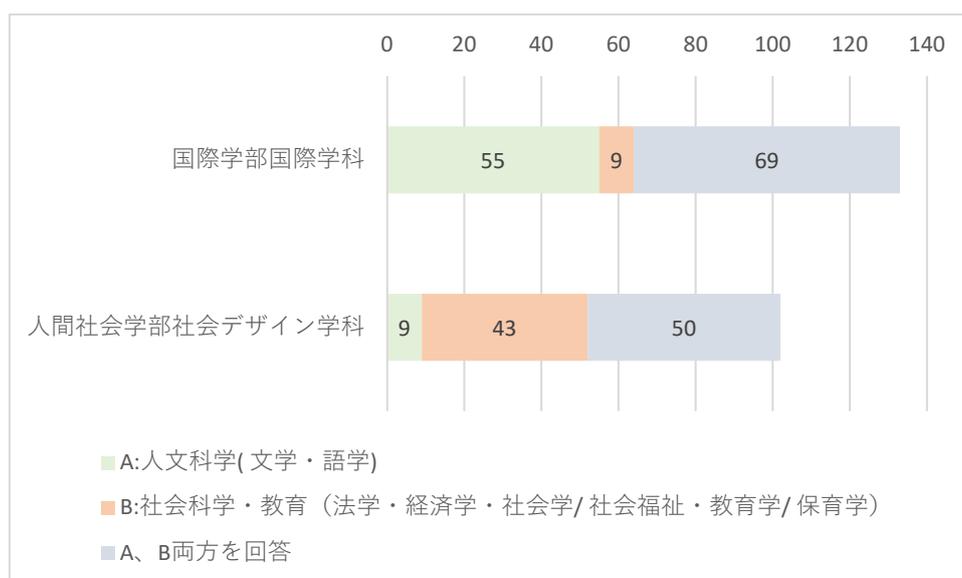
※2：人間社会学部 社会デザイン学科に入学したいと回答したものうち、人文学（文学・語学）のみを回答したもの

N=235



参考：入学希望学科（関心がある学びの分野別）

	関心がある学びの分野		
	A:人文科学 (文学・語学)	B:社会科学・教育 (法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学)	A、B 両方を回答
国際学部国際学科	55	9	69
人間社会学部 社会デザイン学科	9	43	50



資料 1

実践女子大学では、2024年4月、東京都渋谷区に新たな学部・学科の開設を計画しています。

このアンケート調査は、実践女子大学 国際学部国際学科（仮称・設置構想中）・人間社会学部社会デザイン学科（仮称・設置構想中）の設置に関する検討資料とするものです。回答内容があなたの今後の進学（受験・入学等）に影響することはありません。また、この調査の実施及び集計は受託先である株式会社日本ドリコムにて行われます。

■質問の答えとなる番号に○をつけてください。

Q1) あなたの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性

Q2) あなたの学年をお答えください。

- 1 高校3年生 2 高校2年生 3 高校1年生 4 その他

Q3) あなたの居住エリアをお答えください。

- 1 東京都 2 神奈川県 3 千葉県 4 埼玉県 5 茨城県 6 栃木県 7 群馬県 8 その他 ()

Q4) 卒業後の進路として検討している選択肢を全てお答えください。(複数回答可)

- 1 大学・専門職大学 2 短大・専門職短期大学 3 専門学校 4 就職 5 その他 ()

Q5) 関心のある学びの分野を全てお答えください。(複数回答可)

- 1 人文科学(文学・語学) 2 社会科学・教育(法学・経済学・社会学/社会福祉・教育学/保育学) 3 理工学(理学・工学)
4 農学・獣医学 5 医学・保健衛生(医学/歯学・薬学) 6 保健衛生(看護・リハビリ等)
7 芸術・体育(美術・音楽・体育) 8 家政 9 わからない

Q6以降の質問は、一緒に配布した学部学科紹介リーフレットを参照しながら、お答えください。

Q6) 実践女子大学 国際学部 国際学科の特色について関心が持てるものを全て回答してください。(複数回答可)

- 1 外国人と日本人教員が行う6レベルの英語授業(2年間半にわたる約20名クラスによるレベル別英会話中心授業)
2 全学生が2年次に3カ月以上の海外留学(鍛えた英語力を、海外留学を通してさらにブラッシュアップ)
3 渋谷という立地を生かした学び(幅広い視野と知識を手に入れ、海外と日本をつなぐ人材へと成長)
4 その他 ()

Q7) 実践女子大学 人間社会学部 社会デザイン学科の特色について関心が持てるものを全て回答してください。(複数回答可)

- 1 幅広い視野をもてる人間社会学部での一括募集(2年次に所属学科を選ぶ)
2 PBL(課題解決型学習プログラム)やビジネスコンテストへの参加(在学中に社会での実践経験を積むことができる)
3 1年次から少人数のゼミでアクティブラーニング(プレゼン能力・ディスカッション能力が身につく)
4 その他 ()

Q8) 実践女子大学 国際学部 国際学科・人間社会学部 社会デザイン学科を受験したいと思いますか。
(あなたの気持ちに近いものを回答してください)

- 1 受験したい 2 受験を検討したい 3 受験しない 4 わからない



Q8で「1 受験したい」を選択した方のみ回答してください。

Q9) 実践女子大学 国際学部 国際学科・人間社会学部 社会デザイン学科に合格した場合、入学したいと思いますか。
(あなたの気持ちに近いものを回答してください)

- 1 入学したい 2 併願校が不合格だった場合入学したい



Q9で「1 入学したい」を選択した方のみ回答してください。

Q10) どちらの学部学科に入学したいと思いますか。

- 1 国際学部 国際学科 2 人間社会学部 社会デザイン学科

Q11) 実践女子大学 国際学部 国際学科・人間社会学部 社会デザイン学科について、印象や感想、要望等があれば自由に記載してください。

国際学部 国際学科について

人間社会学部 社会デザイン学科について

Q12) 2022年11月24日から現在までの間に、本アンケートと同じ内容のインターネットアンケートに回答したことがありますか。

- 1 回答したことはない 2 回答したことがある -学生確保(資料)-23-

資料 2

社会連携プログラム

実践女子大学では、企業や自治体と連携したプログラムを行っています。

<p>Point 1</p>  <p>渋谷の立地を活かした課題解決を実践</p> <p>渋谷キャンパスでは、若者文化の発信地であり、IT企業やベンチャー企業が集積する渋谷の立地を活かし、さまざまな企業・自治体と連携を行っています。</p>	<p>Point 2</p>  <p>学部の枠組みを超えた豊富な活動</p> <p>学部の授業だけでなく、社会連携プログラムでキャンパス・学部・学科を超え、さまざまな専門性・バックグラウンドを持った学生同士がグループワークを行います。</p>	<p>Point 3</p>  <p>企業のトップから、「女性のキャリア」を直接学ぶ機会</p> <p>変化が目まぐるしい社会のなかで、女性として今後どのような力が必要か、各企業のトップで活躍する方の講演を通して、自身のキャリアについて考える機会があります。</p>
--	---	---



社会連携プログラム 特設サイト

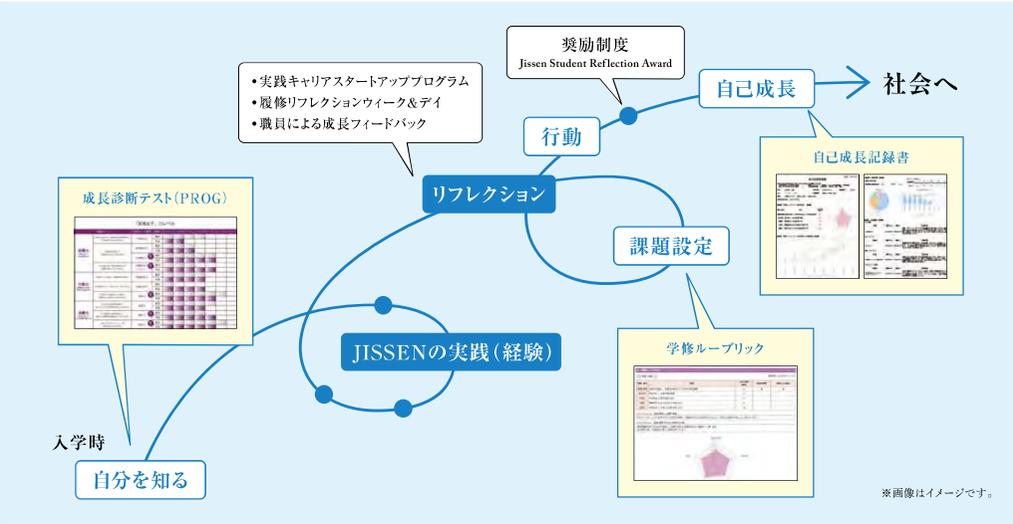
産業界や自治体とコラボレーションした取り組みの実例を紹介しています。ぜひご覧ください！



学生ひとりひとりの成長を支える「J-TAS」

すべての学生がより確かな成長と経験で得た自信を獲得するためのシステムが「J-TAS(Jissen Total Advanced Support)」。

特に本学においては「アクション(実践・経験の場)を増やす」「リフレクション(ふり返し)を行い、アウトプットの機会を増やす」この2つに注力した自己成長支援を、入学直後から継続的にを行っています。



納付金について

■初年度学費(予定)
国際学部 1,350,000円
(入学金、授業料、施設設備費含む)
※海外留学などのオフキャンパスプログラムに関しては別途費用がかかります。

参考:2022年度入学者納付金

■昭和女子大学 国際学部	1,418,000円
■日本女子大学 国際文化学部(2023年4月開設)	1,340,860円
■学習院女子大学 国際文化交流学部	1,373,800円

実践女子大学

渋谷キャンパス

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
TEL:03-6150-6820(入学サポート部)

交通アクセス

渋谷駅から ◆JR(山手線、埼京線、湘南新宿ライン)
 / 東京メトロ(銀座線、半蔵門線、副都心線)
 / 東急(東横線、田園都市線)
 / 京王井の頭線 東口C1出口から徒歩約10分

表参道駅から ◆東京メトロ(銀座線、半蔵門線、千代田線)
 B11出口から徒歩約12分



世界で実践

渋谷ではじまる新しい学び

国際学部 国際学科
2024年4月 設置構想中

実践女子大学

※学部学科の内容は構想中のため、変更になる可能性があります。

国際学部 国際学科

(仮称・2024年4月設置構想中)

Department of International Studies

Concept

世界で実践。



世界はあなたにとっての未知にあふれています。
世界で何が起きているのかを知ることで
あなたの未来の立ち位置がわかります。

世界に出て活躍したい。
日本と海外の懸け橋になりたい。
世界に通用するビジネスパーソンになりたい。
自分たちの地域を活性化させたい。

世界を舞台に、あなたの未来を「実践する」ために、
全学生必修の海外留学*を経験し、
英語運用能力を徹底的に向上させながら
日本文化と国際文化の専門知識を身につけ、
未知にチャレンジできる人を目指します。

国際学部国際学科 3つの特色

Topic 1

外国人と日本人教員が行う
6レベルの英語授業(必修)



1年次前期から3年次前期までの2年間に
わたり、約20名クラスによるレベル別の英
会話中心授業が必修となっています。

Topic 2

全学生が2年次に
3か月以上の海外留学が必修*



1年次前期から徹底的に鍛えた英語力を、
海外留学を通してさらにブラッシュアップ。
*やむを得ない事由により海外留学が不可能な学生に
ついては、別途他研修等で卒業時に必要な単位の取
得が可能です。

Topic 3

渋谷という立地を
活かした学びを、世界へ



国家戦略特別区域で再開発が進む渋谷で
の4年間の学びを通して、多民族・異文化から
成る世界の幅広い視野と知識を手に入れ、海
外と日本をつなぐ人材へと成長していきます。

こんな人におすすめ

- 日本に限らず、世界でも活躍したい
- 自分のやりたいことを「国内外問わず」チャレンジしたい
- 日本や地域の良さを認識し、海外に広く伝えたい
- 英語力を習得して、多様な人々とコミュニケーションしたい
- 今、世界で何が起きているかを知りたい
- 世界を舞台に自分のキャリアを築きたい
- 国際交流を通して、地域を活性化させたい

卒業後は?

国際性と専門性を活かして、さまざまな分野での
海外営業、貿易事務、海外駐在員を目指します。

目指せる進路

- 外資系企業・グローバル企業
- 航空会社・旅行会社
- 国際物流企業・商社・メーカー
- IT企業、ベンチャー・キャピタル企業
- NGO・NPO など



学びの特徴

徹底した英語教育をベースに、4領域からカスタマイズして学ぶ

	1年次	2年次	3年次	4年次
英語を徹底的に学ぶ	Speaking・Reading・Listening (話す・読む・聞く)力の強化 Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力をつける	Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力を磨く	Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力を磨く	
世界を広く、日本を深く学ぶ	専門基礎 国際人として必要な 多様な見方・考え方の 基礎となる4領域を学ぶ	専門応用 グループ演習も含め 各領域の 知識を深める	卒業論文 演習講義 専門領域での ディスカッションを行い 理解を深める	卒業論文 選択する専門領域での 国際人としての 素養の完成

「英語」を活かし、日本や海外で活躍

学びのKEY WORD

言語・コミュニケーション科目群

- # 異文化コミュニケーション
- # 国際メディア
- # 英語学
- # 対人コミュニケーション
- # ソーシャルメディア

国際文化科目群

- # 多文化共生
- # 世界の民族と宗教
- # グローバリゼーション
- # 国際社会
- # 国際関係
- # 国際経営

日本文化科目群

- # 海外の日本文学
- # 民俗伝統芸能
- # 日本文化資源
- # コンテンツ産業
- # 東京文化

地域・観光科目群

- # 観光学
- # マーケティング
- # ホスピタリティ
- # 観光英語
- # 地域ブランディング

国内インターンシップ(単位取得可)

オフキャンパスプログラムとして、国際学科には
単位認定される国内インターンシップがあります。
国際ビジネスの現場で実践的なコミュニケーションを
経験します。

プログラム例(予定)

- 国際空港において、来日する外国人をサポート
- 国内の高級リゾートホテルで、サービス業界の業務を経験

海外インターンシップ

本学では、国内だけでなくとどまらず、
海外での実践プログラムを用意しています。
「英語を学ぶ」だけでなく、「英語で学ぶ」経験ができます。
*本プログラムは課外活動となるため、単位認定はされません。

プログラム事例(すべて2022年実績)

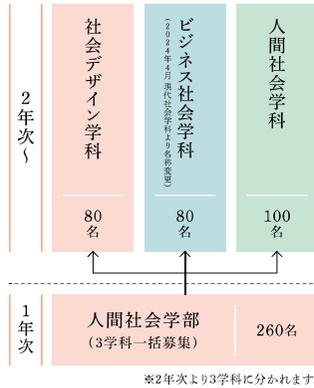
- オーストラリア・シドニーで4週間のインターン研修
- ベトナム・ホーチミンで4週間のインターン研修
- アメリカ・フロリダのテーマパークでチームワームを学ぶ
- カンボジア・プノンペンでカレーハウスの経営を体験

人間社会学部の学びの特色

1

幅広い視野をもてる 3学科一括募集

1年次は人間社会学部に所属し、各学科の基礎分野を幅広く学び、2年次に所属学科を選び、自らの学びをデザインします。



2

1年次から少人数のゼミで アクティブラーニング

1年次から「基礎ゼミ」に所属し、学生が主体的に考え行動する「アクティブラーニング」方式で学びます。グループワークを豊富に取り入れているため、ディスカッションスキルやプレゼンテーションスキルの向上を実感することができます。



3

PBL(課題解決型学習プログラム)や ビジネスコンテストへの参加

4年間を通して、学生独自の目線で課題を発見し、解決方法を提案する機会が豊富です。ビジネスの第一線で活躍する企業の方から実際にフィードバックをいただき、ビジネス感覚を養う貴重な経験が授業やゼミ内でできます。

PBL実例

旅行会社や旅客鉄道会社など、
様々な企業との産学連携プロジェクトに
取り組んでいます。



- 左:遊園地におけるオールシーズンの集客および売上
の増加、顧客満足度向上を研究
- 右:若者が何度も地域に連いなくなる、帰りにくくなる
新たな旅のスタイルをプレゼンテーション

社会連携プログラム

実践女子大学では、企業や自治体と連携したプログラムを行っています。

Point 1



渋谷の立地を
活かした
課題解決を実践

渋谷キャンパスでは、若者文化の発信地であり、IT企業やベンチャー企業が集積する渋谷の立地を活かし、さまざまな企業・自治体と連携を行っています。

Point 2



学部の
枠組みを超えた
豊富な活動

学部の授業だけでなく、社会連携プログラムではキャンパス・学部・学科を超え、様々な専門性・バックグラウンドを持った学生同士がグループワークを行います。

Point 3



企業のトップから、
「女性のキャリア」に
ついて直接学ぶ機会

変化が目まぐるしい社会のなかで、女性として今後どのような力が必要か、各企業のトップで活躍する方の講演を通して、自身のキャリアについて考える機会が豊富にあります。

社会連携プログラム 特設サイト

産業界や自治体とコラボレーションした取り組みの実例を紹介しています。ぜひご覧ください！



納付金について

■初年度納入金(2023年度実績)
人間社会学部 1,367,010円

参考:2022年度入学者納付金

- 津田塾大学 総合政策学部 1,280,000円
- 法政大学 キャリアデザイン学部 1,320,000円
- 武蔵野大学 データサイエンス学部 1,496,600円



実践女子大学

渋谷キャンパス

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
TEL:03-6450-6820(入学サポート部)

交通アクセス

- 渋谷駅から ◆JR(山手線、埼京線、湘南新宿ライン)
／東京メトロ(銀座線、半蔵門線、副都心線)
／東急(東横線、田園都市線)
／京王井の頭線 東口C1出口から徒歩約10分
- 表参道駅から ◆東京メトロ(銀座線、半蔵門線、千代田線)
B1出口から徒歩約12分



★
実践女子大学
渋谷キャンパス

—学生確保(資料)—27—



未来を創る

渋谷ではじまる新しい学び

人間社会学部 社会デザイン学科

(仮称)

2024年4月 設置構想中



実践女子大学

※学科の内容は構想中のため、変更になる可能性があります。

社会デザイン学科

(仮称・2024年4月 設置構想中)



Concept

この先の社会を、 デザインする。

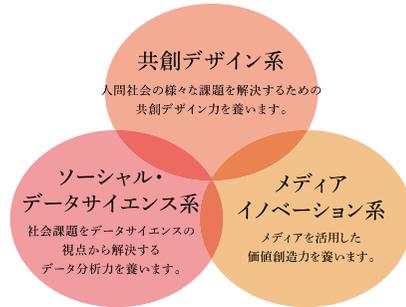
グローバル化が当たり前になり、SDGsが浸透し、
今、メタバースが様々な分野で取り入れられています。
社会が大きく変わっていく中、
未来を切り開くのが、デザイン(設計)の力。
課題を発見し、アイデアを出し、
試行錯誤を繰り返していくことで、
古い仕組みが変わり、
新しい製品やサービス、仕掛けが生まれます。

社会デザイン学科で学ぶのは、
データ・AIの活かし方、
多様な人々と新しい価値を生み出す「共創」の仕方、
変化するメディアの活用など、
今までとは異なるアプローチ。

好奇心と、失敗さえも楽しむ前向きさで、
よりよい未来をデザインしていこう。

学びの領域

3系統を組み合わせて学び、実践でかたちにしていきます。



学びのキーワード

- #社会学
- #デザイン思考
- #科学技術社会論
- #メディア論
- #情報ネットワーク
- #AI・データサイエンス
- #ジェンダード・イノベーション
- #アントレプレナーシップ
- #コミュニケーション・デザイン

こんな人におすすめ

- 大学でなにかに挑戦したい
- チームで成果を出す楽しさを味わいたい
- まずは「やってみたい」と好奇心を持って取り組める
- 社会の最先端に触れてみたい
- 世の中の課題を解決したり、ニーズに応えたい
- データサイエンスやAIの活用に興味がある

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 認定心理士
- 公認心理士国家試験受験資格 (要実務経験又は大学院修了)
- 社会調査士

想定される将来像

- シンクタンク、コンサルティング会社でのリサーチャー・データアナリスト
- データを用いた新しいサービスの開発・起業家
- マスコミ・メディア関係企業などでの企画・事業開発
- IT・情報系などビッグデータを扱う企業でのデータ分析・プログラマー
- 公務員、NPO法人・公共分野での社会貢献事業



社会デザイン学科授業(一例)

実践デザインラボ

社会の課題を発見し、解決策をデザイン。

デザイン思考をベースに、少子高齢化、地域、防災、環境・エネルギー、健康、教育、格差、ダイバーシティなど、「ソーシャル・デザイン」に挑戦します。ソーシャル・デザインとは、社会の中の課題を発見し、その解決をデザインする一連のプロセスのこと。デザインする対象は、モノだけでなく、社会制度や活動、サービスなど多岐にわたります。このプロジェクト学習を通して、デザイン思考を実際の社会課題解決のために活用できる力を身につけます。



データ時代の女性キャリア開発

研究者や実務家を招いてディスカッション。

Society 5.0を迎え、社会のさまざまな領域でDX(デジタルトランスフォーメーション)が進み、AIやIoT、ビッグデータが活用されるようになってきています。そうしたデータサイエンス業界における女性活躍の現状や課題等について、研究者や実務家を招き、議論を行います。それにより、ジェンダーステレオタイプにとらわれない、データ・AI時代の女性キャリア開発についての理解を深めます。



学びのテーマ(例)

社会デザイン学科では、4年次に卒業研究・論文に取組みます。

3つの学び領域でどのような卒業研究のテーマが考えられるのか、一部例を紹介いたします。

共創デザイン系

- ソーシャルゲーム空間における「創発的共同行為」の発生要件
- 生理管理アプリで収集されるビッグデータ活用の可能性と課題
- 人工知能と人間の共生社会を考えるためのゲームデザイン
- 共創ワークショップを活用した地方自治体の課題解決スキームの提案

ソーシャル・データサイエンス系

- ファンにおける推しの好みの計量化とその傾向分析
- 渋谷での空きオフィス問題と未来型スマート農業の導入と課題
- スーパーにおける購買履歴データを用いた値引きのタイミングの最適化
- データからみる過疎化地域における地域創生

メディアイノベーション系

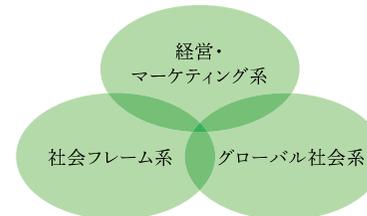
- バーチャルアイドルの「成長」とファンダム形成
- ソーシャルメディアにおけるフェイクニュース拡散のネットワーク分析
- TikTokで配信されるニュースがもたらす情報接触行動への影響
- サブスクリプションサービスの台頭によるメディア・コンテンツ制作の変化

人間社会学部は、幅広い視野を持てる3学科一括募集。

1年次は学部にも所属し、各学科の基礎分野を幅広く学び、
2年次に所属学科を選び、自らの学びをデザインします。

ビジネス社会学科 (仮称) ※現代社会学科から名称変更

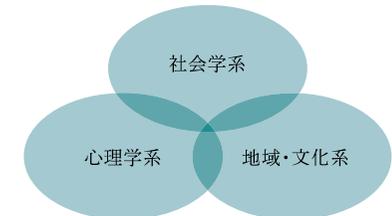
ビジネスで社会を変え、
新時代のキャリアを描く



学びのキーワード

人間社会学科

人間と社会と文化の在り方を理解し、
新しい価値観を創造する



学びのキーワード

■競合学科候補(主要大学から抜粋)

心理系

大学名	学部名	学部 女子比率
跡見学園女子大学	心理学部	100.0%
聖徳大学	心理・福祉学部	100.0%
東京未来大学	こども心理学部	76.5%
明治学院大学	心理学部	75.6%
立教大学	現代心理学部	73.3%
立正大学	心理学部	67.9%
明星大学	心理学部	65.2%
目白大学	心理学部	63.5%
東京成徳大学	応用心理学部	61.7%
駿河台大学	心理学部	54.4%
東京福祉大学	心理学部	49.6%

メディア系

大正大学	表現学部	76.7%
目白大学	メディア学部	66.0%
城西国際大学	メディア学部	61.6%
江戸川大学	メディアコミュニケーション学部	51.3%
駿河台大学	メディア情報学部	35.2%
東京工科大学	メディア学部	27.9%

観光系

跡見学園女子大学	観光コミュニティ学部	100.0%
明海大学	ポスナビリティ・ツーリズム学部	81.1%
玉川大学	観光学部	78.9%
東洋大学	国際観光学部	67.7%
立教大学	観光学部	67.6%
東海大学	観光学部	59.2%
秀明大学	観光ビジネス学部	55.1%
城西国際大学	観光学部	41.0%

※女子比率は、2021年4月入学者の学部全体の女子比率。(旺文社調べ)

國學院大學	観光まちづくり学部	新設(2022年)
-------	-----------	-----------

■競合学科候補(主要大学から抜粋)

社会系

大学名	学部名	学部 女子比率
日本女子大学	人間社会学部	100.0%
昭和女子大学	人間社会学部	100.0%
実践女子大学	人間社会学部	100.0%
恵泉女学園大学	人間社会学部	100.0%
十文字学園女子大学	社会情報デザイン学部	100.0%
青山学院大学	地球社会共生学部	74.6%
明治学院大学	社会学部	71.7%
立教大学	社会学部	65.5%
東京外国語大学	国際社会学部	65.0%
学習院大学	国際社会科学部	63.5%
大正大学	心理社会学部	63.0%
東京都立大学	人文社会学部	61.9%
東洋大学	社会学部	61.5%
成城大学	社会イノベーション学部	58.4%
早稲田大学	文化構想学部	58.2%
目白大学	社会学部	56.8%
東海大学	文化社会学部	55.2%
茨城大学	人文社会科学部	53.8%
武蔵大学	社会学部	52.4%
東京経済大学	コミュニケーション学部	52.3%
明治大学	情報コミュニケーション学部	46.6%
筑波大学	社会・国際学類	46.5%
大東文化大学	社会学部	45.0%
一橋大学	社会学部	42.9%
法政大学	社会学部	42.6%
青山学院大学	社会情報学部	40.5%
流通経済大学	社会学部	39.2%
千葉商科大学	人間社会学部	32.3%
早稲田大学	社会科学部	32.2%
東京都市大学	メディア情報学部	32.1%
文教大学	情報学部	30.2%
浦和大学	社会学部	20.0%

※女子比率は、2021年4月入学者の学部全体の女子比率。(旺文社調べ)

■競合学科候補(主要大学から抜粋)

情報系

大学名	学部名	学部 女子比率
中央大学	国際情報学部	41.6%
横浜市立大学	データサイエンス学部	38.1%
群馬大学	情報学部	37.2%
筑波大学	情報学群	33.1%
千葉商科大学	政策情報学部	32.1%
武蔵野大学	データサイエンス学部	28.7%
滋賀大学	データサイエンス学部	25.0%
東洋大学	総合情報学部	25.0%
専修大学	ネットワーク情報学部	24.3%
東洋大学	情報連携学部	19.2%
法政大学	情報科学部	16.5%
電気通信大学	情報理工学域	13.8%
東京都市大学	情報工学部	13.5%
千葉工業大学	情報科学部	11.9%
立正大学	データサイエンス学部	11.7%
工学院大学	情報学部	10.4%
明星大学	情報学部	10.4%
東海大学	情報理工学部	9.1%
神奈川工科大学	情報学部	6.9%
慶應義塾大学	環境情報学部	非公開

※女子比率は、2021年4月入学者の学部全体の女子比率。(旺文社調べ)

一橋大学	ソーシャルデータサイエンス学部	新設(2023年)
神奈川大学	情報学部	新設(2023年)
北里大学	未来工学部	新設(2023年)
順天堂大学	健康データサイエンス学部	新設(2023年)
東京都市大学	デザイン・データ科学部	新設(2023年)
湘南工科大学	情報学部	新設(2023年)
お茶の水女子大学	共創工学部(2024年)	新設(2024年)
明治学院大学	情報数理学部(2024年)	新設(2024年)
麗澤大学	工学部(2024年)	新設(2024年)
日本先端工科大学	情報学部(2024年開学)	新設(2024年)

資料8

令和4年度（2022年度） 実践女子大学・短期大学部 出身都道府県別入学者数

地域・都道府県別		大学		短期大学部	
		入学者数	割合	入学者数	割合
北海道		14	1.4	1	0.6
東北	青森県	5	0.5	0	0.0
	岩手県	7	0.7	2	1.3
	宮城県	11	1.1	1	0.6
	秋田県	6	0.6	1	0.6
	山形県	8	0.8	1	0.6
	福島県	11	1.1	3	1.9
関東	茨城県	33	3.2	4	2.6
	栃木県	18	1.7	2	1.3
	群馬県	23	2.2	1	0.6
	埼玉県	170	16.4	43	27.6
	千葉県	105	10.2	11	7.1
	東京都	364	35.2	41	26.3
	神奈川県	134	13.0	24	15.4
中部	新潟県	13	1.3	3	1.9
	富山県	3	0.3	0	0.0
	石川県	2	0.2	0	0.0
	福井県	1	0.1	0	0.0
	山梨県	34	3.3	3	1.9
	長野県	17	1.6	4	2.6
	岐阜県	3	0.3	0	0.0
	静岡県	27	2.6	1	0.6
	愛知県	2	0.2	0	0.0
	近畿	三重県	4	0.4	0
滋賀県		1	0.1	0	0.0
京都府		1	0.1	0	0.0
大阪府		1	0.1	0	0.0
兵庫県		0	0.0	0	0.0
奈良県		3	0.3	0	0.0
和歌山県		0	0.0	0	0.0
中国	鳥取県	0	0.0	0	0.0
	島根県	0	0.0	0	0.0
	岡山県	2	0.2	0	0.0
	広島県	0	0.0	0	0.0
	山口県	2	0.2	0	0.0
四国	徳島県	0	0.0	0	0.0
	香川県	3	0.3	0	0.0
	愛媛県	0	0.0	0	0.0
	高知県	0	0.0	1	0.6
九州	福岡県	1	0.1	0	0.0
	佐賀県	0	0.0	0	0.0
	長崎県	0	0.0	0	0.0
	熊本県	1	0.1	0	0.0
	大分県	0	0.0	2	1.3
	宮崎県	1	0.1	1	0.6
	鹿児島県	2	0.2	1	0.6
	沖縄県	1	0.1	2	1.3
その他	0	0.0	3	1.9	
合計	1034		156		

実践女子大学

国際学部国際学科（仮称）

人間社会学部社会デザイン学科（仮称）

設置に関する受容性調査 結果報告書

【企業】

株式会社日本ドリコム

令和5年1月

目次

1. 調査概要	4
(1) 調査目的		
(2) 調査期間		
(3) 調査対象・方法		
(4) 有効回答数		
(5) 調査実施機関		
(6) 調査項目		
(7) 調査結果の見方		
2 調査結果のサマリー	5
3 集計結果	6
資料1 質問用紙		
資料2 リーフレット		

1 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体を対象に、その関心度や想定する採用人数等を尋ねたものであり、実践女子大学国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）の設置構想における検討資料とすることを目的とする。

(2) 調査期間

令和4年11月29日～令和4年12月24日

(3) 調査対象・方法

- ・当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体の人事採用担当者
- ・オンライン回答フォームと質問紙による調査

(4) 有効回答数

114件

(5) 調査実施機関

株式会社 日本ドリコム

(6) 調査項目

資料1 質問用紙に記載

(7) 調査結果の見方

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・基数となる実数はNとして掲載し、各グラフの比率はNを母数とした割合を示す。
- ・1人の回答者が複数回答する設問では「MA」と表示。

2 調査結果のサマリー

I. 概要

- ・本調査は、実践女子大学国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）の新規設置に伴う社会的ニーズの把握を目的として実施した。
- ・当該学部学科の卒業生の就職先として想定される 114 の企業・団体より有効な回答を得た。

II. 新卒採用・人材充足状況

- ・直近(2022年4月)の採用動向として、97.4%の企業・団体に採用実績があり、採用人数の平均値は68.6名、中央値は27名であった。
- ・人材の過不足について、78.1%の企業・団体が人材不足と回答している。
- ・今後の新卒採用の計画については、95.6%の企業が採用人数の増加もしくは現状の採用数維持の意向を示した。

III 養成する人材の社会的ニーズ

- ・養成する人材の社会的ニーズの高さについて、国際学部国際学科（仮称）は95.6%、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）は96.5%の企業・団体が肯定的な回答（「ニーズは高い」、「どちらかといえばニーズは高い」）を行っている。

IV 採用意向

- ・当該学科について採用意向を示した企業・団体は、国際学部国際学科（仮称）が65の企業・団体（採用想定数162名）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）が65の企業・団体（採用想定数183名）となった。尚、この数値には「採用を検討したい」の回答は含まれておらず、明確に「採用したい」と回答した企業・団体のみを集計した値となっている。

3 集計結果

所在する都道府県

N=114

都道府県	回答数	割合
東京都	94	82.5%
神奈川県	5	4.4%
埼玉県	3	2.6%
静岡県	3	2.6%
大阪府	3	2.6%
群馬県	2	1.8%
兵庫県	2	1.8%
愛知県	1	0.9%
岡山県	1	0.9%

※回答数の多い順に並び替え

業種

MA N=114

業種	回答数	割合
1. 農林漁業・鉱業・建設	6	5.3%
2. 製造業	18	15.8%
3. 情報通信業	20	17.5%
4. 運輸業・卸売業・小売業	38	33.3%
5. 金融・保険・不動産業	9	7.9%
6. 宿泊・飲食サービス業	7	6.1%
7. 医療・福祉業	1	0.9%
8. 対個人サービス業	6	5.3%
9. 他事業所サービス業	8	7.0%
10. 電気・ガス・熱供給・水道業	5	4.4%
その他	13	11.4%

従業員・職員数

N=114

従業員数	回答数	割合
～ 50 人	0	0.0%
51 ～ 100 人	2	1.8%
101 ～ 499 人	35	30.7%
500 ～ 999 人	27	23.7%
1, 000 人以上	50	43.9%

新卒者を採用する際に重視する能力

新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。MA

単位% N=114

能力	回答数	割合
コミュニケーション能力	109	95.6%
協調性	85	74.6%
柔軟性・素直さ	76	66.7%
主体性	75	65.8%
チャレンジ精神	60	52.6%
ストレス耐性	57	50.0%
責任感	53	46.5%
協働力	51	44.7%
思考力	41	36.0%
課題解決能力	39	34.2%
実践力	37	32.5%
成長力	33	28.9%
ホスピタリティマインド	31	27.2%
リーダーシップ	24	21.1%
創造性	22	19.3%
学業成績・一般常識	16	14.0%
専門性	5	4.4%
取得資格	4	3.5%
出身学部・学科	2	1.8%
その他	1	0.9%

※回答数の多い順に並び替え

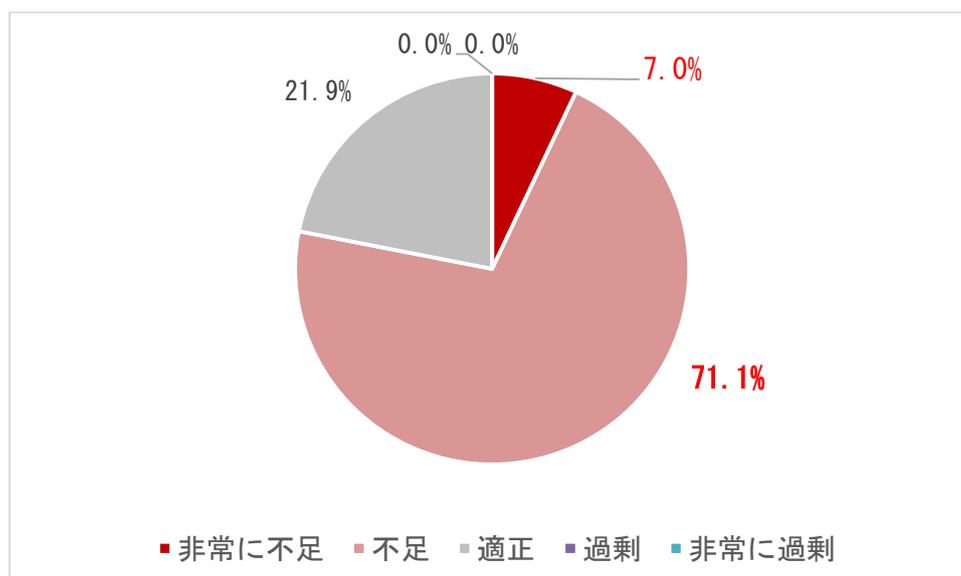
人材の過不足状況

現在の人材の過不足状況をお答えください。

N=114

過不足の状況	回答数	割合
非常に不足	8	7.0%
不足	81	71.1%
適正	25	21.9%
過剰	0	0.0%
非常に過剰	0	0.0%

N=114



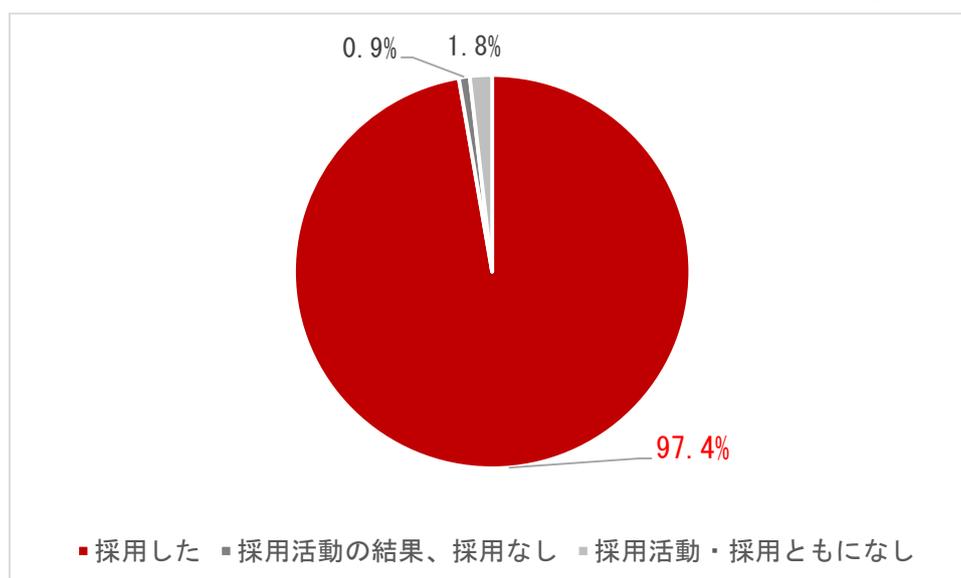
直近の新卒採用状況（2022年4月）

直近（2022年4月）の新卒採用の状況についてお答えください。

N=114

採用状況	回答数	割合
採用した	111	97.4
採用活動の結果、採用なし	1	0.9
採用活動・採用ともになし	2	1.8

N=114



直近（2022年4月）の採用人数

回答数	採用人数 合計	平均	最小値	最大値	中央値
111	7615名	68.6名	1名	700名	27名

※回答数には人数未記入の企業・団体も含む

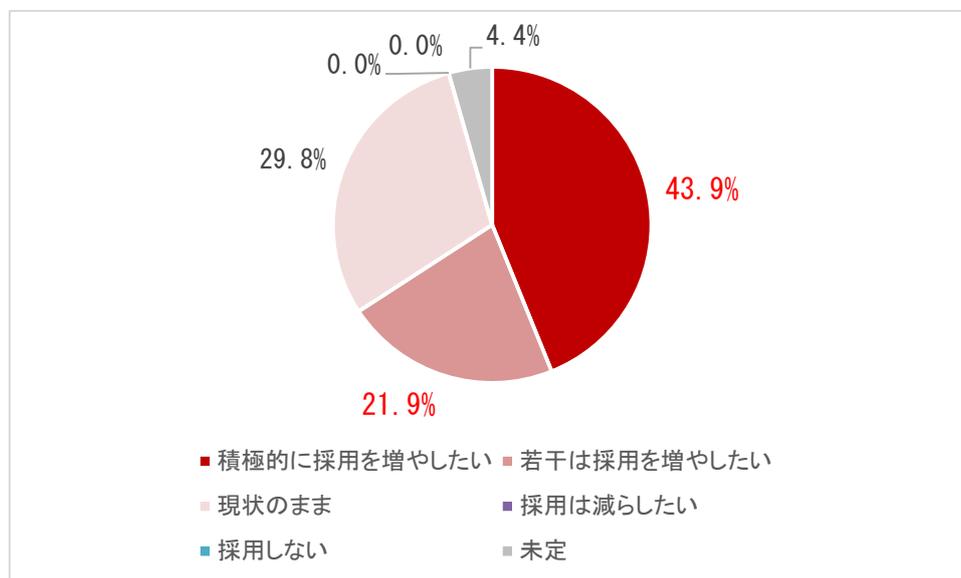
今後の新卒採用計画

今後の新卒採用の計画についてお答えください。

N=114

今後の新卒採用の計画	回答数	割合
積極的に採用を増やしたい	50	43.9%
若干は採用を増やしたい	25	21.9%
現状のまま	34	29.8%
採用は減らしたい	0	0.0%
採用しない	0	0.0%
未定	4	4.4%

N=114



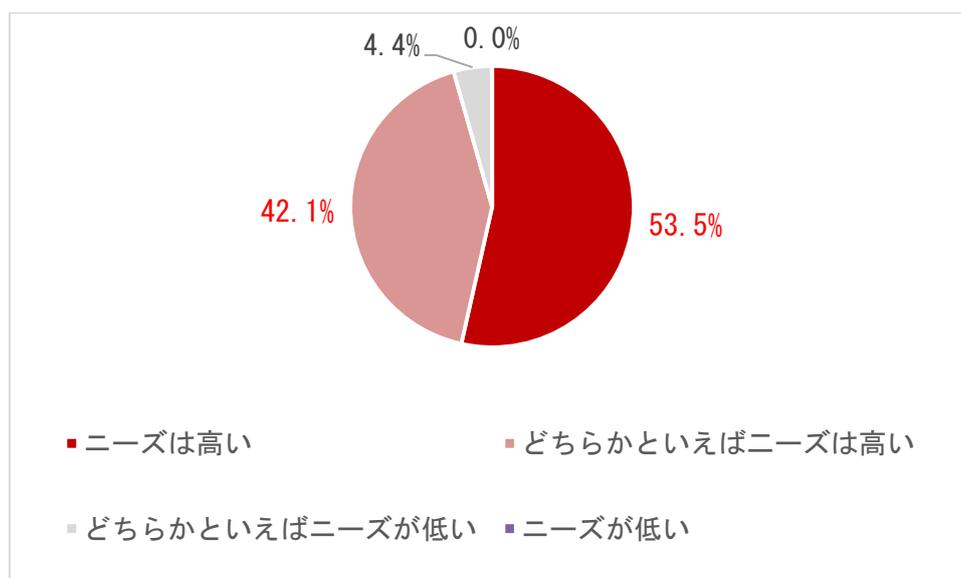
養成する人材の社会的ニーズ

国際学部 国際学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

N=114

ニーズ	回答数	割合
ニーズは高い	61	53.5%
どちらかといえばニーズは高い	48	42.1%
どちらかといえばニーズが低い	5	4.4%
ニーズが低い	0	0.0%

N=114

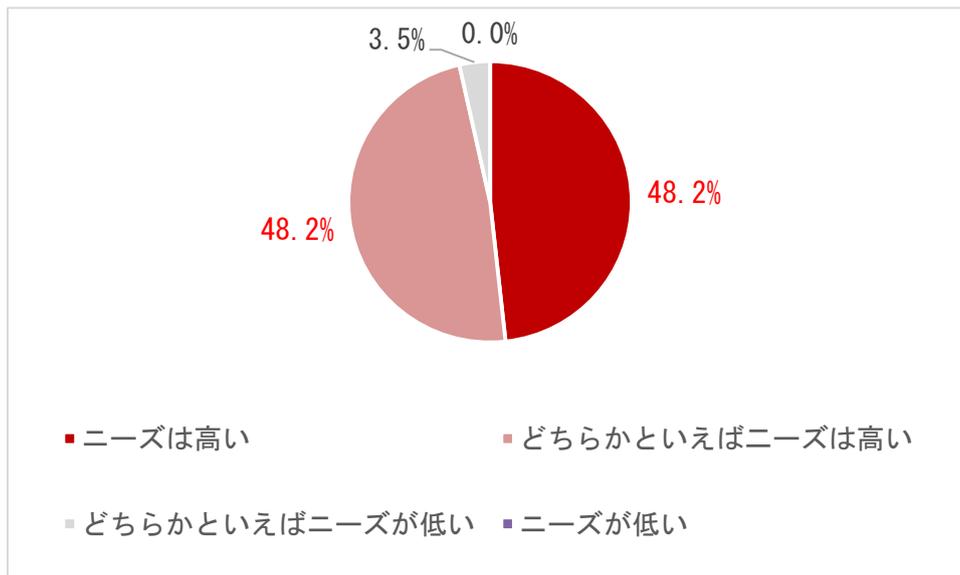


人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

N=114

ニーズ	回答数	割合
ニーズは高い	55	48.2%
どちらかといえばニーズは高い	55	48.2%
どちらかといえばニーズが低い	4	3.5%
ニーズが低い	0	0.0%

N=114



養成する人材の採用意向

国際学部 国際学科及び人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材の、
貴事業所での今後の採用意向

N=114

採用意向	回答数	割合
採用したい	65	57.0%
採用を検討したい	39	34.2%
どちらとも言えない	10	8.8%
採用しない	0	0.0%

学科ごとの採用意向および採用想定人数

国際学部 国際学科

N=104

採用意向	回答数	採用想定人数
採用したい	65	162
採用を検討したい	39	41

人間社会学部 社会デザイン学科

N=104

採用意向	回答数	採用想定人数
採用したい	65	183
採用を検討したい	39	62

意見・要望等

印象やご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。(自由記述)

国際学部 国際学科

期待しております。
コロナ禍もあったが、今後も異文化や国際分野は重要になってくる。このようなさまざまな視点を身に着けることができる学部は必要だと感じた。
当社の海外コースにマッチしていると感じます。
ワールドワイドに活躍するからこそ、日本のことを学ぶカリキュラムは活躍するうえで必要だと思いますしとても魅力的に感じました。
弊社の人材募集に適しています
当社の事業発展に貢献できそうに感じた。
弊社の事業展開が国内であることから、専攻を生かしきれないのでは、という懸念からニーズを低くしております。
IT分野でもグローバルな視点でものを考える力が今後必要とされると思われまので、そういった広い視野を持つ人材を育てていただきたいです。
日本市場がシュリンクする予測の中、日本企業の海外進出は必須となる。異文化に興味を持ち、流ちょうな英語でコミュニケーションできる人材に期待したい。
当社でも海外事業部がございます。グローバル化が進む中、海外に触れ、多様な経験をされている学生は魅力的でございます。
日本にいても英語を使った業務・会社は増えていると感じます。徹底した英語教育は必要不可欠です。社会に出られる日を楽しみにしております。
競争力は昨今のウクライナ・ロシア（エネルギー・食料問題からエネルギー・食料自給率）や環境問題により国際的視点からの施策が必要と考えられます。それ以外にも多々あると思いますが、上記の点等と経済成長が絡み合う複雑さは更に高まると思います。
英会話中心授業が魅力的である。
国際的な視点を身に付け日本と海外を繋ぐうえで重要な人材を輩出されることを期待しております。
グローバルな視点を学ぶ場として興味深く感じました。弊社でも学びを活かしてグローバル化が進み、アフターコロナでインバウンドの需要が高まっていく世の中で、今後どのようなサービスが必要となるのかを考えてカタチにしていきたいです。
世界との繋がりがポータレスになっていく中で、グローバルな視点を持つ人材の育成は喫緊の課題であると思う。新学部にそういう人材の輩出を期待したい

貿易に携わるポジションは多く、英語力を活かせると感じました。
国際化に適用できる人材の育成教育を促進されている
現在グループ会社にて、海外進出をしておりますので、今後の事業展開によっては英語力を重視した採用を行う可能性も出てくるかと思えます。その際は求人のご相談をさせていただきます。存じます。
グローバル化の中、国際関係や観光学など 英語コミュニケーション力をアップできるアイテムがそろっているのが魅力だと思います。
ジャパンマーケットのみならず、ワールドワイドで活躍する人材がますます求められておりますので、学生にとっても、社会にとっても御校の国際学部国際学科で学ばれた方のご活躍が広がるかと存じます。
弊社では新卒で施工管理業務を行っていただける学生の皆様に募集しております。国際学部は直接建設業と関係は無いかもしれませんが、昨今現場では外国籍の方が増えていること、また海外からの送られてくる図面の解析・翻訳等の業務に対するニーズが増えていることから、外国語スキルの高い学生様への評価は年々上昇しております。
現状国際系の学部学科がないため（英文学科はありますが）、設置はとても効果的かと思えます。
時代にマッチしている
多様な考え方や英語・そのほかの言語を使える学生は、今後企業でも求められると思えます。
グローバル社会の中で、国際的に考えられる思考や日本以外に目を向ける意識が高いことは重要だと感じる。
国際性と専門性を身に付けたビジネスパーソンが多く輩出され、その人材とご縁が結ばますことを祈念しております。
語学、とくに英語がメインになるようですが、その習得のみならず、日本文化・東京文化などの学習も出来るのが魅力的です。
英語をスタンダードに海外展開などの人財としては有効
人間社会学部 社会デザイン学科、でも共通する話ですが、類似した名前の学部学科は多いと思えます。コースやカリキュラムなど貴校ならではのものがあると良いと思えます。
グローバル化が進み、語学習得だけでなく、語学をツールに働くことが求められる中での御学部のニーズは高いように感じる。 一方で採用側としては、あくまで人物本位での選考がメインとなっており、学部の枠にとられず、自身で考え行動できるマインドを持った学生の育成に期待したい。
今後に向けて需要の高い学部・学科を設置されること、とても素晴らしいと思えます。一方、弊社は学部などの学歴は不問ですが、貴学部の学生様が学んだことを活かしたいと感じ

じた場合、必ずしも活かしきれるとは言い難い為、弊社にとってはやや学生様が繋がりにくい印象を受けました。
国際的な視点で国境を超えて活躍できる人材の育成はとても社会的意義があると考えます。
3ヶ月以上の海外留学を必修にし、単位に組み込んでいるところが良いと思いました。

※文章は原文ママ。但し、個人名・企業名等が記載されている部分は削除。

人間社会学部 社会デザイン学科

期待しております。
データサイエンス、デザイン思考など今後より注目される分野だと考えているため、このような最先端の内容に触れることができる学科は必要である。
会社に必要なスキルを身に着けることが出来、主体的に動ける学生がいるのではないか感じました。
企業のトップから学べる機会が大学時代にあることはとてもよい刺激になりそうだと感じました。
弊社の人材募集に適しています。デザイン（容器）など募集しているので魅力的
当社の事業発展に貢献できそうに感じた。
データサイエンスは、今後さらに様々な業界で活用される分野だと考えております。単なるデータ分析だけではなく、それをどう生かすか柔軟な発想でデザインする力が求められていると思います。
現代社会に沿った「情報」のスキルを身に付けている学生の育成に力を入れていることを伺い今後の活躍という点で魅力に感じた
企業の活動は業務もマーケティングもメディアもデジタル化、DX化される社内で、人間関係、コミュニケーション、チームワークを科学する力がますます重要となる。
社会で活躍するための基礎を経験できることは魅力だと思います。ビジネスに関連することを早くから経験できることはとても大切だと思います。
3系統の学びをすることでより社会に貢献できる学生さんが育つのかと思いました。社会に出られる日を楽しみにしております。
データサイエンスは今後もニーズが高まると思います。実際にビッグデータ、社内データのマッチングを行える人材はまだまだ少数と思われます。
PBL やビジネスコンテストの参加は魅力的に感じる。
必要性が高まってくる分野だと思いますので、どんな人材が輩出されるか楽しみです。
新しい環境や社会の変化に柔軟に対応できる人材の育成教育を促進されている

<p>授業に取り入れられているアクティブラーニングは、社会に出て大いに役に立つ経験だと思っております。技術サービスを行う弊社では、お客様の課題解決に寄り添う仕事になります。培った知識や経験を活かし活躍して頂きたいです。</p>
<p>データ時代に対応したカリキュラムの中で、実践的な学びの機会があることで、多様なキャリアを描くことが可能なところがビジネス社会にアピールできると思います。</p>
<p>DX化が注目され、データをどう活かしていくかは今後の成長戦略には欠かせない状況です。未来を切り開く人財の育成において、御校で学ばれた方のご活躍が広がるかと存じます。</p>
<p>弊社では新卒で施工管理業務を行っていただける学生の皆様を募集しております。施工管理とは言わば「ものづくり」「街づくり」に繋がる業務です。こうした観点からすれば、社会デザイン学科で学ばれた内容について、実務の方に活かされるのではと考えております。</p>
<p>人間社会学科とまた違う社会人になってからマルチに活かせるスキルを身に付けられる印象でいいと思います。ただ、学ぶ領域を幅広くしすぎずある程度専門性を高められる内容である方がいいと思います。</p>
<p>データサイエンスやAIといった分野は今後需要は高まると思います。</p>
<p>個人・集団・組織などいずれの枠組みでも社会との関わりは大きく、そのような基礎知識をもった人材は重要と感じる。</p>
<p>本年度、弊社に人間社会学部出身の社員が入社しておりますが、技術職という職種に対し、スキルを身に付けようと日々の業務に主体性をもって臨んでいるという報告を受けており、とても頼もしく思っております。システム開発に必ずしも直結した学部ではないかもしれませんが、弊社の業務にも問題なく対応できるものと確信しております。</p>
<p>主体性をもって、ゼミを中心にコミュニケーション能力を磨き、課題可決能力が養われるのは素晴らしいです。</p>
<p>発想力や実践力が身につく、地域活性等に活躍できそう</p>
<p>上記同様学部名を採用基準に影響することはありませんが、社会的環境が大きく変わる中で、その変化を学ぶ学部があれば有効な学びになると感じる。</p>
<p>自由な発想で物事を考える思考力や発信力、企画力のある人材はこれからますます必要とされると思います。</p>
<p>とても興味を持ちやすい内容が多い印象でした。</p>
<p>ビジネス感覚を養う貴重な経験が授業やゼミでできる事は非常に良い。この経験は、企業採用時のポイントとなり得ると思われます。</p>

※文章は原文ママ。但し、個人名・企業名等が記載されている部分は削除。

資料 1

FAX 送信先：03-6746-0053

株式会社日本ドリコム（担当：水島）

実践女子大学 国際学部 国際学科・人間社会学部 社会デザイン学科
(仮称・設置構想中) (仮称・設置構想中)

設置構想についての企業・団体様向けアンケート調査

選択肢がある場合は、該当する番号に○をつけてください。

はじめに貴社・貴機関・貴団体についてお訊ねします。

Q 1. 所在する都道府県（主たる事業所・本社等）をお答えください。

所在地： () 都・道・府・県

回答者： 1 人事・採用担当者 2 その他 ()

Q 2. 業種をお答えください。(複数回答可)

- | | | | |
|---------------|-------------------|-------------|----------------|
| 1. 農林漁業・鉱業・建設 | 2. 製造業 | 3. 情報通信業 | 4. 運輸業・卸売業・小売業 |
| 5. 金融・保険・不動産業 | 6. 宿泊・飲食サービス業 | 7. 医療・福祉業 | 8. 対個人サービス業 |
| 9. 他事業所サービス業 | 10. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 11. その他 () | |

Q 3. 従業員数、職員数の規模をお答えください。(支店や支社を含めた数)

1. ~ 50 人 2. 51 ~ 100 人 3. 101 ~ 499 人 4. 500 ~ 999 人 5. 1,000 人以上

Q 4. 新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。(複数回答可)

- | | | | |
|----------------|-------------|---------------|-------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 思考力 | 3. 実践力 | 4. 協働力 |
| 5. ホスピタリティマインド | 6. 課題解決能力 | 7. 主体性 | 8. 協調性 |
| 9. 責任感 | 10. リーダーシップ | 11. 専門性 | 12. 成長力 |
| 13. 柔軟性・素直さ | 14. 創造性 | 15. チャレンジ精神 | 16. ストレス耐性 |
| 17. 取得資格 | 18. 出身学部・学科 | 19. 学業成績・一般常識 | 20. その他 () |

Q 5. 現在の人材の過不足状況をお答えください。

1. 非常に不足 2. 不足 3. 適正 4. 過剰 5. 非常に過剰

Q 6. 直近(2022年4月)の新卒採用の状況、採用人数についてお答えください。

1. 採用した 人数 名 2. 採用活動の結果、採用なし 3. 採用活動・採用ともになし

Q 7. 今後の新卒採用の計画についてお答えください。

1. 積極的に採用を増やしたい 2. 若干は採用を増やしたい 3. 現状のまま
4. 採用は減らしたい 5. 採用しない 6. 未定

以下は、リーフレットをご覧くださいお答えください。

Q 8. 国際学部 国際学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

1. ニーズが高い 2. どちらかといえばニーズが高い 3. どちらかといえばニーズが低い 4. ニーズが低い

Q 9. 人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

1. ニーズが高い 2. どちらかといえばニーズが高い 3. どちらかといえばニーズが低い 4. ニーズが低い

※以下Q10、Q11における採用意向・人数に関する回答は、実際の採用人数をお約束いただくものではありません。ご担当部署もしくはご担当者様ご自身のお考えに最も近いものをお答えください。

Q 10. 国際学部 国際学科及び人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材の、貴事業所での今後の採用意向

1. 採用したい 2. 採用を検討したい 3. どちらとも言えない 4. 採用しない

Q 11. 【Q10 で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選んだ方のみお答えください】今後、採用を想定いただける人数

●国際学部 国際学科

名

●人間社会学部 社会デザイン学科

名

Q 12. 印象やご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

国際学部 国際学科について

人間社会学部 社会デザイン学科について

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

尚、当該学部学科の名称、教育内容等は予定であり変更される場合があります。

資料 2

社会連携プログラム

実践女子大学では、企業や自治体と連携したプログラムを行っています。

Point 1



渋谷の立地を活かした
課題解決を実践

渋谷キャンパスでは、若者文化の発信地であり、IT企業やベンチャー企業が集積する渋谷の立地を活かし、さまざまな企業・自治体と連携を行っています。

Point 2



学部の枠組みを超えた
豊富な活動

学部の授業だけでなく、社会連携プログラムではキャンパス・学部・学科を超え、さまざまな専門性・バックグラウンドを持った学生同士がグループワークを行います。

Point 3



企業のトップから、
「女性のキャリア」を
直接学ぶ機会

変化が目まぐるしい社会のなかで、女性として今後どのような力が必要か、各企業のトップで活躍する方の講演を通して、自身のキャリアについて考える機会があります。



社会連携プログラム 特設サイト

産業界や自治体とコラボレーションした取り組みの実例を紹介しています。ぜひご覧ください！

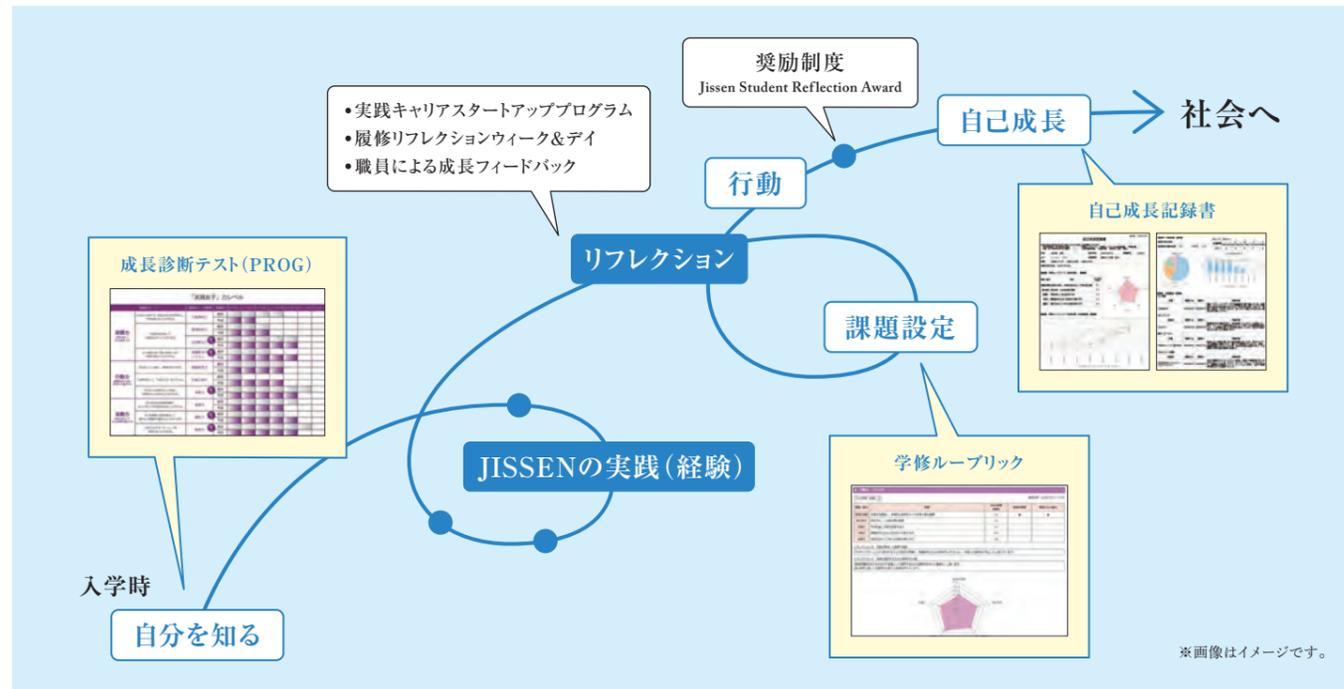


学生ひとりひとりの成長を支える「J-TAS」

すべての学生がより確かな成長と経験で得た自信を獲得するためのシステムが「J-TAS (Jissen Total Advanced Support)」。

特に本学においては「アクション(実践・経験の場)を増やす」「リフレクション(ふり返り)を行い、アウトプットの機会を増やす」

この2つに注力した自己成長支援を、入学直後から継続的にを行っています。



納付金について

- 初年度学費(予定)
国際学部 1,350,000円
(入学金、授業料、施設設備費含む)

※海外留学などのオフキャンパスプログラムに関しては別途費用がかかります。

参考:2022年度入学者納付金

- 昭和女子大学 国際学部 1,418,000円
- 日本女子大学 国際文化学部(2023年4月開設) 1,340,860円
- 学習院女子大学 国際文化交流学部 1,373,800円

実践女子大学

渋谷キャンパス

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
TEL:03-6450-6820(入学サポート部)

交通アクセス

- 渋谷駅から ◆JR(山手線、埼京線、湘南新宿ライン)
／東京メトロ(銀座線、半蔵門線、副都心線)
／東急(東横線、田園都市線)
／京王井の頭線 東口C1出口から徒歩約10分
- 表参道駅から ◆東京メトロ(銀座線、半蔵門線、千代田線)
B1出口から徒歩約12分



世界で実践

渋谷ではじまる新しい学び

国際学部 国際学科

2024年4月 設置構想中

実践女子大学

※学部学科の内容は構想中のため、変更になる可能性があります。

Concept

世界で実践。



世界はあなたにとっての未知にあふれています。
世界で何が起きているのかを知ること
あなたの未来の立ち位置がわかります。

世界に出て活躍したい。
日本と海外の懸け橋になりたい。
世界に通用するビジネスパーソンになりたい。
自分たちの地域を活性化させたい。

世界を舞台に、あなたの未来を「実践する」ために、
全学生必修の海外留学*を経験し、
英語運用能力を徹底的に向上させながら
日本文化と国際文化の専門知識を身につけ、
未知にチャレンジできる人を目指します。

国際学部国際学科 3つの特色

Topic 1

外国人と日本人教員が行う
6レベルの英語授業(必修)



1年次前期から3年次前期までの2年間に
わたり、約20名クラスによるレベル別の英
会話中心授業が必修となっています。

Topic 2

全学生が2年次に
3か月以上の海外留学が必修*



1年次前期から徹底的に鍛えた英語力を、
海外留学を通してさらにブラッシュアップ。
*やむを得ない事由により海外留学が不可能な学生に
ついては、別途実地研修等で卒業時に必要な単位の取
得が可能です。

Topic 3

渋谷という立地を
活かした学びを、世界へ



国家戦略特別区域で再開発が進む渋谷で
の4年間の学びを通して、多民族・異文化から
成る世界の幅広い視野と知識を手に入れ、海
外と日本をつなぐ人材へと成長していきます。

こんな人におすすめ

- 日本に限らず、世界でも活躍したい
- 自分のやりたいことを「国内外問わず」チャレンジしたい
- 日本や地域の良さを認識し、海外に広く伝えたい
- 英語力を習得して、多様な人々とコミュニケーションしたい
- 今、世界で何が起きているかを知りたい
- 世界を舞台に自分のキャリアを築きたい
- 国際交流を通して、地域を活性化させたい

卒業後は?

国際性と専門性を活かし、さまざまな分野での
海外営業、貿易事務、海外駐在員を目指します。

目指せる進路

- 外資系企業・グローバル企業
- 航空会社・旅行会社
- 国際物流企業・商社・メーカー
- IT企業、ベンチャーキャピタル企業
- NGO・NPO など



学びの特徴

徹底した英語教育をベースに、4領域からカスタマイズして学ぶ

	1年次	2年次	3年次	4年次
英語を徹底的に学ぶ	Speaking・Reading・Listening (話す・読む・聞く)力の強化	Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力をつける	Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力を磨く	
世界を広く、日本を深く学ぶ	専門基礎 国際人として必要な 多様な見方・考え方の 基礎となる4領域を学ぶ	専門応用 グループ演習も含め 各領域の 知識を深める	演習講義 専門領域での ディスカッションを行い 理解を深める	卒業論文 選択する専門領域での 国際人としての 素養の完成
	渋谷 海外	海外短期留学 (必修)3~6ヶ月	オフキャンパスプログラム	

「英語」を活かし、日本や海外で活躍

学びのKEY WORD

言語・コミュニケーション科目群

- #異文化コミュニケーション
- #国際メディア
- #英語学
- #対人コミュニケーション
- #ソーシャルメディア

国際文化科目群

- #多文化共生
- #世界の民族と宗教
- #グローバリゼーション
- #国際社会
- #国際関係
- #国際経営

日本文化科目群

- #海外の日本文学
- #民俗伝統芸能
- #日本文化資源
- #コンテンツ産業
- #東京文化

地域・観光科目群

- #観光学
- #マーケティング
- #ホスピタリティ
- #観光英語
- #地域ブランディング

国内インターンシップ(単位取得可)

オフキャンパスプログラムとして、国際学科には
単位認定される国内インターンシップがあります。
国際ビジネスの現場で実践的なコミュニケーションを
経験します。

プログラム例(予定)

- 国際空港において、来日する外国人をサポート
- 国内の高級リゾートホテルで、サービス業界の業務を経験

海外インターンシップ

本学では、国内だけにとどまらず、
海外での実践プログラムを用意しています。
「英語を学ぶ」だけでなく、「英語で学ぶ」経験ができます。
*本プログラムは課外活動となるため、単位認定はされません。

プログラム実例(すべて2022年実績)

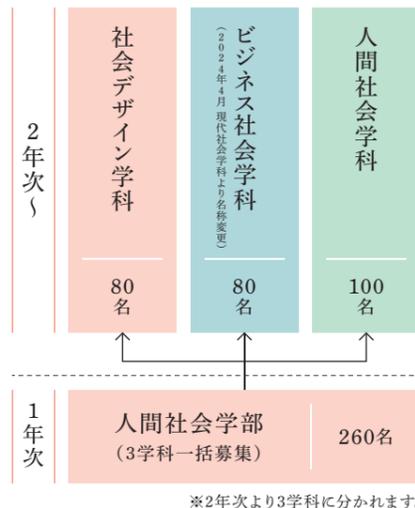
- オーストラリア・シドニーで4週間のインターン研修
- ベトナム・ホーチミンで4週間のインターン研修
- アメリカ・フロリダのテーマパークでチームワームを学ぶ
- カンボジア・プノンペンでカレーハウスの経営を体験

人間社会学部の学びの特色

1

幅広い視野をもてる
3学科一括募集

1年次は人間社会学部に所属し、各学科の基礎分野を幅広く学び、2年次に所属学科を選び、自らの学びをデザインします。



2

1年次から少人数のゼミで
アクティブラーニング

1年次から「基礎ゼミ」に所属し、学生が主体的に考え行動する「アクティブラーニング」方式で学びます。グループワークを豊富に取り入れているため、ディスカッションスキルやプレゼンテーションスキルの向上を実感することができます。



3

PBL(課題解決型学習プログラム)や
ビジネスコンテストへの参加

4年間を通して、学生独自の目線で課題を発見し、解決方法を提案する機会が豊富です。ビジネスの第一線で活躍する企業の方から実際にフィードバックをいただき、ビジネス感覚を養う貴重な経験が授業やゼミ内でできます。

PBL実例

旅行会社や旅客鉄道会社など、
様々な企業との産学連携プロジェクトに
取り組んでいます。



- 左: 遊園地におけるオールシーズンの集客および売上の増加、顧客満足度向上を研究
- 右: 若者が何度も地域に通いたくなる、帰りたいくなる新たな旅のスタイルをプレゼンテーション

社会連携プログラム

実践女子大学では、企業や自治体と連携したプログラムを行っています。

Point 1



渋谷の立地を活かした
課題解決を実践

渋谷キャンパスでは、若者文化の発信地であり、IT企業やベンチャー企業が集積する渋谷の立地を活かし、さまざまな企業・自治体と連携を行っています。

Point 2



学部の
枠組みを超えた
豊富な活動

学部の授業だけでなく、社会連携プログラムではキャンパス・学部・学科を超え、様々な専門性・バックグラウンドを持った学生同士がグループワークを行います。

Point 3



企業のトップから、
「女性のキャリア」に
ついて直接学ぶ機会

変化が目まぐるしい社会のなかで、女性として今後どのような力が必要か、各企業のトップで活躍する方の講演を通して、自身のキャリアについて考える機会が豊富にあります。



社会連携プログラム 特設サイト

産業界や自治体とコラボレーションした取り組みの実例を紹介しています。ぜひご覧ください！



納付金について

■ 初年度納入金(2023年度実績)
人間社会学部 1,367,010円

参考:2022年度入学者納付金

■ 津田塾大学 総合政策学部	1,280,000円
■ 法政大学 キャリアデザイン学部	1,320,000円
■ 武蔵野大学 データサイエンス学部	1,496,600円

実践女子大学

渋谷キャンパス

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
TEL:03-6450-6820(入学サポート部)

交通アクセス

- 渋谷駅から ◆JR(山手線、埼京線、湘南新宿ライン)
／東京メトロ(銀座線、半蔵門線、副都心線)
／東急(東横線、田園都市線)
／京王井の頭線 東口C1出口から徒歩約10分
- 表参道駅から ◆東京メトロ(銀座線、半蔵門線、千代田線)
B1出口から徒歩約12分

■ アクセスマップ



★ 実践女子大学
渋谷キャンパス



未来を創る

渋谷ではじまる新しい学び

人間社会学部 社会デザイン学科

(仮称)

2024年4月 設置構想中

実践女子大学

※学科の内容は構想中のため、変更になる可能性があります。

社会デザイン学科

(仮称・2024年4月 設置構想中)



Concept

この先の社会を、 デザインする。

グローバル化が当たり前になり、SDGsが浸透し、
今、メタバースが様々な分野で取り入れられています。

社会が大きく変わっていく中、
未来を切り開くのが、デザイン(設計)の力。

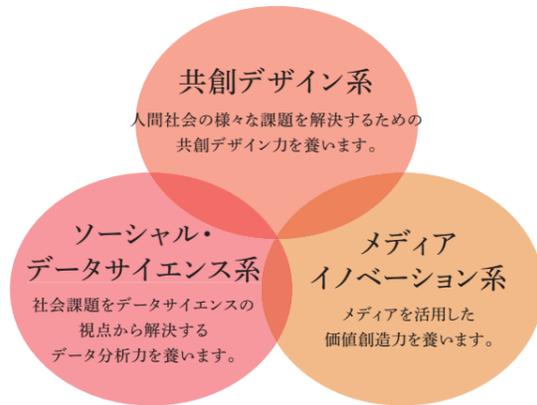
課題を発見し、アイデアを出し、
試行錯誤を繰り返していくことで、
古い仕組みが変わり、
新しい製品やサービス、仕掛けが生まれます。

社会デザイン学科で学ぶのは、
データ・AIの活かし方、
多様な人々と新しい価値を生み出す「共創」の仕方、
変化するメディアの活用など、
今までとは異なるアプローチ。

好奇心と、失敗さえも楽しむ前向きさで、
よりよい未来をデザインしていこう。

学びの領域

3系統を組み合わせて学び、実践でかたちにしていきます。



学びのキーワード

- #社会学
- #デザイン思考
- #科学技術社会論
- #メディア論
- #情報ネットワーク
- #AI・データサイエンス
- #ジェンダード・イノベーション
- #アントレプレナーシップ
- #コミュニケーション・デザイン

こんな人におすすめ

- 大学でなにかに挑戦したい
- チームで成果を出す楽しさを味わいたい
- まずは「やってみたい」と好奇心を持って取り組める
- 社会の最先端に触れてみたい
- 世の中の課題を解決したり、ニーズに応えたい
- データサイエンスやAIの活用に興味がある

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 認定心理士
- 公認心理士国家試験受験資格 (要実務経験又は大学院修了)
- 社会調査士

想定される将来像

- シンクタンク、コンサルティング会社でのリサーチャー・データアナリスト
- データを用いた新しいサービスの開発・起業家
- マスコミ・メディア関係企業などでの企画・事業開発
- IT・情報系などビッグデータを扱う企業でのデータ分析・プログラマー
- 公務員、NPO法人・公共分野での社会貢献事業



社会デザイン学科授業(一例)

II 実践デザインラボ

社会の課題を発見し、解決策をデザイン。

デザイン思考をベースに、少子高齢化、地域、防災、環境・エネルギー、健康、教育、格差、ダイバーシティなど、「ソーシャル・デザイン」に挑戦します。ソーシャル・デザインとは、社会の中の課題を発見し、その解決をデザインする一連のプロセスのこと。デザインする対象は、モノだけでなく、社会制度や活動、サービスなど多岐にわたります。このプロジェクト学習を通して、デザイン思考を実際の社会課題解決のために活用できる力を身につけます。



II データ時代の女性キャリア開発

研究者や実務家を招いてディスカッション。

Society 5.0を迎え、社会のさまざまな領域でDX(デジタルトランスフォーメーション)が進み、AIやIoT、ビッグデータが活用されるようになってきています。そうしたデータサイエンス業界における女性活躍の現状や課題等について、研究者や実務家を招き、議論を行います。それにより、ジェンダーステレオタイプにとらわれない、データ・AI時代の女性キャリア開発についての理解を深めます。



学びのテーマ(例)

社会デザイン学科では、4年次に卒業研究・論文に取り組めます。

3つの学び領域でどのような卒業研究のテーマが考えられるのか、一部例を紹介いたします。

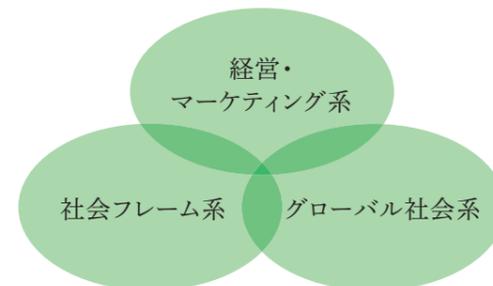
共創デザイン系	ソーシャル・データサイエンス系	メディアイノベーション系
<ul style="list-style-type: none"> ■ ソーシャルゲーム空間における「創発的共同行為」の発生要件 ■ 生理管理アプリで収集されるビッグデータ活用の可能性と課題 ■ 人工知能と人間との共生社会を考えるためのゲームデザイン ■ 共創ワークショップを活用した地方自治体の課題解決スキームの提案 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ファンにおける推しの好みの計量化とその傾向分析 ■ 渋谷での空きオフィス問題と未来型スマート農業の導入と課題 ■ スーパーにおける購買購入履歴データを用いた値引きのタイミングの最適化 ■ データからみる過疎化地域における地域創生 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バーチャルアイドルの「成長」とファンダム形成 ■ ソーシャルメディアにおけるフェイクニュース拡散のネットワーク分析 ■ TikTokで配信されるニュースがもたらす情報接触行動への影響 ■ サブスクリプションサービスの台頭によるメディア・コンテンツ制作の変化

人間社会学部は、幅広い視野を持てる3学科一括募集。

1年次は学部に所属し、各学科の基礎分野を幅広く学び、
2年次に所属学科を選び、自らの学びをデザインします。

ビジネス社会学科 (仮称) ※現代社会学科から名称変更

ビジネスで社会を変え、
新時代のキャリアを描く

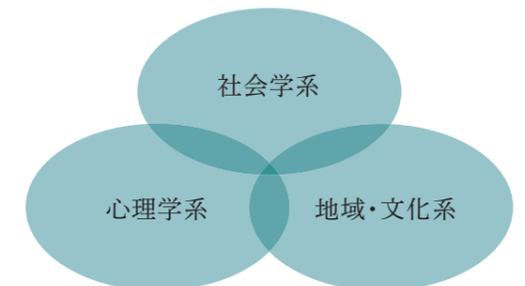


学びのキーワード

- #経済学 #経営学 #法学 #マーケティング #コミュニケーション学 #国際経済

人間社会学科

人間と社会と文化の在り方を理解し、
新しい価値観を創造する



学びのキーワード

- #社会学 #心理学 #教育学 #ジェンダー論 #文化人類学 #メディア学

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	ナンバ マサリ 難波 雅紀 <令和3年4月>		文学修士		実践女子大学学長 (令和3.4～令和7.3) 実践女子大学短期大学部学長 (令和3.4～令和7.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。